

牛乳乳製品に関する 食生活動向調査2015

結果報告書

平成28年 3月31日



一般社団法人 Jミルク
Japan Dairy Association (J-milk)

P5 調査の概要

P6 2015年調査結果の特徴

1. 主要な行動や意識の経年変化(全体数値／2013～15年)

- P9 牛乳類の購入頻度
- P10 牛乳類の購入量
- P11 牛乳類の購入場所
- P12 牛乳類の飲用・利用頻度
- P13 牛乳を大切に思う気持ち
- P14 牛乳の美味しさ認識
- P15 アンチミルクの意識 *2014～15年の過去2年

2. 牛乳類の飲用・利用に関する動向(2015年データを中心に)

2-1. 牛乳類の飲用・利用頻度とその増減について

- P18 飲用頻度(性年代別)
- P19 飲用頻度における「毎日」飲用の出現率推移(性年代別)
- P20 飲用頻度の増減(性年代別)
- P21 飲用頻度の増減(性年代別)・「増加」の出現率推移
- P22 飲用頻度の増減(性年代別)・「減少」の出現率推移
- P23 飲用頻度・増加理由(中分類の推移)
- P24 飲用頻度・増加理由(中分類の男女別)
- P25 飲用頻度・増加理由(中分類の性年代別)
- P26 飲用頻度・増加理由(個別理由の推移①)
- P27 飲用頻度・増加理由(男女別の個別理由①)
- P28 飲用頻度・増加理由(個別理由の推移②)
- P29 飲用頻度・増加理由(男女別の個別理由②)
- P30 飲用頻度・増加理由(個別理由の推移③)
- P31 飲用頻度・増加理由(男女別の個別理由③)
- P32 飲用頻度・増加理由(50代上の個別理由①)
- P33 飲用頻度・増加理由(50代上の個別理由②)
- P34 飲用頻度・増加理由(50代上の個別理由③)
- P35 飲用頻度・減少理由(中分類の推移)
- P36 飲用頻度・減少理由(中分類の性年代別)
- P37 飲用頻度・減少理由(個別理由の推移)

- P38 飲用頻度・減少理由(男女別の個別理由)
- P39 牛乳減少の代替品(食べ物・推移)
- P40 牛乳減少の代替品(飲み物・推移)
- P41 牛乳減少の代替品(食べ物／性年代別)
- P42 牛乳減少の代替品(飲み物／性年代別)

2-2. 牛乳類の飲用・利用の詳しい状況について

- P44 1日の飲用回数(全体+牛乳類飲用頻度別)
- P45 牛乳類の飲用時間帯(男女別)
- P46 牛乳類の飲用時間帯(男性年代別)
- P47 牛乳類の飲用時間帯(女性年代別)
- P48 牛乳類の飲用時間帯(毎日飲用者)
- P49 牛乳類の飲用シーン(男女別)
- P50 牛乳類の飲用シーン(男性年代別)
- P51 牛乳類の飲用シーン(女性年代別)
- P52 牛乳類の飲用シーン(毎日飲用者)
- P53 飲用・利用の方法(男女別)
- P54 飲用・利用の方法(性年代別)
- P55 飲用・利用の方法(毎日飲用者)
- P56 牛乳と混ぜて飲んでいるもの(男女別)
- P57 牛乳と混ぜて飲んでいるもの(性年代別)
- P58 牛乳をかけて食べているもの(男女別)
- P59 牛乳を習慣的に飲用した時期(50代以上の牛乳類飲用頻度別／二次調査)

3. 属性や食生活状況などと、飲用頻度やその増減との関係

- P61 地域別の飲用頻度／増減
- P62 職業別の飲用頻度／増減
- P63 世帯状況別の飲用頻度／増減
- P64 飲用頻度・減少理由(単身者)
- P65 世帯年収別の飲用頻度／増減

4. 牛乳に関する様々な認識・感覚・関与

(「単身世帯」と「50代以上」の二次調査も交えて)

- P67 かつて牛乳飲用を勧められた・指導された経験(単身者/二次調査)
かつて牛乳飲用を勧められた・指導された人物(単身者/二次調査)
- P68 かつて牛乳飲用を勧められた・指導された経験(50代以上/二次調査)
かつて牛乳飲用を勧められた・指導された人物(50代以上/二次調査)
- P69 かつて牛乳飲用を勧められた・指導された経験の自由回答(単身者の週3回以上飲用者/二次調査)
- P70 かつて牛乳飲用を勧められた・指導された経験の自由回答(単身者の週3回未満飲用者/二次調査)
- P71 かつて牛乳飲用を勧められた・指導された経験の自由回答(50代以上の週3回以上飲用者/二次調査)
- P72 かつて牛乳飲用を勧められた・指導された経験の自由回答(50代以上の週3回未満飲用者/二次調査)
- P73 酪農家への共感(性年代別)
- P74 酪農家への共感(飲用頻度別)
- P75 酪農家への共感きっかけ(男女別)
- P76 酪農家への共感きっかけ(男性年代別)
- P77 酪農家への共感きっかけ(女性年代別)
- P78 酪農家への共感きっかけ(毎日飲用者+飲用増加者)
- P79 牛乳を「大切と思う」気持ち(性年代別)
- P80 牛乳を「大切と思う」気持ち(飲用頻度別)
- P81 牛乳を「大切と思う」気持ちの変化(性年代別)
- P82 牛乳を「大切と思う」気持ちの変化(飲用増減別)
- P83 牛乳を「大切と思う」気持ちが強くなった理由(男女別)
- P84 牛乳を「大切と思う」気持ちが強くなった理由(男性年代別)
- P85 牛乳を「大切と思う」気持ちが強くなった理由(女性年代別)
- P86 牛乳を「大切と思う」気持ちが弱くなった理由(男女別)
- P87 牛乳のおいしさ認識(性年代別)
- P88 乳和食の認知(男女別+地域別)
- P89 乳和食をどう思うか(男女別)
- P90 乳和食の認知経路(男女別)
- P91 「牛乳の日」に関する認知(性年代別)
- P92 「牛乳の日」に関する認知(職業別)

5. 健康・栄養・生活関連

5-1. 健康・栄養・生活に関する様々な状況について

(「単身世帯」と「50代以上」の二次調査も交えて)

- P95 健康に関する知識(全体)
- P96 健康に関する知識(男女別)
- P97 健康のための行動(単身者と50代以上/二次調査)
- P98 人間ドック・健診の受診(50代以上の牛乳類飲用頻度別/二次調査)
- P99 人間ドック・健診を受診した後(50代以上の牛乳類飲用頻度別/二次調査)
- P100 「健康寿命」への意識(50代以上の牛乳類飲用頻度別/二次調査)
- P101 「健康寿命」のための取組(50代以上の牛乳類飲用頻度別/二次調査)
- P102 普段から意識している栄養素・成分(単身者と50代以上/二次調査)
- P103 牛乳・乳製品でとれる栄養素・成分意識(単身者と50代以上/二次調査)
- P104 「運動」と「日常で身体を動かすこと」への取組(単身者と50代以上/二次調査)
- P105 「運動」への取組(単身者と50代以上の牛乳類飲用頻度別/二次調査)
- P106 「日常で身体を動かすこと」への取組(単身者と50代以上の牛乳類飲用頻度別/二次調査)
- P107 「本当はもっと牛乳を飲みたいが何かの事情で飲めない」という意識(単身者と50代以上の牛乳類飲用頻度別/二次調査)
- P108 「本当はもっと牛乳を飲みたいが何かの事情で飲めない」という意識の中身(単身者の週3回未満飲用者/二次調査)
- P109 「本当はもっと牛乳を飲みたいが何かの事情で飲めない」という意識の中身(50代以上の週3回未満飲用者/二次調査)
- P110 「外食」と「内食」の増減予想(単身者と50代以上/二次調査)
- P111 「外食増加+内職減少」の事情(単身者の週3回未満飲用者/二次調査)
- P112 牛乳類の飲用シーン(単身者の牛乳類飲用頻度別)
- P113 食生活の重視点/牛乳・ヨーグルトに期待すること(単身者の牛乳類飲用頻度別)

- P114 牛乳アレルギーに関する受診歴(性年代別)
- P115 牛乳アレルギーに関する受診歴の有無と牛乳類飲用頻度の関係

5-2. 乳糖不耐の症状について

- P117 乳糖不耐症の有無(性年代別)
- P118 乳糖不耐の症状(男女別)
- P119 乳糖不耐症の有無や症状と牛乳類飲用頻度の関係
- P120 乳糖不耐の症状が現れる量(男女別)
- P121 乳糖不耐の症状が現れやすくなる状況(男女別)
- P122 牛乳以外の乳製品を食べた時の症状有無(男女別)

6. 2015年の酪農乳業トピック関連

6-1. 「牛乳値上げ」について

- P125 「牛乳値上げ」の話題接触と実感(男女別)
- P126 「牛乳値上げ」の話題接触・実感と飲用増減の関係
- P127 「牛乳値上げ実感×飲用増加」の酪農家への共感
- P128 「牛乳値上げ実感×飲用増加」の酪農家への共感きっかけ
- P129 「牛乳値上げ実感×飲用増加」の牛乳類購入場所
- P130 「牛乳値上げ実感×飲用増加」の牛乳を大切に思う気持ちが強くなった理由

6-2. 「バター不足」について

- P132 「バター不足」の話題接触・実感・焦って購入(性年代別)
- P133 「バター不足」の話題に触れて起きたバター関連の変化(性年代別)
- P134 「バター不足」の話題に触れて購入・利用が増えた代替品(男女別)

6-3. ヨーグルト(食べるタイプ)の利用状況

- P136 ヨーグルトの利用頻度(性年代別)
- P137 ヨーグルトの利用増減(性年代別)
- P138 牛乳類の飲用増減と、ヨーグルトの利用増減の関係

7. 牛乳・乳製品に関する話題接触

7-1. 「よい話題、よくない話題との接触」について

- P141 牛乳・乳製品に関する「よい話題」との接触とその増減(男女別)
- P142 牛乳・乳製品に関して接触した「よい話題」(男女別)
- P143 牛乳・乳製品に関する「よくない話題」との接触とその増減(男女別)
- P144 牛乳・乳製品に関して接触した「よくない話題」(男女別)
- P145 牛乳・乳製品に関する「よい話題」との接触経路(男女別)
- P146 牛乳・乳製品に関する「よくない話題との接触経路」(男女別)
- P147 牛乳・乳製品に関する「よい話題／よくない話題」との接触経路
- P148 牛乳・乳製品に関する「よい話題／よくない話題」接触と牛乳飲用増減の関係
- P149 牛乳・乳製品に関して接触した「よい話題」(飲用増加者)
- P150 牛乳・乳製品に関して接触した「よくない話題」(飲用減少者)

7-2. 牛乳を「飲みたくない／飲むべきでない」という意識について

- P152 牛乳を「飲みたくない／飲むべきでない」意識(性年代別)
- P153 牛乳を「飲みたくない／飲むべきでない」意識のきっかけ・理由(男女別)
- P154 牛乳を「飲みたくない／飲むべきでない」意識のきっかけ・理由(男性年代別)
- P155 牛乳を「飲みたくない／飲むべきでない」意識のきっかけ・理由(女性年代別)
- P156 牛乳を「飲みたくない／飲むべきでない」意識を喚起した「よくない話題」(男女別)

	第一次調査	第二次調査
調査手法	インターネットを活用した 消費者パネルに対する年1回のアンケート調査	
対象者	15～70代の男女	「50代以上」及び「単身世帯」
サンプル数	10,488サンプル (15～69歳10,000人+70代488人)	各600サンプル
実施時期	2015年10月	2015年11月
割付	2010年国勢調査の人口構成データなどを参考に、 実際の性別、年代、地域の構成比に近似させる。 (※第一次調査の70代は除く)	

1. 牛乳値上げの状況でも、牛乳飲用・利用は維持された

飼料価格の高騰などで酪農生産経費が上昇していたことに対応して2015年春に牛乳類の値上げがおこなわれ、牛乳類の消費減少が懸念されていたが、実際には飲用頻度は低下しなかった。

2. 牛乳の利用方法・目的に広がりが見られる

女性を中心に、牛乳をカフェオレで飲んだり、シリアルにかけて食べたりする「直接飲用以外の方法」での利用が大きく上昇している。また、スポーツなどの自己向上意識の高まりから牛乳飲用を増やす動きも見られ、牛乳の利用方法・目的が広がりにつつある。

3. 今後増えると予想される「50代以上」「単身世帯」を重点調査

過去の調査で、「高齢の人のほうが牛乳をよく飲む」、「単身(一人暮らし)の人のほうが牛乳を飲まない」という傾向を把握しており、さらに進むとされる超高齢化、単身世帯増加などを考慮し、2015年は「50代以上」「単身世帯」を対象に二次調査もおこなった。

「50代以上」では健康や運動に取り組む人が多く、一方で「単身世帯」の人は一人暮らしゆえの食事の不便さなどを実感していることから、この結果を踏まえた戦略を推進することが必要である。

4. “牛乳離れ”しがちな若い人の状況

中学を卒業し学校給食がなくなる10代後半から20代にかけての若い人の牛乳飲用頻度が他の年代に比べて少ない傾向は、2015年も変わらない。

ただ、20代以下の人では、牛乳を「毎日飲む」人の割合が前年までと異なって上昇する傾向にある。また、酪農体験などを通じて酪農家への共感を抱く割合は他の年代より高い等、改善に向けた兆し、糸口が見えてきつつある。

5. 「よい話題」発信の重要性を再認識

今回の調査では、牛乳乳製品に関する“「よい話題」と接触がない人”が、“「よくない話題」と接触がある人”よりも牛乳飲用を減らしている結果が得られた。

アンチミルク情報の対策には今後も注力して取り組む必要があるが、基本的には「よい話題」を生活者に提供することが非常に重要であることが再認識できた。

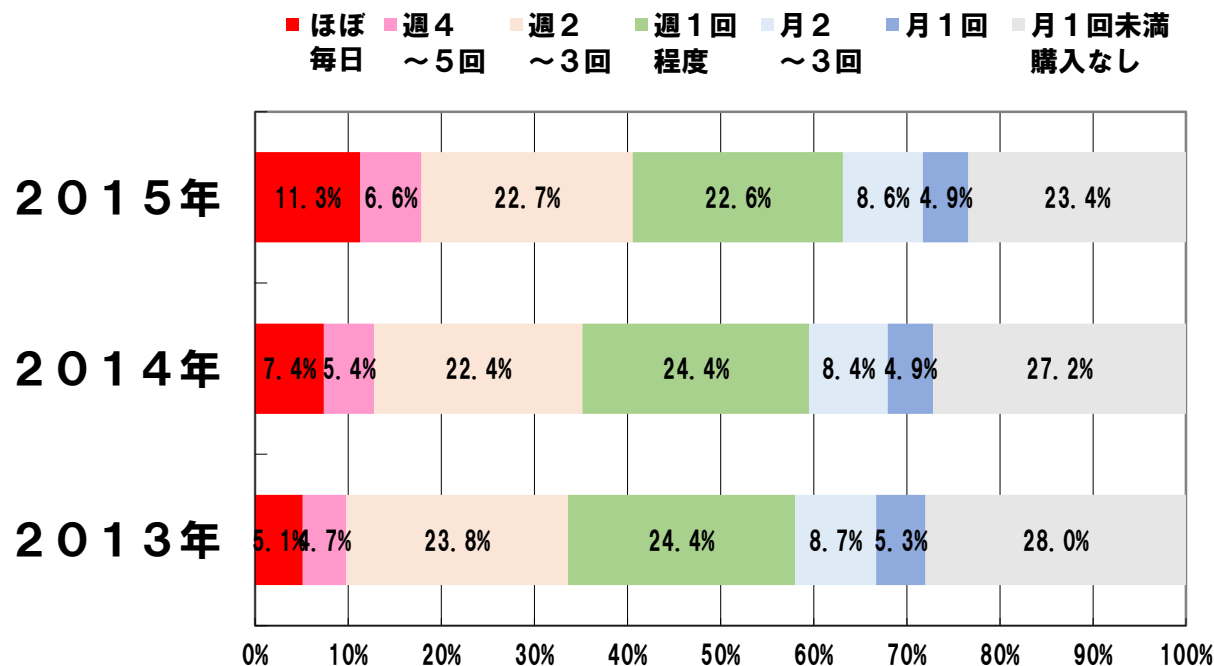
1. 主要な行動や意識の経年変化(全体数値／2013～15年)

牛乳類の購入頻度

あなたご自身は普段、家族で飲むためのものも含めて、どれくらい牛乳類(※)を購入していますか。

(※ ここにおける「牛乳類」は、成分無調整牛乳、成分調整牛乳、低脂肪乳、無脂肪乳、加工乳、機能強化乳飲料などの白い牛乳類を指します。コーヒーやフルーツ等が入った乳飲料は含みません。)

(※ 牛乳の宅配サービスを利用している方は、配達される回数も含んでお答えください。)



N=10000/10000/10000

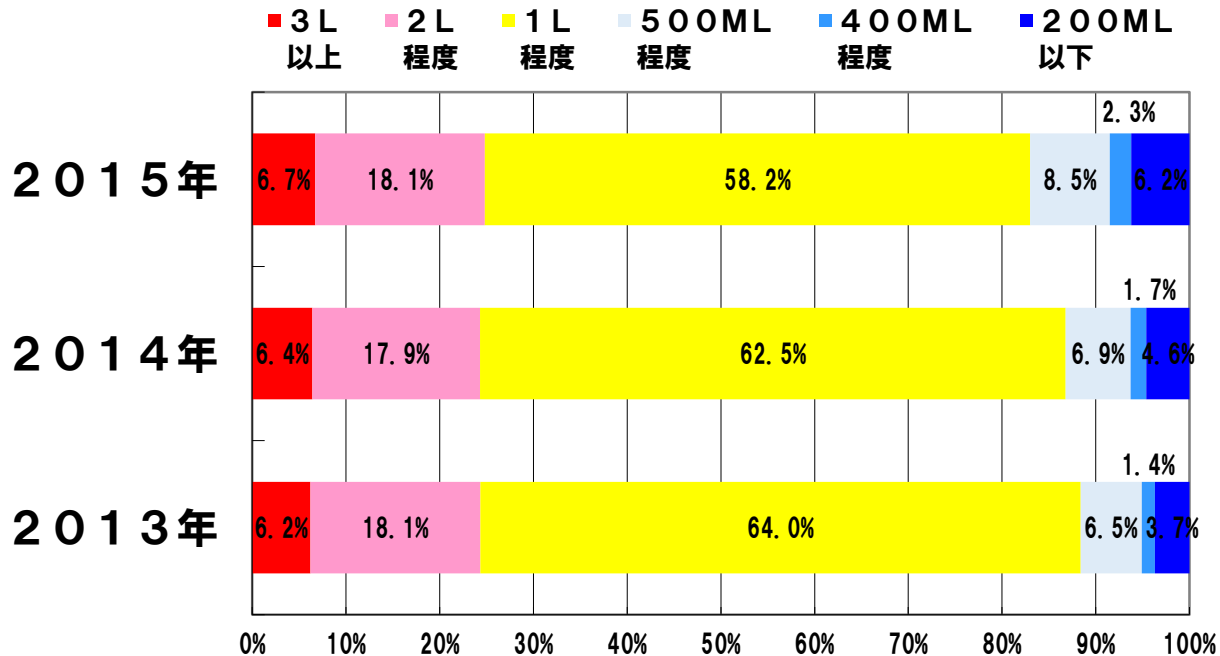
最近の牛乳類の購入頻度は、「週4回以上」の人の割合が上昇し、2015年は約18%となった。

一方、「月1回未満・購入なし」の人の割合は約23%に低下し、“牛乳をほとんど買わない人”の割合が低下する傾向にある。

牛乳類の購入量

あなたが普段、牛乳類(※)を購入する際の、1回あたりの購入量(だいたいの平均)をお知らせください。

(※ ここにおける「牛乳類」は、成分無調整牛乳、成分調整牛乳、低脂肪乳、無脂肪乳、加工乳、機能強化乳飲料などの白い牛乳類を指します。コーヒーやフルーツ等が入った乳飲料は含みません。)



購入者N=7662/7278/7201

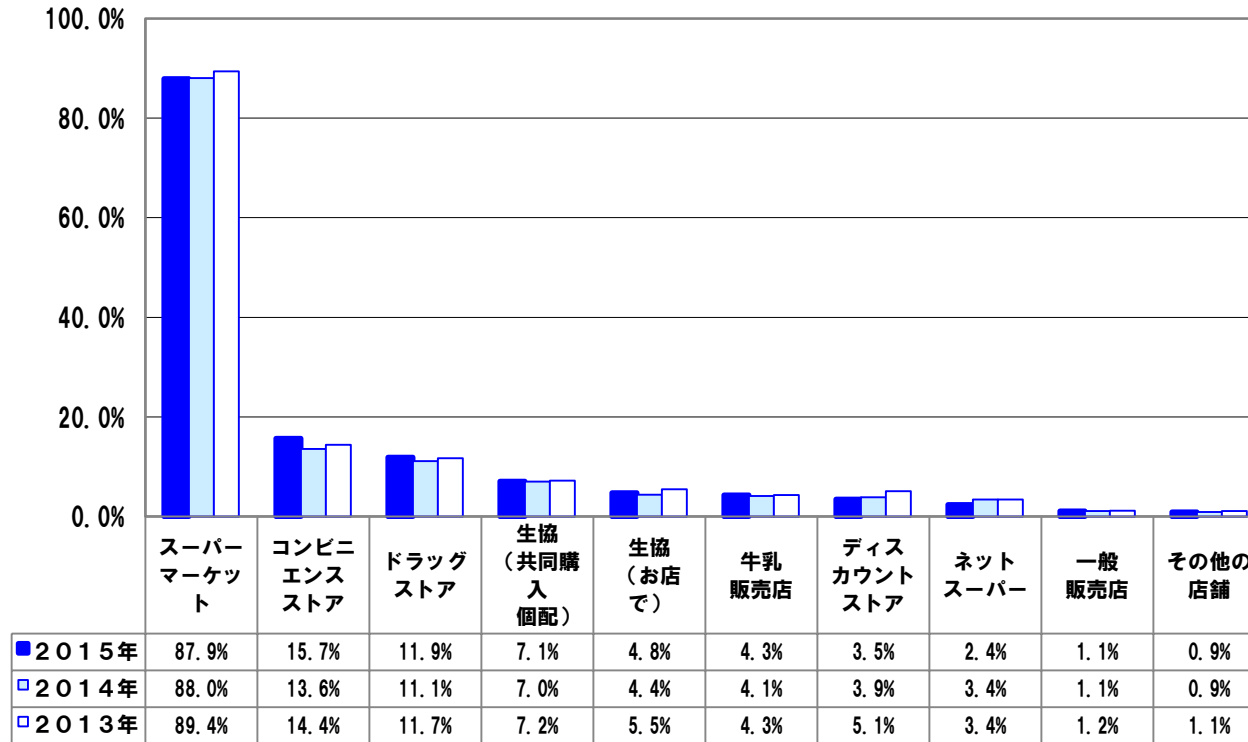
最近の牛乳類の1回あたりの購入量は、「500ML程度」以下の人の割合が上昇し、2015年は約17%になった。一方、「1L程度」の人の割合は低下し60%を下回った。

牛乳類の購入頻度の調査結果も考慮すると、“多頻度少量購入”の傾向がやや強まっている。

牛乳類の購入場所

あなたが牛乳類(※)を購入する際に、この一ヶ月で利用したことがある購入場所をお知らせください。

(※ ここにおける「牛乳類」は、成分無調整牛乳、成分調整牛乳、低脂肪乳、無脂肪乳、加工乳、機能強化乳飲料などの白い牛乳類を指します。コーヒーやフルーツ等が入った乳飲料は含みません。)



購入者N=7662/7278/7201

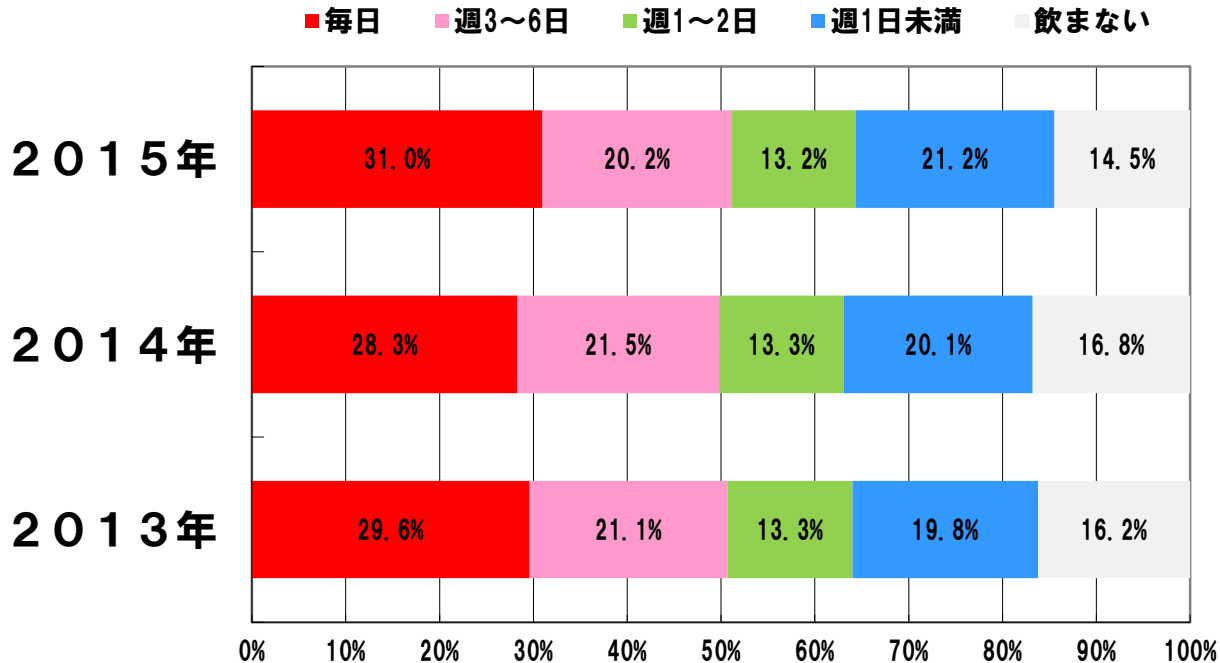
牛乳類の購入場所は、「スーパーマーケット」を利用した人の割合が90%弱で最も高い。

「コンビニエンスストア」を利用した人の割合が2015年に約16%となり、わずかに上昇したものの、最近の牛乳類購入場所の傾向に大きな変化は見られない。

牛乳類の飲用・利用頻度

いま現在、あなたご自身は牛乳類(※)をどれくらいの割合で飲んだり、利用していますか。

(※ ここにおける「牛乳類」は、成分無調整牛乳、成分調整牛乳、低脂肪乳、無脂肪乳、加工乳、機能強化乳飲料などの白い牛乳類を指します。コーヒーやフルーツ等が入った乳飲料は含みません。)

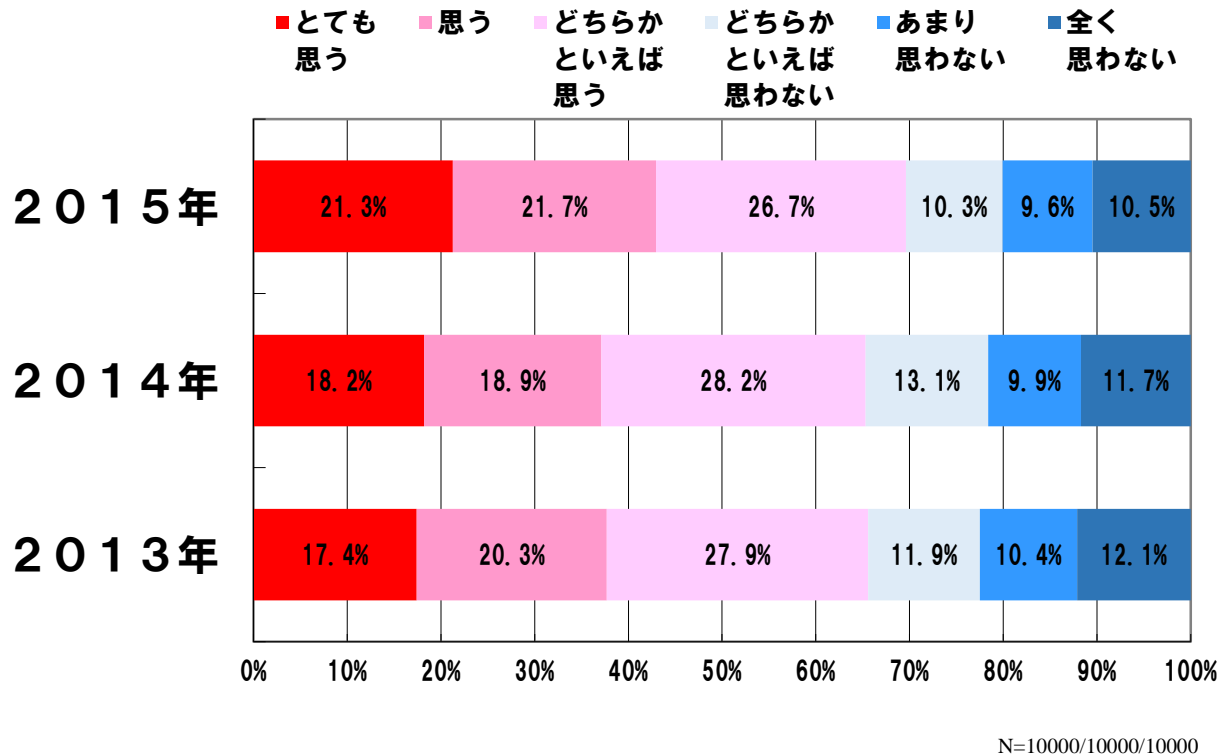


N=10000/10000/10000

牛乳類の飲用頻度は、2014年まで少しずつ減少する傾向があったが、2015年は「毎日」飲む人の割合が上昇して30%を上回り、「飲まない」人の割合は低下して約15%となった。

牛乳を大切に思う気持ち

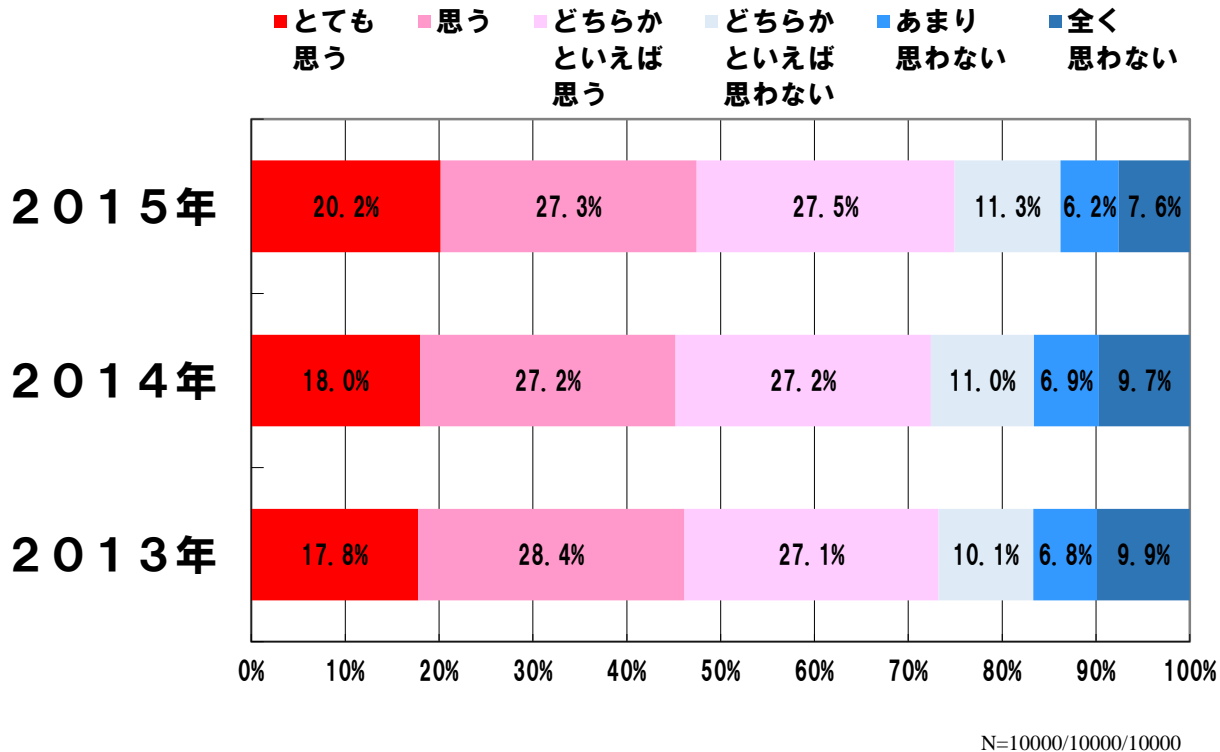
あなたは「牛乳」のことを、「自分自身にとって、なくてはならない大切な食べ物(飲み物)である」と、どれくらい思いますか。



牛乳を、自分自身にとってなくてはならない大切な食べ物(飲み物)であると思う人の割合は70%近くまで上昇し、一方、思わない人の割合は約30%に低下した。中でも、「とても思う」人の割合が20%を上回った。

牛乳の美味しさ認識

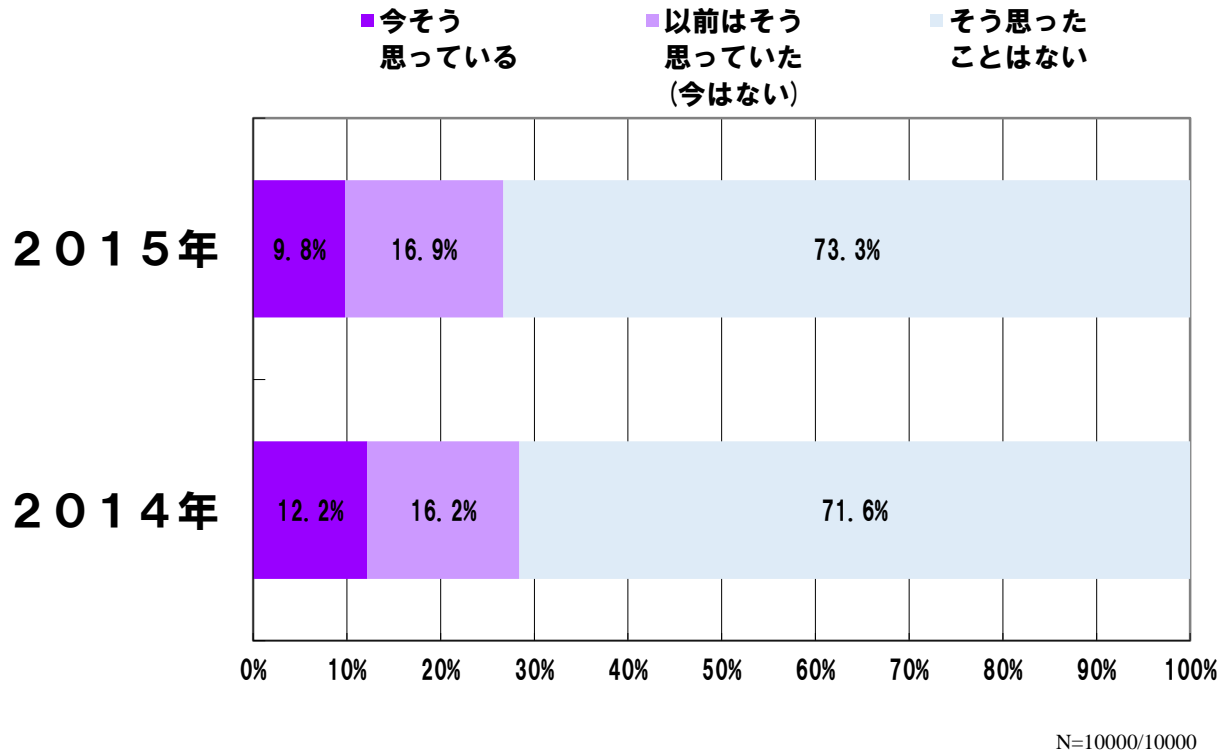
あなたご自身は「牛乳」のことを、どれくらい美味しいと思いますか。



牛乳を「とても美味しいと思う」人の割合は、最近徐々に上昇し、2015年は20%を超え、逆に「全く美味しいと思わない」人の割合は低下し、8%弱となった。

アンチミルクの意識

あなたはこれまでに「牛乳を飲みたくない」もしくは「牛乳を飲むべきでない」と思ったことがありますか。
 (※2014年より調査を始めたため、2年分のデータで比較)



牛乳を飲みたくない／飲むべきでないと「今、思っている」人の割合はわずかに低下し、2015年は10%を下回った。

一方、「思ったことはない」人の割合は70%以上で、「以前は思っていた(今は思っていない)」人の割合と合わせると、牛乳を飲みたくない／飲むべきでないと“思っていない”人の割合は90%以上を占める。

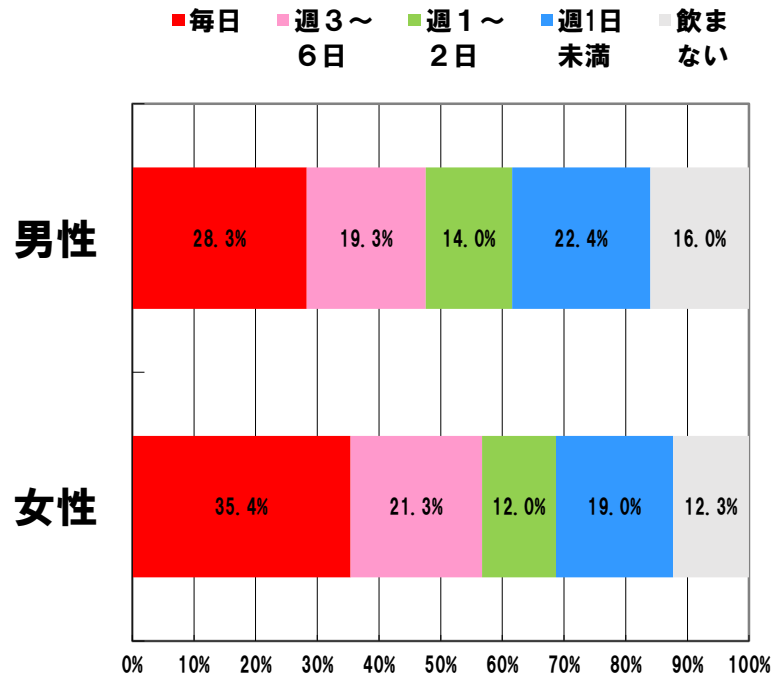
2. 牛乳類の飲用・利用に関する動向(2015年データを中心に)

2-1. 牛乳類の飲用・利用頻度とその増減について

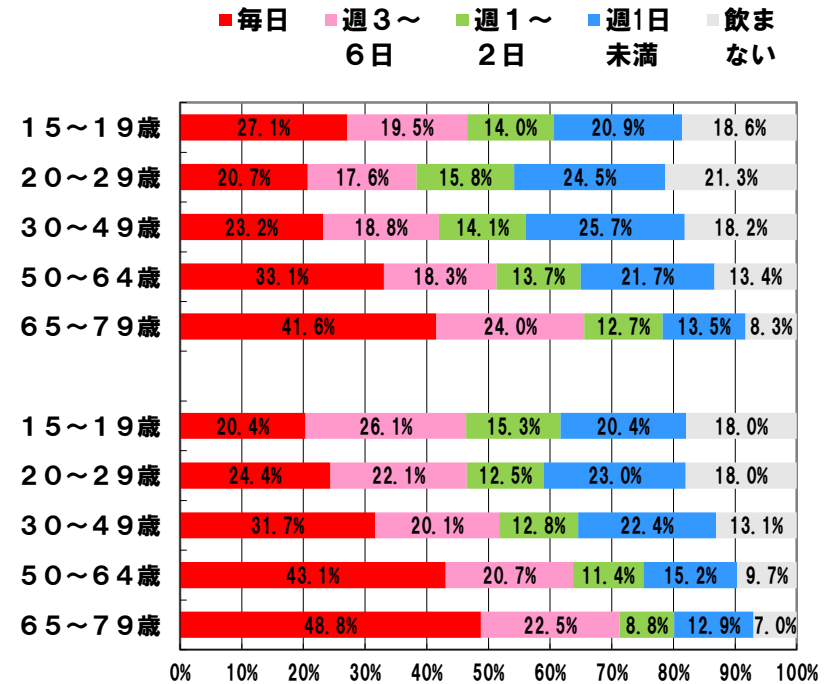
飲用頻度(性年代別／2015)

いま現在、あなたご自身は牛乳類(※)をどれくらいの割合で飲んだり、利用していますか。

(※ ここにおける「牛乳類」は、成分無調整牛乳、成分調整牛乳、低脂肪乳、無脂肪乳、加工乳、機能強化乳飲料などの白い牛乳類を指します。コーヒーやフルーツ等が入った乳飲料は含みません。)



N=5282/5206



N=350/783/1970/1457/722/ /334/757/1943/1488/684

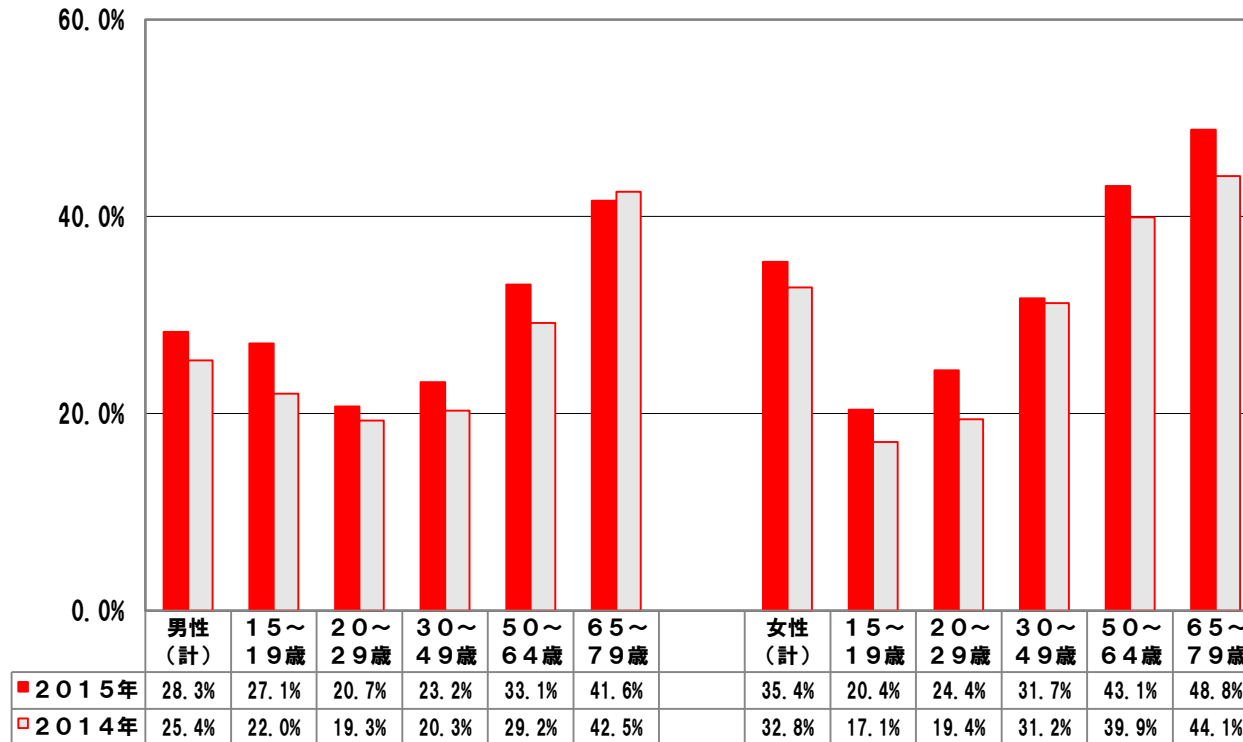
牛乳類の飲用頻度は、女性が男性より多く、また、年代が上がるほど多い傾向が顕著である。

飲用頻度が多い「週3回以上」の人の割合は、男女とも65-79歳が70%前後と最も高い。また、男性では15-19歳が20～40代より高く、女性と傾向が異なる。

飲用頻度が少ない(または飲まない)「週2回以下」の人の割合は、男性では20-29歳が約62%、女性では15-19歳と20-29歳が約53%と最も高い。

飲用頻度における「毎日飲用」の出現率推移(性年代別)

いま現在、あなたご自身は牛乳類(※)をどれくらいの割合で飲んだり、利用していますか。



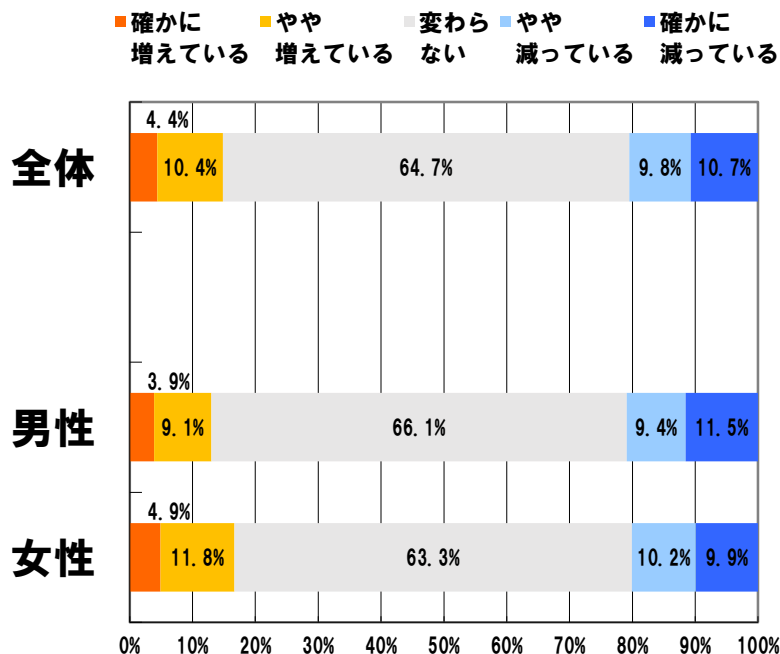
N(2015)=5282/350/783/1970/1457/722/ /5206/334/757/1943/1488/684

N(2014)=5177/350/783/1970/1457/617/ /5218/334/757/1943/1488/696

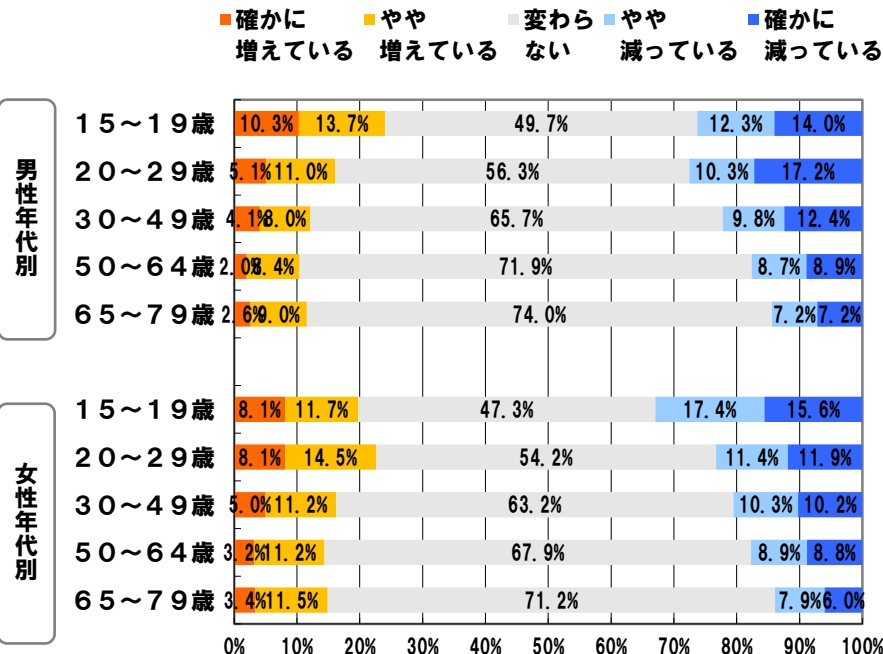
牛乳類を「毎日」飲む人の割合は、女性の方が男性より高い。
年代別には、女性は全ての年代で、男性は65-79歳男性を除いた年代で2014年を上回った。特に、20代までの男女は、「毎日」飲む人の割合が2015年に上昇に転じたのが特徴。

飲用頻度の増減(性年代別／2015)

最近のあなた自身が、「牛乳」を飲む量や回数は、今現在、増えたり減ったりしていますか。



N=10488/5282/5206



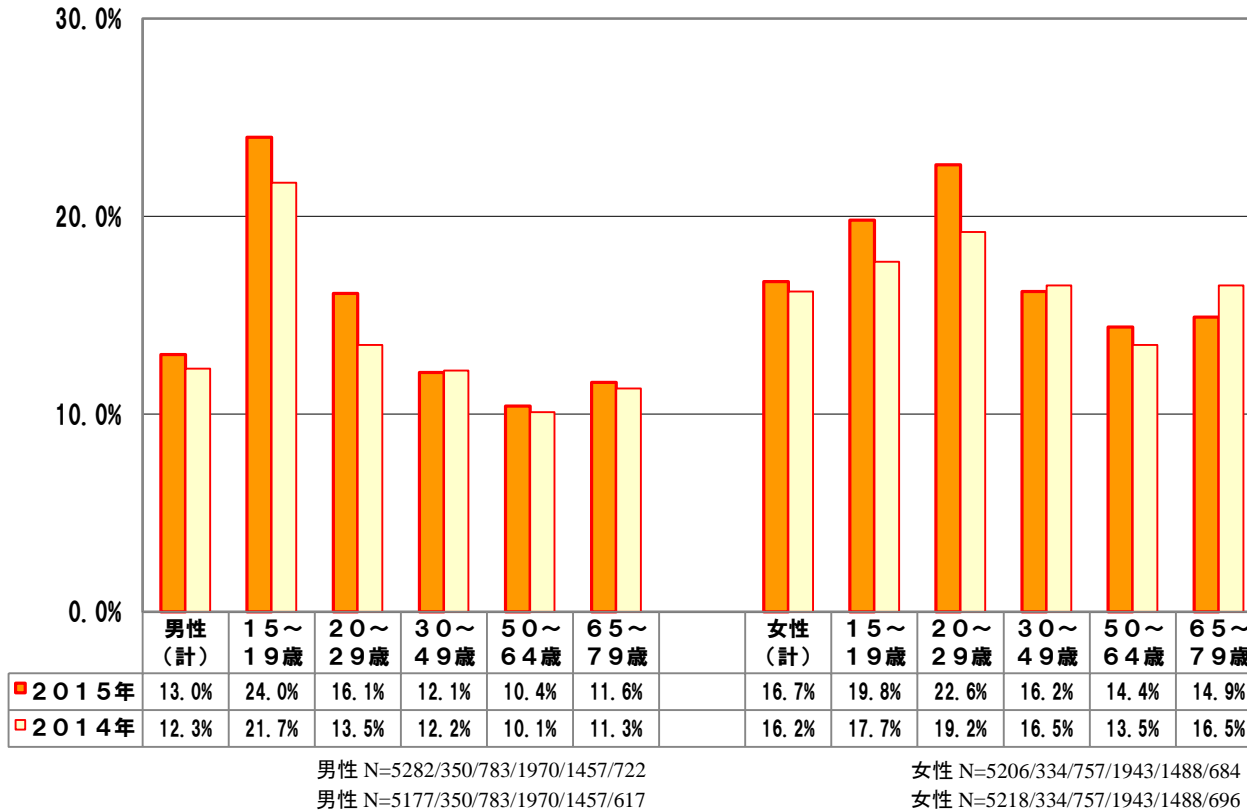
N=350/783/1970/1457/722/334/757/1943/1488/684

牛乳飲用の増減は、「減っている」人の割合が全体の約21%で「増えている」人の割合の約15%を上回っている。男女ともに同様の傾向であるが、女性の方が男性より、「増えている」人の割合は高い。

なお、男女ともに20代以下の年代が他の年代に比べ「増えている」人および「減っている」人の割合がともに高く、若い年代において牛乳飲用の傾向が分かれる可能性が示唆されている。

飲用頻度の増減(性年代別)・「増加」の出現率推移

最近のあなた自身が、「牛乳」を飲む量や回数は、今現在、増えたり減ったりしていますか。

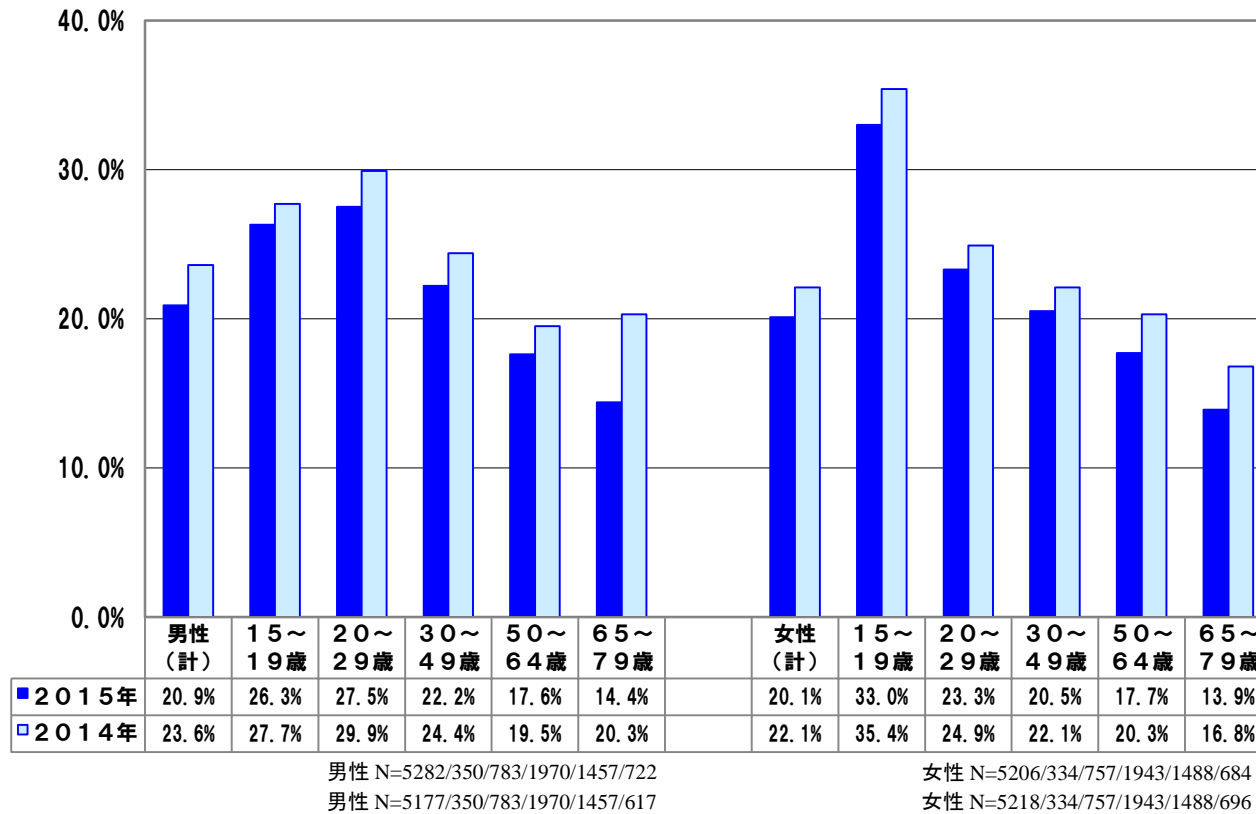


2015年は、「飲用頻度が増えた」人の割合が、男女とも2014年を上回った。年代別には、男性はすべての年代で、女性は15-19歳・20-29歳・50-64歳で、2014年の割合を上回った。

特に、「飲用頻度が増えた」とする人の割合は、男女ともに20代までの若い年代の上昇率が、他の年代より高い。

飲用頻度の増減(性年代別)・「減少」の出現率推移

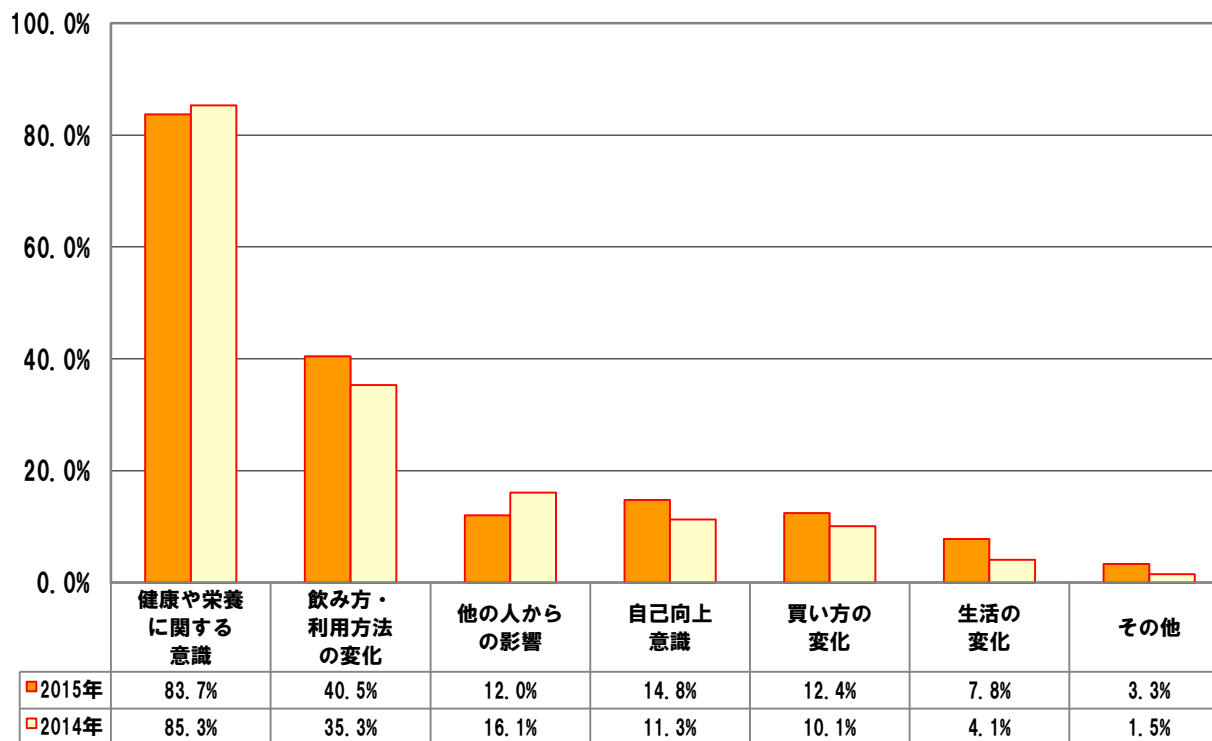
最近のあなた自身が、「牛乳」を飲む量や回数は、今現在、増えたり減ったりしていますか。



「飲用頻度が減った」人の割合は、男女ともすべての年代で2014年を下回った。

飲用頻度・増加理由(中分類の推移)

最近のあなた自身の「牛乳」を飲む量や回数が、今現在増えているのは、どんな理由や事情からだと思いますか。



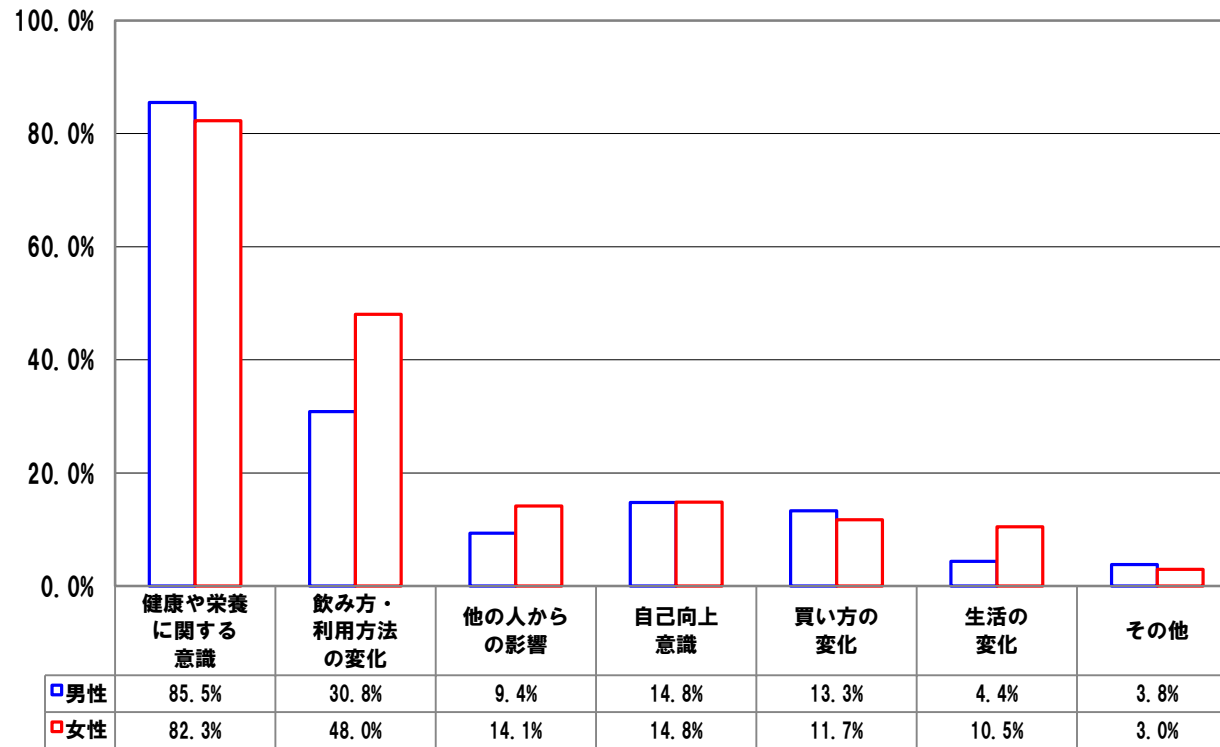
増加者N=1554/1480

飲用頻度が増えた理由としては、「健康や栄養に関する意識」の割合が約84%で最も高く、2014年とほぼ同じだった。

他の理由では、「飲み方・利用方法の変化」をあげる人の割合が約41%と2014年より約5%上昇し、「自己向上意識」「買い方の変化」「生活の変化」を理由としてあげる人の割合も約2~4%上昇した。一方、「他の人からの影響」をあげる人の割合は約4%低下した。

飲用頻度・増加理由(中分類の男女別／2015)

最近のあなた自身の「牛乳」を飲む量や回数が、今現在増えているのは、どんな理由や事情からだと思いますか。



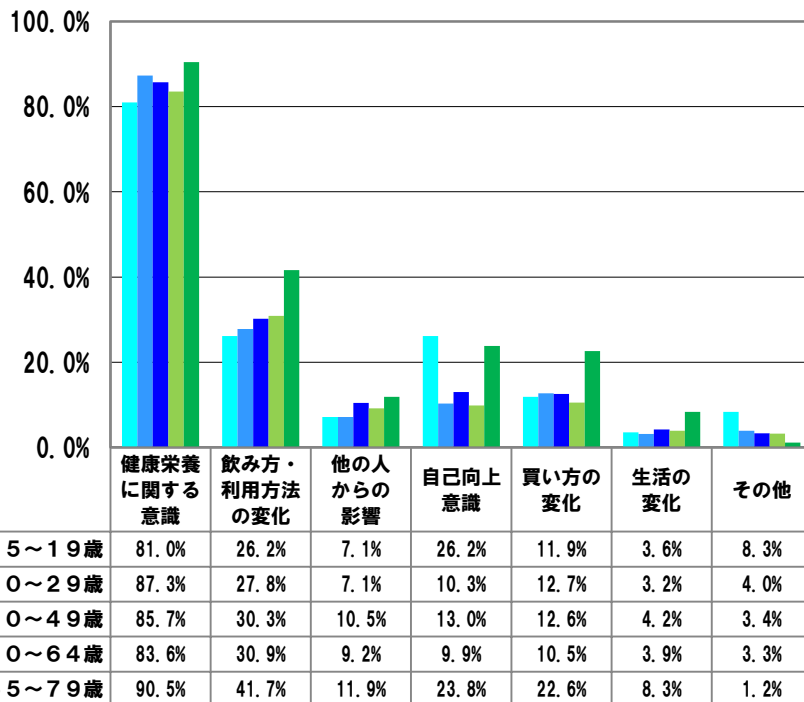
増加者N=684/ 870

飲用頻度が増えた理由を男女別に見ると、男女ともに「健康や栄養に関する意識」をあげる人の割合が80%を上回って最も高い。

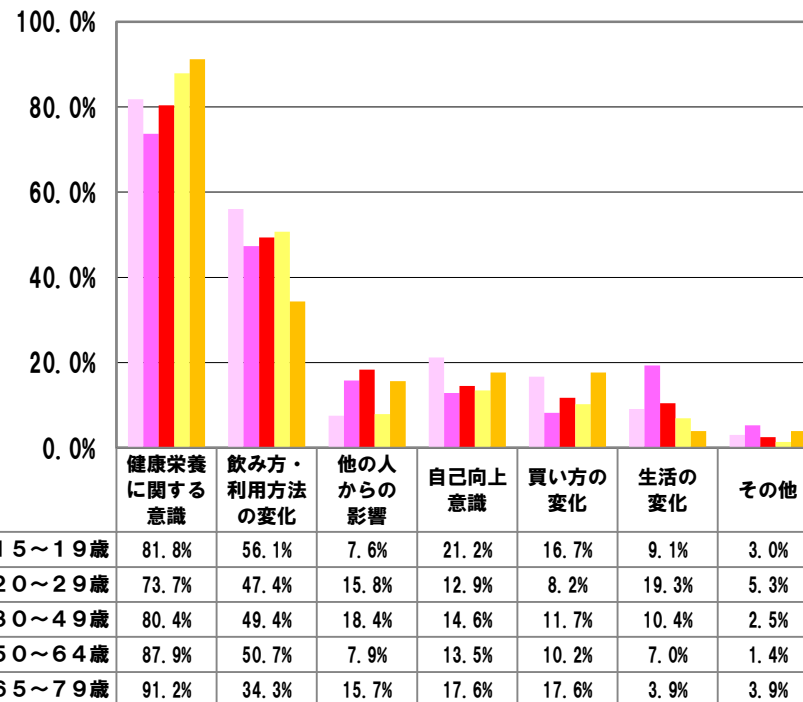
続く「飲み方・利用方法の変化」を理由にあげる人の割合は、女性が男性を約17%上回っており、男女差が見られる。「他の人からの影響」「生活の変化」についても、女性が男性よりやや高くなっている。

飲用頻度・増加理由(中分類の性年代別／2015)

最近のあなた自身の「牛乳」を飲む量や回数が、今現在増えているのは、どんな理由や事情からだと思いますか。



増加者N=684/ 84/126/238/152/84



増加者N=870/ 66/171/316/215/102

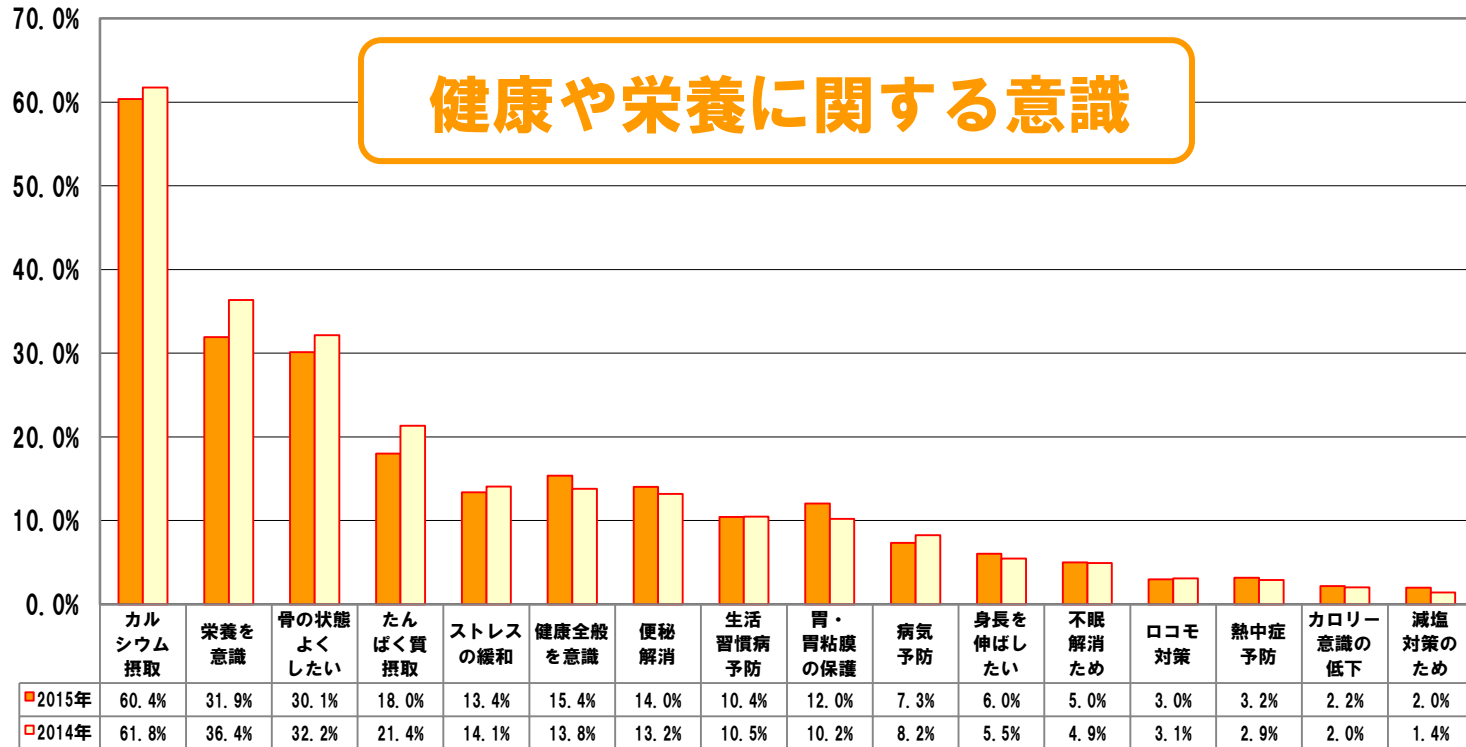
飲用頻度が増えた理由を年代別に見ると、「健康や栄養に関する意識」をあげる人の割合は男女ともに全ての年代で高い。

「飲み方・利用方法の変化」は女性の方が顕著に高い。なお、男性の場合は65-79歳が他の年代に比べて高く、女性の場合は逆に年代が上がるほど低くなる傾向にある。

また、男性の65-79歳はいずれの理由も他の年代より高い傾向にあり、さらに「自己向上意識」をあげる人の割合は男女とも15-19歳が最も高いのが特徴。

飲用頻度・増加理由(個別理由の推移①)

最近のあなた自身の「牛乳」を飲む量や回数が、今現在増えているのは、どんな理由や事情からだと思えますか。

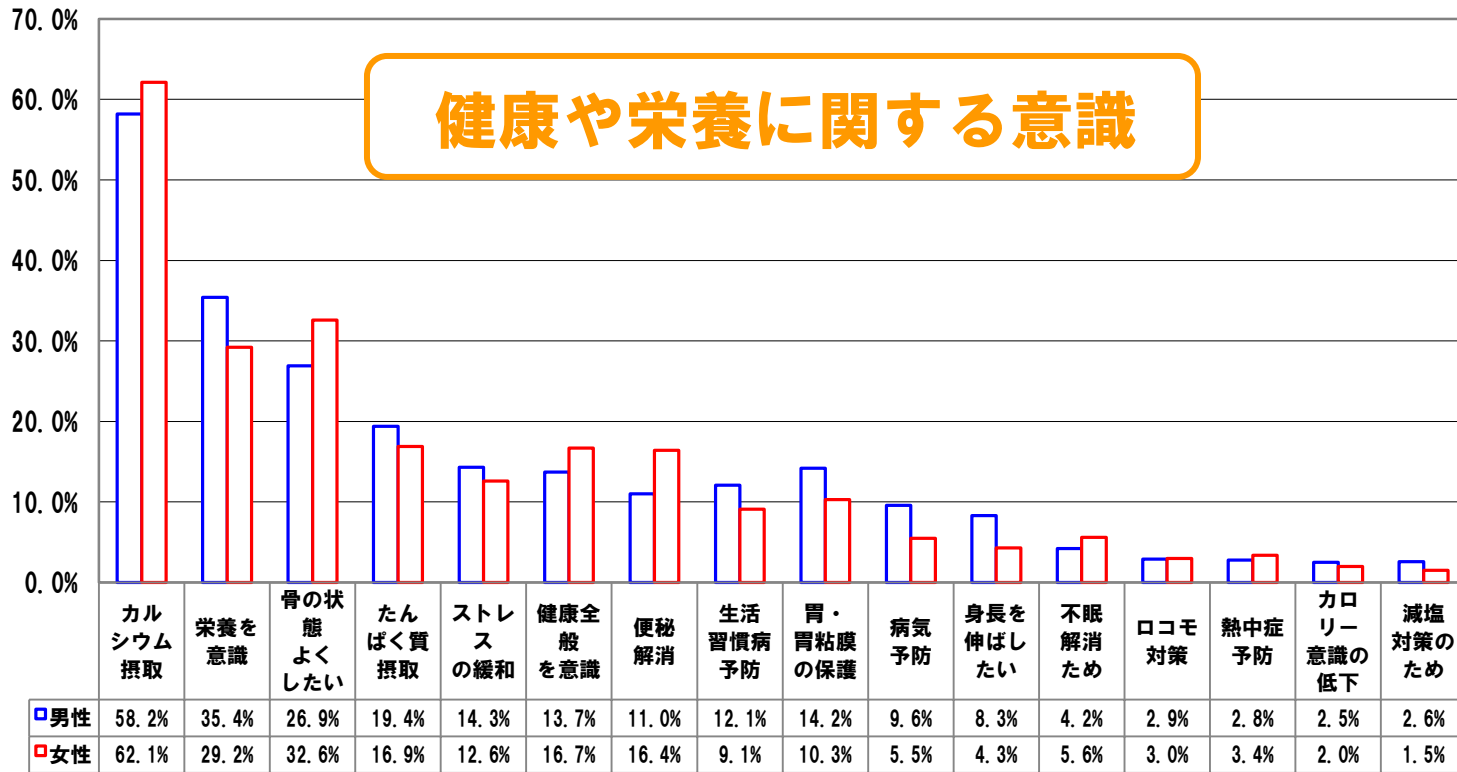


増加者N=1554/1480

飲用頻度が増加した理由を『健康や栄養に関する意識』について詳しく見ると、「カルシウム摂取」を理由にあげる人の割合が約60%で最も高く、「栄養(バランス)を意識」「骨の状態を良くしたい」「たんぱく質摂取」が続く。

2014年と比べて大きな変化は見られないものの、「カルシウム摂取」などの上位の理由がやや低下しており、一方で「健康全般を意識」「便秘解消」「胃・胃粘膜の保護」などの理由が上昇した。

最近のあなた自身の「牛乳」を飲む量や回数が、今現在増えているのは、どんな理由や事情からだと思いますか。



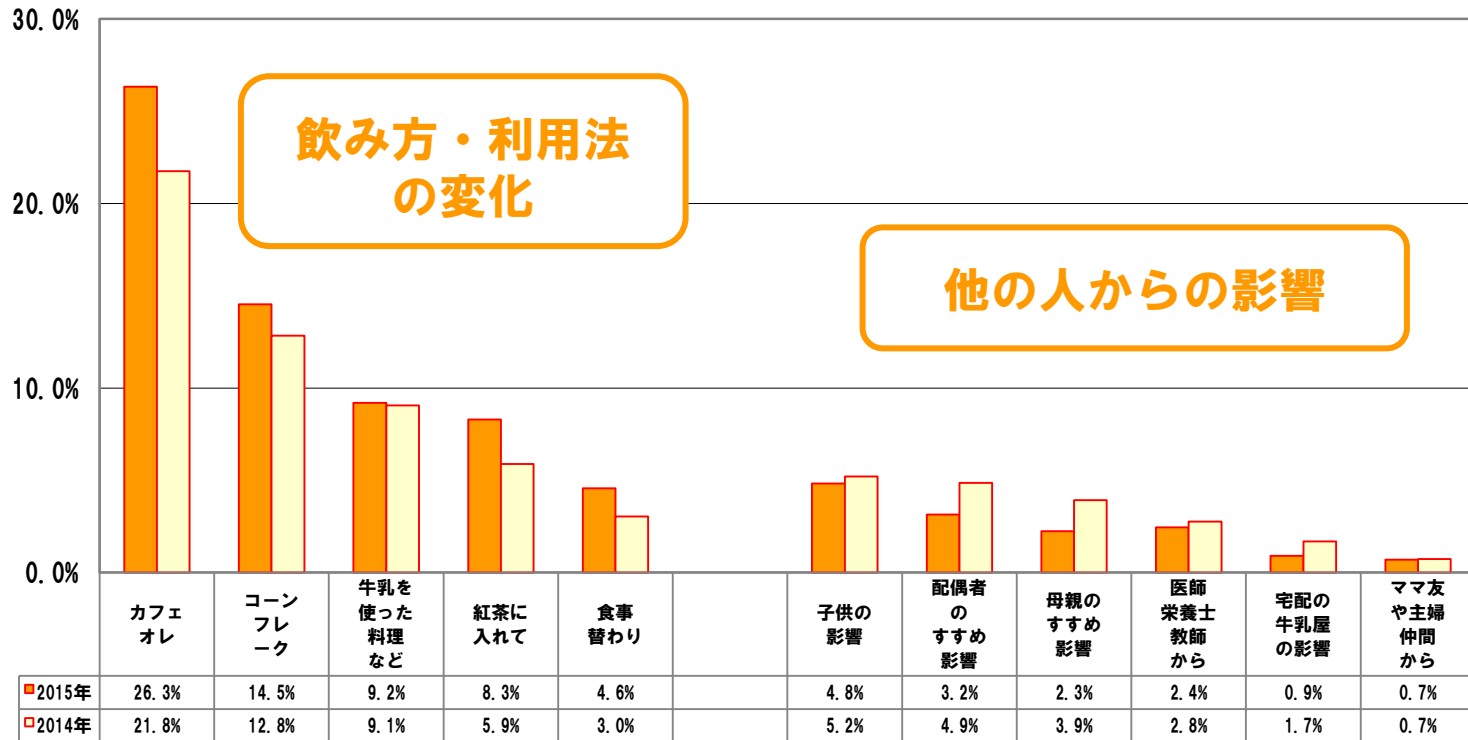
増加者N=684/870

『健康や栄養に関する意識』の内容について男女別に詳しく見ると、男女とも「カルシウム摂取」を理由にあげる人の割合が60%前後で最も高い。

続くのは、男性が「栄養(バランス)を意識」、女性は「骨の状態をよくしたい」の理由をあげており、男女間で傾向の違いが見られる。他にも、「胃・胃粘膜の保護」「病気予防」「身長を伸ばしたい」などの理由では男性が高く、「健康全般を意識」「便秘解消」などの理由では女性が高い。

飲用頻度・増加理由(個別理由の推移②)

最近のあなた自身の「牛乳」を飲む量や回数が、今現在増えているのは、どんな理由や事情からだと思いますか。



増加者N=1554/1480

『飲み方・利用法の変化』の理由について詳しく見ると、「カフェオレ」や「紅茶」に入れて飲んだり、「コーンフレーク」(グラノーラ等も含むシリアル食品)にかけて食べるなど全ての理由の割合が、2014年より上昇した。

『他の人からの影響』について詳しく見ると、「配偶者のすすめ・影響」など全ての理由の割合が2014年より低下した。

飲用頻度・増加理由(男女別の個別理由②/2015)

最近のあなた自身の「牛乳」を飲む量や回数が、今現在増えているのは、どんな理由や事情からだと思いますか。



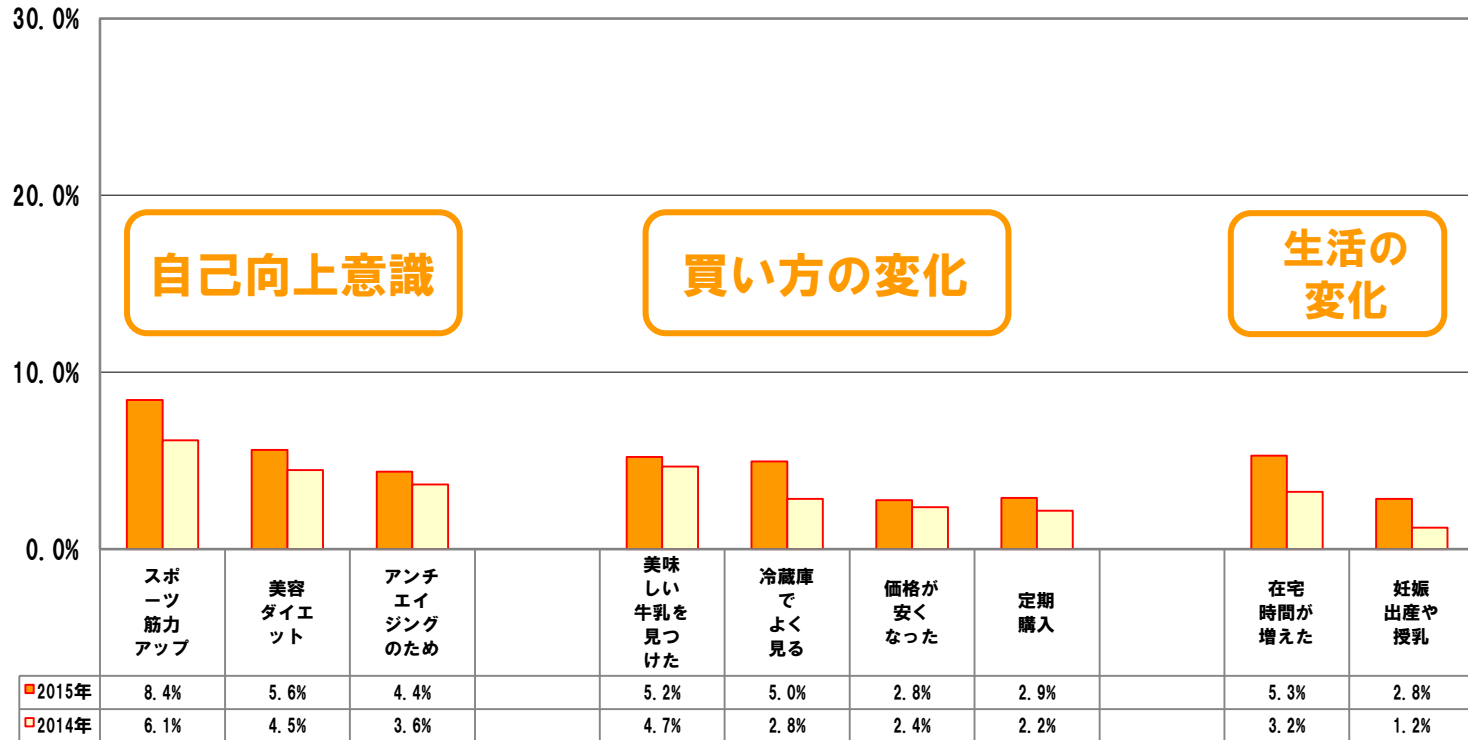
増加者N=684/870

『飲み方・利用法の変化』の内容を男女別に詳しく見ると、ほとんどの理由において女性が男性を大きく上回っており、男女の差が顕著である。

『他の人からの影響』の内容については、男女とも全体的に低い、「子供の影響」を理由にあげる人の割合は女性でやや高い。

飲用頻度・増加理由(個別理由の推移③)

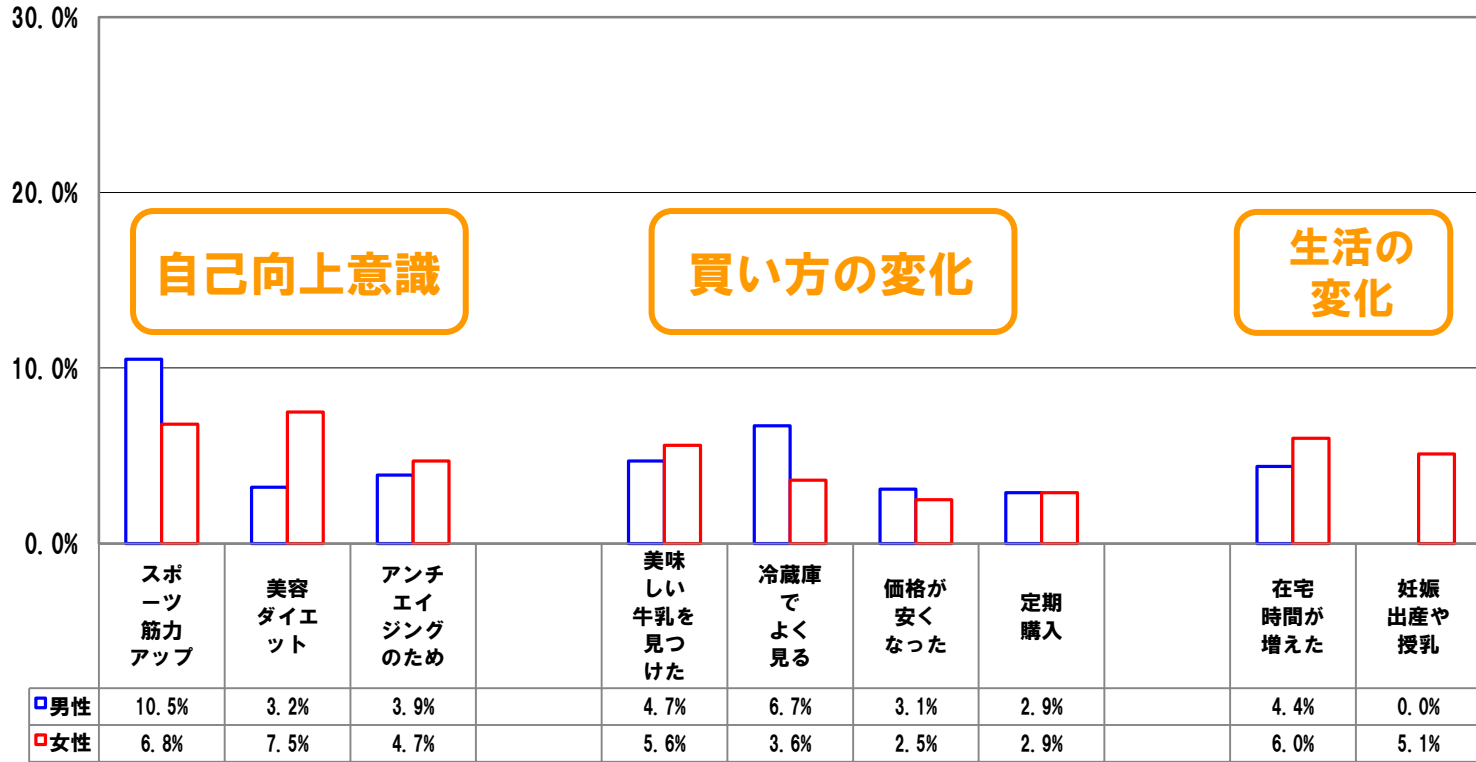
最近のあなた自身の「牛乳」を飲む量や回数が、今現在増えているのは、どんな理由や事情からだと思いますか。



増加者N=1554/1480

『自己向上意識』『買い方の変化』『生活の変化』の内容について詳しく見ると、全ての項目でこれらを理由としてあげる人の割合が2014年を上回った。

最近のあなた自身の「牛乳」を飲む量や回数が、今現在増えているのは、どんな理由や事情からだと思えますか。



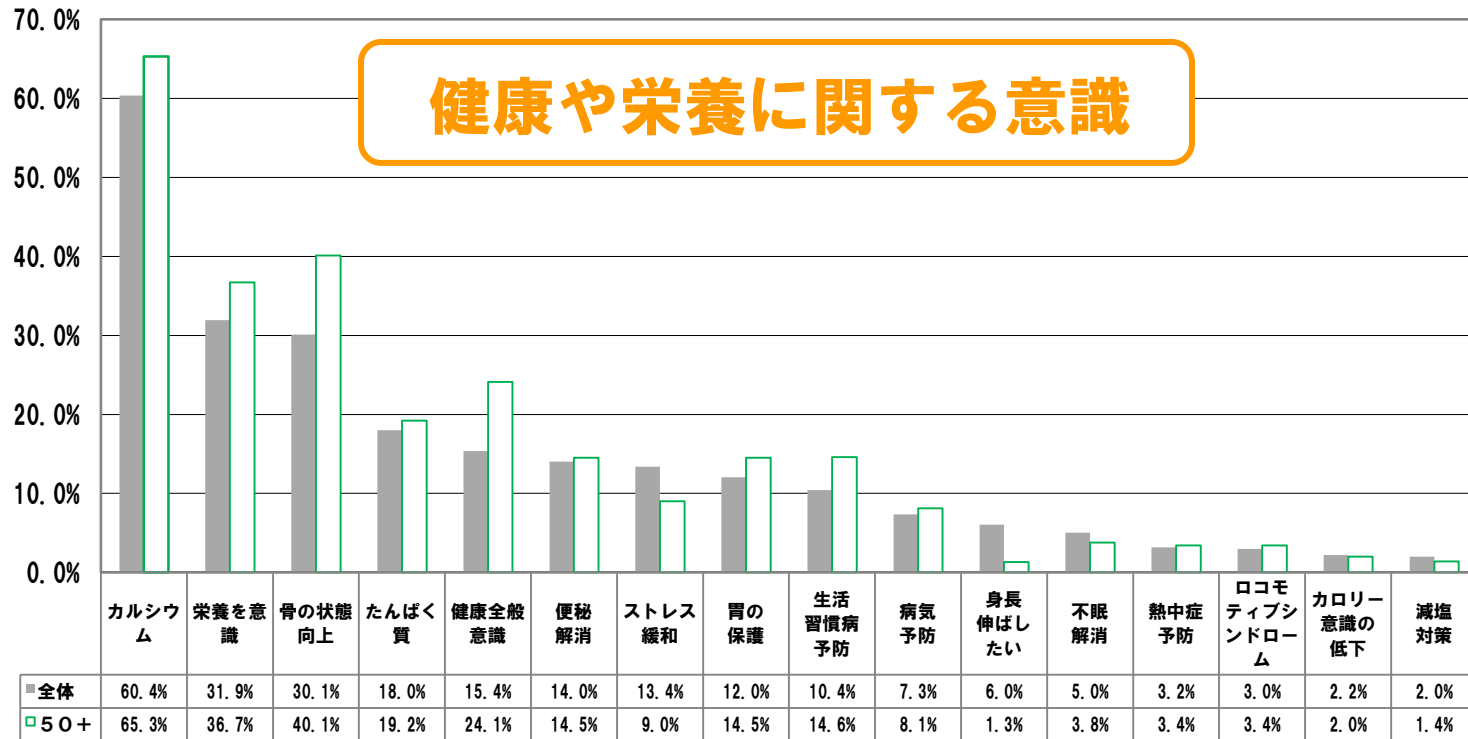
増加者N=684/ 870

『自己向上意識』について男女別に詳しく見ると、最も割合が高いのは、男性の場合、「スポーツ・筋力アップ」、女性の場合、「美容・ダイエット」であり、男女差が見られる。

『買い方の変化』では男性において「冷蔵庫でよく見かけるようになった」という理由をあげる割合が高い。

飲用頻度・増加理由(50代上の個別理由①/2015)

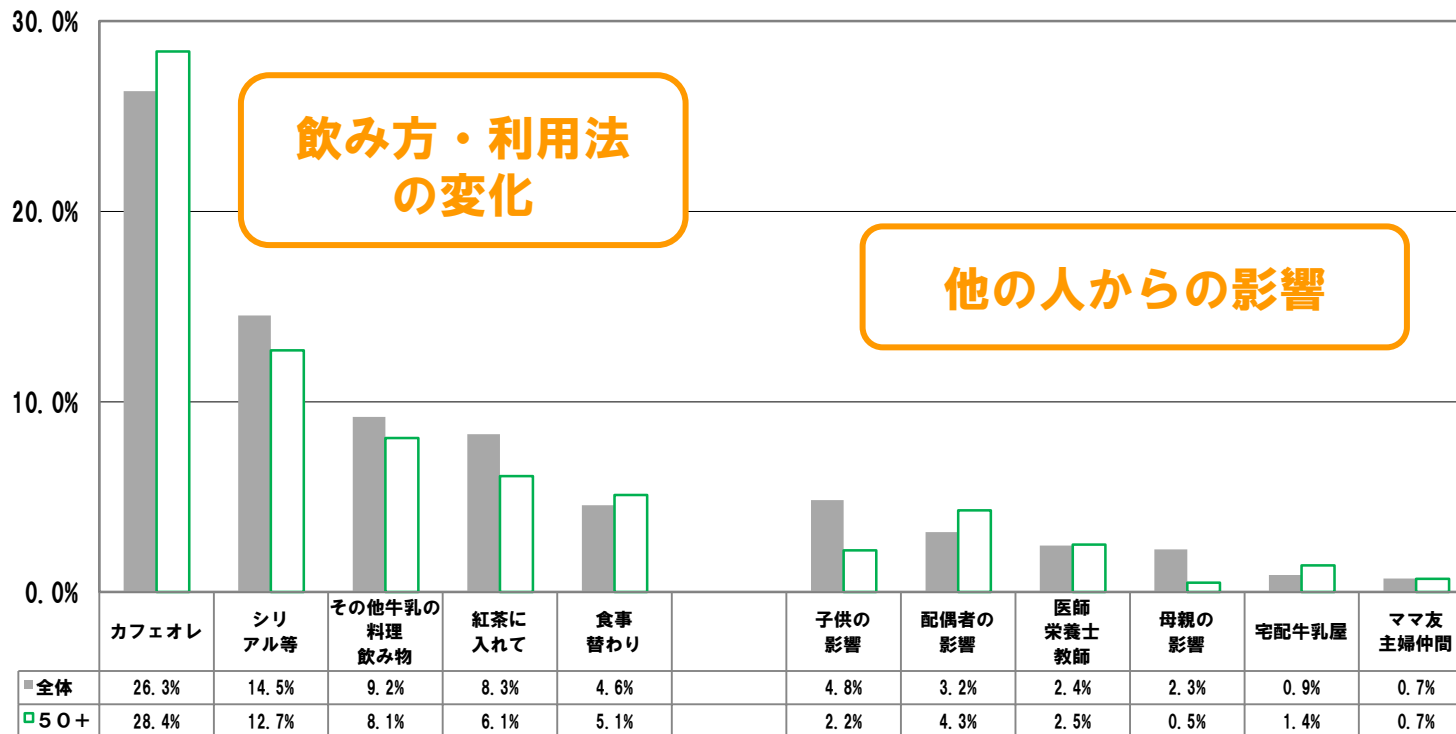
最近のあなた自身の「牛乳」を飲む量や回数が、今現在増えているのは、どんな理由や事情からだと思いますか。



増加者N=1554/553

牛乳の飲用頻度が他の年代と比較して多い50代以上の人の増加理由について、『健康や栄養に関する意識』の具体的な内容を見ると、カルシウム、骨、健康などを理由としてあげる人の割合が高い。

最近のあなた自身の「牛乳」を飲む量や回数が、今現在増えているのは、どんな理由や事情からだと思いますか。



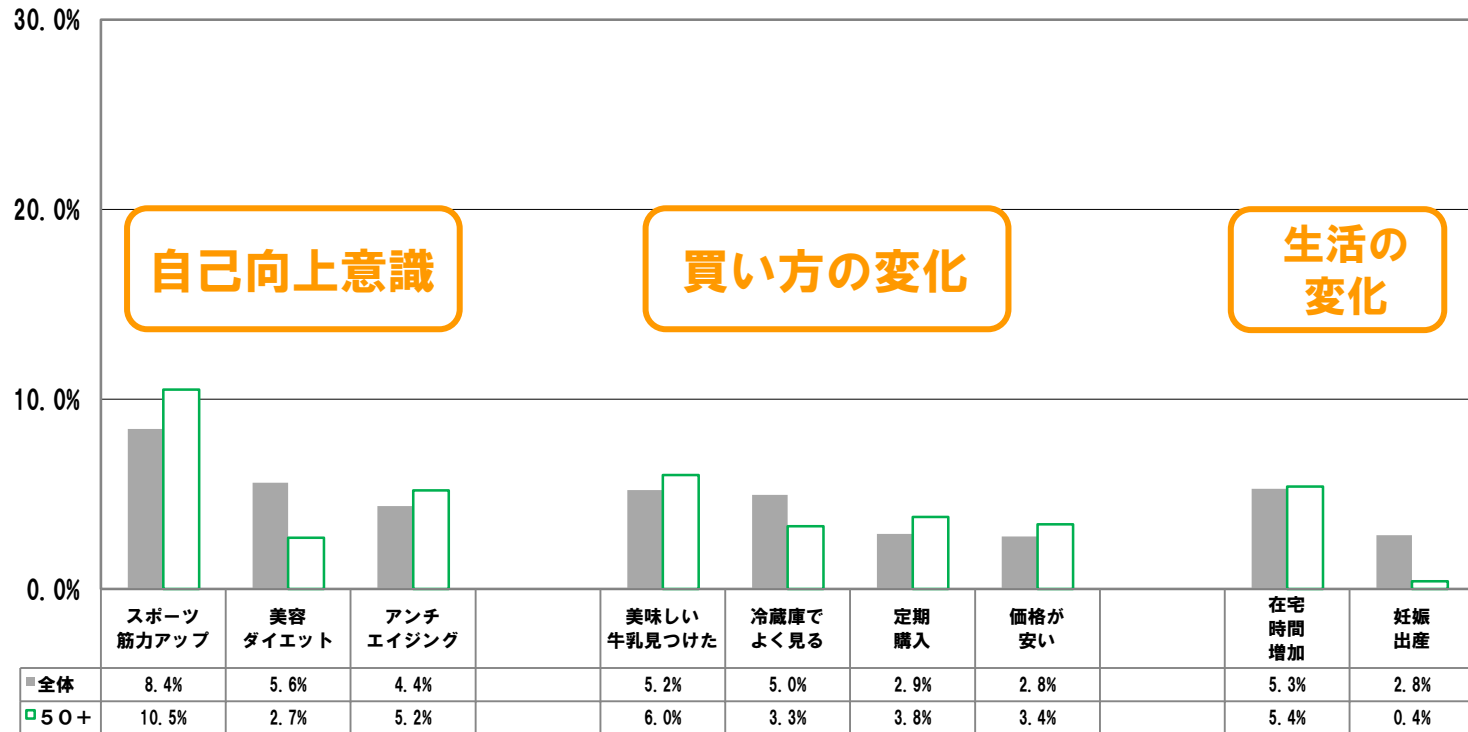
増加者N=1554/553

次に、牛乳の飲用頻度が他の年代と比較して多い50代以上の人の増加理由について『飲み方・利用法の変化』の具体的な内容を見ると、「カフェオレ」「食事替わり」を理由あげる人の割合が高く、「シリアル等」「紅茶」等の割合は低い。

また、『他の人からの影響』の具体的な内容を見ると、「配偶者の影響」等の割合が高く、「子供の影響」等の割合が低い。

飲用頻度・増加理由(50代上の個別理由③/2015)

最近のあなた自身の「牛乳」を飲む量や回数が、今現在増えているのは、どんな理由や事情からだと思いますか。

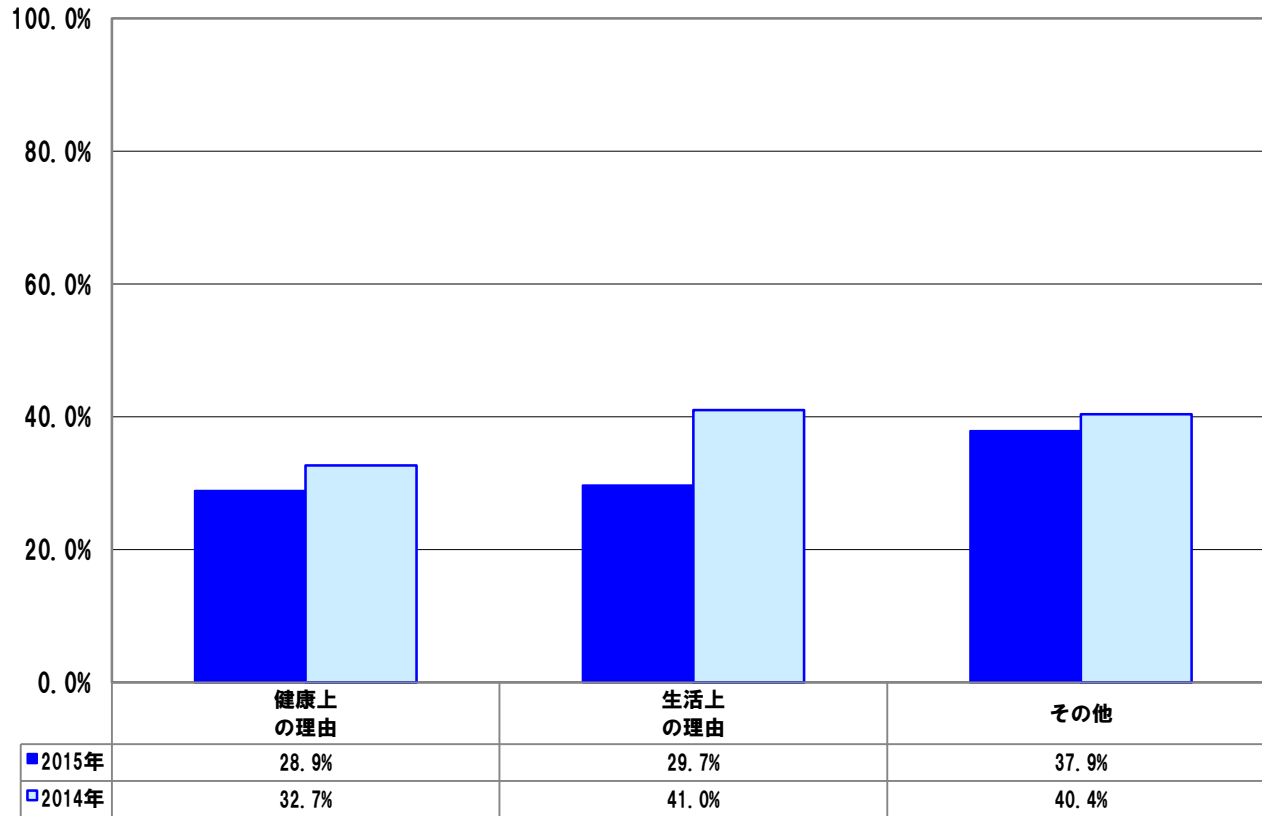


増加者N=1554/553

さらに、牛乳の飲用頻度が他の年代と比較して多い50代以上の人の増加理由について『自己意識向上意識』などの具体的な内容を見ると、「スポーツ・筋力アップ」「アンチエイジング」「美味しい牛乳を見つけた」等をあげる人の割合が高く、「美容・ダイエット」「冷蔵庫でよく見る」「妊娠・出産」の割合は低い。

飲用頻度・減少理由(中分類の推移)

最近のあなた自身の「牛乳」を飲む量や回数が、以前に比べて減っているのは、どんな理由や事情からだと思いますか。

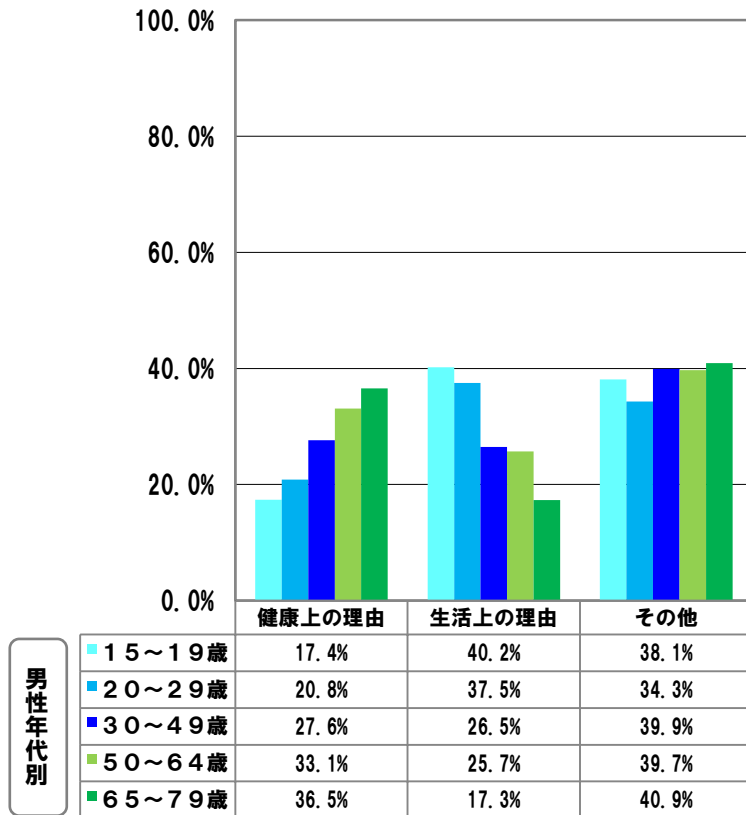


減少者N=2150/2378

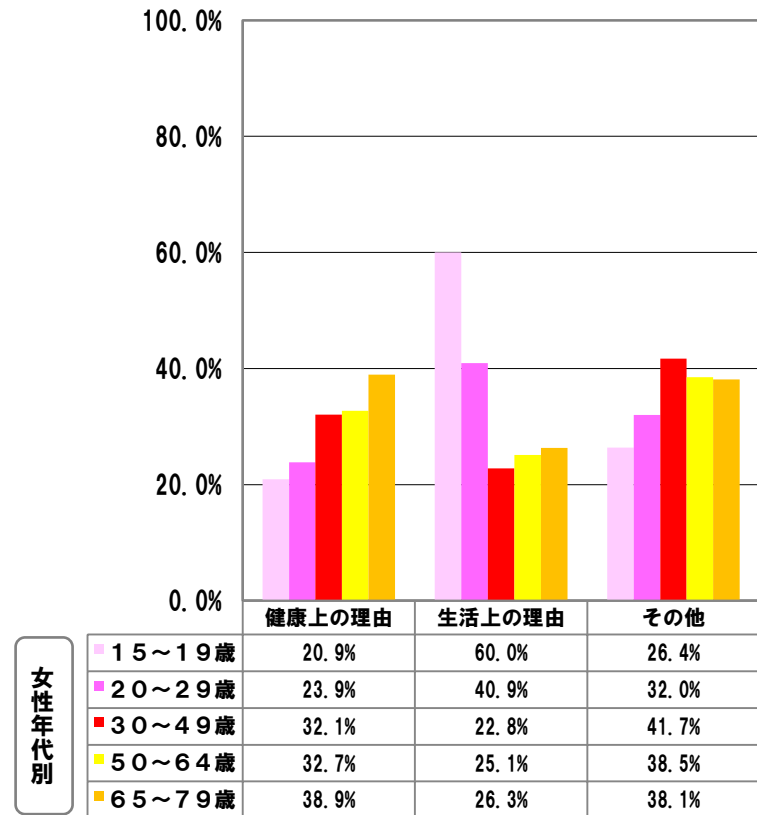
飲用頻度が減った理由は、「健康上の理由」「生活上の理由」「その他」(価格の上昇など)の中分類に分けて見ると、すべての項目で2014年より低下した。とくに、「生活上の理由」をあげる人が2014年を10ポイント以上低下した。

飲用頻度・減少理由(中分類の性年代別/2015)

最近のあなた自身の「牛乳」を飲む量や回数が、以前に比べて減っているのは、どんな理由や事情からだと思いますか。



減少者N=1107/92/216/438/257/104

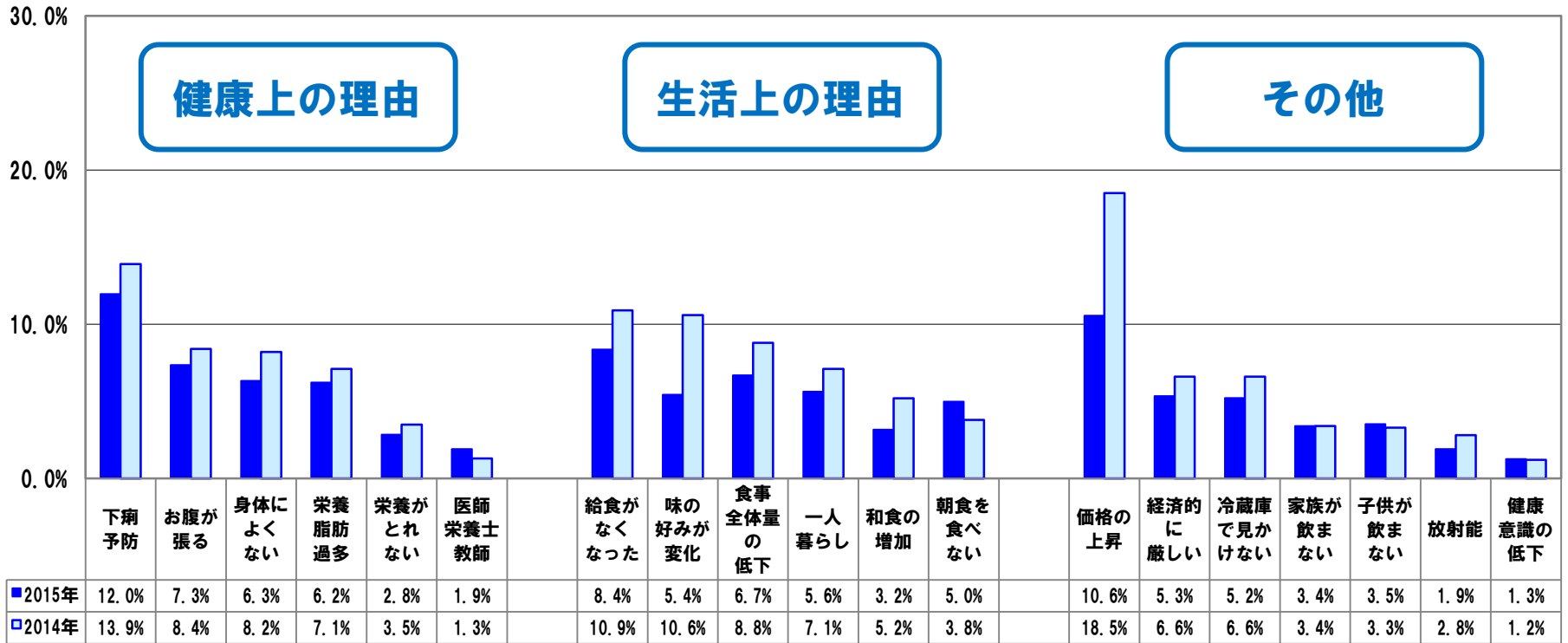


減少者N=1043/110/176/399/263/95

飲用頻度が減った理由を年代別に見ると、男女ともに「健康上の理由」をあげる人の割合は年代が上がるほど上昇し、「生活上の理由」は若い年代ほど高い傾向が見られる。

特に、女性の15-19歳の「生活上の理由」がかなり高い。

最近のあなた自身の「牛乳」を飲む量や回数が、今現在減っているのは、どんな理由や事情からだと思えますか。



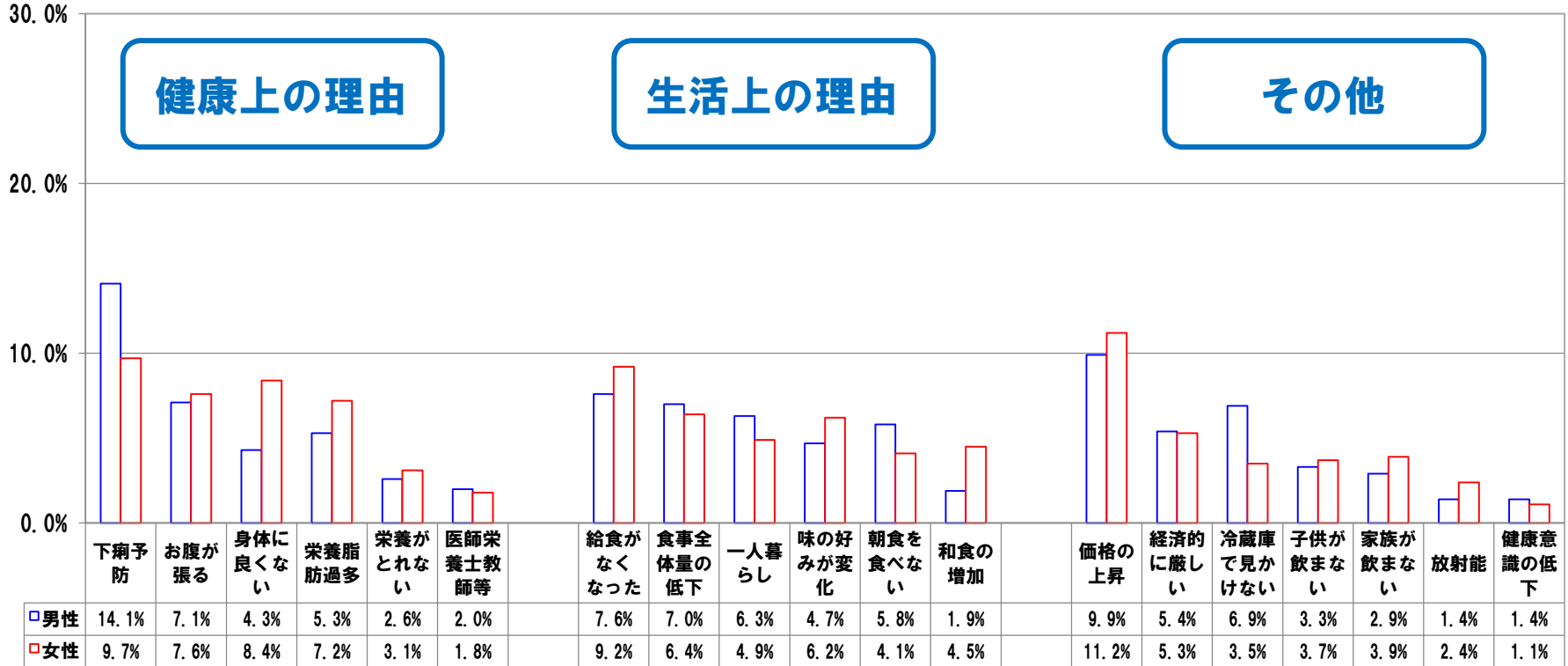
減少者N=2150/2378

飲用頻度が減った個別の理由は、「下痢予防」をあげる人の割合が約12%で最も高く、「価格の上昇」「給食がなくなった」が続く。

2014年と比べると、特に「価格の上昇」「味の好みが変わった」をあげる人の割合が大幅に低下し、他の多くの理由も2014年を下回った。

飲用頻度・減少理由(男女別の個別理由／2015)

最近のあなた自身の「牛乳」を飲む量や回数が、今現在減っているのは、どんな理由や事情からだと思いますか。



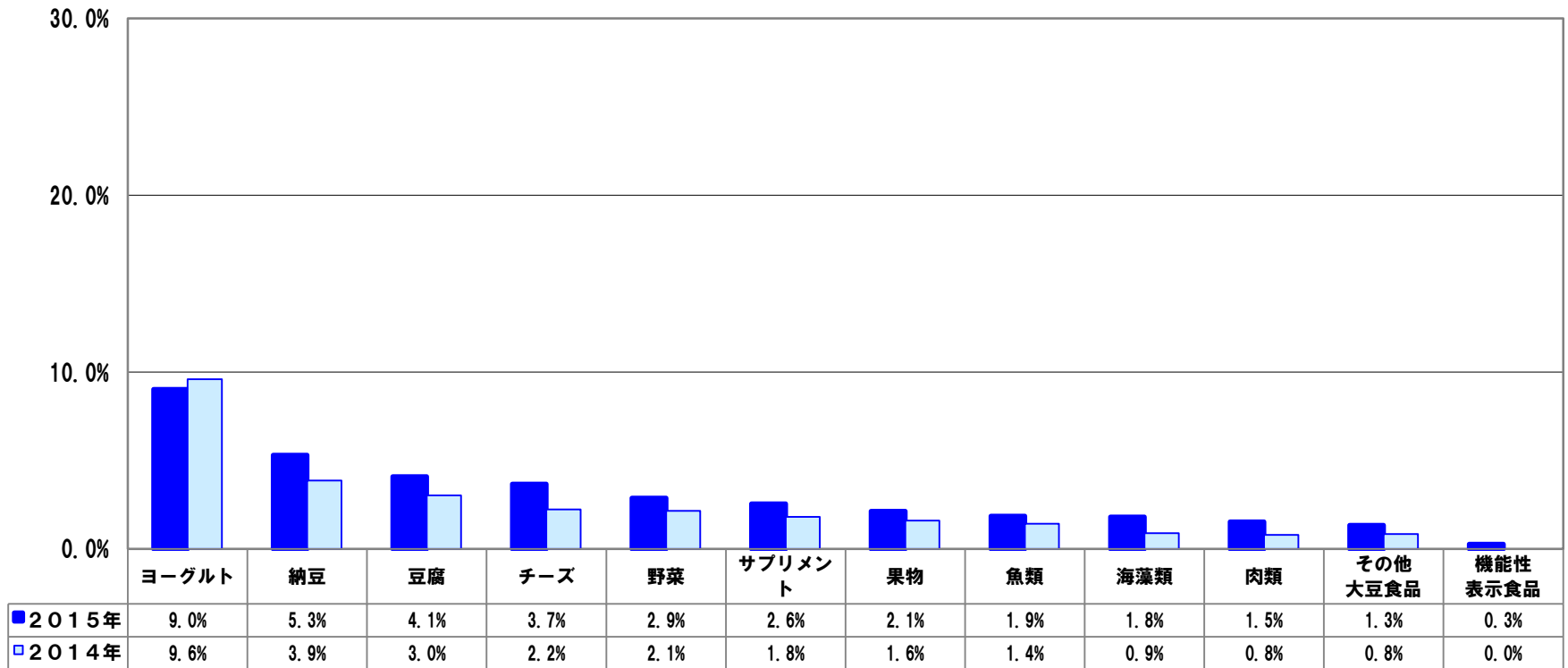
減少者N=1107/1043

飲用頻度が減った個別の理由を男女別に見ると、男性は「下痢予防」をあげる人の割合が最も高く、「価格の上昇」「給食がなくなった」が続く。女性では、「価格の上昇」をあげる人の割合が最も高く、「下痢予防」「給食がなくなった」が続く。

男女で差が大きい理由を見ると、「下痢予防」「冷蔵庫で見かけない」「朝食を食べなくなった」などは男性の方が女性より高く、「身体によくはない」「和食の増加」「栄養や脂肪の取りすぎ」などは女性の方が男性より高い。

牛乳減少の代替品(食べ物・推移)

今現在のあなたが牛乳を減らす代わりに、飲んだり食べたりするのを増やしている飲み物や食べ物は何ですか。

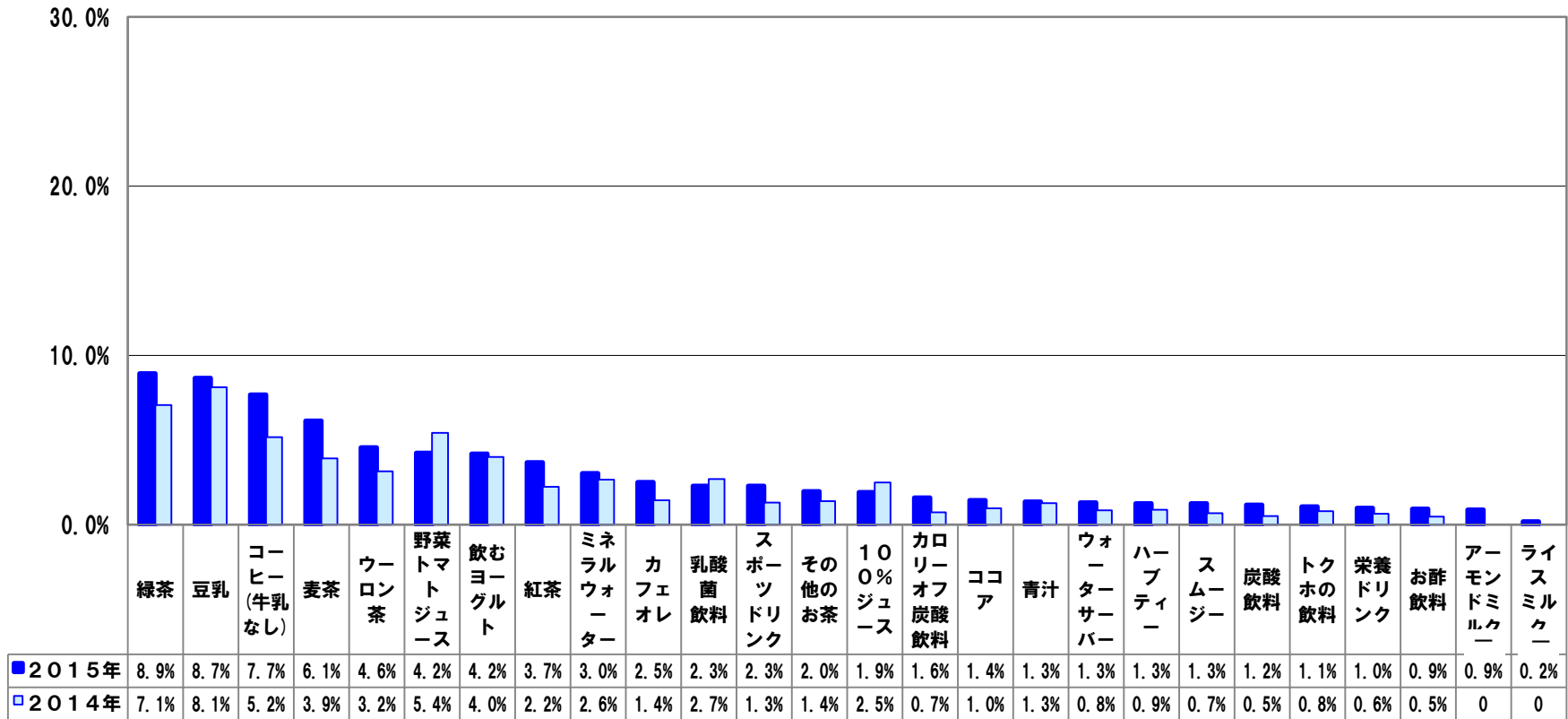


減少者N=2150/2378

牛乳を減らした人が代わりに増やす食べ物は、「ヨーグルト」が約9%で最も高い。また、「ヨーグルト」以外の食べ物の割合は2014年より高くなっており、多様化の傾向が見られる。

牛乳減少の代替品(飲み物・推移)

今現在のあなたが牛乳を減らす代わりに、飲んだり食べたりするのを増やしている飲み物や食べ物は何ですか。



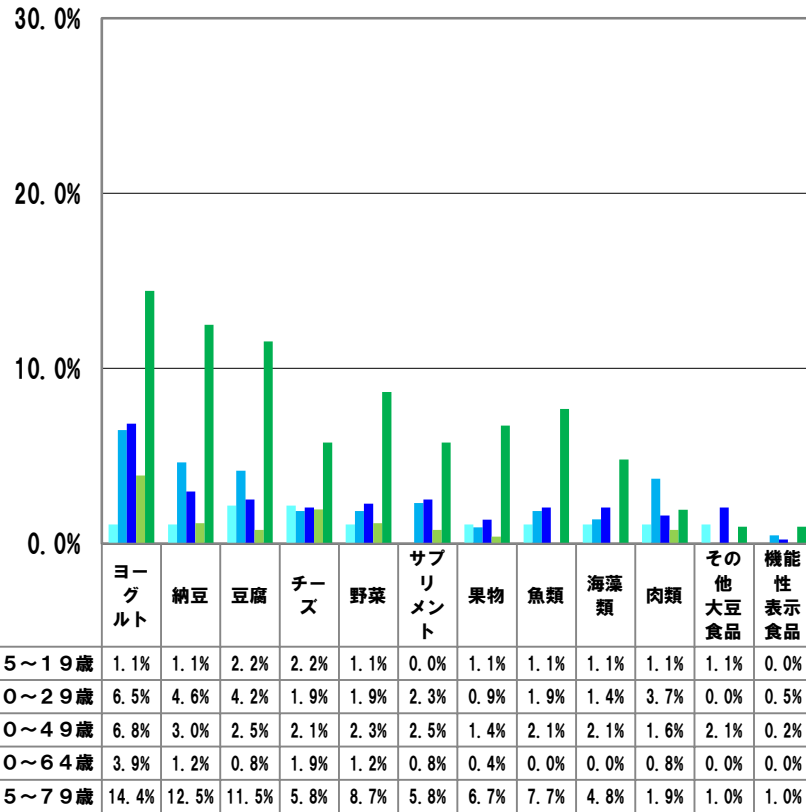
減少者N=2150/2378

牛乳を減らした人が代わりに増やす飲み物は、「緑茶」が約9%で最も高く、「豆乳」「コーヒー(牛乳なし)」「麦茶」など他の飲み物がわずかな差で続く。

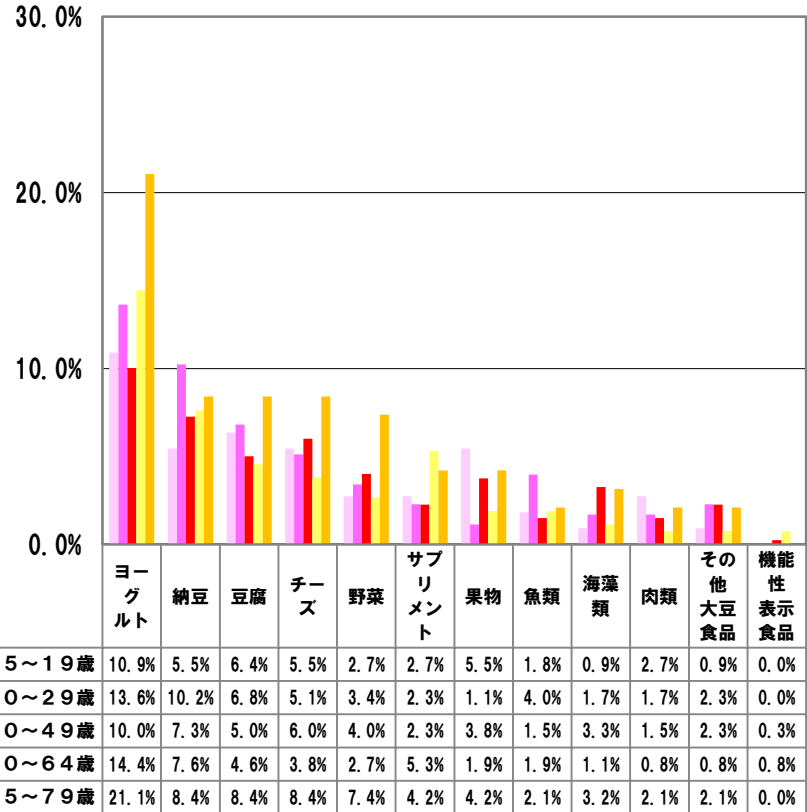
上位の飲み物をはじめ多くが2014年より高くなる中で、「野菜・トマトジュース」「乳酸菌飲料」「果汁100%ジュース」は2014年を下回った。

牛乳減少の代替品(食べ物／性年代別／2015)

今現在のあなたが牛乳を減らす代わりに、飲んだり食べたりするのを増やしている飲み物や食べ物は何か。



減少者N=1107/92/216/438/257104



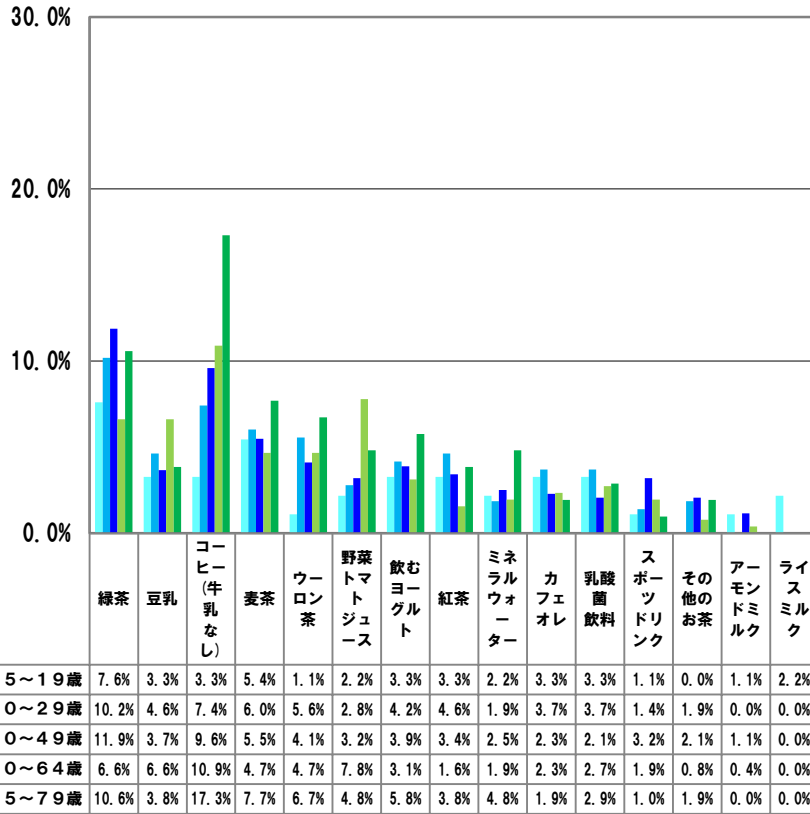
減少者N=1043/110/176/399/263/95

牛乳を減らした人が代わりに増やす食べ物について男女別に見ると、女性の方が男性より代替品を利用する割合が高い。

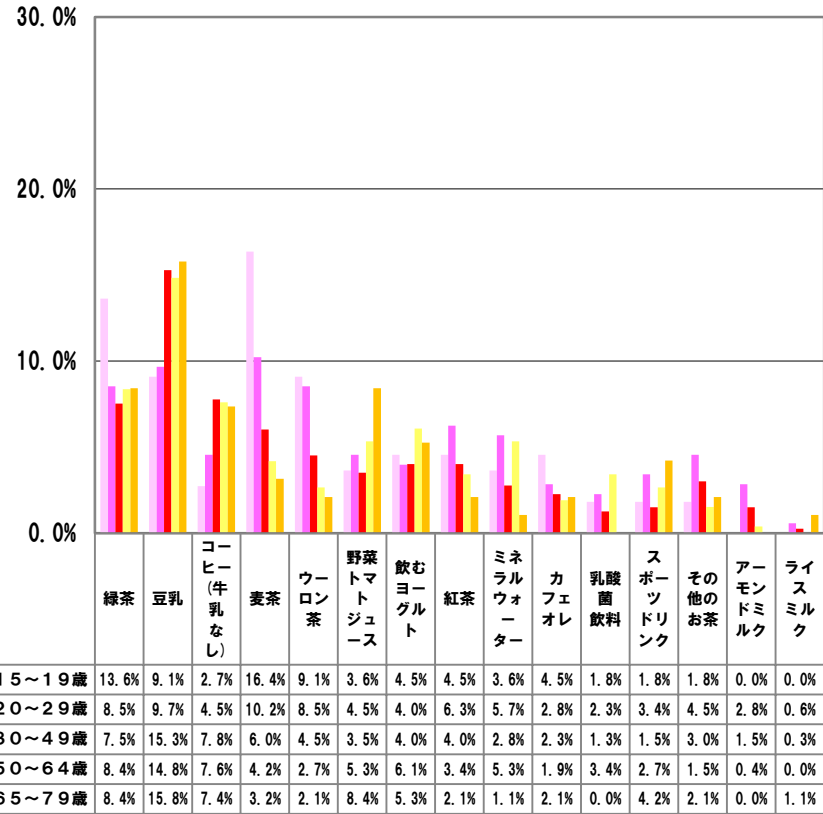
代替品の内容を見ると、年代別には、65-79歳の方が他の年代より代替品を利用する割合が顕著に上昇する傾向が強く、男女ともに「ヨーグルト」「チーズ」「野菜」でその傾向が強い。男性の「納豆」「豆腐」「果物」「魚類」でも同様である。一方、男性の15-19歳、50-64歳は代替品が少ない。

牛乳減少の代替品(飲み物／性年代別／2015)

今現在のあなたが牛乳を減らす代わりに、飲んだり食べたりするのを増やしている飲み物や食べ物は何ですか。



減少者N=1107/92/216/438/257104



減少者N=1043/110/176/399/263/95

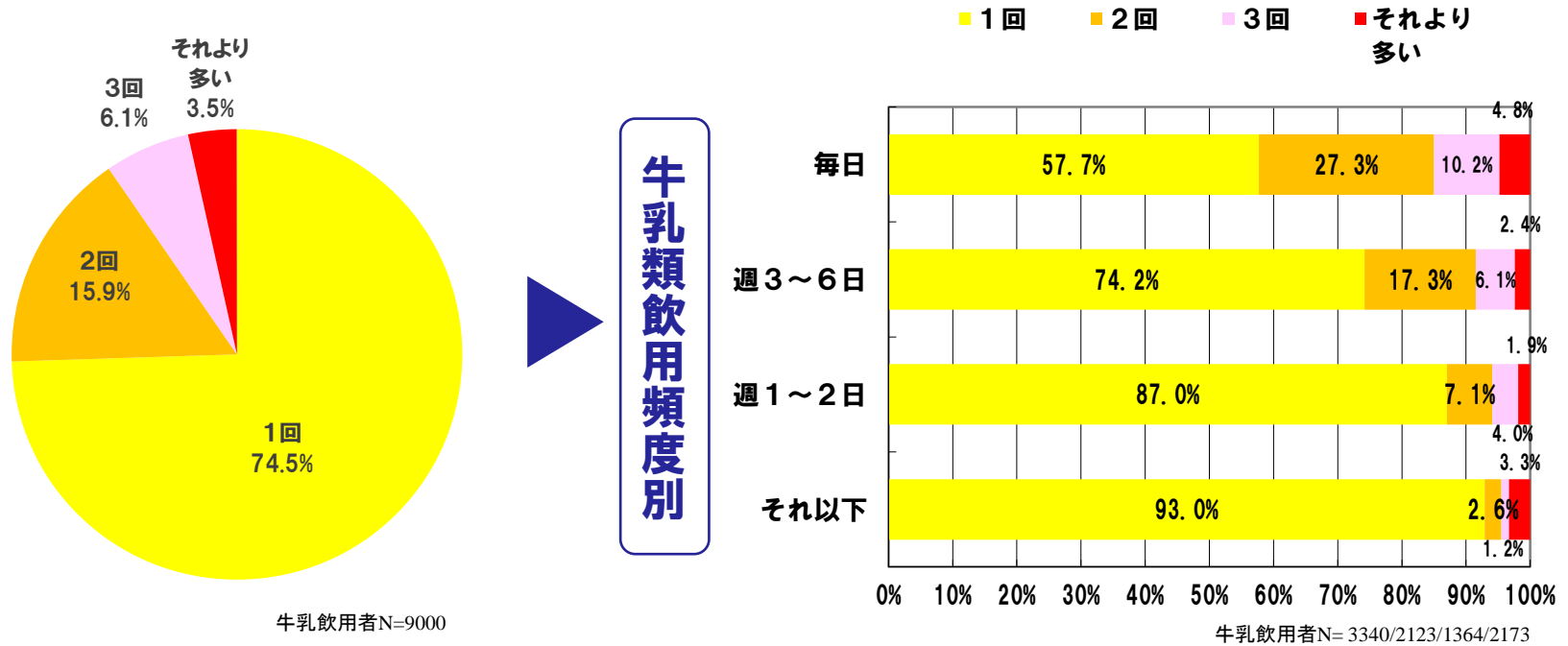
牛乳を減らした人が代わりに増やす飲み物について男女別に見ると、「**コーヒー(牛乳なし)**」の割合が男性が女性より高いのが顕著で、特に**65-79歳**が高い。
一方、「**豆乳**」の割合は女性が男性より高く、中でも**30代以上**の女性の割合が高い。また、「**緑茶**」「**麦茶**」は女性の**15-19歳**が他の年代より高い。

2-2. 牛乳類の飲用・利用の詳しい状況について

1日の飲用回数(全体+牛乳類飲用頻度別/2015)

いま現在、あなたご自身は牛乳類(※)を、1日に何回くらい飲んだり利用したりしますか。

(※ ここにおける「牛乳類」は、成分無調整牛乳、成分調整牛乳、低脂肪乳、無脂肪乳、加工乳、機能強化乳飲料などの白い牛乳類を指します。コーヒーやフルーツ等が入った乳飲料は含みません。)



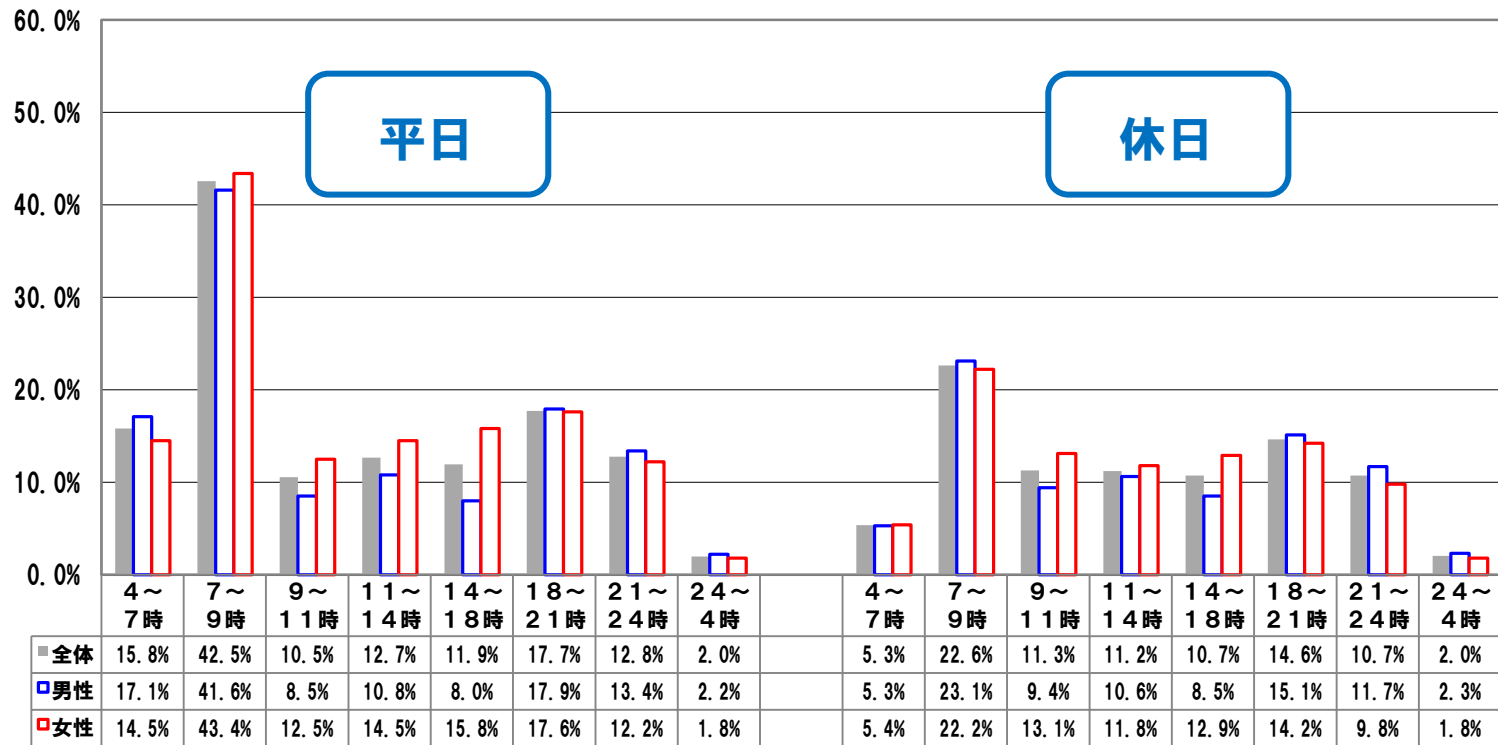
牛乳類を飲む(利用する)人の1日あたりの飲用回数は、「1回」の人の割合が約75%と最も多い。

飲用頻度別に見ると、頻度が多い人ほど1日に飲む回数も多い傾向が見られ、「毎日」飲む人の40%以上が1日に2回以上飲んでいる。

牛乳類の飲用時間帯(男女別/2015)

普段、あなたご自身が牛乳類(※)を飲んだり利用したりする時間帯をお知らせください。

(※ ここにおける「牛乳類」は、成分無調整牛乳、成分調整牛乳、低脂肪乳、無脂肪乳、加工乳、機能強化乳飲料などの白い牛乳類を指します。コーヒーやフルーツ等が入った乳飲料は含みません。)



牛乳飲用者N=9000/4436/4564

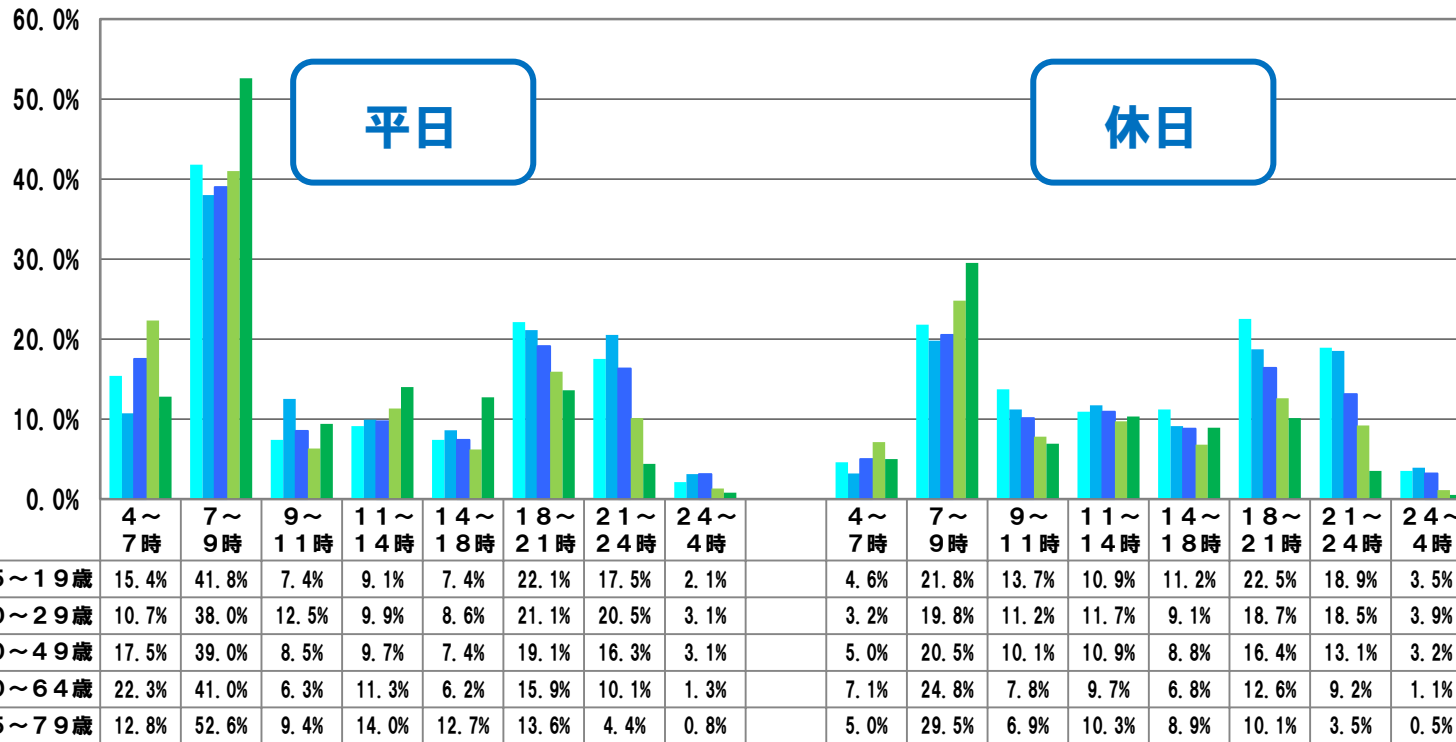
牛乳類の飲用時間帯は、男女とも「7-9時」に飲む人の割合が最も高い。
ただし、「7-9時」に飲む人の割合を平日と休日に分けて見ると、平日は40%を超えるが休日は20%強にとどまる。

男女別には、「9-18時」の全ての時間帯で、牛乳類を飲む人の割合において女性が男性を上回る傾向が見られる。

牛乳類の飲用時間帯(男性年代別／2015)

普段、あなたご自身が牛乳類(※)を飲んだり利用したりする時間帯をお知らせください。

(※ ここにおける「牛乳類」は、成分無調整牛乳、成分調整牛乳、低脂肪乳、無脂肪乳、加工乳、機能強化乳飲料などの白い牛乳類を指します。コーヒーやフルーツ等が入った乳飲料は含みません。)



牛乳飲用者N=4436/ 285/ 616/ 1611/ 1262/ 662

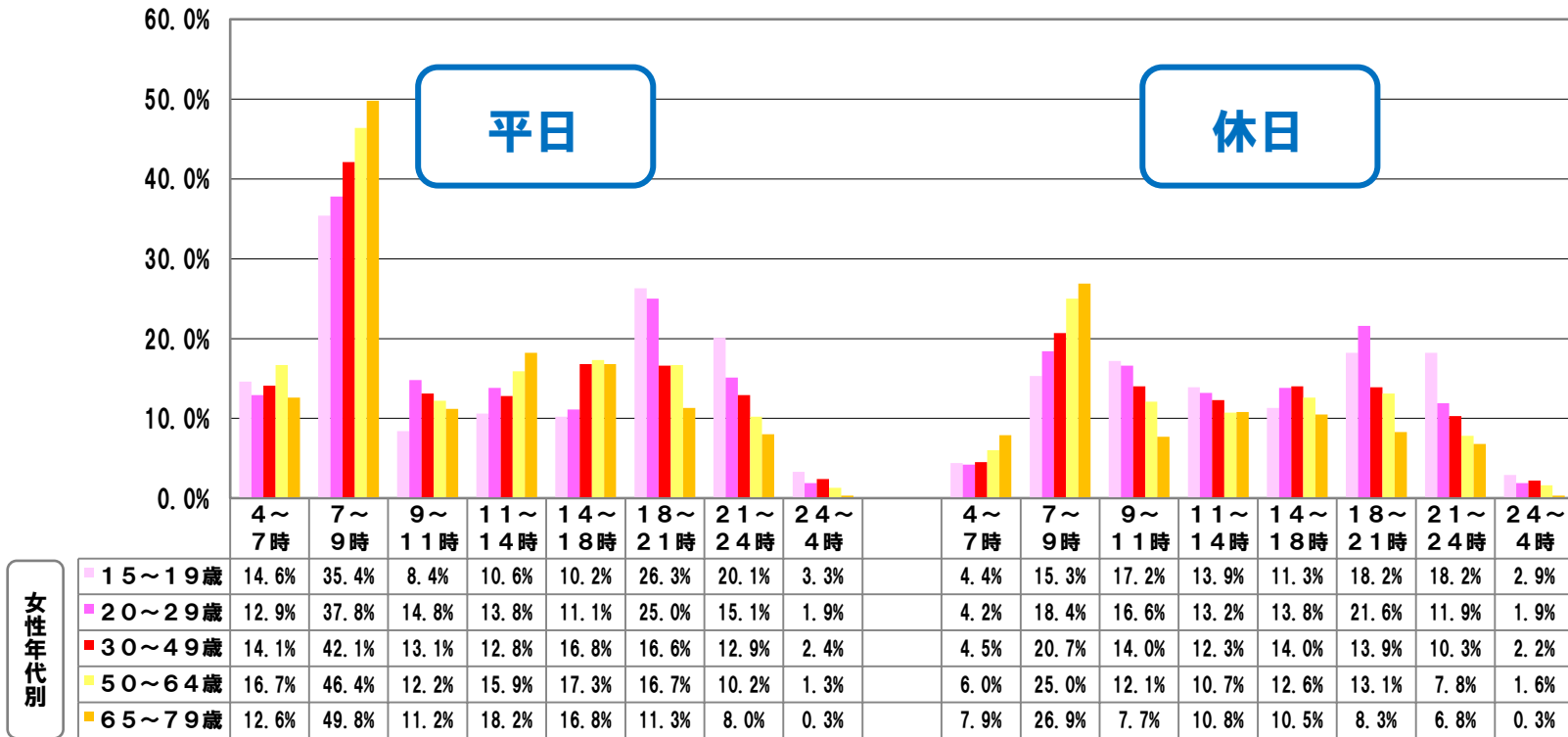
年代別に飲用時間帯を見ると、男性では「7-9時」に飲む人の割合が、平日は全ての年代で、休日は20代以上で、他の時間帯に比べて最も高い。

また、年代が上がるほど「7-9時」に飲む人の割合が上昇し、平日では65-79歳の50%以上の人「7-9時」に飲んでいる。一方、若い年代では「18-21時」「21-24時」に飲む人の割合が20%前後あり、朝と夜に飲用時間帯が分かれる傾向が見られる。

牛乳類の飲用時間帯(女性年代別／2015)

普段、あなたご自身が牛乳類(※)を飲んだり利用したりする時間帯をお知らせください。

(※ ここにおける「牛乳類」は、成分無調整牛乳、成分調整牛乳、低脂肪乳、無脂肪乳、加工乳、機能強化乳飲料などの白い牛乳類を指します。コーヒーやフルーツ等が入った乳飲料は含みません。)



牛乳飲用者N=4564/ 274/ 621/ 1689/ 1344/ 636

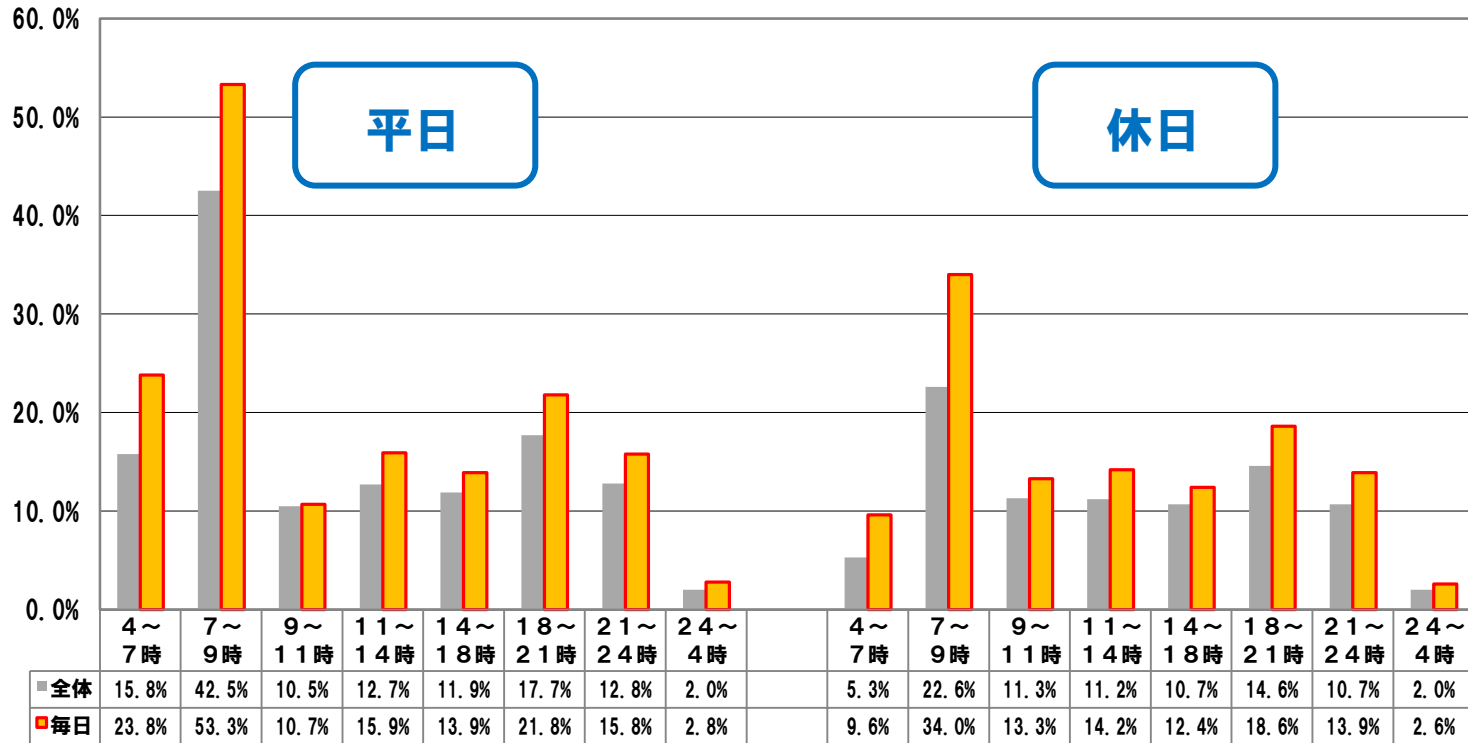
次に女性について飲用時間帯を見ると、「7-9時」に飲む人の割合が、平日は全ての年代で、休日は30代以上で、他の時間帯に比べて最も高い。

また、男性同様、年代が上がるほど「7-9時」に飲む人の割合が上昇し、若い年代では「18-21時」「21-24時」にも飲用時間帯が分かれる傾向が見られる。

牛乳類の飲用時間帯(毎日飲用者/2015)

普段、あなたご自身が牛乳類(※)を飲んだり利用したりする時間帯をお知らせください。

(※ ここにおける「牛乳類」は、成分無調整牛乳、成分調整牛乳、低脂肪乳、無脂肪乳、加工乳、機能強化乳飲料などの白い牛乳類を指します。コーヒーやフルーツ等が入った乳飲料は含みません。)



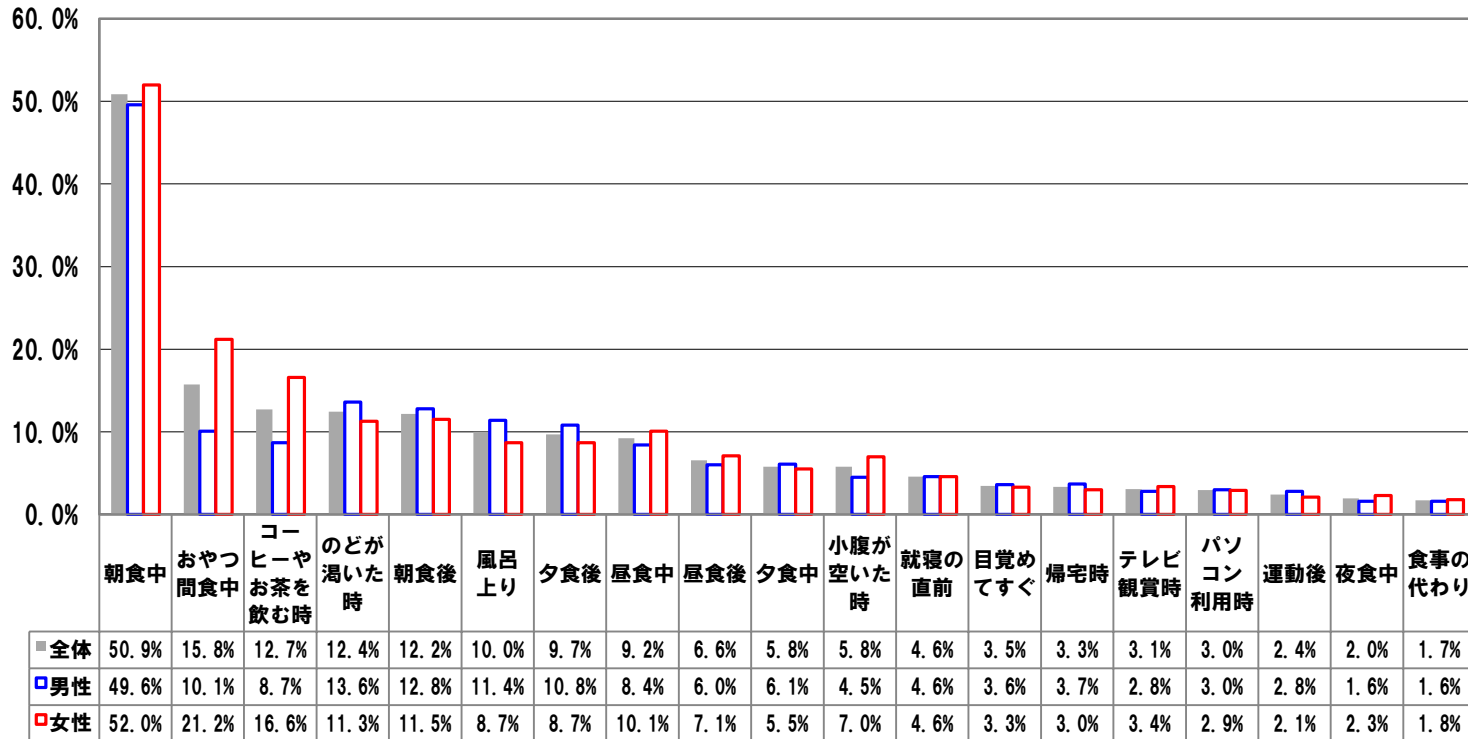
牛乳飲用者N=9000/3340

牛乳類を「毎日」飲む人の場合、全体に比べ、全ての時間帯で飲む割合が高く、特に「7-9時」に飲む割合は、平日・休日のいずれも10%以上高くなる。

牛乳類の飲用シーン(男女別/2015)

普段、あなたご自身が牛乳類(※)を飲んだり利用したりする状況をお知らせください。

(※ ここにおける「牛乳類」は、成分無調整牛乳、成分調整牛乳、低脂肪乳、無脂肪乳、加工乳、機能強化乳飲料などの白い牛乳類を指します。コーヒーやフルーツ等が入った乳飲料は含みません。)



牛乳飲用者N=9000/4436/4564

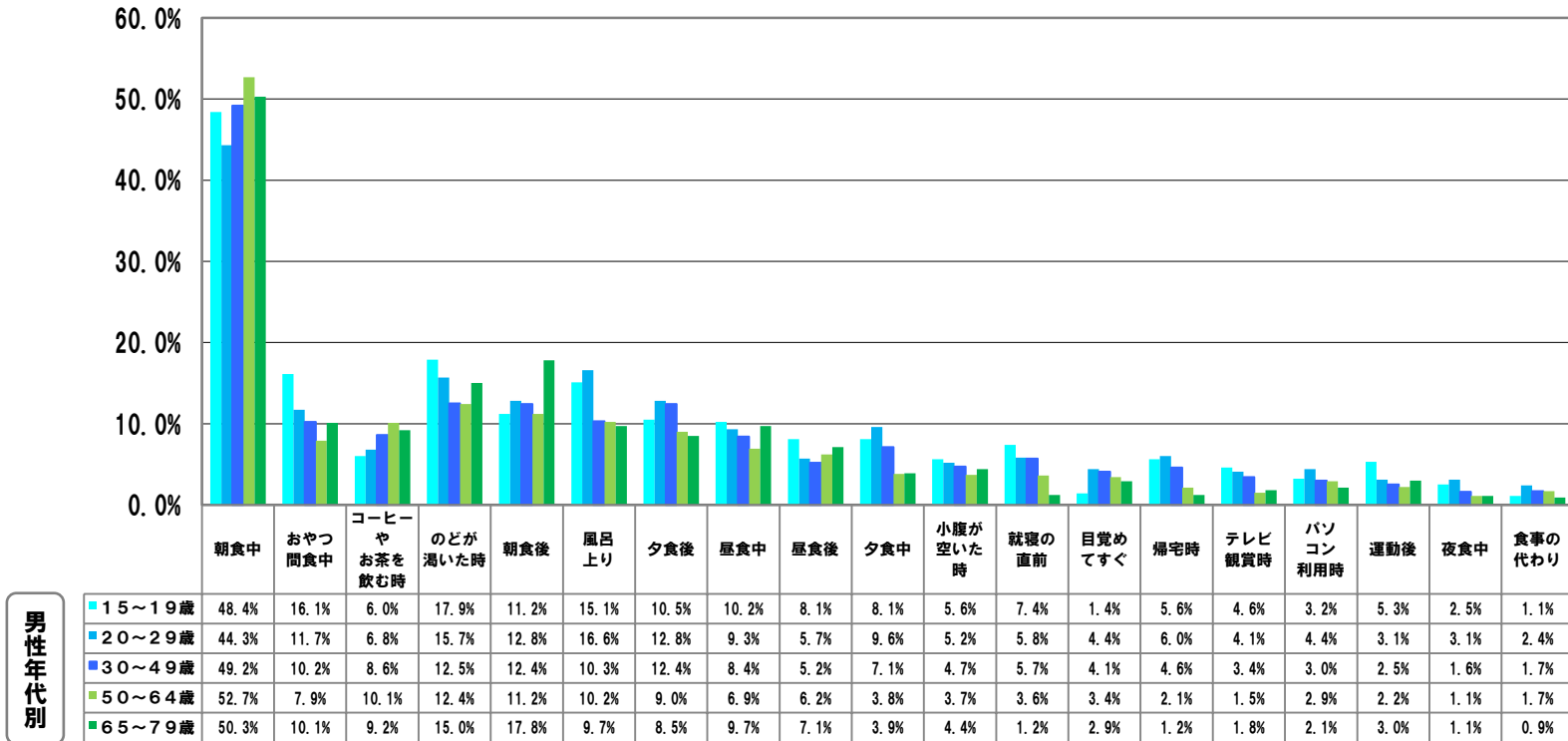
牛乳類を飲む人に「どのような状況(シーン)で飲むのか」を聞いたところ、「朝食中」に飲む人の割合が男女とも50%前後と突出して高い。

男女間で差が大きいものは、女性は「おやつ・間食中」「コーヒーやお茶を飲むとき」の割合が男性に比べて10%前後高い。男性が女性を上回るシーンは、さほど大きな差ではないが「のどが渴いた時」「風呂上がり」などである。

牛乳類の飲用シーン(男性年代別/2015)

普段、あなたご自身が牛乳類(※)を飲んだり利用したりする状況をお知らせください。

(※ ここにおける「牛乳類」は、成分無調整牛乳、成分調整牛乳、低脂肪乳、無脂肪乳、加工乳、機能強化乳飲料などの白い牛乳類を指します。コーヒーやフルーツ等が入った乳飲料は含みません。)



牛乳飲用者N=285/616/1611/1262/662

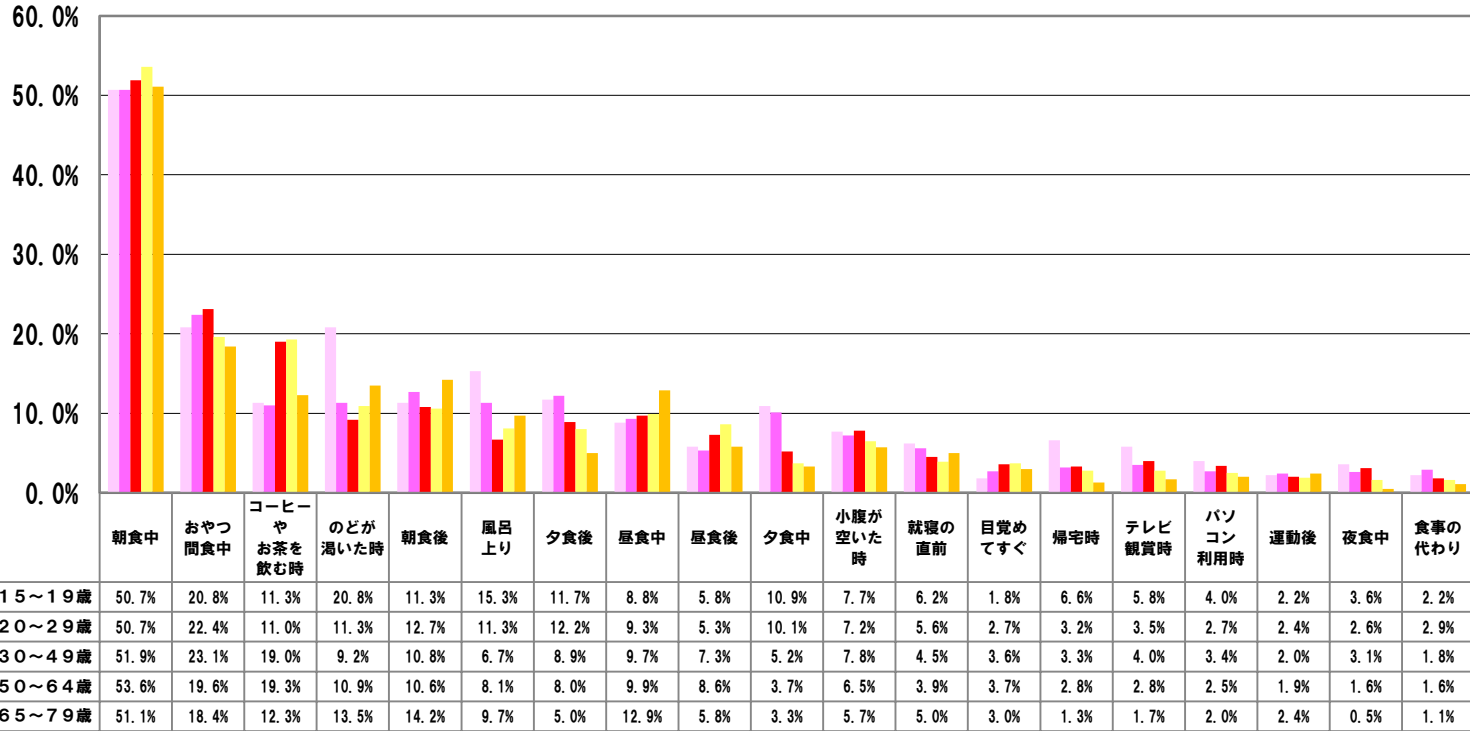
飲用シーンを年代別に見ると、男性では、「20-29歳」がやや低いものの全世代で「朝食中」の割合が最も高い。

年代が上がるほど「朝食中」「朝食後」や「コーヒーやお茶を飲む時」に飲む人の割合は高く、「のどが渴いた時」「風呂上がり」「おやつ・間食中」などの割合は若い年代ほど高い傾向が見られる。

牛乳類の飲用シーン(女性年代別/2015)

普段、あなたご自身が牛乳類(※)を飲んだり利用したりする状況をお知らせください。

(※ ここにおける「牛乳類」は、成分無調整牛乳、成分調整牛乳、低脂肪乳、無脂肪乳、加工乳、機能強化乳飲料などの白い牛乳類を指します。コーヒーやフルーツ等が入った乳飲料は含みません。)



牛乳飲用者N=274/621/1689/1344/636

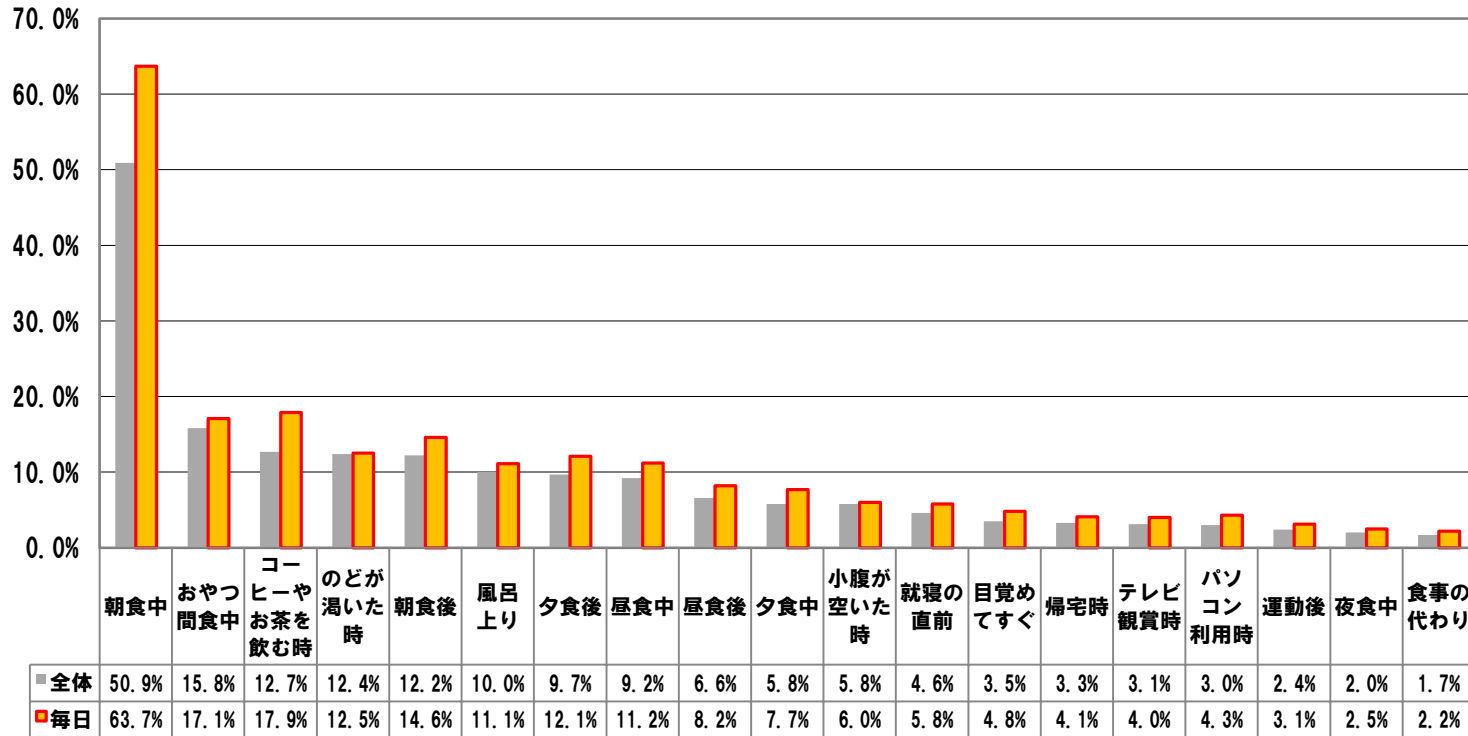
次に女性の飲用シーンを年代別に見ると、「朝食中」に飲む人の割合が全年代において同じく50%強で、最も高い。

「朝食中」「朝食後」や「コーヒーやお茶を飲む時」に飲む人の割合は年代が上がるほど高く、「のどが渴いた時」「風呂上がり」「おやつ・間食中」などに飲む人の割合は、若い年代ほど高い傾向が見られる。

牛乳類の飲用シーン(毎日飲用者／2015)

普段、あなたご自身が牛乳類(※)を飲んだり利用したりする状況をお知らせください。

(※ ここにおける「牛乳類」は、成分無調整牛乳、成分調整牛乳、低脂肪乳、無脂肪乳、加工乳、機能強化乳飲料などの白い牛乳類を指します。コーヒーやフルーツ等が入った乳飲料は含みません。)



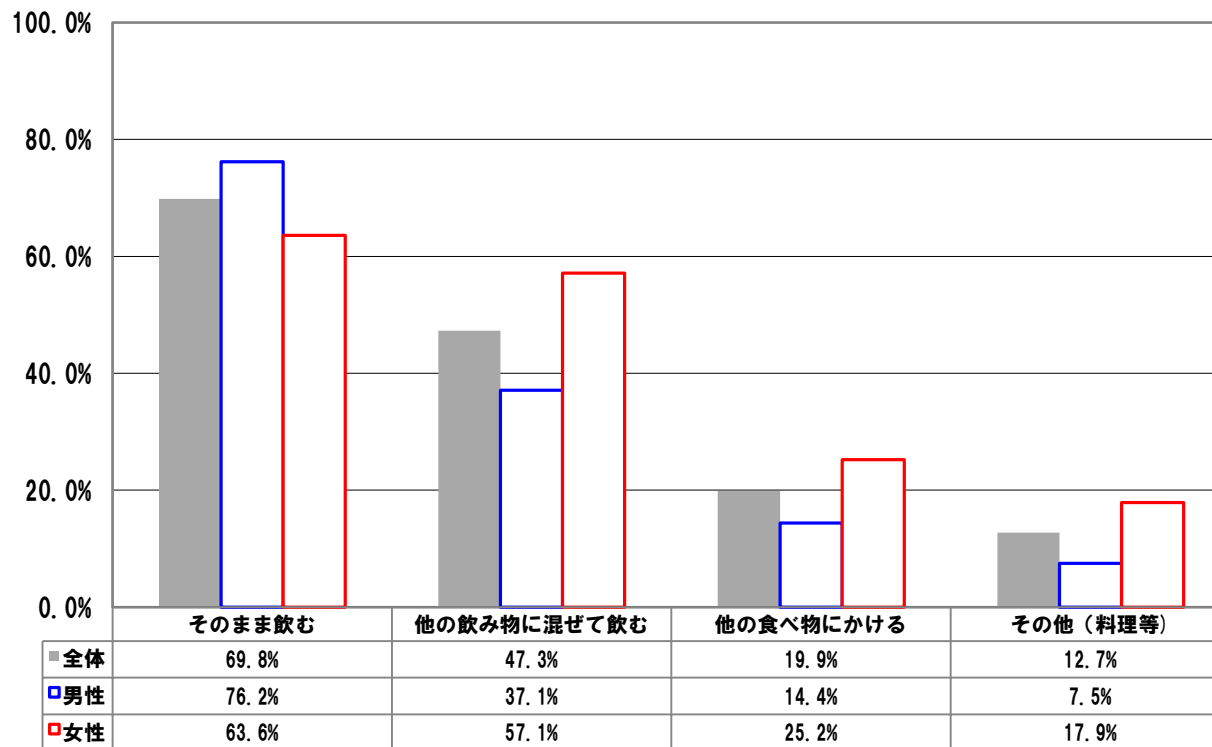
牛乳飲用者N=9000/3340

牛乳類の飲用シーンを見ると、全ての項目で『毎日』飲む人の割合が全体よりも高い。

なお、割合が最も高い飲用シーンである「朝食中」では『毎日』飲む人の割合は60%を超え、全体より10ポイント以上高く、また、「コーヒーやお茶を飲む時」「朝食後」などのシーンでも『毎日』飲む人の割合は高い。

いま現在、あなたが牛乳類(※)を利用するときの方法をお知らせください。

(※ ここにおける「牛乳類」は、成分無調整牛乳、成分調整牛乳、低脂肪乳、無脂肪乳、加工乳、機能強化乳飲料などの白い牛乳類を指します。コーヒーやフルーツ等が入った乳飲料は含みません。)



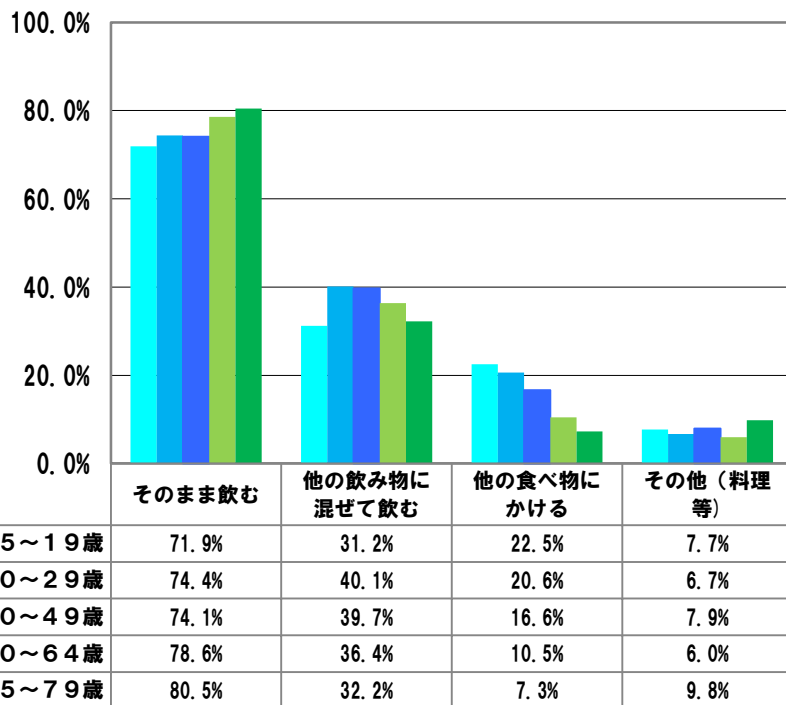
牛乳飲用者N=9000/4436/4564

牛乳類の飲用・利用方法を見ると、「そのまま飲む」人の割合が約70%で、男女ともに最も高く、男女を比較すると男性の方がその傾向が強い。

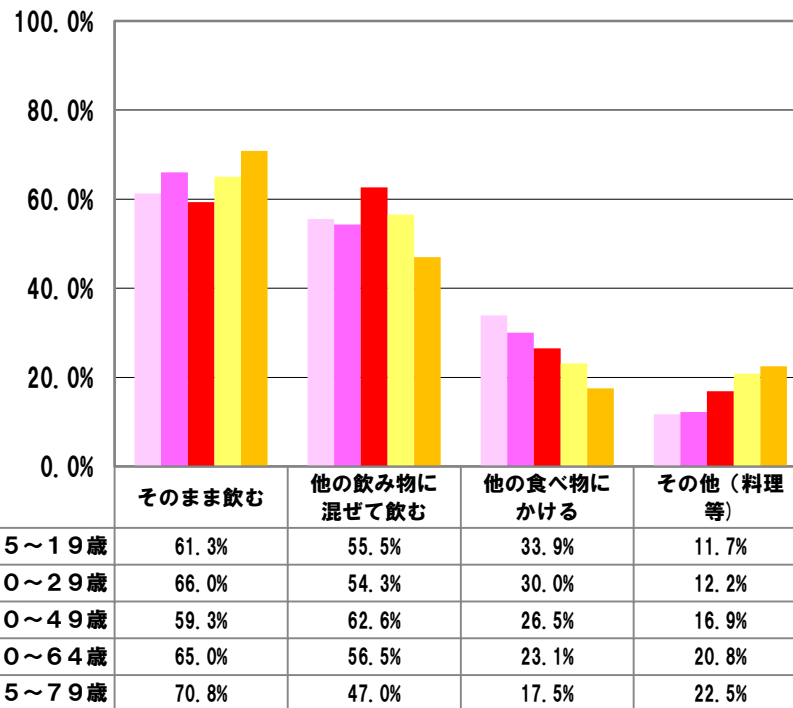
一方、女性は男性より「混ぜて飲む」「食べ物にかける」「その他(料理等)」の割合が高く、特に「混ぜて飲む」という割合は20ポイントも高い。

いま現在、あなたが牛乳類(※)を利用するときの方法をお知らせください。

(※ ここにおける「牛乳類」は、成分無調整牛乳、成分調整牛乳、低脂肪乳、無脂肪乳、加工乳、機能強化乳飲料などの白い牛乳類を指します。コーヒーやフルーツ等が入った乳飲料は含みません。)



牛乳飲用者N= 285/ 616/ 1611/ 1262/ 662



牛乳飲用者N= 274 /621 /1689/ 1344/ 636

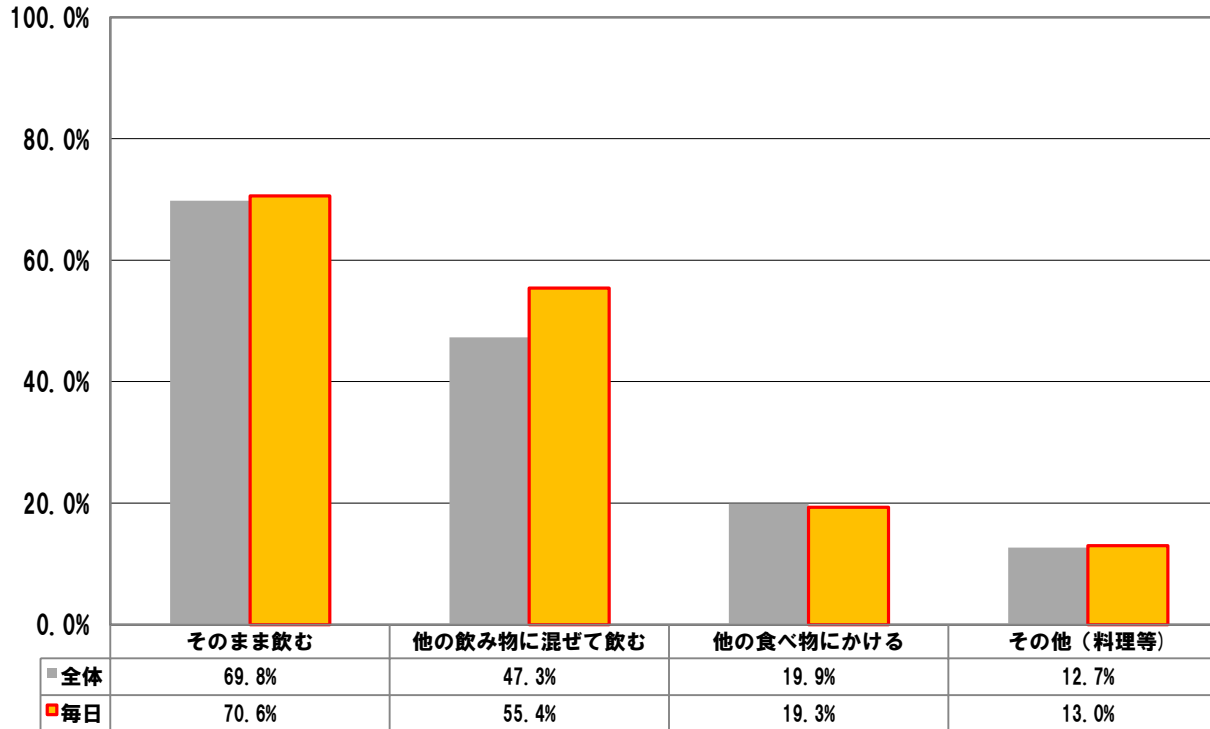
牛乳の飲用・利用方法を年代別に見ると、男性は、年代が上がるほど「そのまま飲む」割合が上昇し、「混ぜて飲む」「食べ物にかける」割合は逆に低下する傾向が見られる。

女性の場合、30-49歳で「そのまま飲む」がやや低いほかは男性とほぼ同じ傾向となり、加えて、「その他(料理等)」の割合は年代が上がるほど上昇する。

飲用・利用の方法(毎日飲用者／2015)

いま現在、あなたが牛乳類(※)を利用するときの方法をお知らせください。

(※ ここにおける「牛乳類」は、成分無調整牛乳、成分調整牛乳、低脂肪乳、無脂肪乳、加工乳、機能強化乳飲料などの白い牛乳類を指します。コーヒーやフルーツ等が入った乳飲料は含みません。)



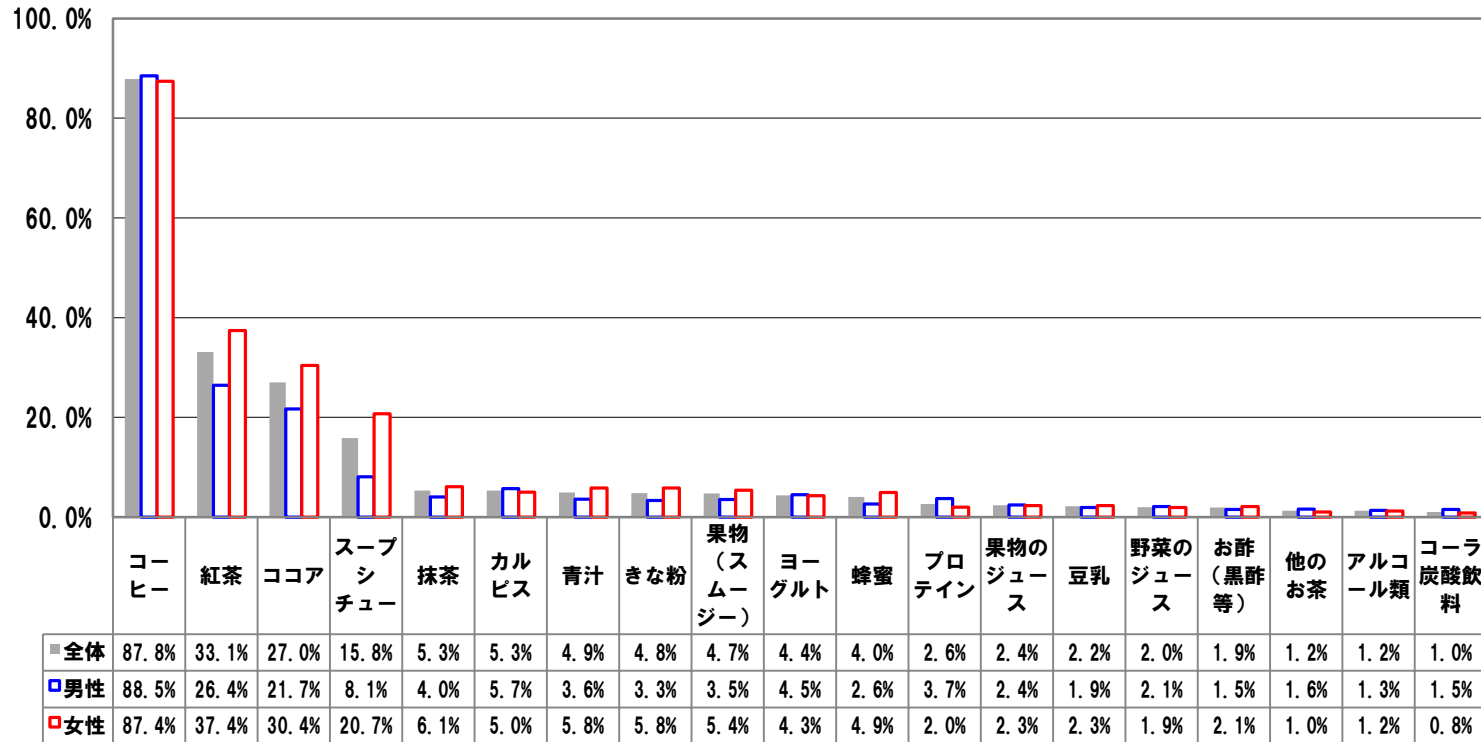
牛乳飲用者N=9000/3340

牛乳類を『毎日』を飲む人の飲用・利用方法を全体に比べると、「他の飲み物に混ぜて飲む」の割合だけが高い。

牛乳と混ぜて飲んでいるもの(男女別/2015)

いま現在、あなたが牛乳類(※)と混ぜて飲むことがある飲み物をお知らせください。

(※ ここにおける「牛乳類」は、成分無調整牛乳、成分調整牛乳、低脂肪乳、無脂肪乳、加工乳、機能強化乳飲料などの白い牛乳類を指します。コーヒーやフルーツ等が入った乳飲料は含みません。)



牛乳「まぜ飲み」飲用者N=4253/ 1647/ 2606

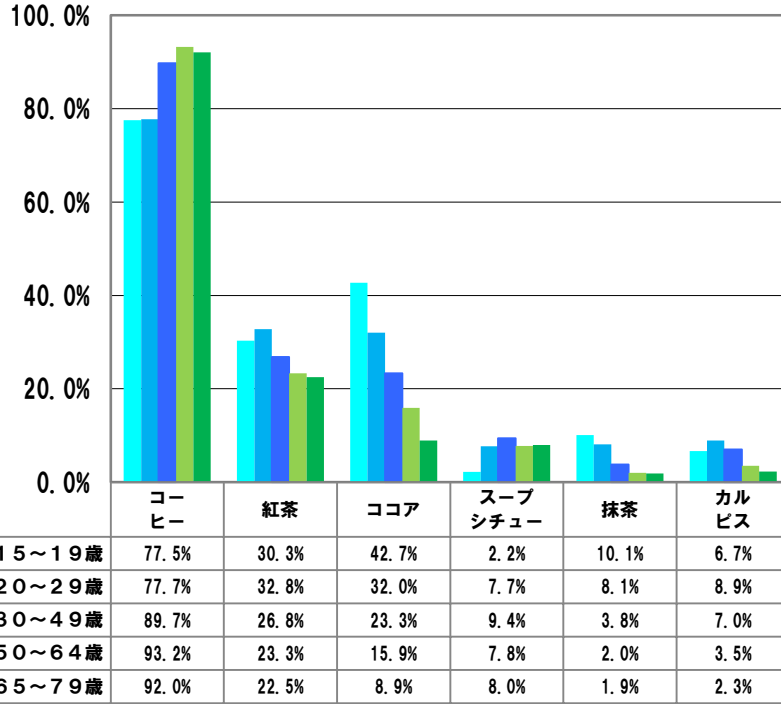
牛乳と混ぜて飲むものは、男女とも「コーヒー」をあげる人が90%弱で突出して高く、「紅茶」「ココア」「スープ・シチュー」と続く。

ただし、「紅茶」「ココア」「スープ・シチュー」の割合は男女差が大きく、女性が男性より10ポイント前後高い。

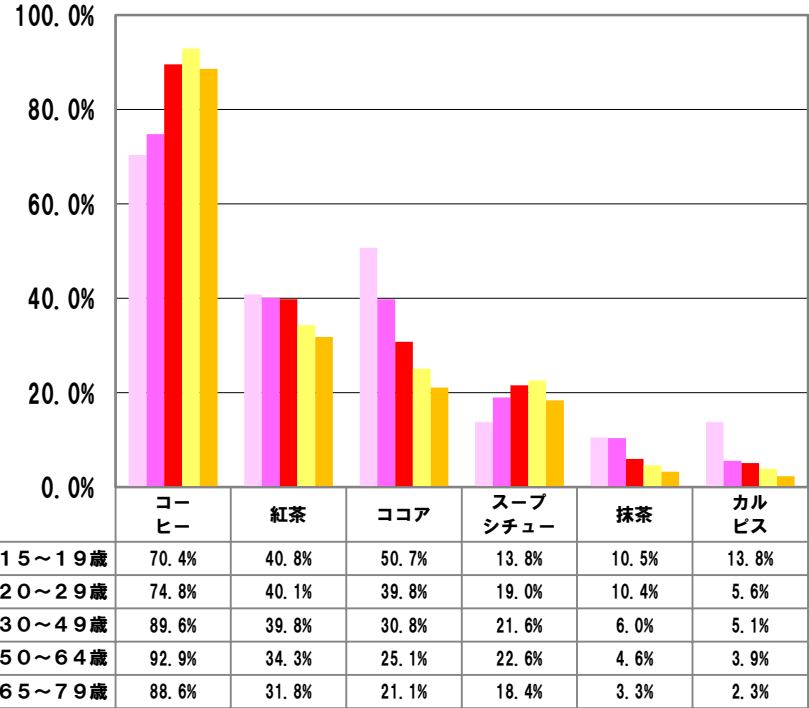
牛乳と混ぜて飲んでいるもの(性年代別/2015)

いま現在、あなたが牛乳類(※)と混ぜて飲むことがある飲み物をお知らせください。

(※ ここにおける「牛乳類」は、成分無調整牛乳、成分調整牛乳、低脂肪乳、無脂肪乳、加工乳、機能強化乳飲料などの白い牛乳類を指します。コーヒーやフルーツ等が入った乳飲料は含みません。)



牛乳「まぜ飲み」飲用者N= 89/ 247/ 639/ 459/ 213



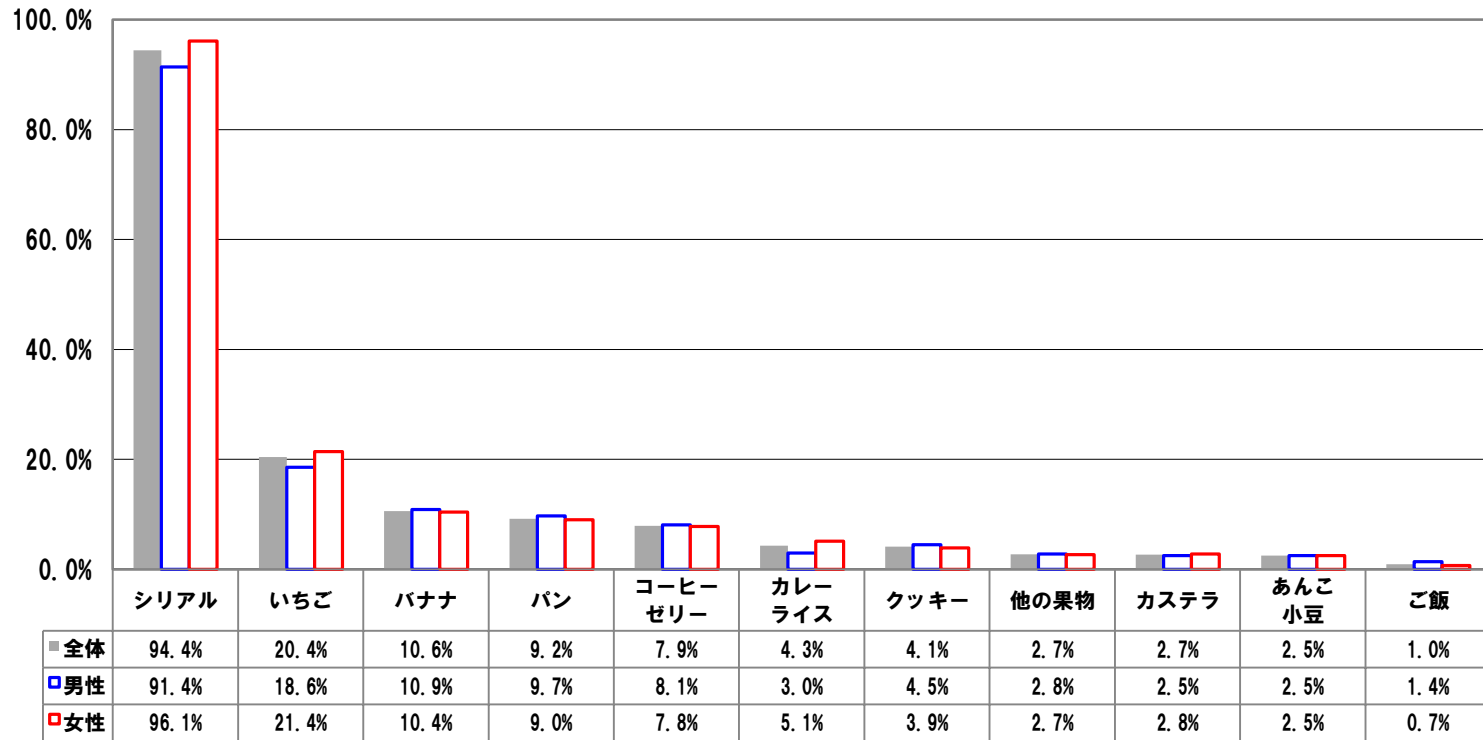
牛乳「まぜ飲み」飲用者N= 152/ 337/ 1058/ 760/ 299

牛乳と混ぜて飲むものを年代別に見ると、男女とも「コーヒー」は30代以上層の割合が90%前後で高く、若い年代ほど「紅茶」「ココア」の割合が高い。
また、女性の20代以上の全ての年代は20%前後の人が「スープ・シチュー」と混ぜて利用している。

牛乳をかけて食べているもの(男女別/2015)

いま現在、あなたが牛乳類(※)をかけて食べることもある食べ物をお知らせください。

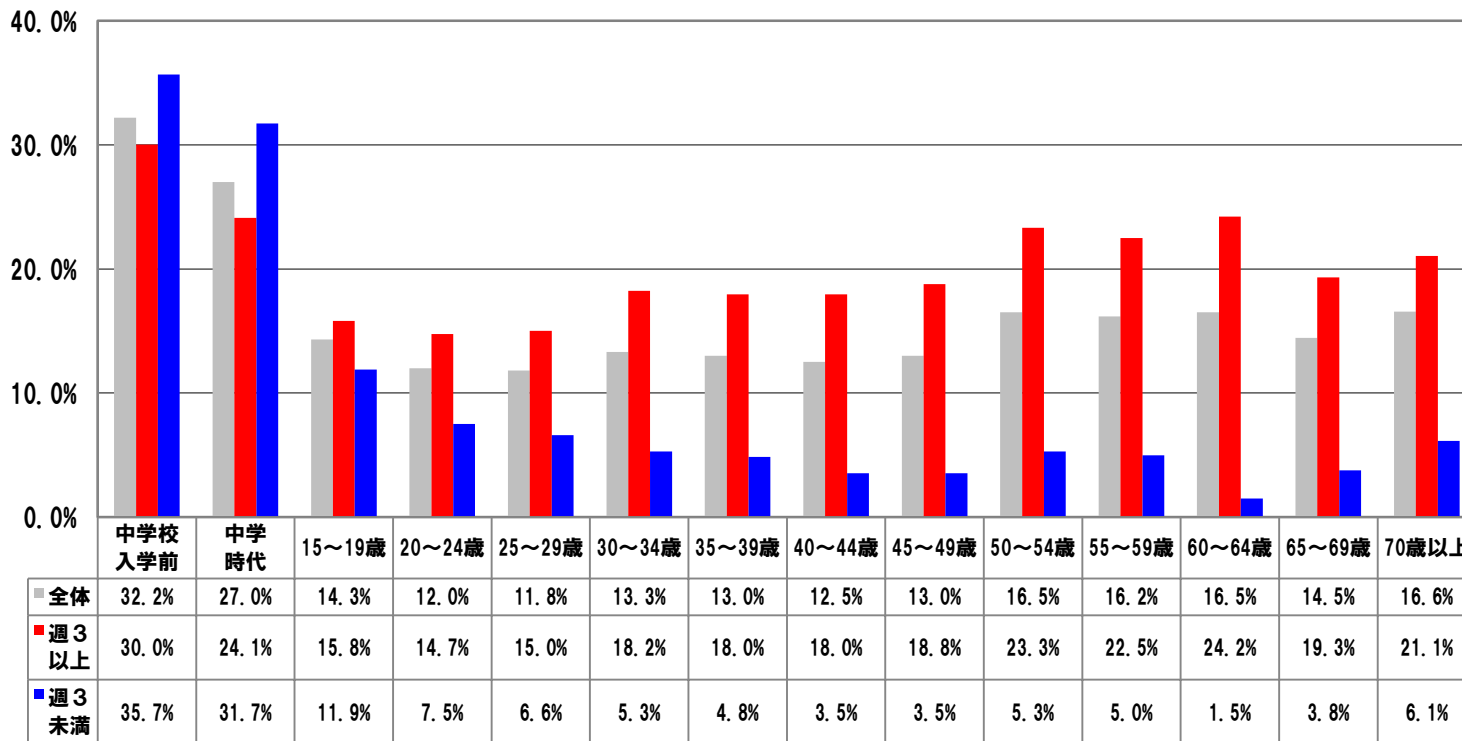
(※ ここにおける「牛乳類」は、成分無調整牛乳、成分調整牛乳、低脂肪乳、無脂肪乳、加工乳、機能強化乳飲料などの白い牛乳類を指します。コーヒーやフルーツ等が入った乳飲料は含みません。)



牛乳「かけ食べ」利用者N=1788/ 640/ 1148

牛乳をかけて食べるものとしては、男女ともに「シリアル」(コーンフレーク、グラノーラ等)をあげる人の割合が90%を超えて突出して高く、次いで「いちご」が20%前後で続く。

これまでに、あなたが習慣的(※)に牛乳を飲んでいたと思う年代をお知らせください。
 (※「習慣的」とは、その日、牛乳を飲まないと感じてしまうような状態を指します)



N=600/ 373/ 227

50代以上の人について、牛乳類飲用頻度が「週3回以上」層と「週3回未満」層に分け、『これまでに牛乳を習慣的に飲んでいてきた年代』をたずねると、中学時代までが高く、その後、低下する。

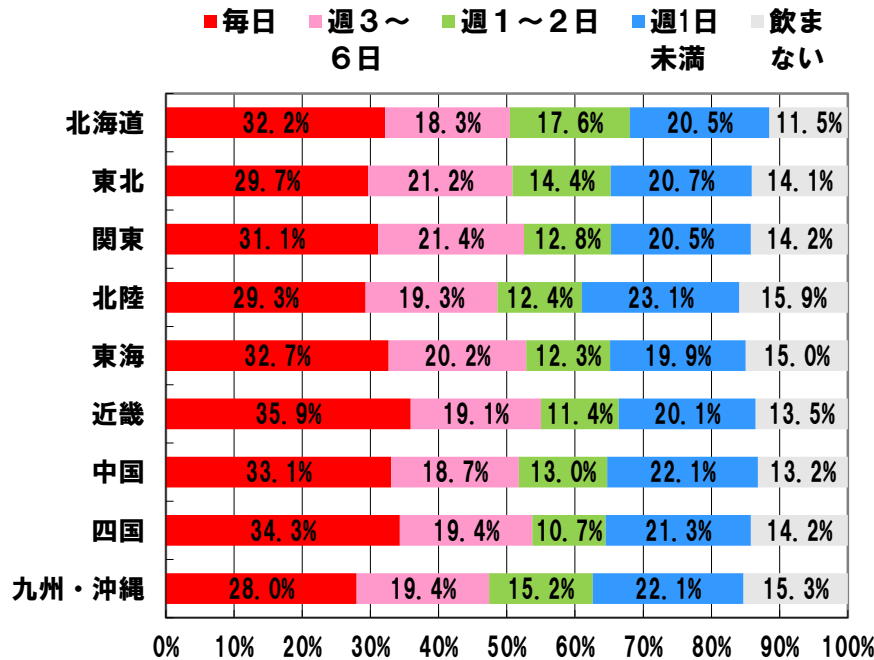
なお、「週3回以上」層は年代が上がるごとに再び習慣的に飲むようになっている一方で、「週3回未満」層は20代以降、飲用習慣が定着していない状況が分かる。

3. 属性や食生活状況などと、飲用頻度やその増減との関係

地域別の飲用頻度／増減(2015)

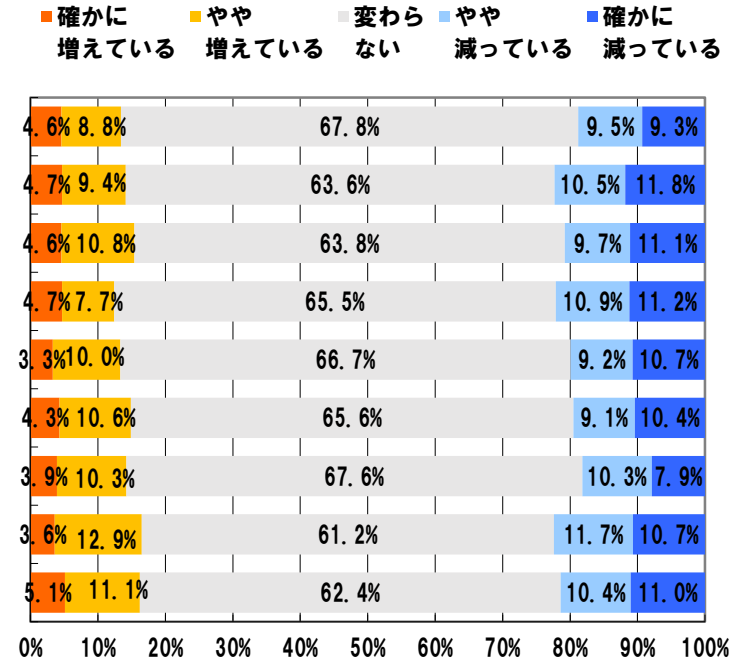
いま現在、あなたご自身は牛乳類(※)をどれくらいの割合で飲んだり、利用していますか。

(※ ここにおける「牛乳類」は、成分無調整牛乳、成分調整牛乳、低脂肪乳、無脂肪乳、加工乳、機能強化乳飲料などの白い牛乳類を指します。コーヒーやフルーツ等が入った乳飲料は含みません。)



N= 454/ 745/ 3776/ 403/ 1325/ 1736/593/ 309/ 1147

最近のあなた自身が、「牛乳」を飲む量や回数は、今現在、増えたり減ったりしていますか。



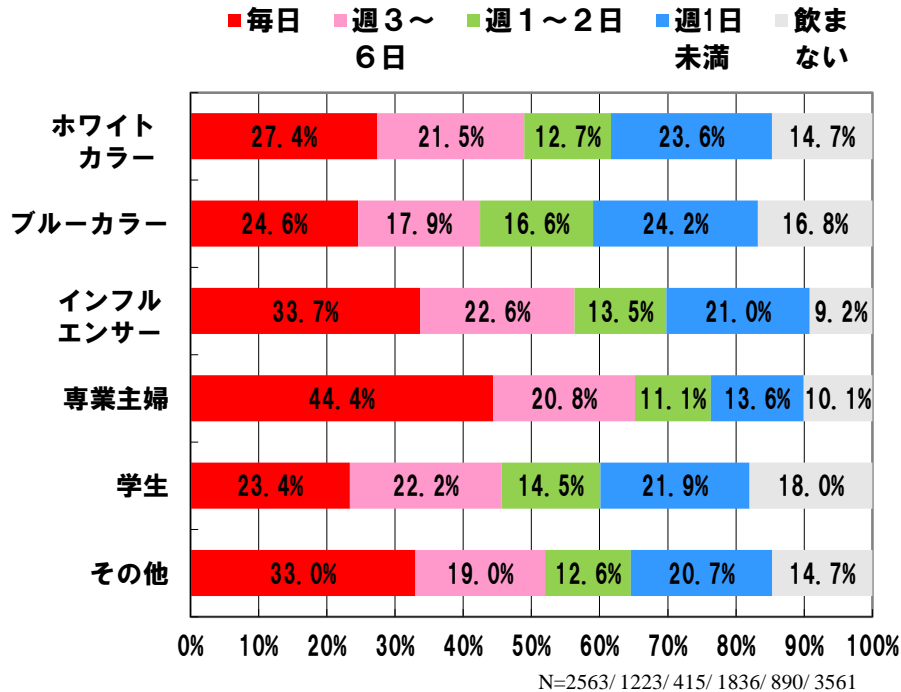
N= 454/ 745/ 3776/ 403/ 1325/ 1736/593/ 309/ 1147

牛乳類飲用の頻度と増減について地域別に見ると、際立った地域差は見られないが、近畿の飲用頻度において、「毎日」飲む人の割合が約36%と他の地域よりやや高く、また、「週3回以上」飲む人の割合が北陸と九州・沖縄では50%を下回り他の7地域よりやや低い。

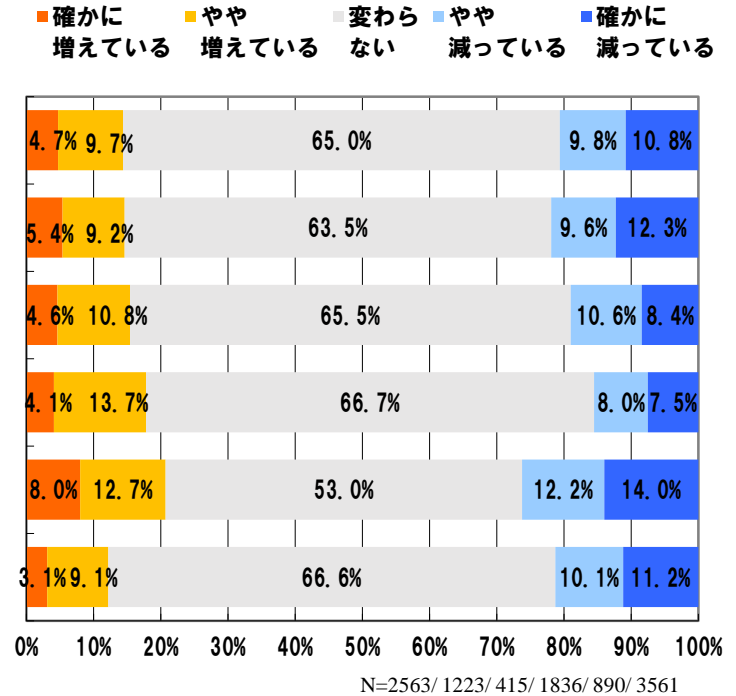
職業別の飲用頻度／増減(2015)

いま現在、あなたご自身は牛乳類(※)を
どれくらいの割合で飲んだり、利用していますか。

(※ ここにおける「牛乳類」は、成分無調整牛乳、成分調整牛乳、低脂肪乳、無脂肪乳、加工乳、機能強化乳飲料などの
白い牛乳類を指します。コーヒーやフルーツ等が入った乳飲料は含みません。)



最近のあなた自身が、「牛乳」を飲む量や回数は、
今現在、増えたり減ったりしていますか。



ホワイトカラー(役員・経営者／事務(内勤)／事務・営業／自由業)
ブルーカラー(販売・サービス／技能・作業職／建設作業職／工場などの生産職／乗務員・ドライバー／保安職)
インフルエンサー(医療従事者／教育関係者／栄養士)

牛乳類の飲用頻度について職業別に見ると、「週3回以上」飲む人の割合は専業主婦が約65%で最も高く、次いで高いのが、健康や栄養、食育を指導する立場のインフルエンサー(医師・栄養士・学校教諭など)が約56%である。一方、最も低いのは、ブルーカラーの約43%で、学生も低く約46%である。

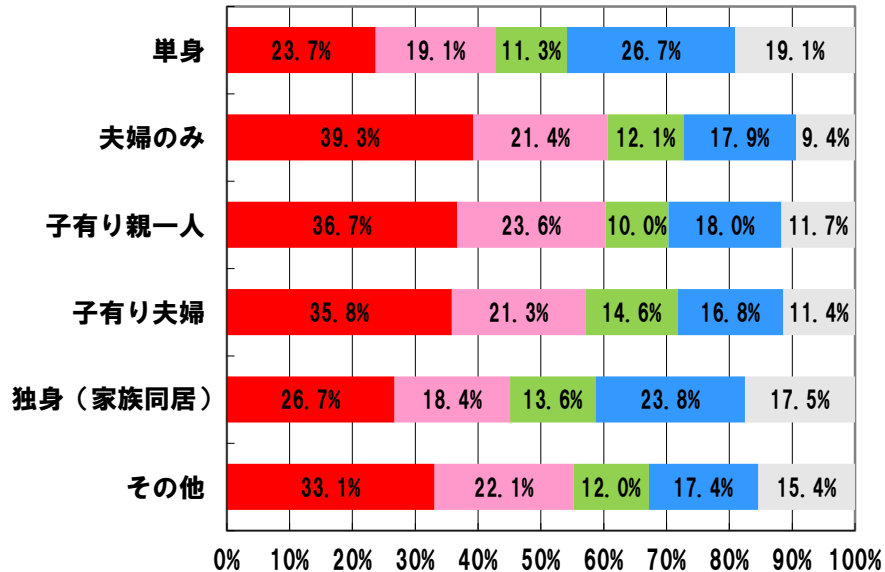
飲用増減では、唯一、専業主婦が「増えている」人の割合が「減っている」人の割合を上回る。なお、学生は「増えている」人の割合も「減っている」人の割合もともに最も高い。

世帯状況別の飲用頻度／増減(2015)

いま現在、あなたご自身は牛乳類(※)をどれくらいの割合で飲んだり、利用していますか。

(※ ここにおける「牛乳類」は、成分無調整牛乳、成分調整牛乳、低脂肪乳、無脂肪乳、加工乳、機能強化乳飲料などの白い牛乳類を指します。コーヒーやフルーツ等が入った乳飲料は含みません。)

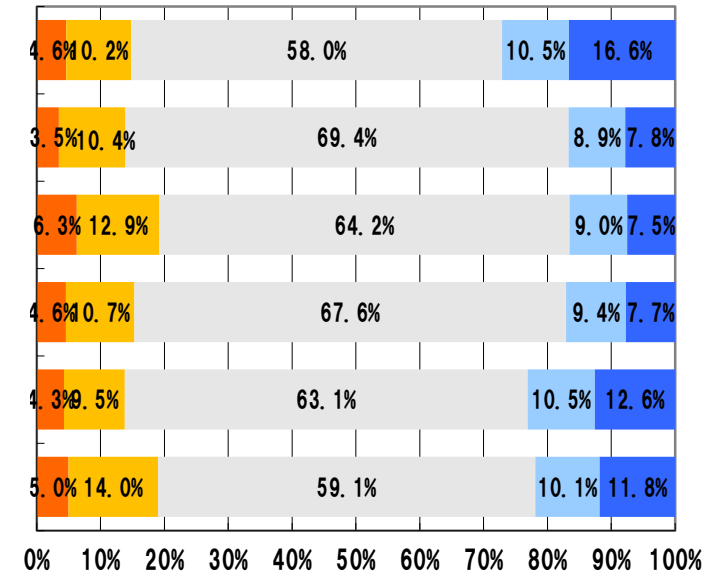
■ 毎日 ■ 週3～6日 ■ 週1～2日 ■ 週1日未満 ■ 飲まない



N= 1729/ 2074/ 411/ 2915/ 3002/ 357

最近のあなた自身が、「牛乳」を飲む量や回数は、今現在、増えたり減ったりしていますか。

■ 確かに増えている ■ やや増えている ■ 変わらない ■ やや減っている ■ 確かに減っている



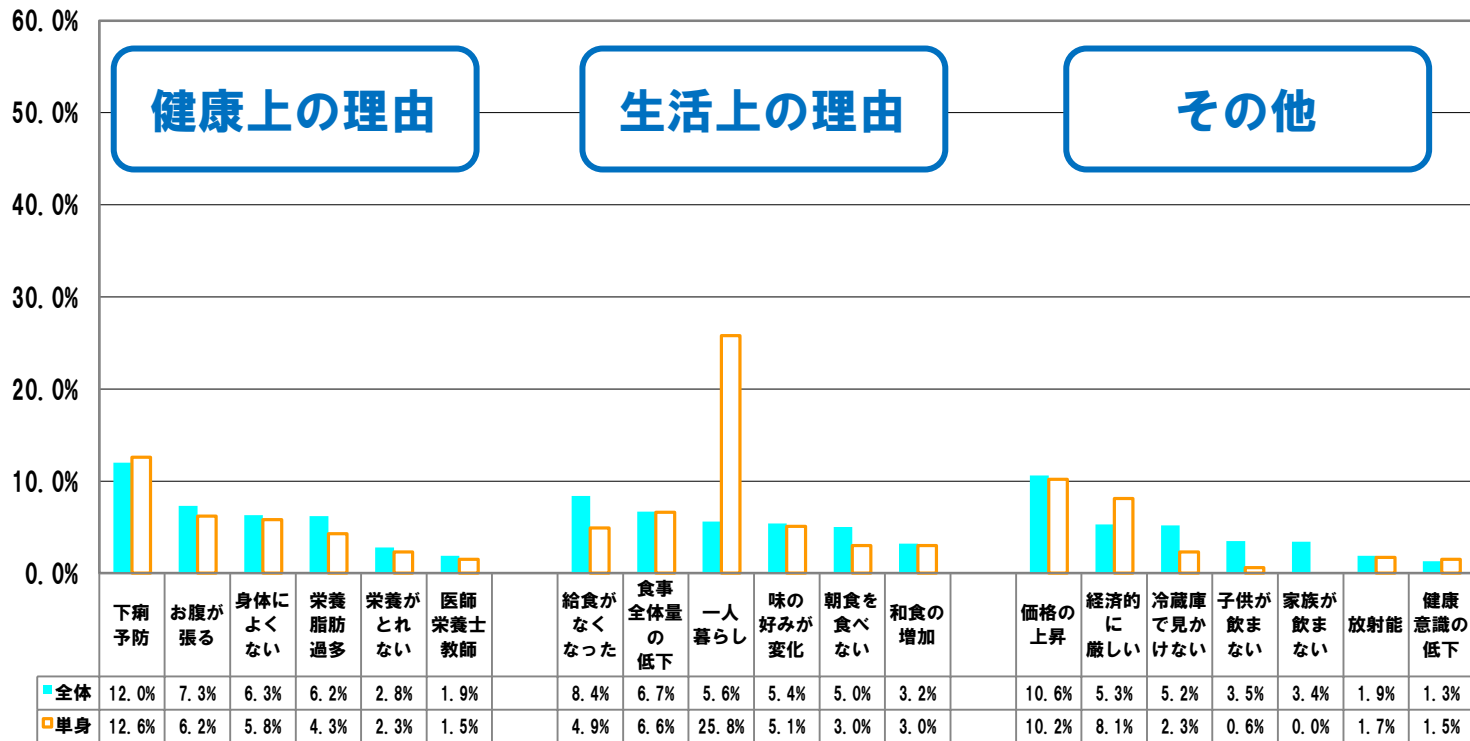
N= 1729/ 2074/ 411/ 2915/ 3002/ 357

牛乳類の飲用頻度と飲用増減について世帯別に見ると、「週3回以上」飲む人の割合は、夫婦のみ、子有り親一人、子有り夫婦の世帯で60%前後である一方、単身世帯で約43%、独身(家族同居)で約45%にとどまり、配偶者や子供がいる人の方が飲用頻度が高い実態にある。

また、飲用が「減っている」人の割合も単身世帯で約27%と最も高く、単身世帯は他の世帯に比べて、牛乳類の飲用がさらに減少して行く可能性がある。

飲用頻度・減少理由(単身者／2015)

最近のあなた自身の「牛乳」を飲む量や回数が、以前に比べて減っているのは、どんな理由や事情からだと思いますか。



減少者N=2150/469

単身世帯にあっては、牛乳類の飲用が「減っている」理由として、『一人暮らしするようになった』ことをあげる人の割合が約26%と突出して高く、単身世帯における飲用実態の背景を示す結果となっている。

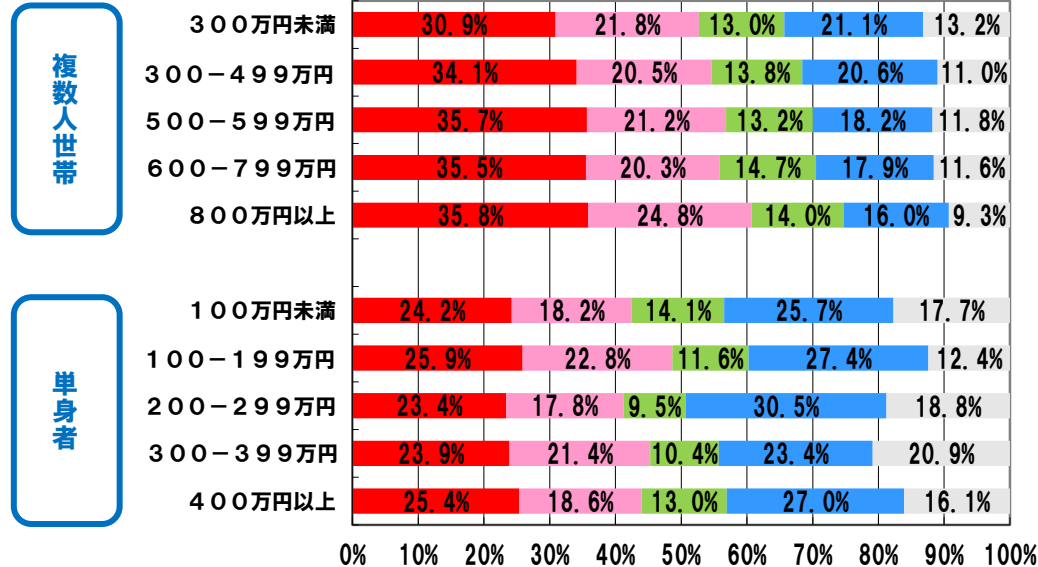
世帯年収別の飲用頻度／増減(2015)

いま現在、あなたご自身は牛乳類(※)をどれくらいの割合で飲んだり、利用していますか。

(※ ここにおける「牛乳類」は、成分無調整牛乳、成分調整牛乳、低脂肪乳、無脂肪乳、加工乳、機能強化乳飲料などの白い牛乳類を指します。コーヒーやフルーツ等が入った乳飲料は含みません。)

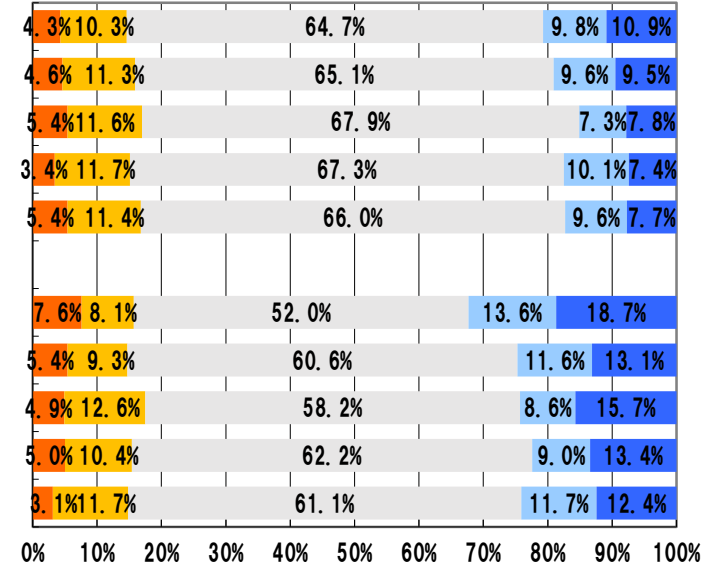
最近のあなた自身が、「牛乳」を飲む量や回数は、今現在、増えたり減ったりしていますか。

■ 毎日 ■ 週3～6日 ■ 週1～2日 ■ 週1日未満 ■ 飲まない



N= 1432/ 1819/ 645/ 1015/ 1196// 198/ 259/ 325/ 201/ 386

■ 確かに増えている ■ やや増えている ■ 変わらない
■ やや減っている ■ 確かに減っている



N= 1432/ 1819/ 645/ 1015/ 1196// 198/ 259/ 325/ 201/ 386

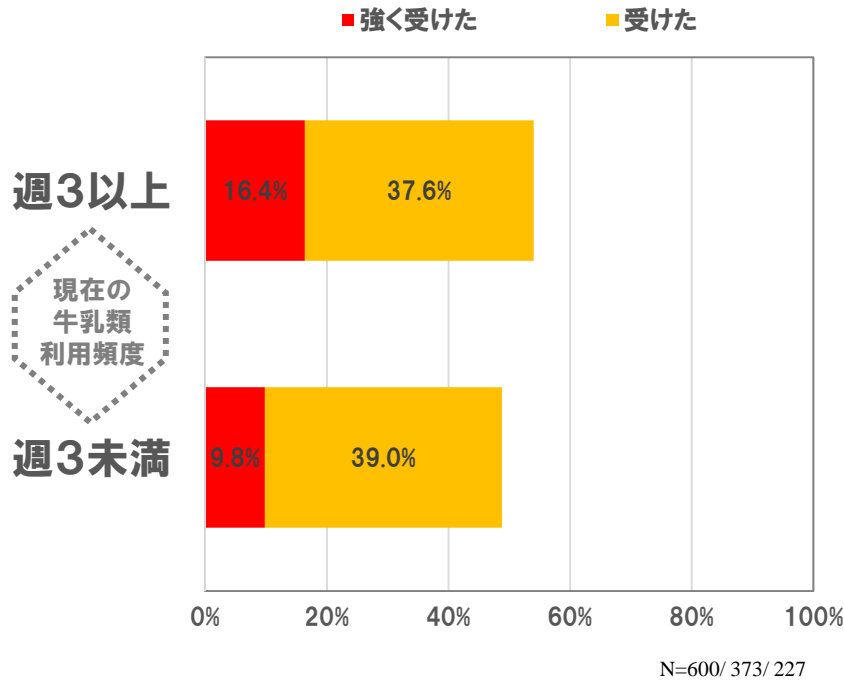
牛乳類飲用の頻度と増減について世帯年収別に見ると、複数人世帯において、世帯年収が「300万円未満」の人は飲用頻度がやや低く、「800万円以上」の人がやや高い。単身世帯においては、世帯年収が「100万円未満」と「200-299万円」の人は飲用頻度がやや低く、「100-199万円」の人はやや高い。

また、飲用の増減は、単身世帯で「100万円未満」の人が「減らしている」割合が約32%と高いのが顕著である。

4. 牛乳に関する様々な認識・感覚・関与 （「単身世帯」と「50代以上」の二次調査も交えて）

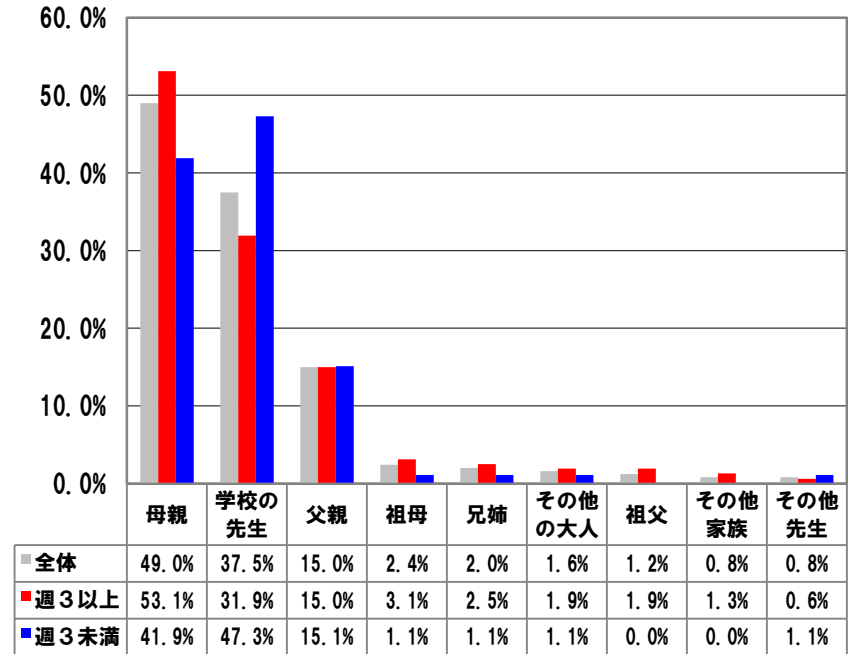
かつて牛乳飲用を勧められた・指導された経験 (単身者／二次調査2015)

あなたは幼い頃、「牛乳を(もっと)飲む」ことについて勧めや指導を、周囲と比べてどれくらい強く受けたと思いますか。



かつて牛乳飲用を勧められた・指導された人物 (単身者／二次調査2015)

あなたが幼い頃、「牛乳を(もっと)飲む」ことについて勧めや指導を受けたと思う人物をお知らせください。



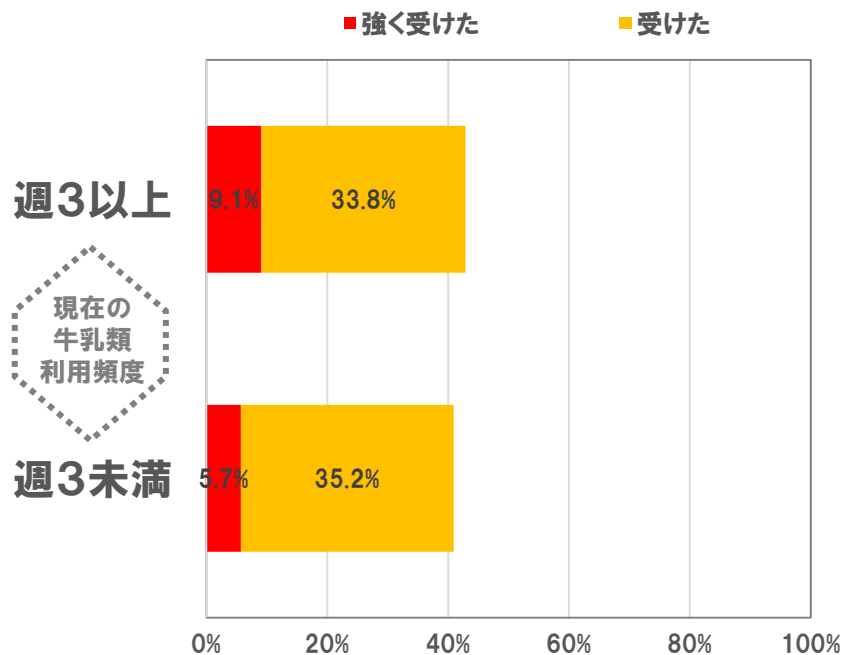
飲用推奨・指導を受けた人N=253/ 160/ 93

牛乳を飲むよう勧められたり指導された経験を持つ人の割合を単身世帯について見ると、「週3回以上」飲む人の割合が約54%で、「週3回未満」の人の49%よりやや高い。

勧められたり指導を受けた人物としては、『母親』が約49%で最も高く、『学校の先生』が約38%と続き、これを飲用頻度別に見ると、「週3回以上」の人は『母親』の割合が、「週3回未満」の人は『学校の先生』の割合が高く、母親の影響がよりポジティブであることが示唆される。

かつて牛乳飲用を勧められた・指導された経験 (50代以上／二次調査2015)

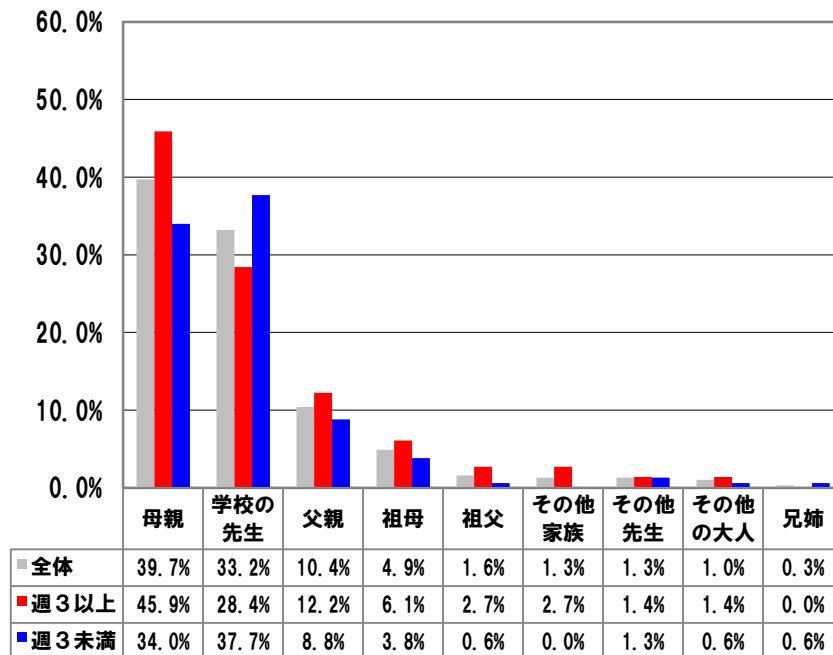
あなたは幼い頃、「牛乳を(もっと)飲む」ことについて勧めや指導を、周囲と比べてどれくらい強く受けたと思いますか。



N=600/ 274/ 326

かつて牛乳飲用を勧められた・指導された人物 (50代以上／二次調査2015)

あなたが幼い頃、「牛乳を(もっと)飲む」ことについて勧めや指導を受けたと思う人物をお知らせください。



飲用推奨・指導を受けた人N=307/ 148/ 159

牛乳を飲むよう勧められたり指導された経験をもつ人の割合を「50才以上」の人について見ると、「強く受けた」と答えた人の割合で「週3回以上」飲む人がやや高いものの、大きな差は見られない。

なお、牛乳飲用を勧められたり指導を受けた人物としては、『母親』が約40%で最も高く、『学校の先生』が約33%と続き、飲用頻度別に見ると、「週3回以上」の人は『母親』の割合が、「週3回未満」の人は『学校の先生』の割合が高い。この年齢層においても、母親の影響がよりポジティブであったことが示唆される。

かつて牛乳飲用を勧められた・指導された経験の自由回答 (単身者の週3回以上飲用者／二次調査2015)

あなたが幼い頃、「牛乳を(もっと)飲む」ことについて受けた勧めや指導の中で、印象に残っていることをお知らせください。

20代女	ホワイトカラー	牛乳を飲むと背が伸びる	40代男	ホワイトカラー	体が丈夫になって大きくなるよと言われた
20代女	学生	病気になりたくないなら飲めといわれたこと	40代男	ホワイトカラー	牛乳を飲むと背が高くなると言われたことで意識するようになった。
20代女	その他	学校の先生に「牛乳を飲まないと言われたこと」と言われたこと。	50代女	ホワイトカラー	学校給食の牛乳が飲めず、北海道の祖母が現地の牛乳を送ってくれて、美味しいと思って飲んでから飲むようになった。
20代男	ホワイトカラー	飲むのが当たり前だという価値観	50代女	ホワイトカラー	牛乳ビン一本分を飲みきることができなかったので、ビンに線をつけてそこまで飲むように言われた
20代男	ブルーカラー	身長が伸びる	50代女	インフルエンサー	幼少時代から、入浴後に、冬などは、温めてまで飲まされていた。が、苦にならなかった。
20代男	ホワイトカラー	寝る前に毎日飲むこと	50代男	その他	「牛乳を飲まないと言われた」と言われた。
30代女	ホワイトカラー	カルシウムの吸収が人よりできないからたっぷり飲みなさいと言われた	50代男	ブルーカラー	背が伸びる
30代女	その他	背が大きくなると言われた	50代男	ホワイトカラー	健康によい 身長が伸びる 骨が強くなる
30代女	ブルーカラー	骨が強くなる	60代女	その他	家族内では厳しい戦時中を経た経験からも、牛乳は大切な栄養源と考えていました。
30代男	その他	部活で強い先輩の習慣だったこと	60代女	その他	父親が比較的体が弱く、牛乳を毎日飲んでいたので健康増進にいいのだなと思った。
30代男	インフルエンサー	牛乳を飲むと骨が丈夫になると教わった。	60代女	その他	先生とクラスメート一緒に飲む決まりだったから。
30代男	ホワイトカラー	母親から、カルシウムにより骨が強くなるとよく言われたこと。	60代男	その他	帰宅すると水代わりに用意してくれていた。
40代女	ホワイトカラー	おやつに飲む	60代男	その他	貧乏だったが、母親は子供を気遣っていたと思う
40代女	ホワイトカラー	背が伸びるとよく言われた	60代男	その他	指導は無かったが、自分たちで早飲み競争をしていた。
40代女	その他	骨の発達に良い事と背が伸びること	70代女	専業主婦	牛乳を飲まないと言われたこと
40代男	ブルーカラー	実家が昔牛乳屋さんだったのです。販売だけが、家にいつもたくさんの牛乳があって、母に「いつもあるんだからちゃんと飲みなさい」と言われてました。バレーボールもやってたので「背が伸びるから」とも言われました。			

単身世帯のうち牛乳類を「週3回以上」飲む人は、「背が伸びる」「骨が強くなる」など体作りに役立つ言葉が印象に残る場合が多く、家族との温かみのあるエピソードも見られる。

かつて牛乳飲用を勧められた・指導された経験の自由回答 (単身者の週3回未満飲用者／二次調査2015)

あなたが幼い頃、「牛乳を(もっと)飲む」ことについて受けた勧めや指導の中で、印象に残っていることをお知らせください。

20代女	学生	絶対飲めと言われた。嫌いなので飲めない	40代男	その他	中学になっても身長が低いのは牛乳を飲む量が足りない所為か、親の遺伝か、周りの友人にからかわれた
20代女	学生	牛乳についての教育はよく受けていた。			
20代女	学生	無理やり飲まされた	40代男	その他	給食時に牛乳を飲み干すまで席を立てなかった
20代男	学生	牛乳に含まれる栄養について、よく聞かされていた気がする。	40代男	その他	背が伸びると言われたが伸びなかった
20代男	学生	飲まないと身長が伸びないといわれた	50代女	その他	保健室の先生がよく言っていたのを覚えている。学校給食で牛乳がでていた、
20代男	ホワイトカラー	給食の牛乳を飲まないと怒られた	50代女	専業主婦	昔は給食をのこさず食べるように指導されたきおくしかありません。
30代女	その他	飲むまで残される	50代男	ホワイトカラー	小学校の頃、厳しい栄養士の方が、ロウるさく言っていたものです。
30代女	ホワイトカラー	給食を残すのは許されなかった	50代男	ホワイトカラー	大きくなれないと言われた
30代男	ブルーカラー	放課後まで残って飲食させられた	50代男	その他	小学校の時に給食の時に牛乳を残すなど言われた。子供には牛乳瓶の牛乳は量が多かったので昼食の時に出されたのは辛かった。面倒でも時間はズラすべきだと思った。
30代男	ブルーカラー	「給食で出された牛乳を飲み干すまでは下校させない」という教育方針の担任が受け持つクラスに在籍していたが、飲めなければ飲めないほど牛乳が常温になって余計に飲み辛くなるので、毎日が苦痛だった。ますます牛乳が嫌いになった。	60代女	その他	給食で飲んだ脱脂粉乳。飲むようにとの先生からの指導があった。
30代男	その他	学校の給食で出されただけなので飲まざるを得ない状況だった。	60代女	その他	健康のため、成長のため絶対に必要だと教わったけれど、どうしても好きになれなかった。たぶん脱脂粉乳世代だったからだと思う。
30代男	ブルーカラー	健康のために飲めと言うより、定期購入していたので古くなって捨てるのがもったいないから飲めという意味で言われていた。それをやめてからは言われなくなった	60代男	その他	脱脂粉乳のミルクが提供されて難儀した、転校後1年間の大阪の小学校6年生の時。不味いのに牛乳だからと嘘で強制されたから記憶に強く残っている。転校まではキチンとビン入りの牛乳だった。
40代女	ホワイトカラー	残すなど強く言われた。給食は苦痛だった。			
40代男	ブルーカラー	賞味期限が切れるから飲みなさい			

単身世帯のうち牛乳類を「週3回未満」しか飲まない人は、学校給食で牛乳を飲むことを強要されるなど、ネガティブな経験をもつ場合が多く見られる。60代以上の人には、脱脂粉乳を勧められたことと重ね合わせる人もいる。

かつて牛乳飲用を勧められた・指導された経験の自由回答 (50代以上の週3回以上飲用者／二次調査2015)

あなたが幼い頃、「牛乳を(もっと)飲む」ことについて受けた勧めや指導の中で、印象に残っていることをお知らせください。

50代女	その他	大事な食品だったから	60代男	ホワイトカラー	父の仕事柄畜産試験場に近かったため新鮮な牛乳が手に入った
50代女	専業主婦	年の離れた姉が身長が低かったので、母や姉から言われた。	60代男	ホワイトカラー	まだまだ栄養不足の時代であり鶏を飼って卵を産ませる時代でもあったので、牛乳をがぶ飲みできる時代ではなかったが、体を作るためと言う事で母親は頑張ってくれた記憶が残っている。
50代女	インフルエンサー	冬、ホットミルクを飲まずに登校したとき、いつもより寒く感じた	60代男	その他	友人の父が、プロ野球選手で、スポーツをするなら丈夫で強い体を作らないとだめだと……しっかりと牛乳を飲めと、
50代女	その他	朝食でいつも牛乳を飲む習慣だった。背が低かったので牛乳を飲めば背が高くなるといわれていた。結局チビのままだったけど…	60代男	その他	びん詰め牛乳を定期的飲んだ
50代女	専業主婦	心と体の成長のために飲むべきと教わった。	60代男	ホワイトカラー	牛乳の宅配を利用していました。
50代男	ホワイトカラー	頭がよくなるから、飲むよう言われた	70代女	専業主婦	カルシウムが不足すると骨折の原因になると言われた。
50代男	ホワイトカラー	骨が丈夫になる。身長が伸びるなどと言われていた。	70代女	専業主婦	「もっと飲むように」なのか、わかりませんが、幼児期体調を崩しても牛乳粥は食べれたというから牛乳が好きだったんだと思います。
50代男	ブルーカラー	カルシウムをとると背が伸びる	70代女	専業主婦	食糧難の中でシツケられた
50代男	その他	毎日牛乳1本飲まされた	70代女	専業主婦	学校給食で、粉乳から、牛乳に変わったときの美味しさが、忘れられません。
50代男	インフルエンサー	牛乳をいつも飲めるように、とかして飲むミルクケーキを常備してくれるようになった。	70代男	その他	栄養が飲むように指導された
60代女	専業主婦	「牛乳は滋養があるでね」といつも言う母の言葉。母は。今。生きてると98才ですけどね。	70代男	その他	牛乳を飲まないと大きくなれないと言われた
60代女	その他	先生も一緒に全員で飲む決まりだったから。	70代男	その他	牛乳は貴重な栄養分でした。
60代女	専業主婦	牛乳は 完全食だと 習った気がする。	70代男	その他	乳牛を飼っていたので日常的に飲んでいた。
60代女	その他	他人が美味しそうに飲んでいる姿	70代男	その他	決して裕福な家庭ではなかったが、母が私のために勧めてくれた。
60代女	専業主婦	絞りたての乳が美味しかったので。			
60代女	インフルエンサー	学校の授業で、近くの牛乳工場見学に行ったとき			

50代以上の「週3回以上」飲む人も、単身世帯と同様に身体作りや温かいエピソードが多く、さらに「牛乳は貴重なもの」と意識していたり、指導を受けたりした人もうかがえる。

かつて牛乳飲用を勧められた・指導された経験の自由回答 (50代以上の週3回未満飲用者／二次調査2015)

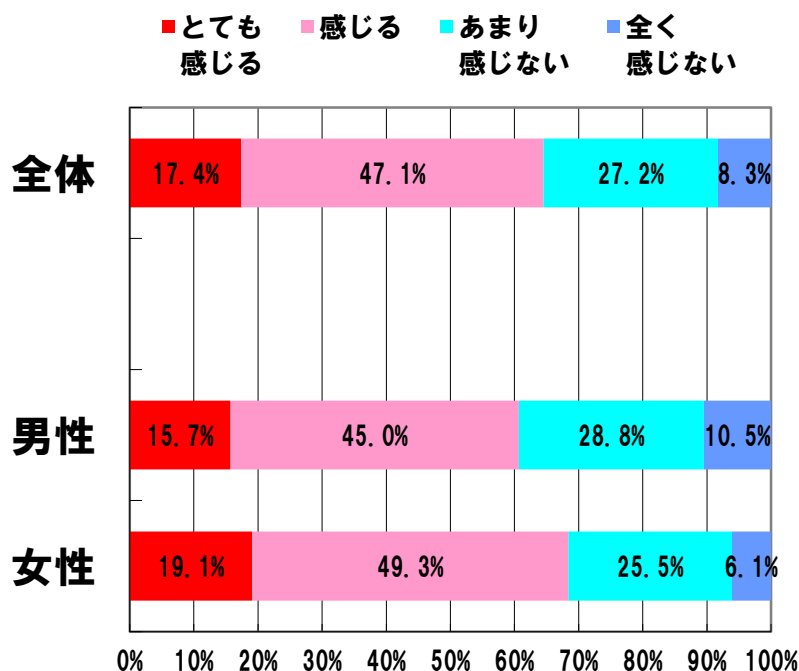
あなたが幼い頃、「牛乳を(もっと)飲む」ことについて受けた勧めや指導の中で、印象に残っていることをお知らせください。

50代女	専業主婦	毎日強制で飲まされていた。	50代男	その他	給食の時に飲みたくもないのに出されたこと
50代女	その他	牛乳を飲むと背が高くなると聞いたけど、自分は背が低くて高くならなかった。	60代女	その他	牛乳を受け付けられない体なのに、無理やり飲まされ吐いた牛乳がその先生にかかってしまいもう飲まなくてもよいと言われたこと
50代女	その他	中学ではお弁当なのに、牛乳だけは学校から出ていごはんにあわないと感じていたが成長期にはそれだけ牛乳を飲むことが必要なかなと思っていた。	60代女	専業主婦	涙を流しながら、給食の牛乳を飲んだこと
50代女	ホワイトカラー	給食は残さず食べると先生が指導していた	60代女	ホワイトカラー	お腹がゴロゴロしないように、噛んで飲むように言われていた。
50代男	その他	給食の時に飲まないといわれた	60代女	専業主婦	脱脂粉乳が不味かった印象
50代男	ホワイトカラー	叔父が「牛乳持って来たぞ」とやってきて、飲まないとききビンがないので、「モット飲まない」と小言を言われていた。	60代男	その他	残すと叱られる。
50代男	ホワイトカラー	特にないが、過去の学校給食では完食が当たり前だった。	60代男	その他	給食で配分される量を少なくすることを願ひし、断られた
50代男	ホワイトカラー	嫌いなものであったので、早く飲み終わらせていた。	60代男	その他	無理に飲んで嘔吐した。
50代男	ブルーカラー	給食で残せなかった	60代男	その他	学校給食
50代男	ホワイトカラー	飲まないとい帰してもらえない	70代女	その他	小学校の給食の牛乳は必ず飲まされていた
			70代男	その他	小学校の給食時、先生が残さない様毎回注意していた

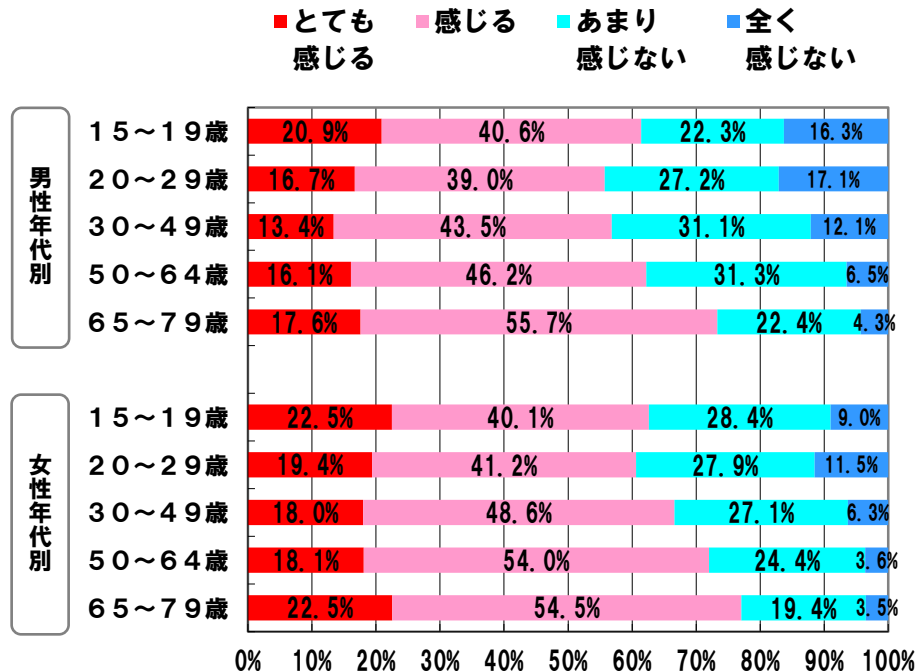
50代以上で「週3回未満」しか飲まない人も、単身世帯と同様、学校給食での強要されたりするなどネガティブな経験をもつ場合が多く見られる。

酪農家への共感(性年代別／2015)

乳牛を飼い、牛乳を生産する「酪農家」に対して、あなたは「誠実さの印象／親しみ／感謝」といった「共感」の気持ちをどれくらい感じますか。



N=10488/ 5282/ 5206



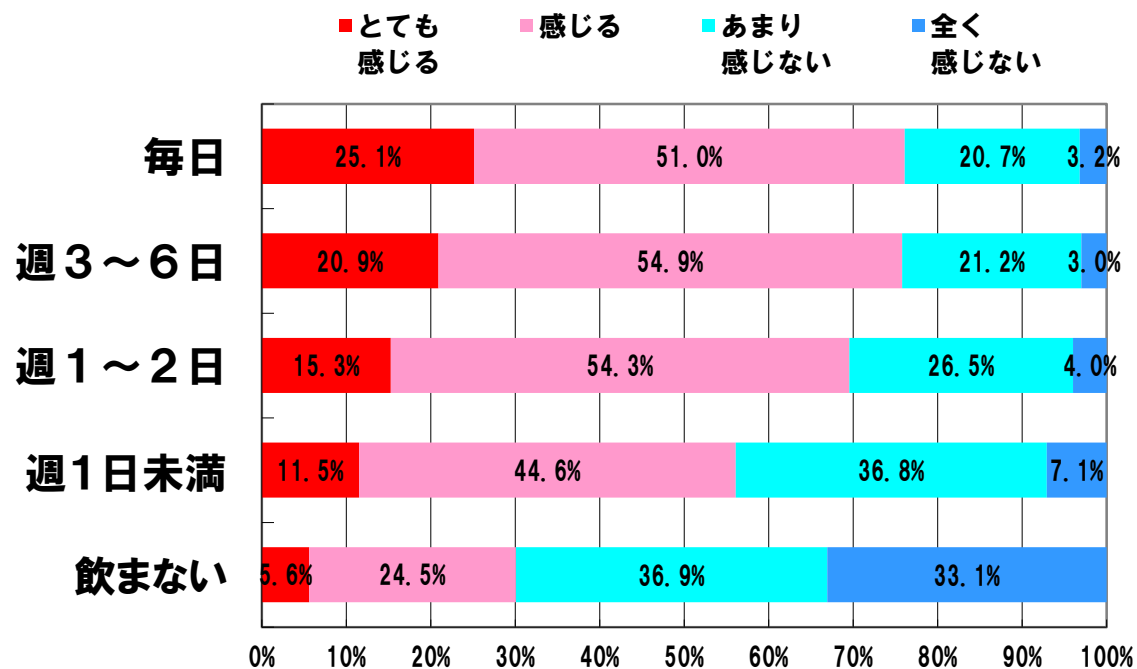
N=350/783/1970/1457/722/ /334/757/1943/1488/684

酪農家に共感の気持ちを「感じる」人の割合は全体で約65%であるが、男性の割合は約61%、女性の割合は約68%で、女性が男性をやや上回る。

これを年代別に見ると、男女とも「感じる」人の割合は、20-29歳が最も低く、年代が上がるごとに上昇して65-79歳が最も高い。また、「感じる」人のうち「とても感じる」人の割合は、男女とも15-19歳が最も高い(女性は、65-79歳も同率)。

酪農家への共感(飲用頻度別/2015)

乳牛を飼い、牛乳を生産する「酪農家」に対して、あなたは「誠実さの印象/親しみ/感謝」といった「共感」の気持ちをどれくらい感じますか。



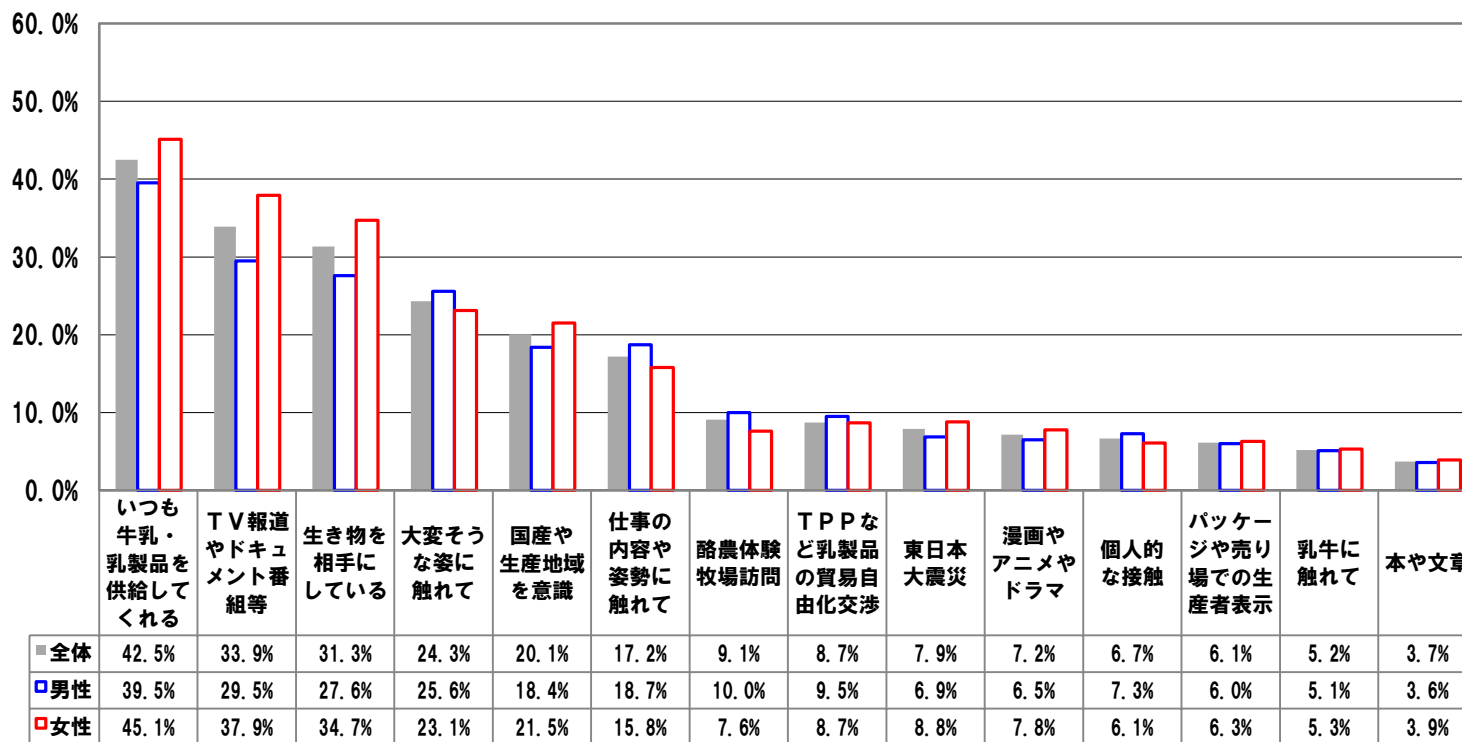
N=3340/2123/1364/2173/1488

酪農家に共感の気持ちを感じる人の割合を牛乳類の飲用頻度別に見ると、「週3回以上」飲む人の約76%が共感を「感じる」と答えており、飲用頻度が高いほど共感を感じる人の割合が高くなる。

一方、酪農家へ共感を「感じていない」人の割合は、飲用頻度が「週1回未満」の人から急上昇し、「週1回未満」の人が約44%、「飲まない」人が約70%に達する。

酪農家への共感きっかけ(男女別/2015)

あなたが、乳牛を飼い、牛乳を生産する「酪農家」に対して、「誠実さの印象／親しみ／感謝」といった「共感」の気持ちを感じるようになったきっかけや理由をお知らせください。



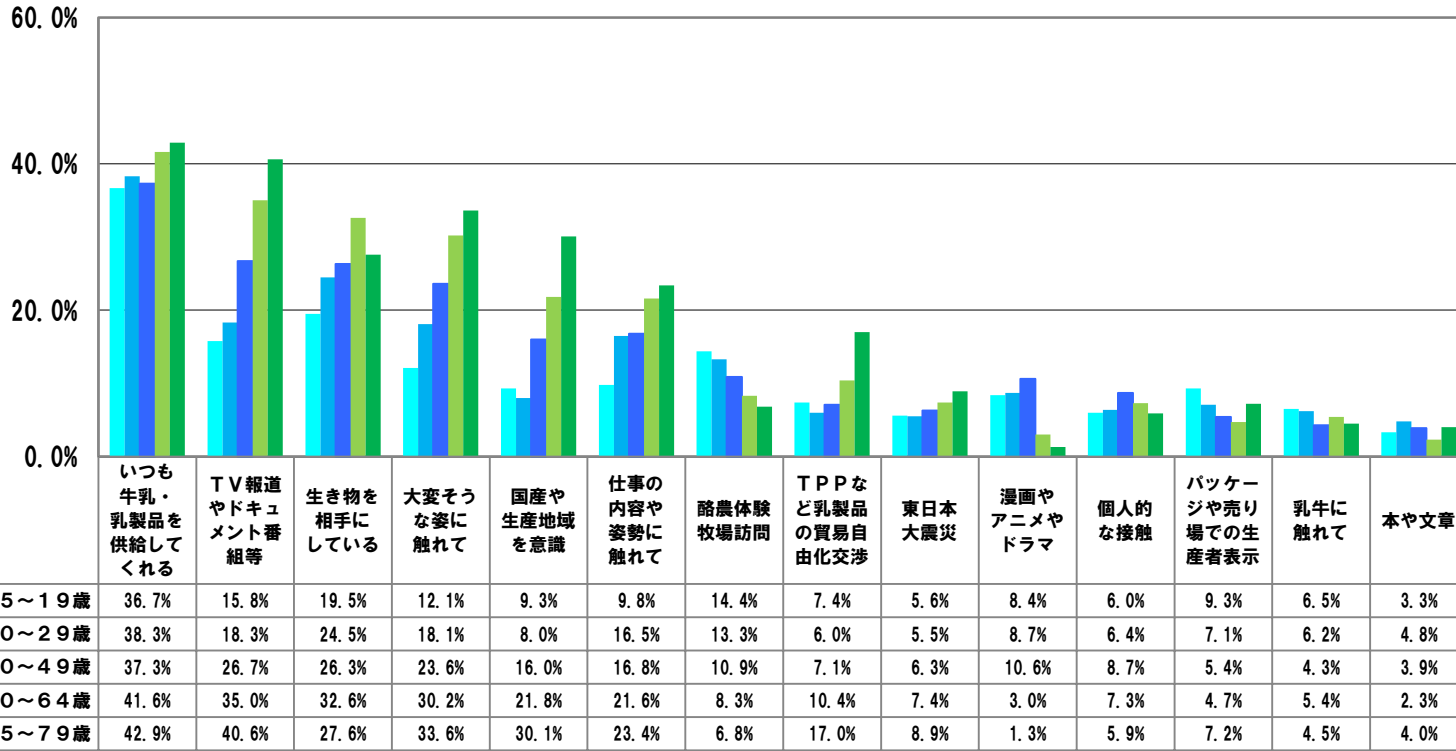
共感者N=6767/3207/3560

酪農家に共感の気持ちを感じるきっかけや理由は、「いつも牛乳・乳製品を供給してくれる」が約42%、「生き物相手」が約31%など、牛乳乳製品や酪農の仕事への関心や理解をあげる人の割合が高い。媒体としては、「TV報道やドキュメント番組等」を挙げる人の割合が約33%で突出して高い。

また、これらの上位のきっかけ・理由をあげる人は、女性の方が男性の割合より6~7%上回っているのも特徴である。

酪農家への共感きっかけ(男性年代別／2015)

あなたが、乳牛を飼い、牛乳を生産する「酪農家」に対して、「誠実さの印象／親しみ／感謝」といった「共感」の気持ちを感じるようになったきっかけや理由をお知らせください。



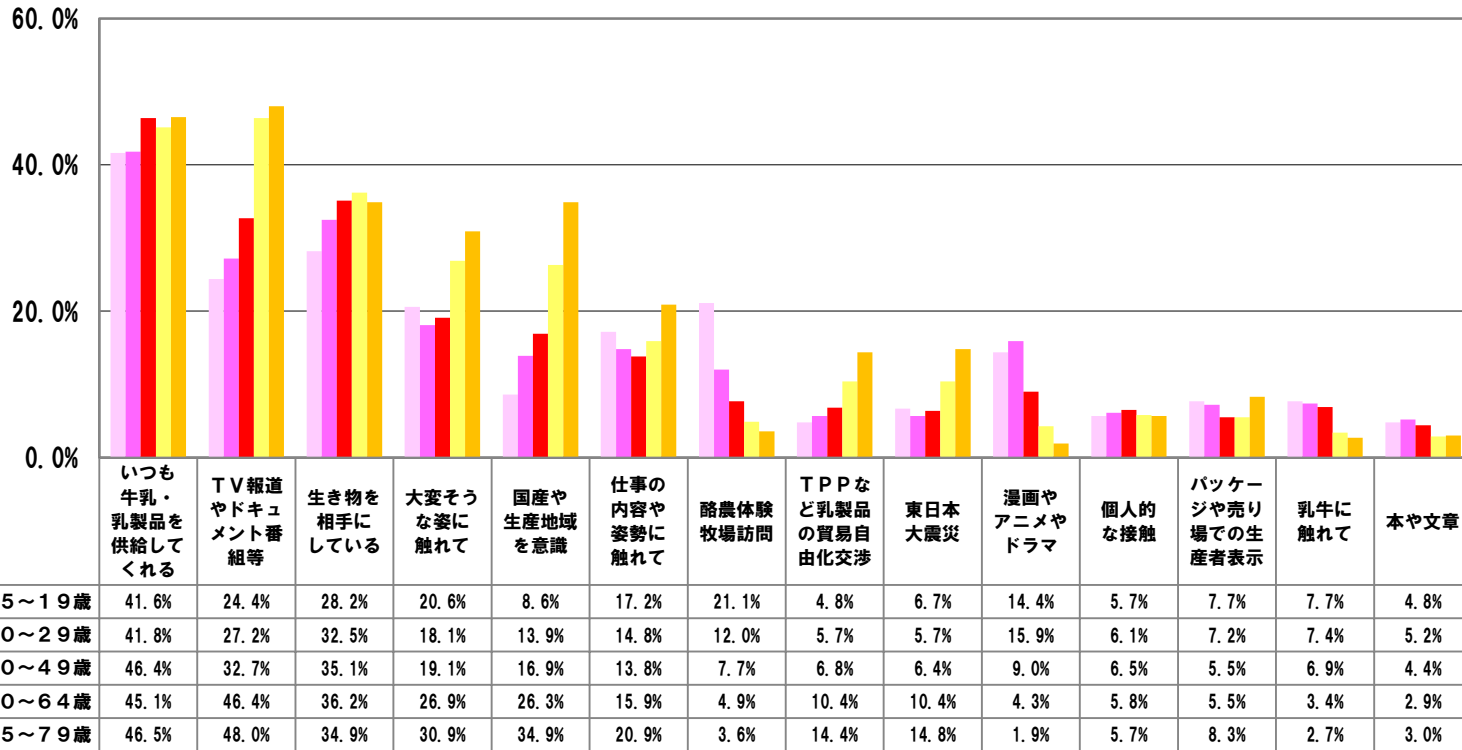
共感者N=215/436/1120/907/529

酪農家への共感のきっかけ・理由を男性について年代別に見ると、年代が上がるほど「大変そうな姿に触れて」「国産や生産地域を意識」「TPPなど貿易自由化交渉」など、酪農が置かれた現状を共感のきっかけ・理由にあげる割合が高くなる傾向が見られる。

一方、「酪農体験・牧場訪問」「映画やアニメやドラマ」など体験を通じた共感のきっかけ・理由は、若い年代の方が高い。

酪農家への共感きっかけ(女性年代別／2015)

あなたが、乳牛を飼い、牛乳を生産する「酪農家」に対して、「誠実さの印象／親しみ／感謝」といった「共感」の気持ちを感じるようになったきっかけや理由をお知らせください。

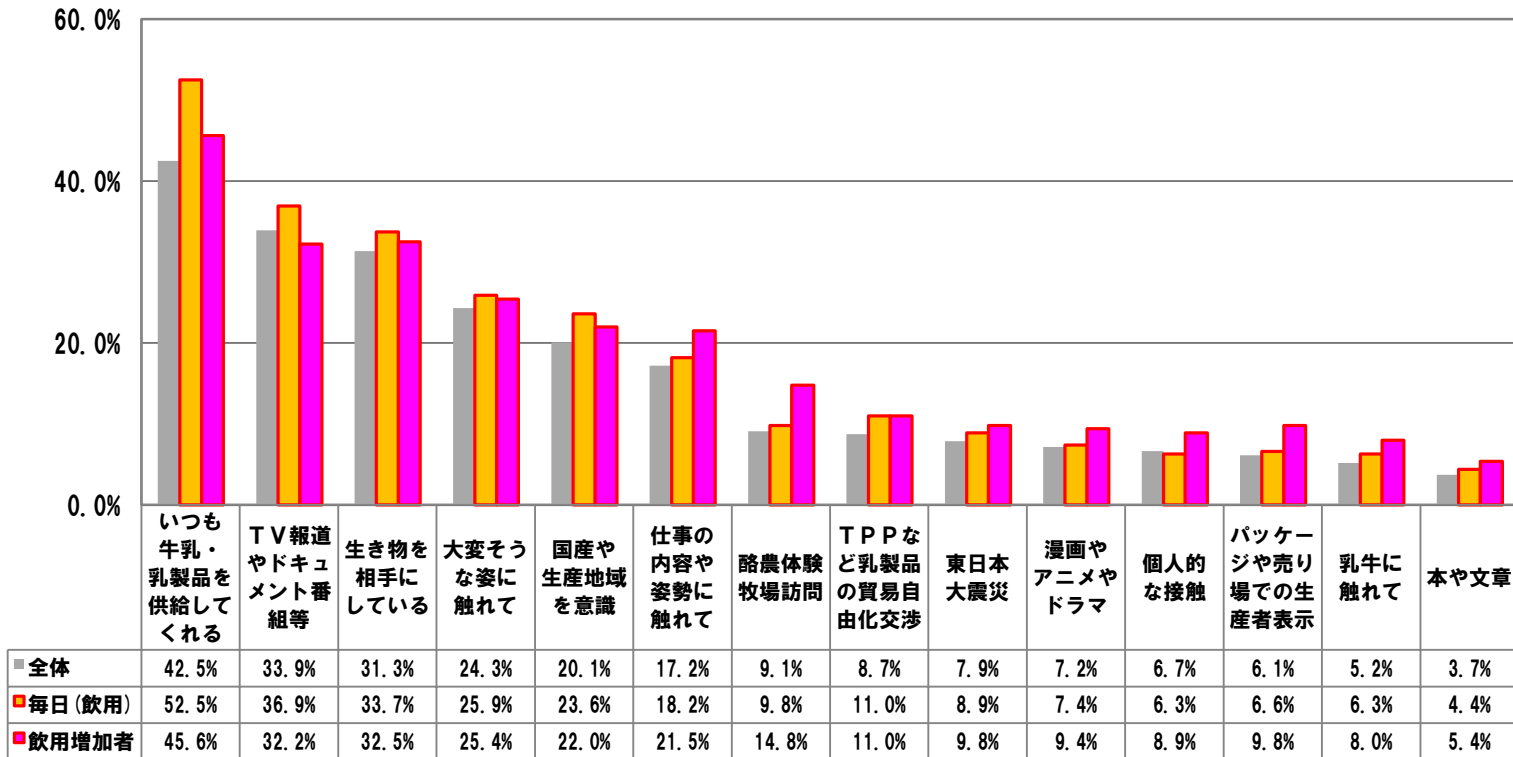


共感者N=209/459/1293/1072/527

酪農家への共感のきっかけ・理由を女性について年代別に見ると、男性と同様に、年代が上がるほど「大変そうな姿に触れて」など酪農が置かれた現状を共感のきっかけ・理由にあげる割合が高く、「酪農体験・牧場訪問」など体験を通じた共感のきっかけ・理由は若い年代のほうが高い傾向が見られる。

酪農家への共感きっかけ(毎日飲用者+飲用増加者/2015)

あなたが、乳牛を飼い、牛乳を生産する「酪農家」に対して、「誠実さの印象／親しみ／感謝」といった「共感」の気持ちを感じるようになったきっかけや理由をお知らせください。

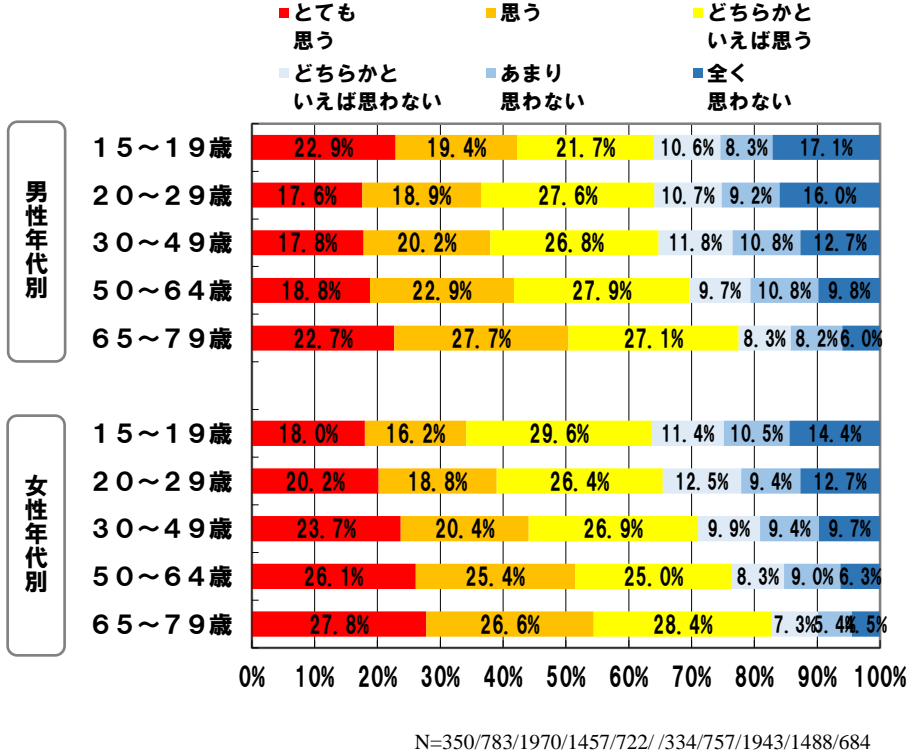
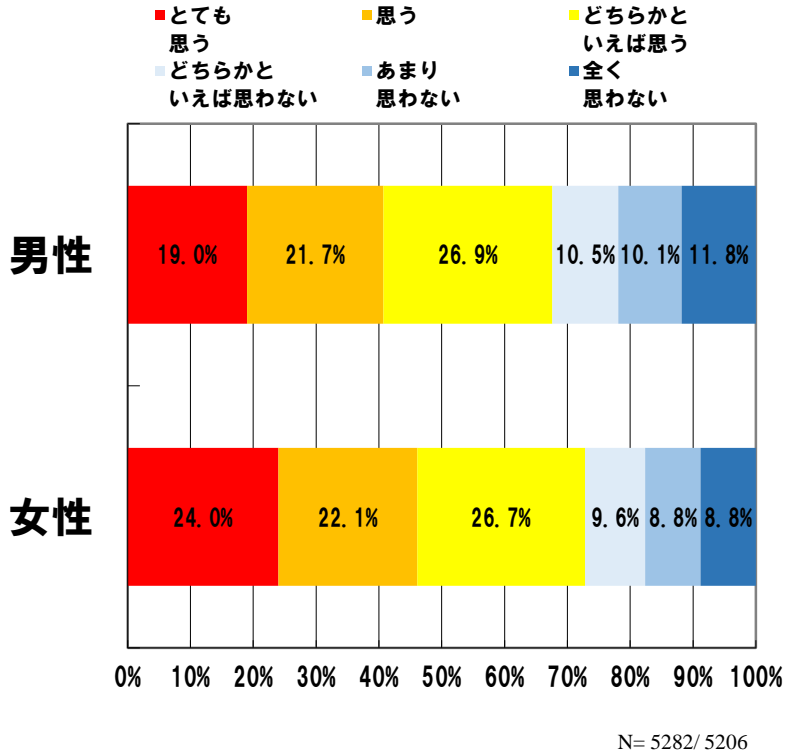


共感者N=6767/2542/1297

酪農家への共感のきっかけ・理由について、牛乳類の飲用頻度及び飲用増減で見ると、「毎日」飲む人、「増えている」人の割合はいずれも、すべての項目で全体の割合より高い。
特に、「毎日」飲む人の場合は、「いつも牛乳を供給してくれる」をあげる人の割合が全体に比べて10%以上高いのが特徴。一方、飲用が「増えている」人は、「仕事の内容や姿勢に触れて」「酪農体験・牧場体験」をあげる人の割合が5~6%ほど高く、酪農家による教育ファームなどの取り組み効果の表れとも受け止められる。

牛乳を大切に思う気持ち(性年代別／2015)

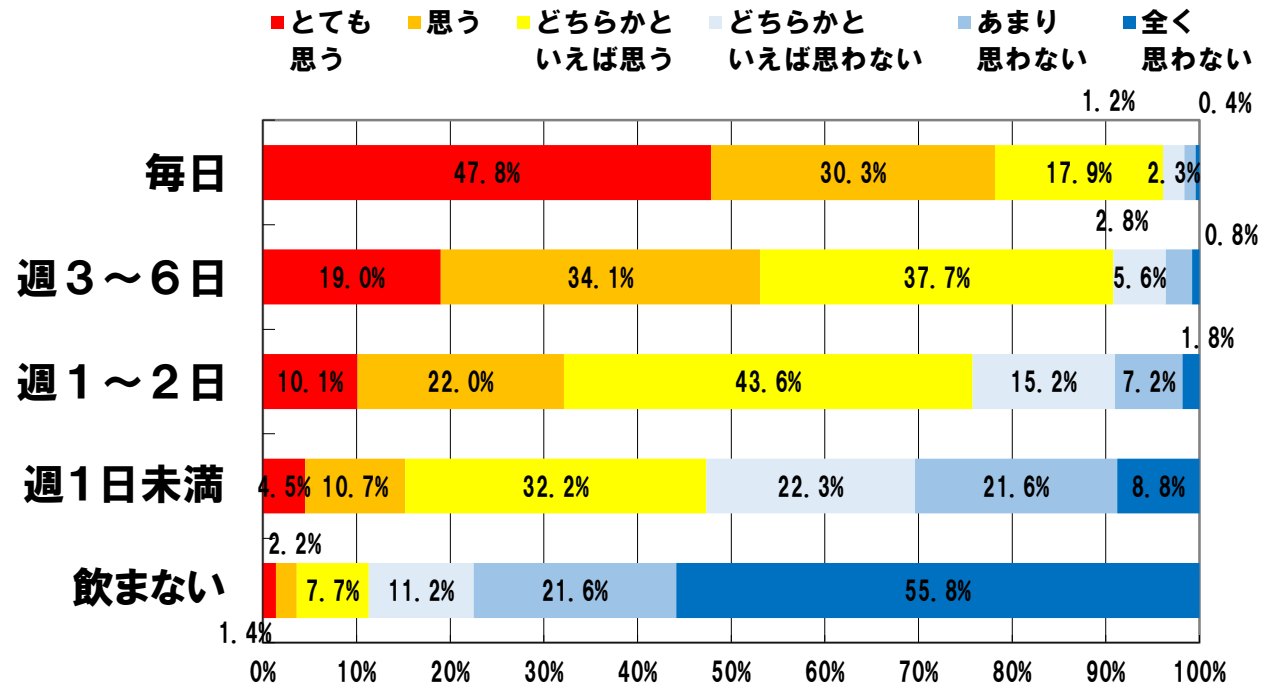
あなたは「牛乳」のことを、「自分自身にとって、なくてはならない大切な食べ物(飲み物)である」と、どれくらい思いますか。



牛乳を「大切な食べ物(飲み物)」だと思いかどうかについては、「思う」人の割合は、女性が約73%、男性が約68%で、女性の方がやや高い。
 年代別には、年代が上がるほど「思う」人の割合は高くなる傾向が見られる中で、男性では15-19歳の「とても思う」人の割合が全世代のうち最も高い。

牛乳を大切に思う気持ち(飲用頻度別／2015)

あなたは「牛乳」のことを、「自分自身にとって、なくてはならない大切な食べ物(飲み物)である」と、どれくらい思いますか。



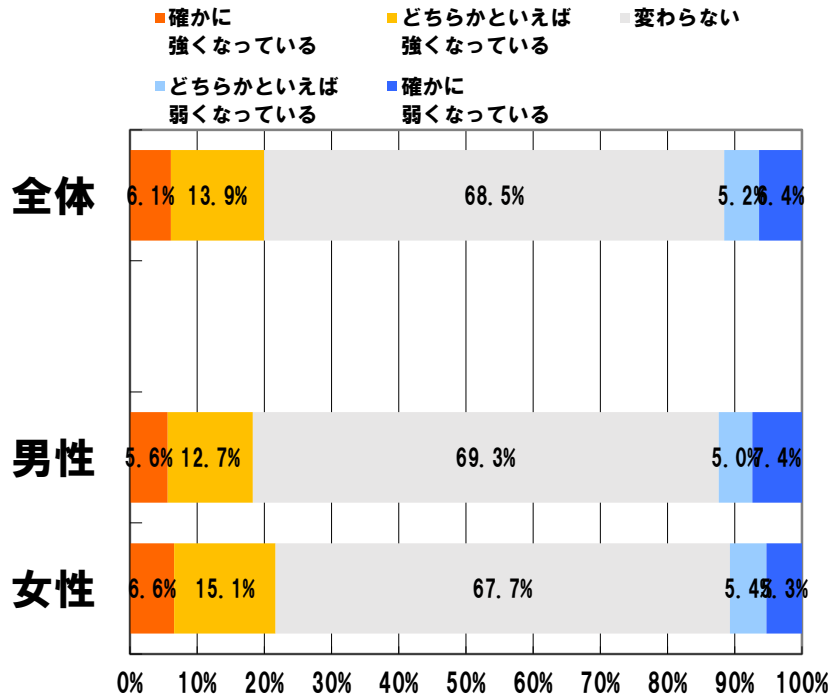
N=10488/ 3340/ 2123/ 1364/ 2173/ 1488

牛乳を「大切な食べ物(飲み物)」だと思うかどうかを牛乳類の飲用頻度別に見ると、飲用頻度が多いほど牛乳を大切だと「思う」人の割合が高い。

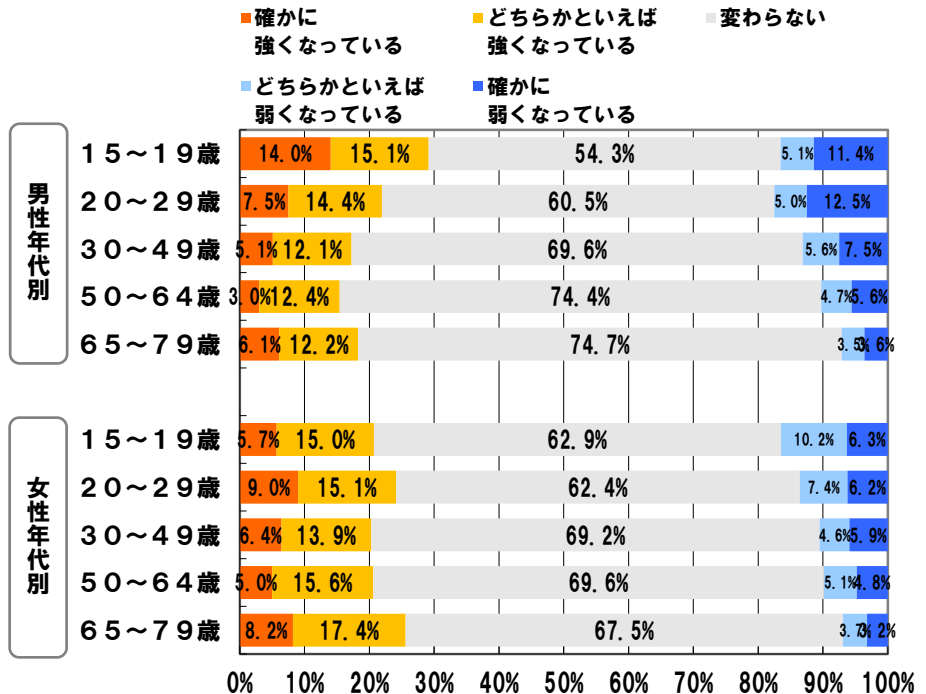
「毎日」飲む人の約97%が牛乳を大切だと「思う」と答えている一方、「飲まない」人のうち牛乳を大切だと「思う」と答えた人は約11%にとどまる。

牛乳を大切に思う気持ちの変化(性年代別／2015)

あなたが「牛乳」のことを、「自分自身にとって、なくてはならない大切な食べ物(飲み物)である」と思う気持ちは、この1年で、強くなったり弱くなったりしていますか。



N=10488/5282/5206



N=350/783/1970/1457/722/1334/757/1943/1488/684

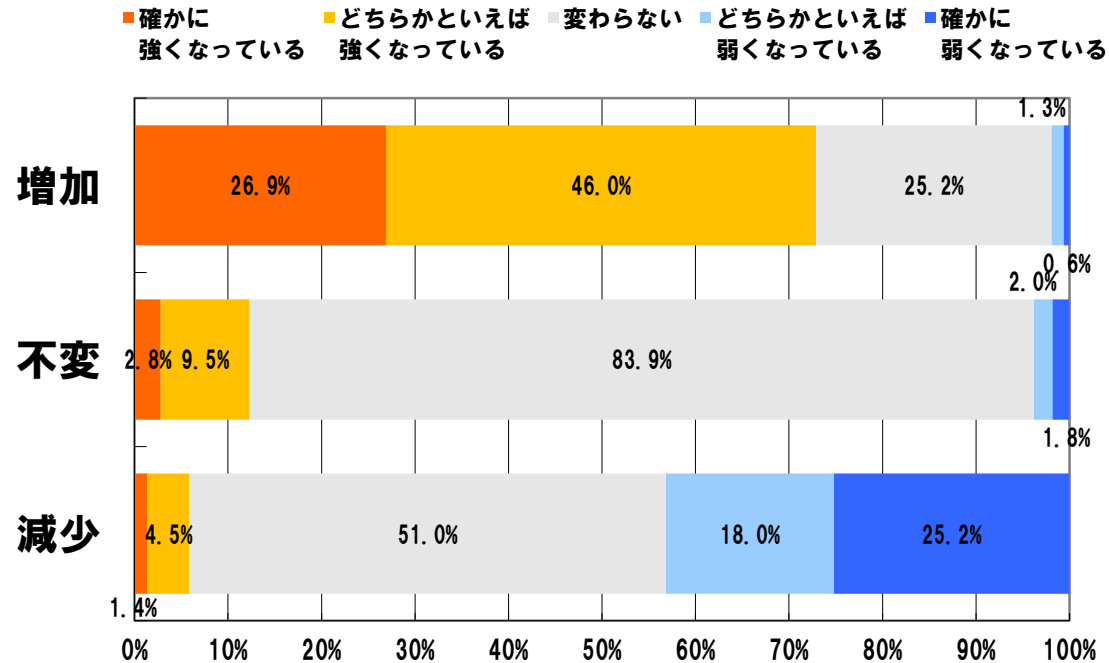
牛乳を大切に思う気持ちの変化は、男女ともに全ての年代で「強くなっている」人の割合が「弱くなっている」人の割合を上回っている。

年代別では、「強くなっている」人の割合は、男性では若い年代の方が高い傾向が見られ、15-19歳が約29%で最も高い。女性は、20-29歳と65-79歳が他の年代よりやや高い。一方、「弱くなっている」人の割合は、男女ともに年代が上がるほど低下する傾向が見られる。

牛乳を大切に思う気持ちの変化(飲用増減別／2015)

あなたが「牛乳」のことを、「自分自身にとって、なくてはならない大切な食べ物(飲み物)である」と思う気持ちは、この1年で、強くなったり弱くなったりしていますか。

牛乳の飲用増減



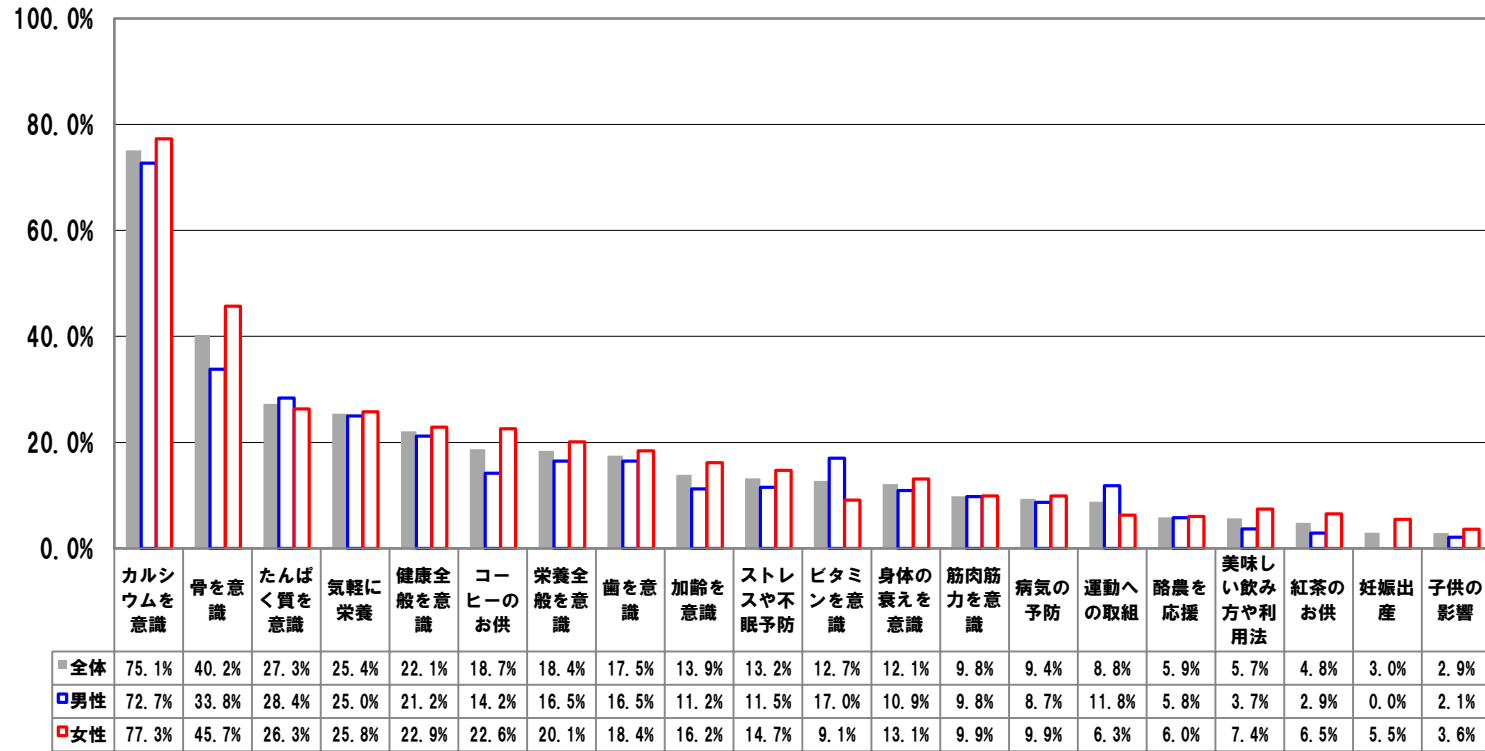
N= 1554/ 6784/ 2150

牛乳を大切に思う気持ちの変化を飲用増減別に見ると、飲用が「増えている」人のうち、牛乳を大切に思う気持ちが「強くなっている」人の割合は約73%にのぼり、「弱くなっている」人の割合はわずかに約2%。

一方、飲用が「減っている」人では、牛乳を大切に思う気持ちが「強くなっている人」の割合は約6%にとどまり、「弱くなっている」人の割合は約43%を占める。

牛乳を大切に思う気持ちが強くなった理由(男女別／2015)

あなたが「牛乳」のことを、「自分自身にとって、なくてはならない大切な食べ物(飲み物)である」と思う気持ちが、この1年で、強くなったのは、どんな理由や事情からだと思いますか。



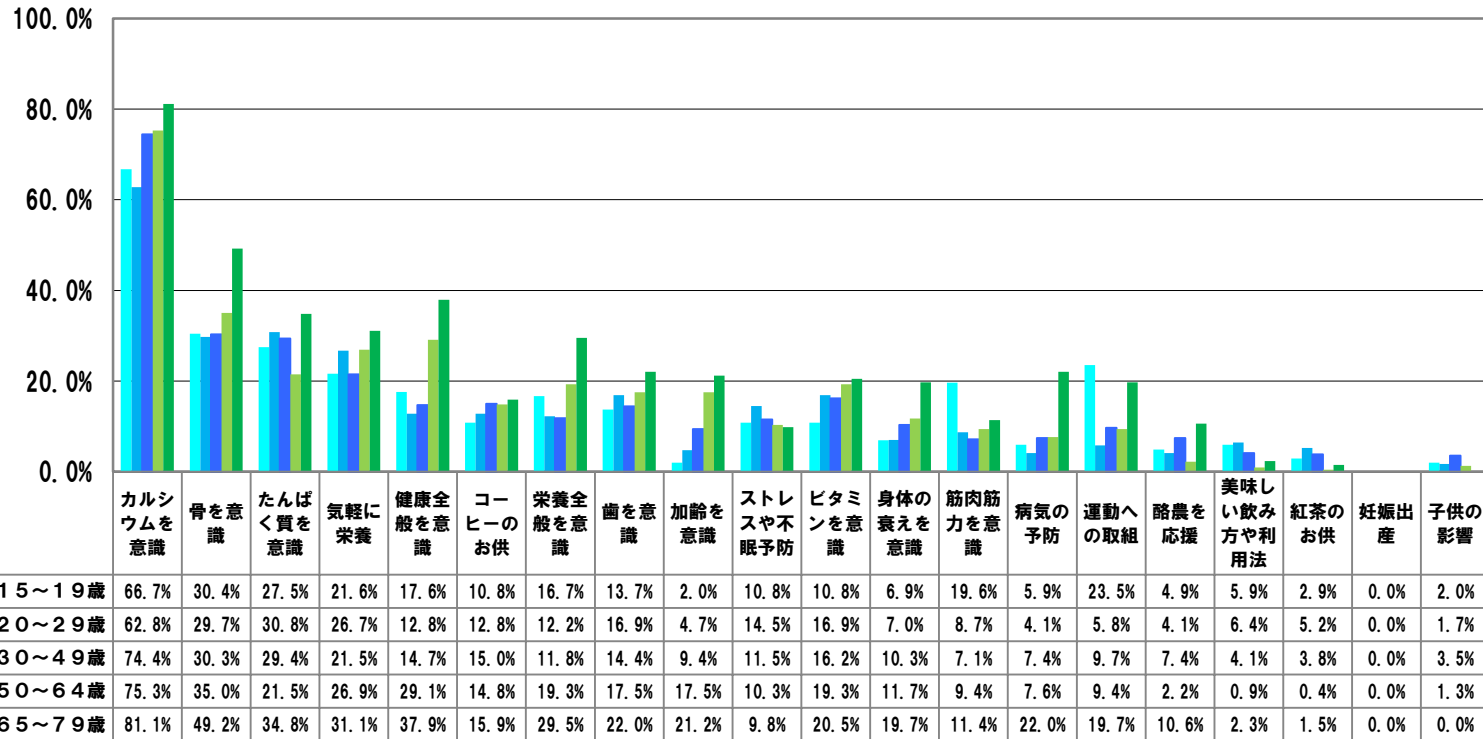
牛乳大切意識が強まった人N=2095/969/1126

牛乳を大切に思う気持ちが強くなった理由を見ると、男女ともに「カルシウム」「骨」「たんぱく質」「栄養」など健康や栄養を理由にあげる人が多い。

男女別には、多くの理由で女性の割合が男性より高く、中でも「骨」「コーヒーのお供」で差が大きい。男性は「たんぱく質」「ビタミン」「運動への取り組み」を理由にあげる割合は女性より高い。

牛乳を大切に思う気持ちが強くなった理由(男性年代別／2015)

あなたが「牛乳」のことを、「自分自身にとって、なくてはならない大切な食べ物(飲み物)である」と思う気持ちが、この1年で、強くなったのは、どんな理由や事情からだと思いますか。



牛乳大切意識が強まった人N= 969/ 102/ 172/ 340/ 223/ 132

牛乳を大切に思う気持ちが強くなった理由を男女別、年代別に見ると、男性では、50代以上の方は健康・栄養関連の理由をあげる割合が高い。
一方、若い年代では15-19歳において「筋肉筋力」「運動への取組」が最も高いのが特徴。

牛乳を大切に思う気持ちが強くなった理由(女性年代別／2015)

あなたが「牛乳」のことを、「自分自身にとって、なくてはならない大切な食べ物(飲み物)である」と思う気持ちが、この1年で、強くなったのは、どんな理由や事情からだと思いますか。



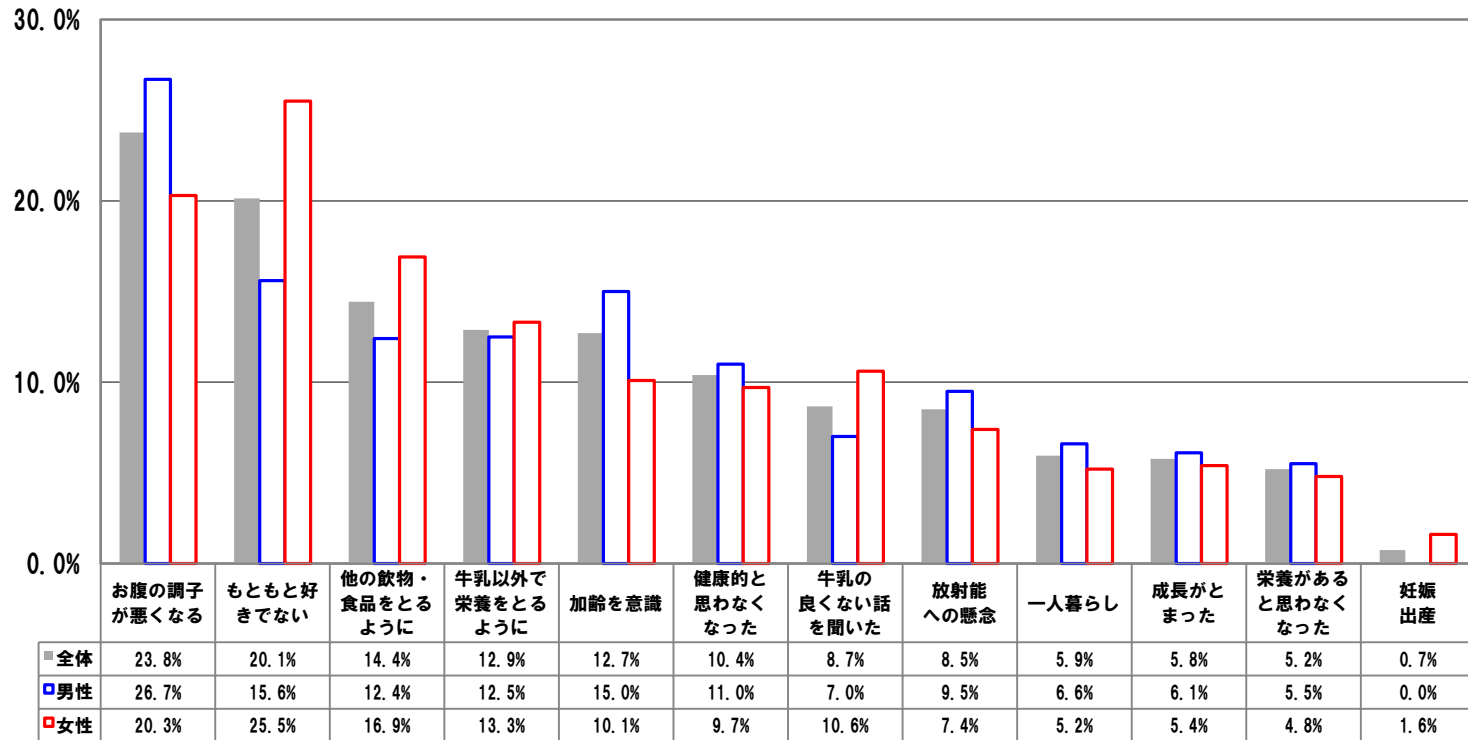
牛乳大切意識が強まった人N=1126/ 69/ 182/ 394/ 306/ 175

牛乳を大切に思う気持ちが強くなった理由を女性について見ると、項目によって年代間の差が大きい傾向が見られる。

「骨」「健康全般」「加齢」などは65-79歳が突出して高く、「ストレス予防」「ビタミン」「運動への取組」「美味しい飲み方・利用法を見つけた」は15-19歳が最も高い。

牛乳を大切に思う気持ちが弱くなった理由(男女別／2015)

あなたが「牛乳」のことを、「自分自身にとって、なくてはならない大切な食べ物(飲み物)である」と思う気持ちが、この1年で、弱くなったのは、どんな理由や事情からだと思いますか。



牛乳大切意識が弱まった人N=1212/ 655/ 557

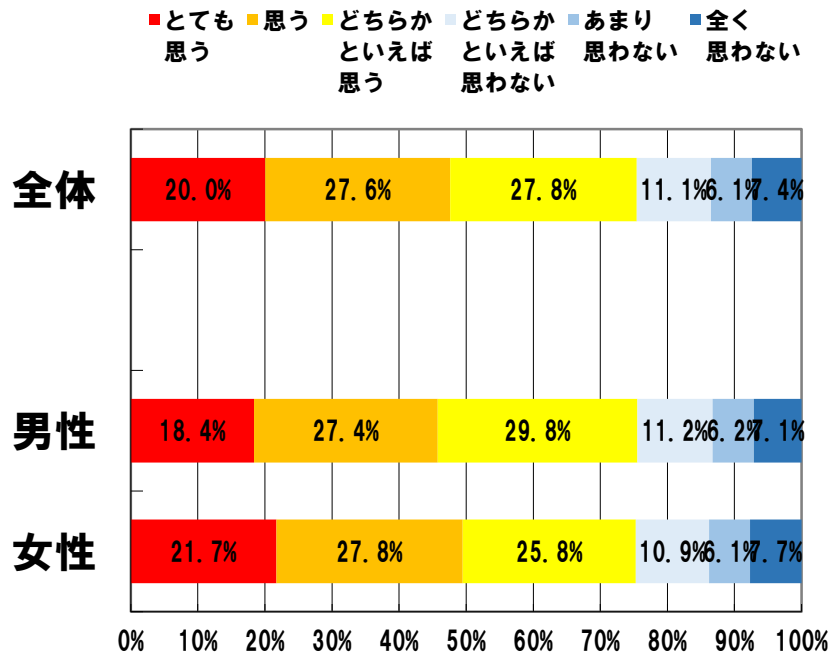
牛乳を大切に思う気持ちが弱くなった理由は、全体では「おなかの調子が悪くなる」が最も高く、「もともと好きでない」「他の飲食物・食品をとるようになった」が続く。

ただ、男女では傾向が異なり、男性は、「おなかの調子が悪くなる」の割合が最も高く、次いで「もともと好きでない」、「加齢」の割合が高い。

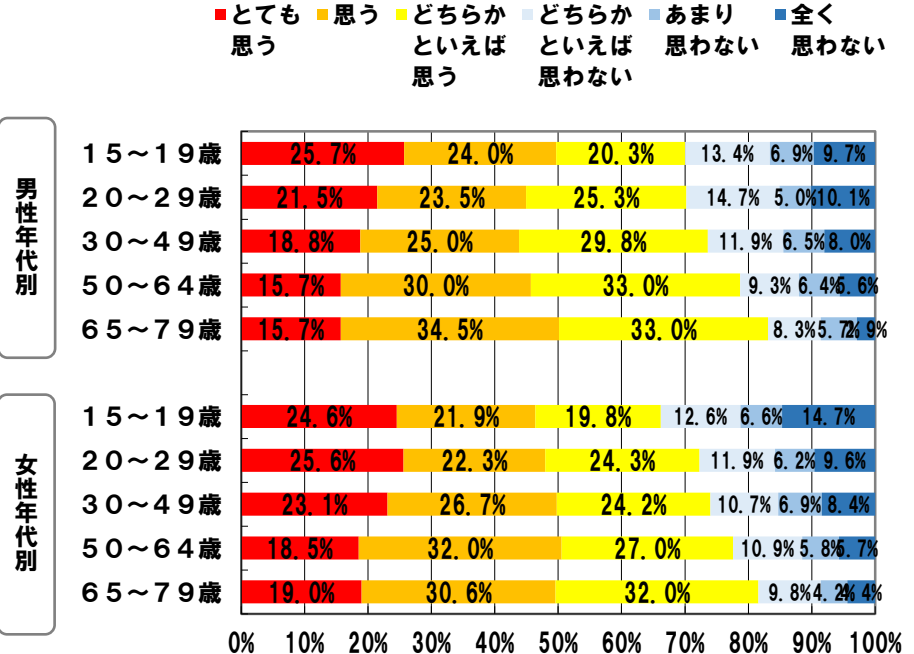
一方、女性は、「もともと好きでない」の割合が最も高く、「おなかの調子が悪くなる」「他の飲食物・食べ物をとるようになった」が男性より高い。

牛乳のおいしさ認識(性年代別／2015)

あなたご自身は「牛乳」のことを、どれくらい美味しいと思いますか。



N=10488/ 5282/ 5206

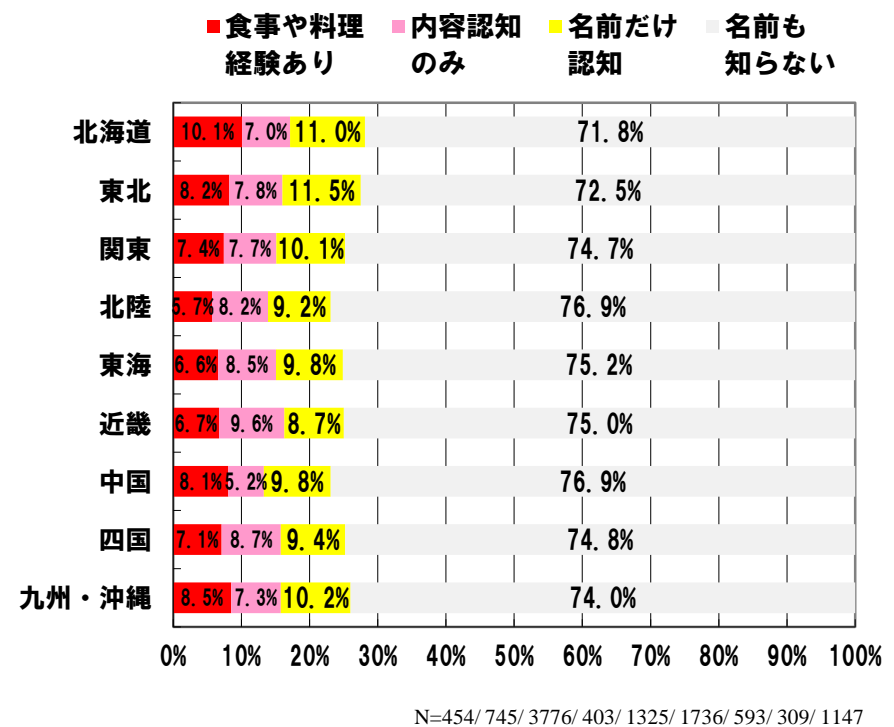
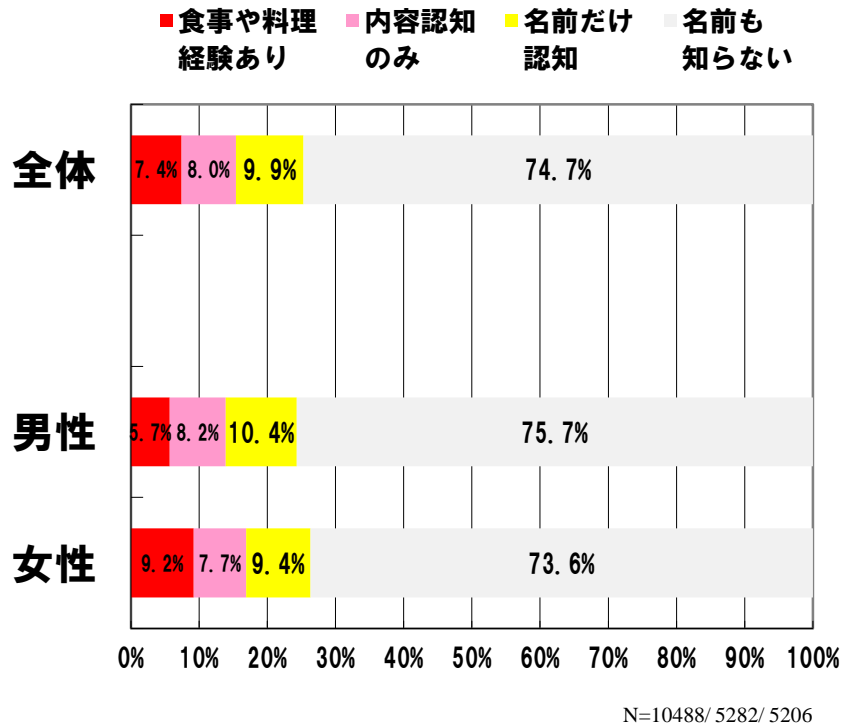


N=350/783/1970/1457/722/ /334/757/1943/1488/684

牛乳のおいしさ認識について聞いたところ、おいしいと“思う”人(「とても思う」、「思う」、「どちらかといえば思う」人の合計)の割合は、全体、男女いずれも約75%。これを年代別に見ると、“思う”人の割合は年代が上がるほど上昇するが、詳しく見ると、「とても思う」人の割合は若い世代が高く、「どちらかといえば思う」人の割合は年代が上がるほど上昇するのが特徴。

乳和食の認知(男女別+地域別/2015)

あなたは、牛乳を用いて和食をつくる「乳和食」という料理・調理法について、どれくらいご存知ですか。

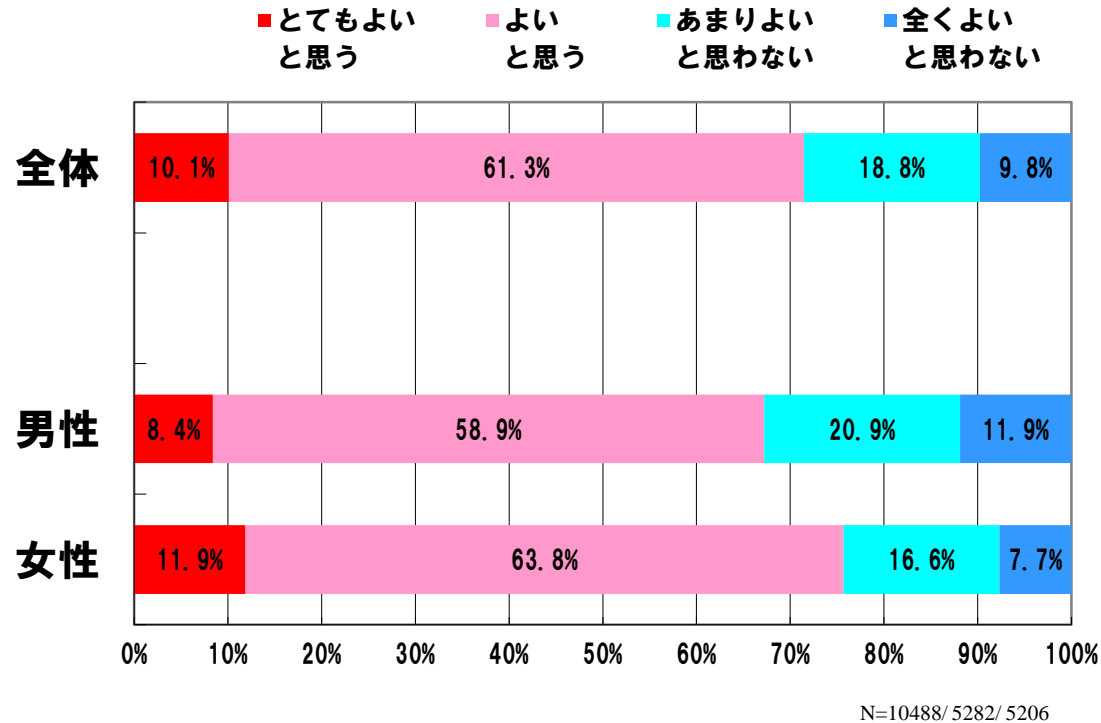


乳和食の認知率は、「名前だけは知っていた」人を含めて約25%である。男女では認知率に大差は見られないが、「食事や料理をしたことがある」人の割合に絞ると、女性が約9%で男性の約6%よりやや高い。

地域別に見ると大きな差はないが、北海道、東北の認知率が約28%で、他の地域に比べてやや高い。

乳和食をどう思うか(男女別／2015)

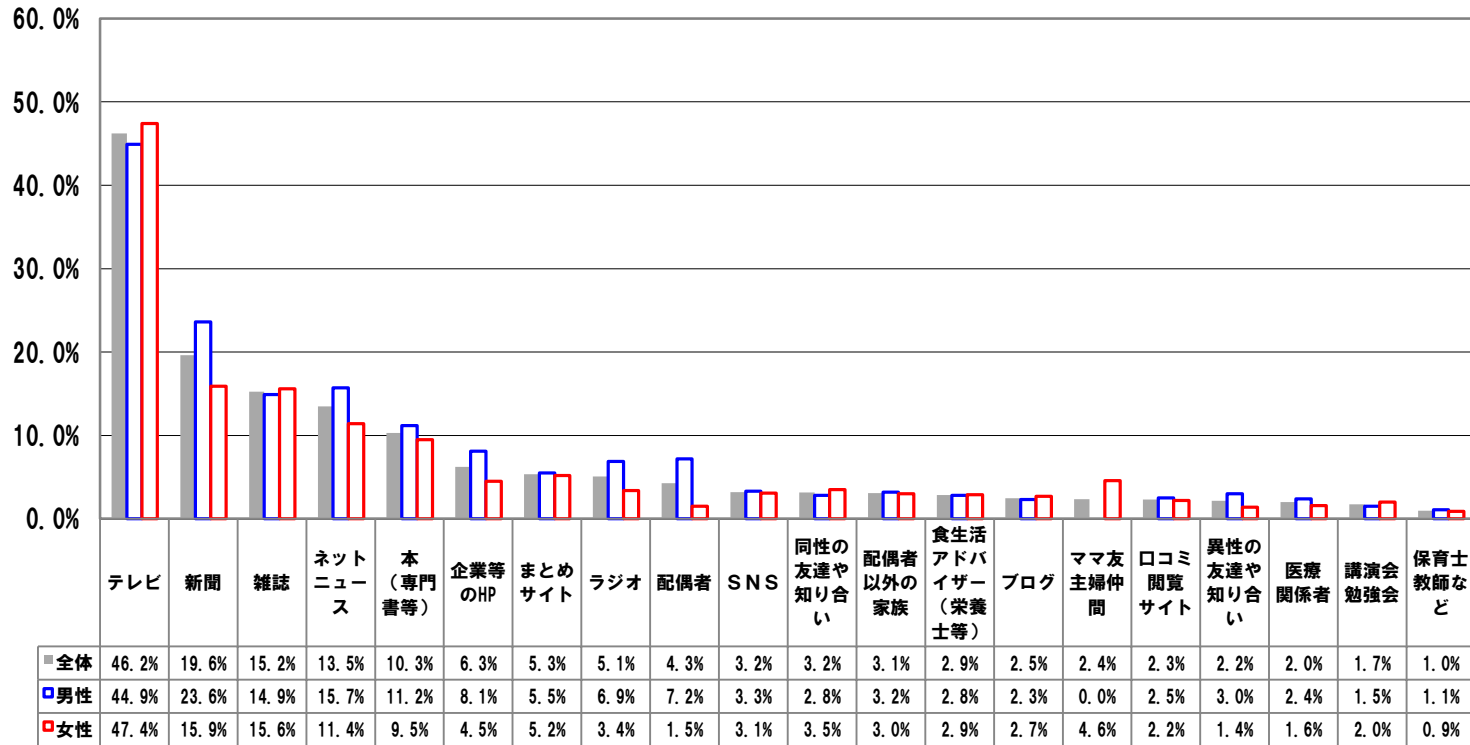
あなたは、牛乳を用いて和食をつくる「乳和食」という料理・調理法について、どう思いますか。



「乳和食の調理法をどう思うか」という問いに対しては、乳和食を知らない人も含めて、約71%の人が「よいと思う」と答えている。

これを男女別に見ると、「よいと思う」人の割合が、男性が約67%、女性が約76%と、女性の方が乳和食を高く評価する傾向がある。

あなたが牛乳を用いて和食をつくる「乳和食」という料理・調理法の名前や内容について話を聞いた情報源や人物をお知らせください。

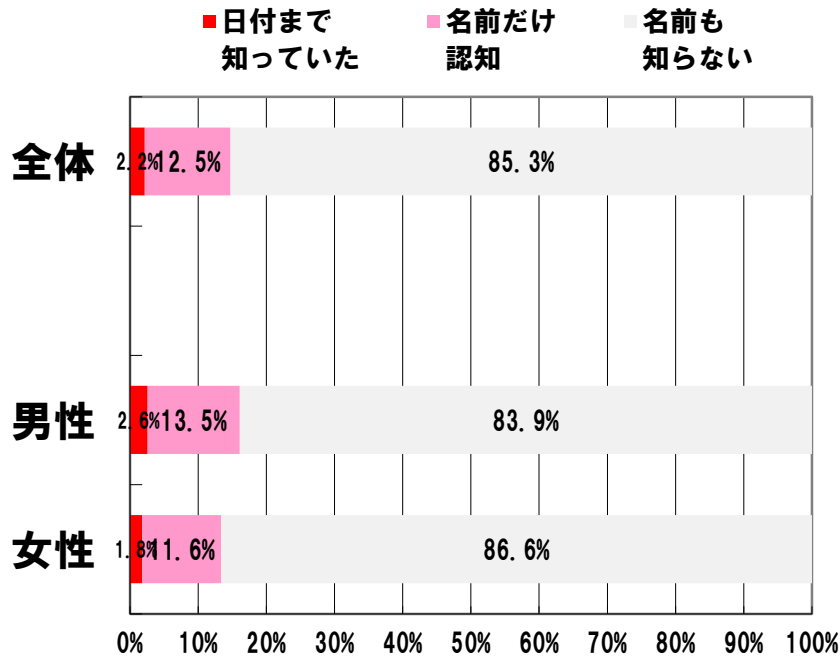


乳和食認知者N=2656/1284/1372

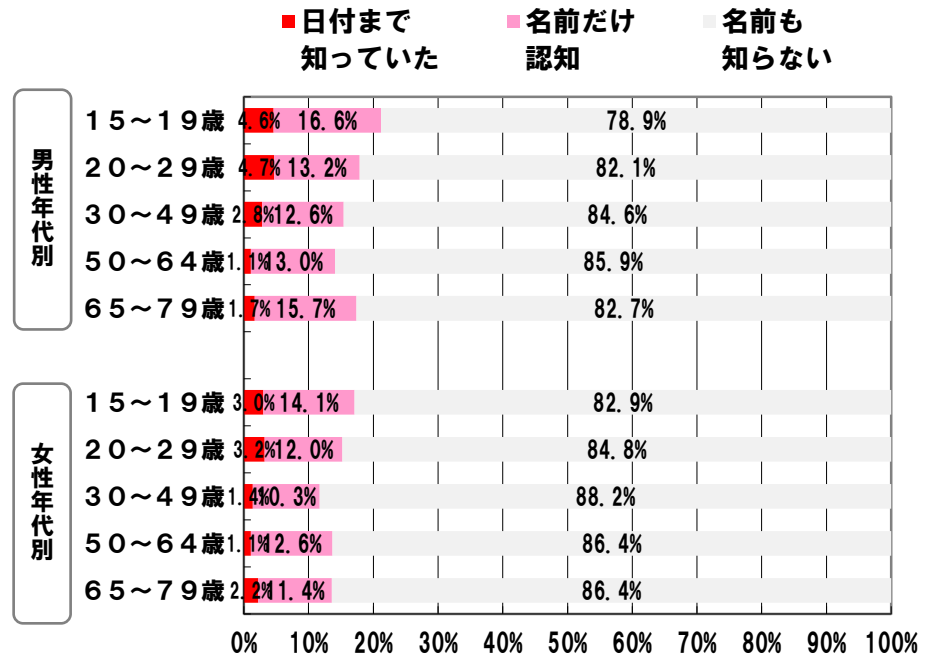
乳和食を認知している人にその認知経路を聞いたところ、「テレビ」をあげる人の割合が約46%で最も高く、「新聞」「雑誌」「ネットニュース」「本」が10%台で続く。これを男女別に見ると、男性の方が女性より、多くの認知経路をあげており、特に「新聞」「配偶者」「ネットニュース」では男性の割合が女性より顕著に高い。なお、女性の約5%が「ママ友・主婦仲間」をあげている。

「牛乳の日」に関する認知(性年代別/2015)

あなたご自身は、この調査以前に、下記の「牛乳の日」について、どれくらいご存知でしたか。



N=10488/ 5282/ 5206



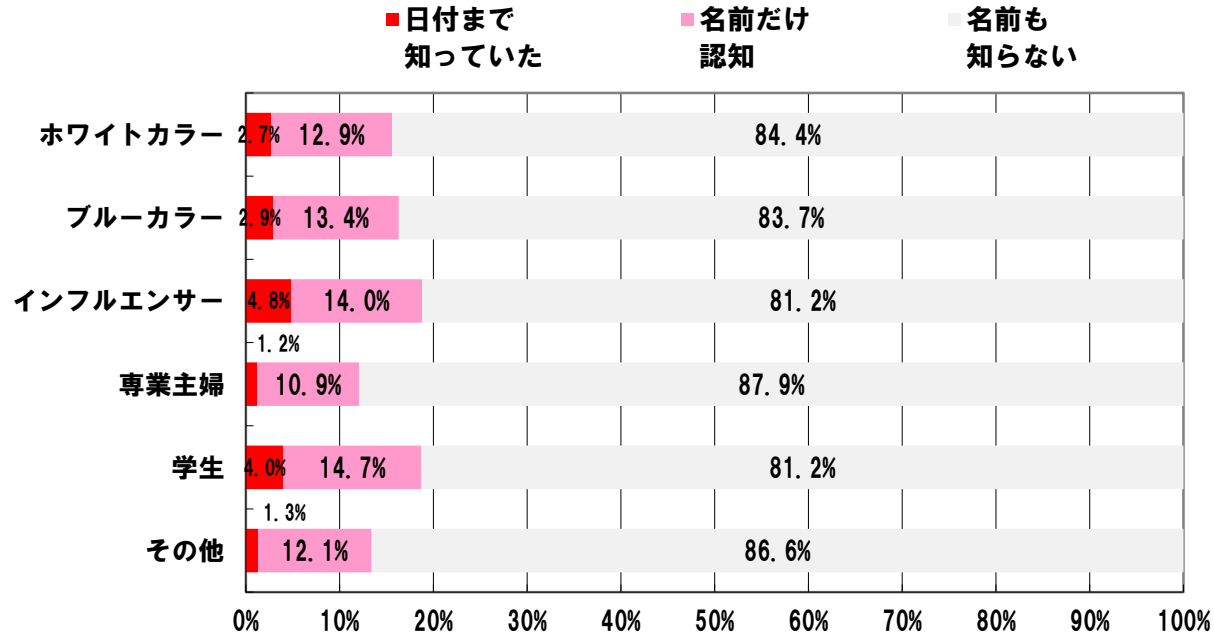
N=350/783/1970/1457/722/ /334/757/1943/1488/684

『牛乳の日』の認知率は約15%である。この認知率は、2013年以降、ほとんど変わっていない。

これを年代別に見ると、男女ともに20代までの若い年代で、また男性では65-79歳の人において、認知率が他の世代よりやや高い。

「牛乳の日」に関する認知(職業別/2015)

あなたご自身は、この調査以前に、下記の「牛乳の日」について、どれくらいご存知でしたか。



N= 2563/ 1223/ 415/ 1836/ 890/ 3561

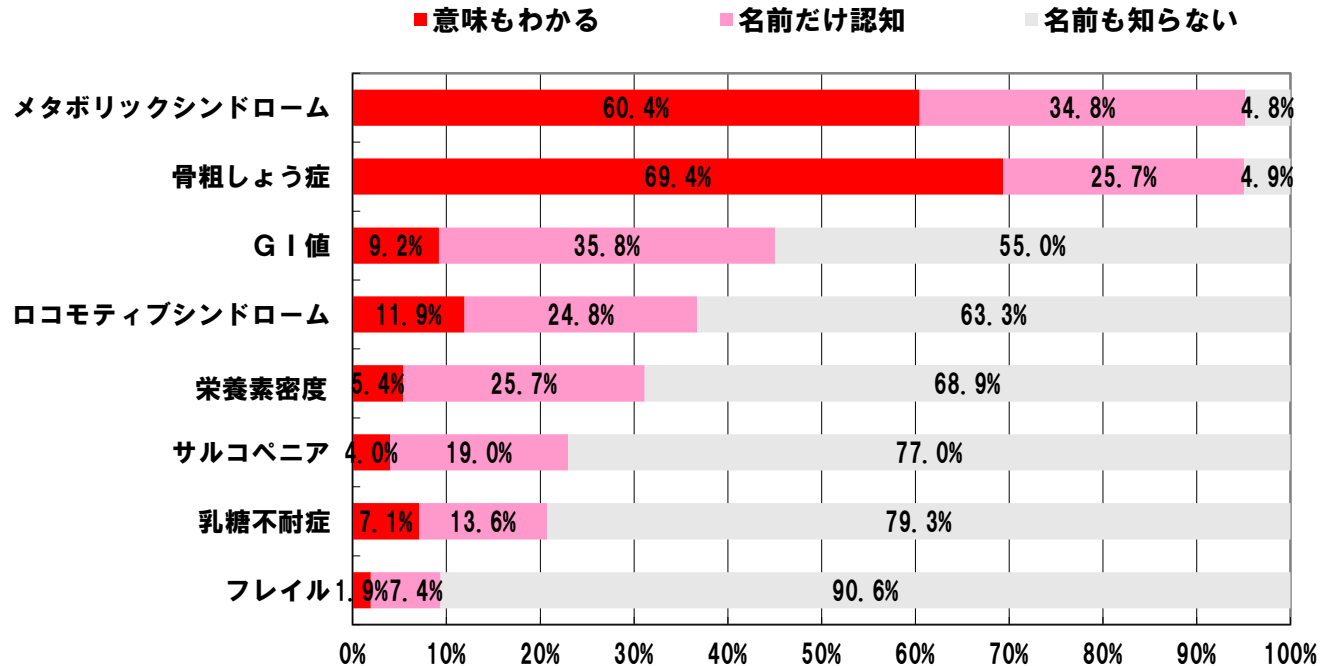
ホワイトカラー(役員・経営者/事務(内勤)/事務・営業/自由業)
 ブルーカラー(販売・サービス/技能・作業職/建設作業職/工場などの生産職/乗務員・ドライバー/保安職)
 インフルエンサー(医療従事者/教育関係者/栄養士)

『牛乳の日』の認知率を職業別に見ると、健康や栄養、食育を指導する立場の「インフルエンサー」(医師・栄養士・学校教諭など)や「学生」において、認知度が約19%でやや高く、逆に専業主婦の場合は約12%で最も低い。

5. 健康・栄養・生活関連

**5-1. 健康、栄養、生活に関する様々な状況について
（「単身世帯」と「50代以上」の二次調査も交えて）**

あなたご自身は、以下にあげた健康や栄養に関する言葉を、どれくらいご存知でしたか。



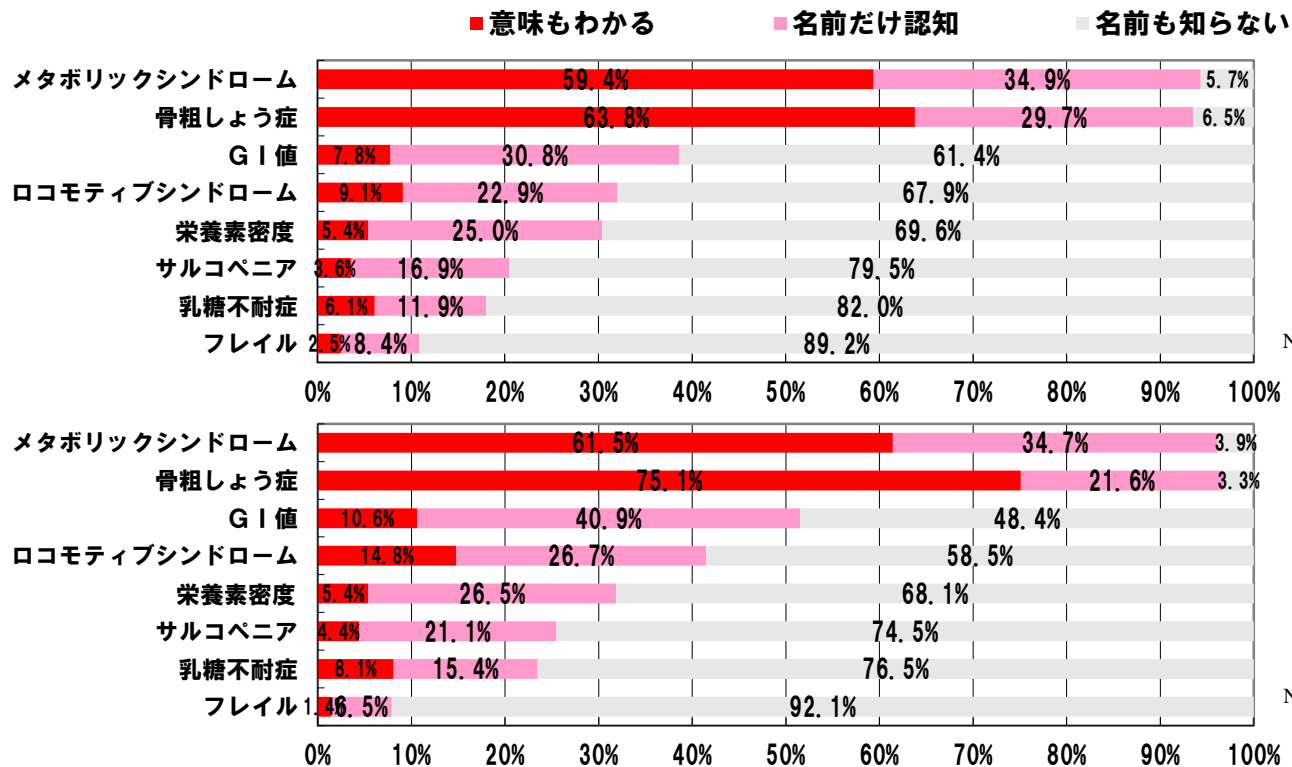
N=10488

健康や栄養に関する言葉の認知率については、「メタボリックシンドローム」と「骨粗しょう症」が顕著に高く、全体の約95%であった。

一方、「乳糖不耐性」の認知率は約21%にとどまり、超高齢化社会の進展で課題となっている「ロコモティブシンドローム」、「サルコペニア」、「フレイル」の認知率はそれぞれ約37%、約23%、約9%であった。

健康に関する知識(男女別／2015)

あなたご自身は、以下にあげた健康や栄養に関する言葉を、どれくらいご存知でしたか。



男性のみ

N=5282

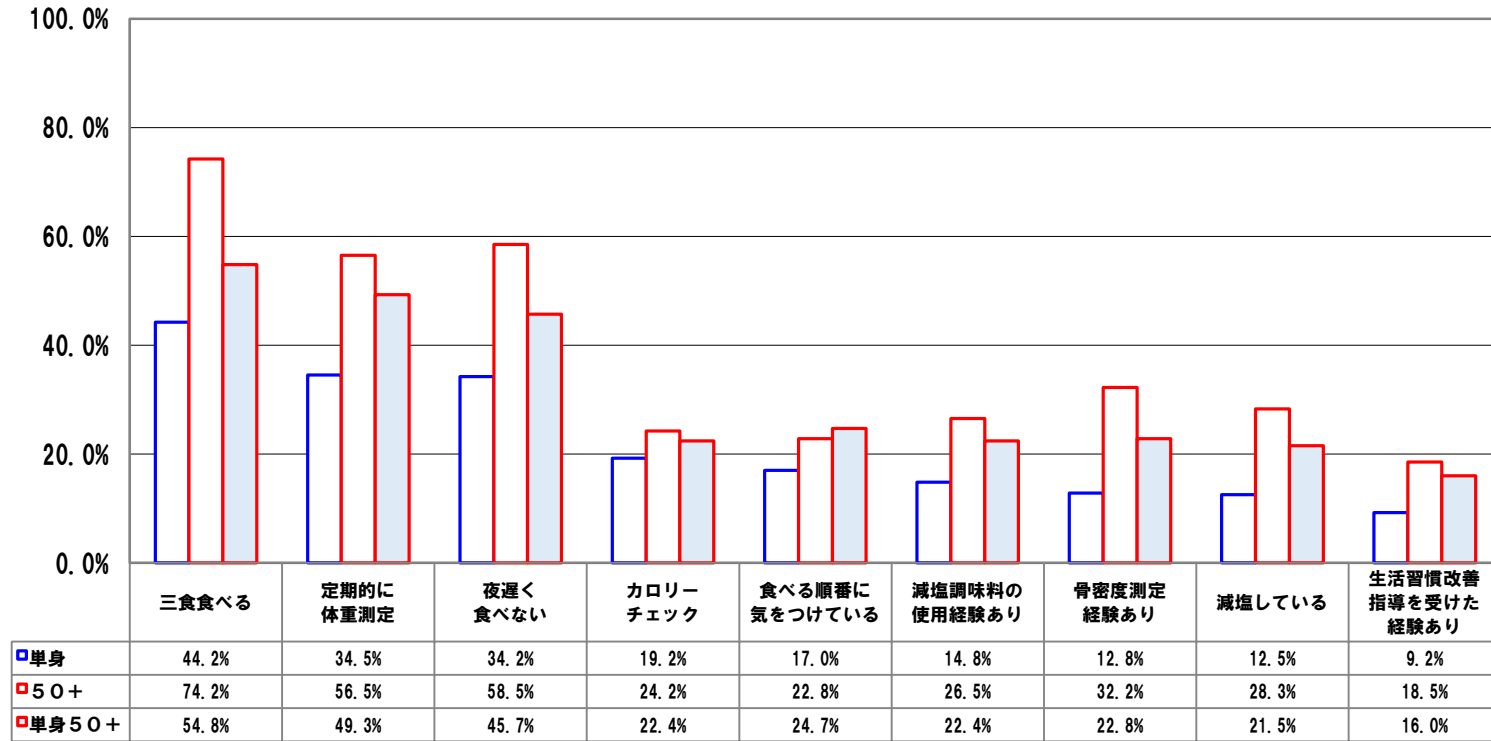
女性のみ

N=5206

健康や栄養に関する言葉の認知状況を男女別に見ると、全体的に女性の方が男性より認知率が高い。

例えば、女性に多い病気である「骨粗しょう症」について『意味もわかる』人の割合は、男性が約64%に対して、女性が約75%と男性より10%以上高い。

以下のなかから、あなたにあてはまるものをすべてお答えください。



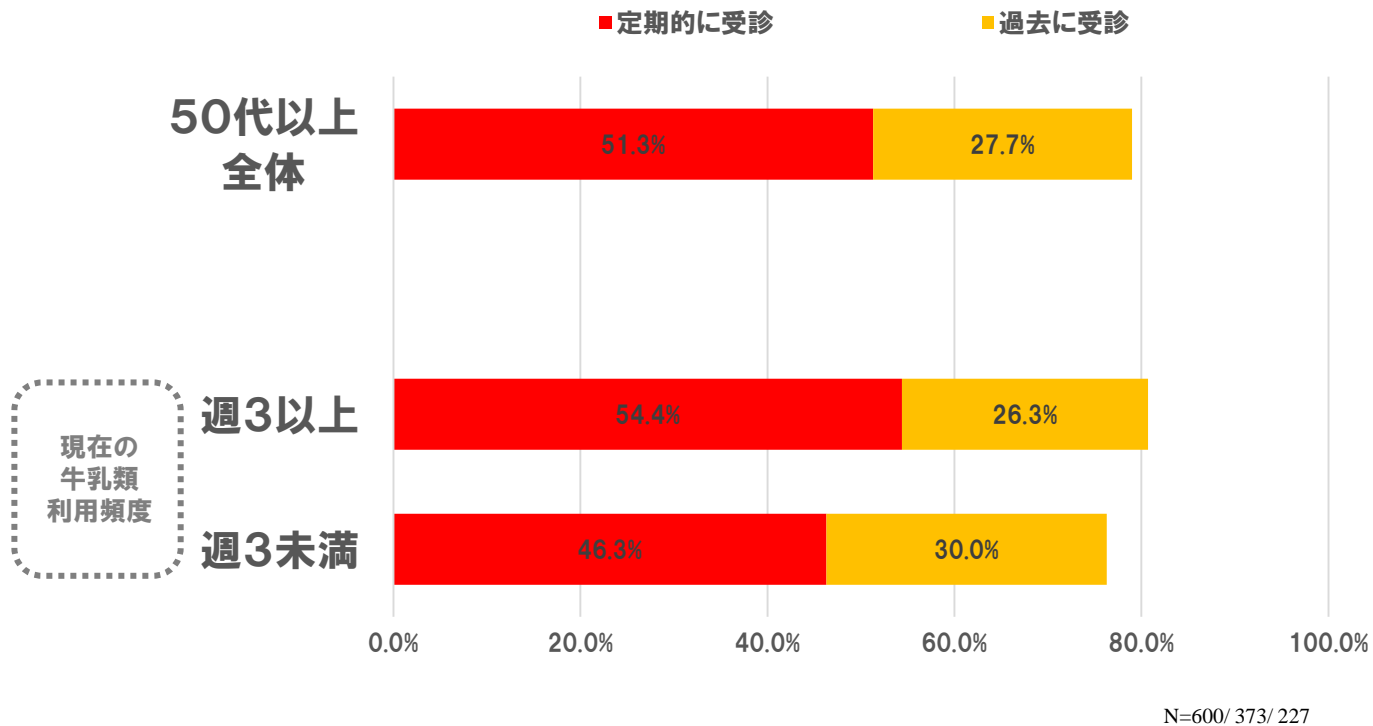
N=600/ 600/ 219

『単身』世帯と『50代以上』の人に、気をつけている「健康のための行動」で実際にあてはまる項目を聞くと、全項目で、『50代以上』において、『単身』の人の割合を上回っていた。

なお、『単身世帯で50代以上』の人(上表“単身50+”)の割合は、ほとんどの項目で『単身』世帯全体より高く、『50代以上』より低くなる。

項目別には、『単身』『50代以上』いずれも「三食食べる」「定期的に体重測定」「夜遅く食べない」が顕著に高く、各項目で『50代以上』の割合が『単身』の割合を20～30%程度上回っている。同様の傾向は、「骨密度測定」や「減塩」関連項目でも見られる。

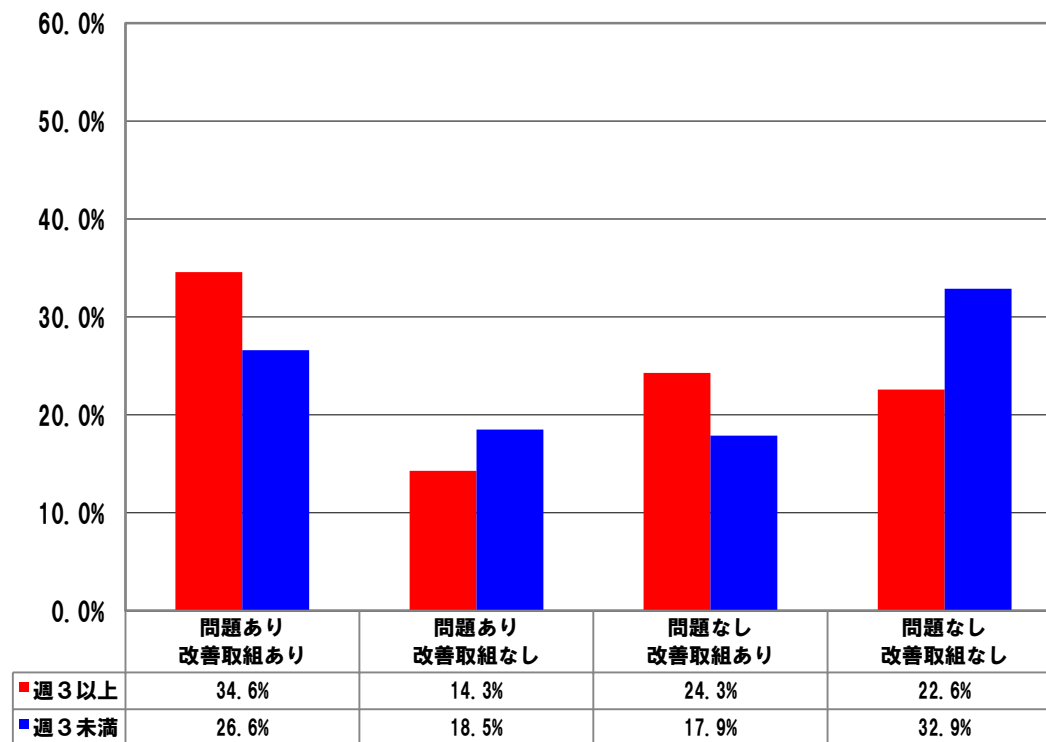
これまで、あなたは「人間ドック・健診(メタボ健診、主婦健診など)」を受けたことがありますか。



『50代以上』の人においては、人間ドックや健診について、約80%の人が受診した経験を持つが、牛乳類の飲用頻度が「週3回以上」人と「週3回未満」の人の間に大差はない。

ただ、人間ドックや健診を受信したことがある人のうち、定期的に受診している人の割合は「週3回以上」の人が約54%で、「週3回未満」の人を約8ポイント上回る。

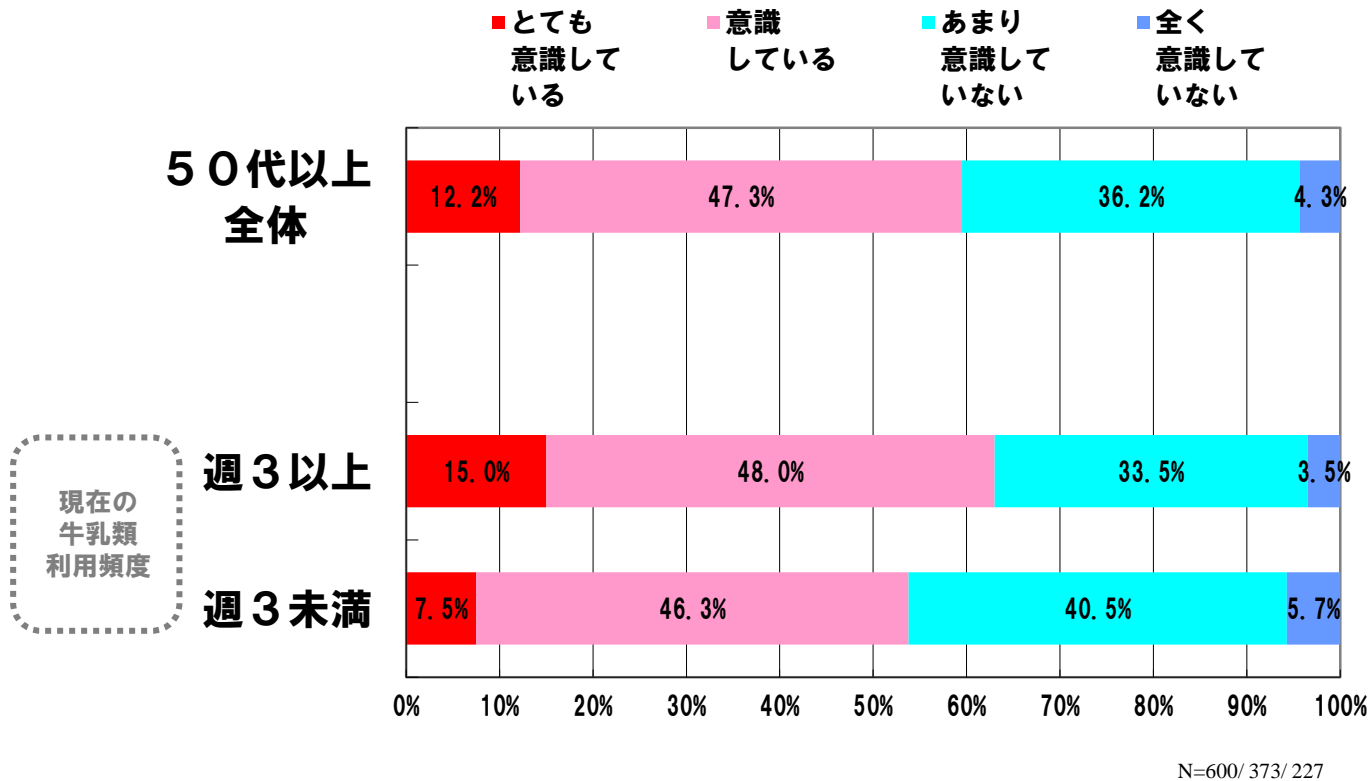
最近のタイミングで、あなたが「人間ドック・健診(メタボ健診、主婦健診など)」を受けたときの結果と、その後の取組についてうかがいます。



人間ドック・健診の受診者N= 301/ 173

『50代以上』の人における、最近の人間ドック・健診の受診結果とその後の食事や生活の改善取り組み状況を見ると、牛乳類の飲用頻度が「週3回以上」の人の場合は、健診結果にかかわらず改善に取り組む人の割合が合計で60%近くに近いのぼり、「週3回未満」の人の約45%より顕著に高い。

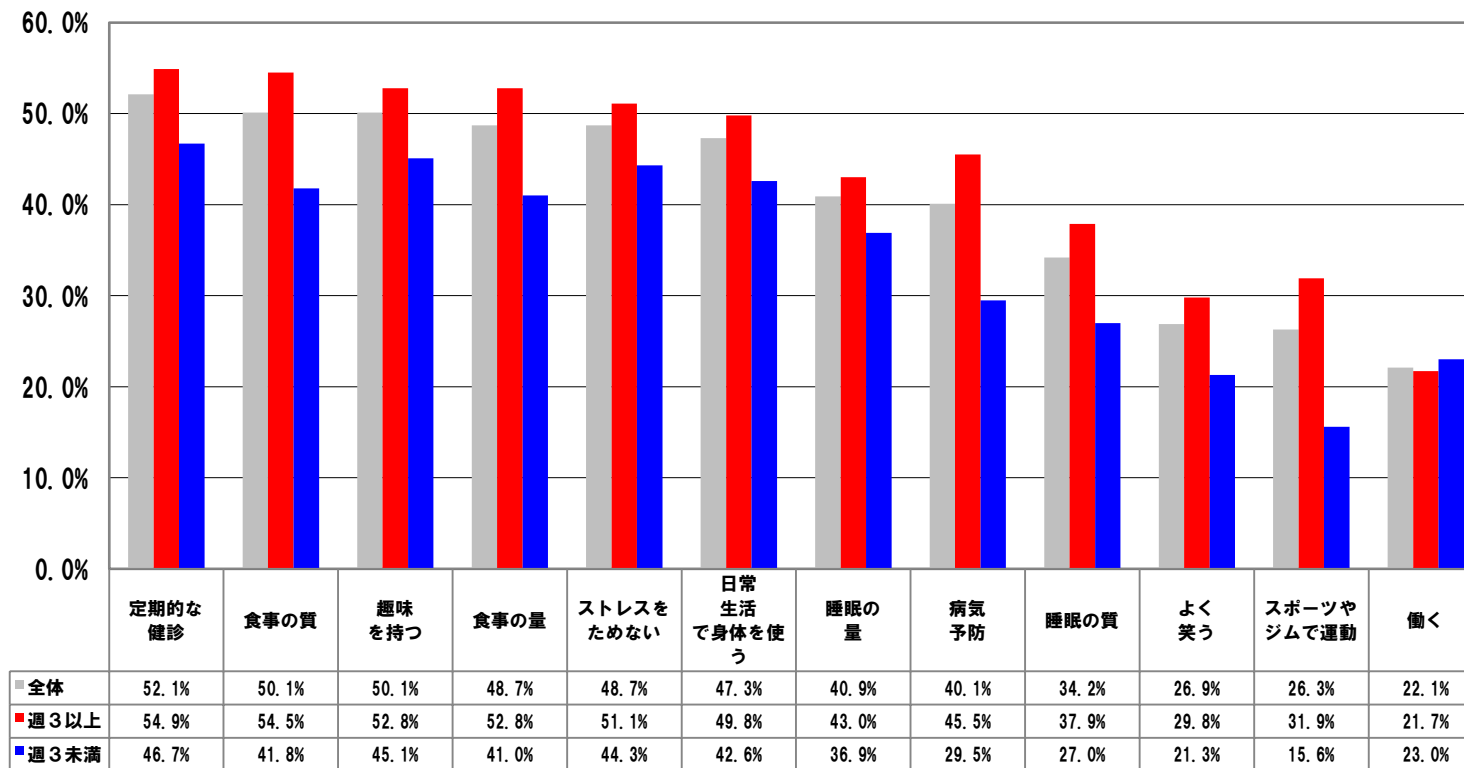
あなたは、ご自分の健康寿命(※)を長くしたいと、どれくらい意識して生活をしていますか。
 (※日常的に介護を必要としないで、自立して生活が出来る期間)



50代以上の人の、牛乳類の飲用頻度と健康寿命への意識の関係をみると、飲用頻度が「週3回以上」の人の約63%が健康寿命を『とても意識している』及び『意識している』と答え、「週3回未満」の人よりも割合が高い。

特に、「週3回以上」の人の約15%が健康寿命を『とても意識している』と答えており、「週3回未満」の人の約8%より高い。

あなたは、ご自分の健康寿命(※)を長くしたいと思って何か気をつけていることがございますか。
 (※日常的に介護を必要としないで、自立して生活がおくれる期間)

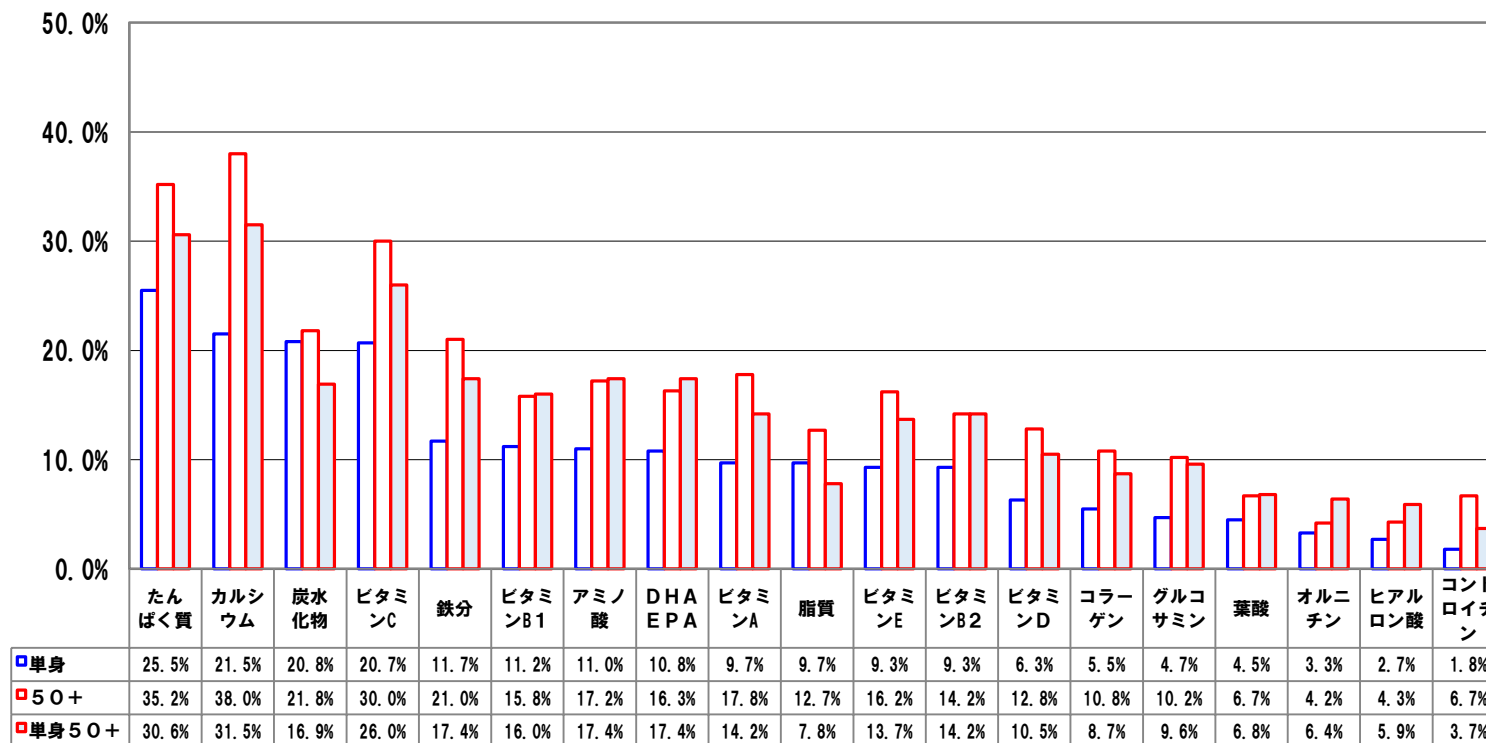


「健康寿命」意識者N=357/ 235/ 122

『50代以上』の人のおよそ半数が、健康寿命を長くするために「定期的な健診」「食事の質／量」「趣味を持つ」「ストレスをためない」「日常生活で身体を使う」に気を付けていると答えている。

また、ほぼ全ての項目において、牛乳類の飲用頻度が「週3回以上」の人の割合が「週3回未満」の人の割合を上回り、特に「病気予防」「スポーツやジムで運動」においては両者の差が15%以上もある。

いま現在、あなたが普段から十分な摂取を意識している、栄養素や成分をお知らせください。

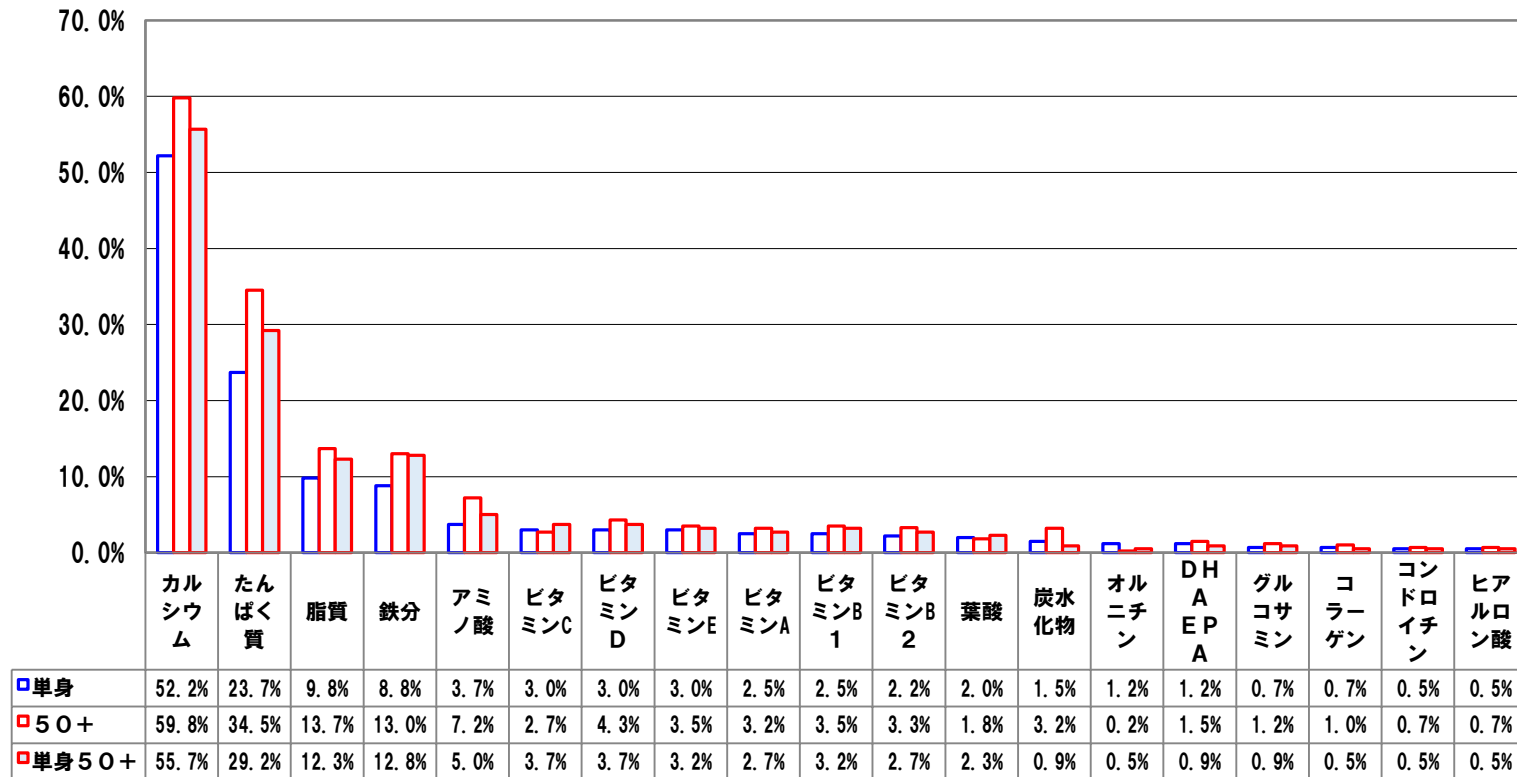


N=600/ 600/ 219

普段から十分な摂取を意識している栄養素や成分を聞くと、『50代以上』の人の30%以上が「カルシウム」「たんぱく質」「ビタミンC」をあげている。『単身』世帯の人でも、これらの摂取を意識している人が多いが、『50代以上』に比べるとその割合は「たんぱく質」「ビタミンC」で約10%、「カルシウム」では約17%程度低い。

また、『単身世帯でかつ50代以上』の人の場合は、「炭水化物」「脂質」をあげる割合が、『単身』世帯全体より少ない。

あなたが牛乳・乳製品をとることによって効果的にとることが出来ると思う栄養素や成分をお知らせください。



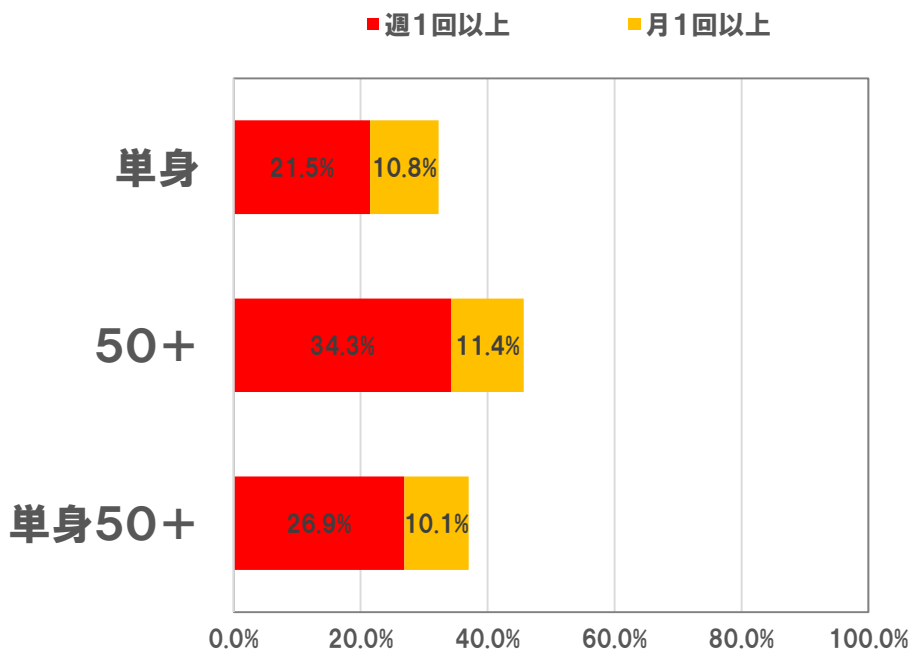
N=600/ 600/ 219

牛乳・乳製品について、効果的にとることができると思う栄養素や成分を聞いたところ、『単身』世帯・『50代以上』いずれの人も「カルシウム」をあげる人の割合が50%を超えて最も高く、「たんぱく質」、「脂質」、「鉄分」と続く。いずれも、『50代以上』の割合の方が『単身』世帯よりやや高い。

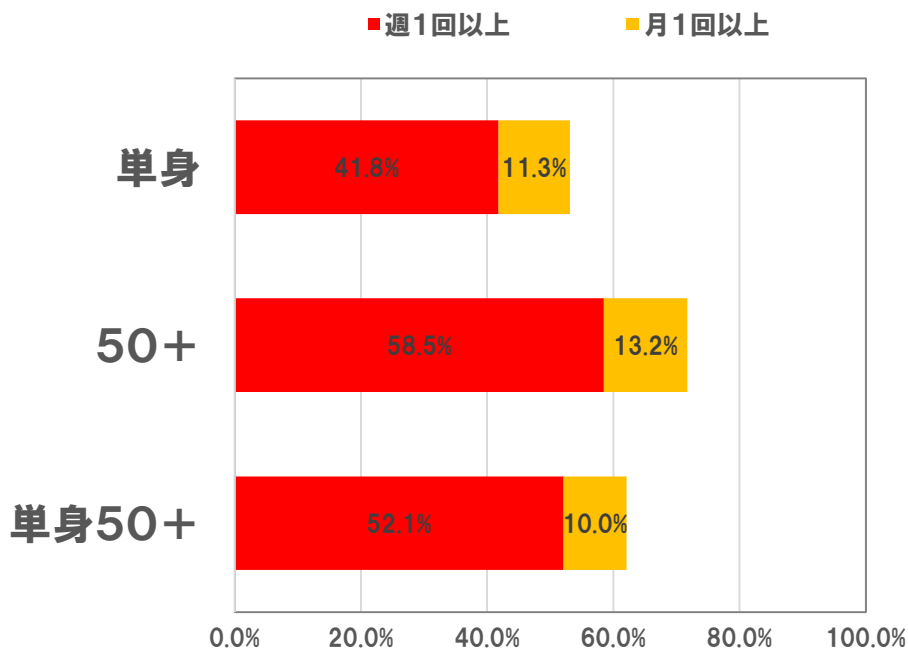
また、牛乳に殆ど含まれない「鉄分」や「ビタミンC」をあげる人の割合が比較的高く、一方で、牛乳に期待されている「ビタミンB類」をあげる人の割合が低い。

いま現在、あなたはスポーツ／ジム(スポーツクラブ)通い／ジョギングやウォーキングなど、わざわざ時間をとって運動することがどれくらいありますか。

いま現在、あなたは日常生活のなかで意識的に身体を動かすこと(※)がどれくらいありますか。
(※具体的には「エレベーターを使わずに階段を使う」「電車やバスを使わずに自転車通勤する」など)



N=600/ 600/ 219



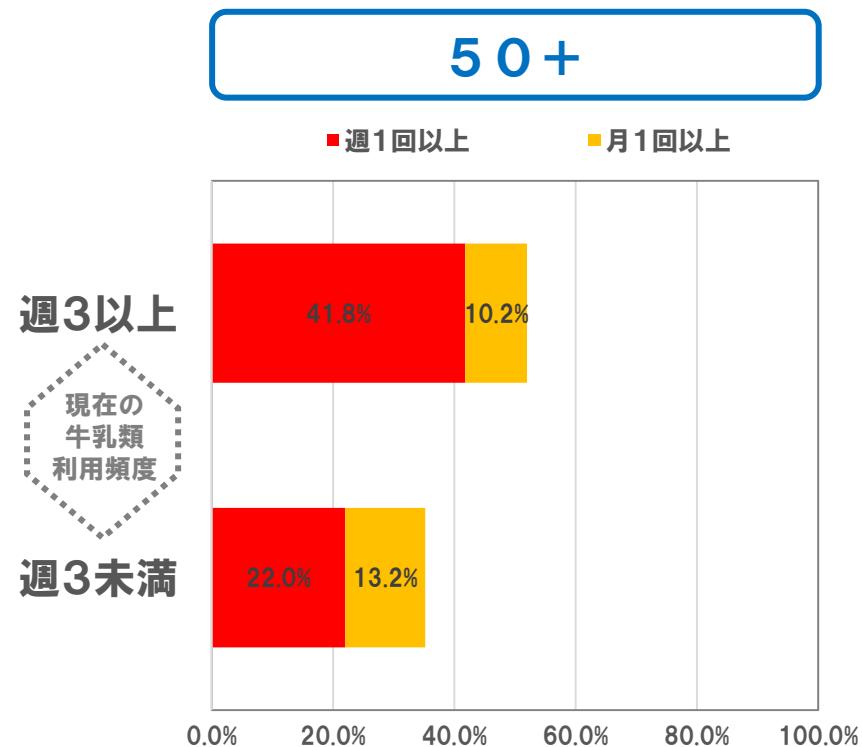
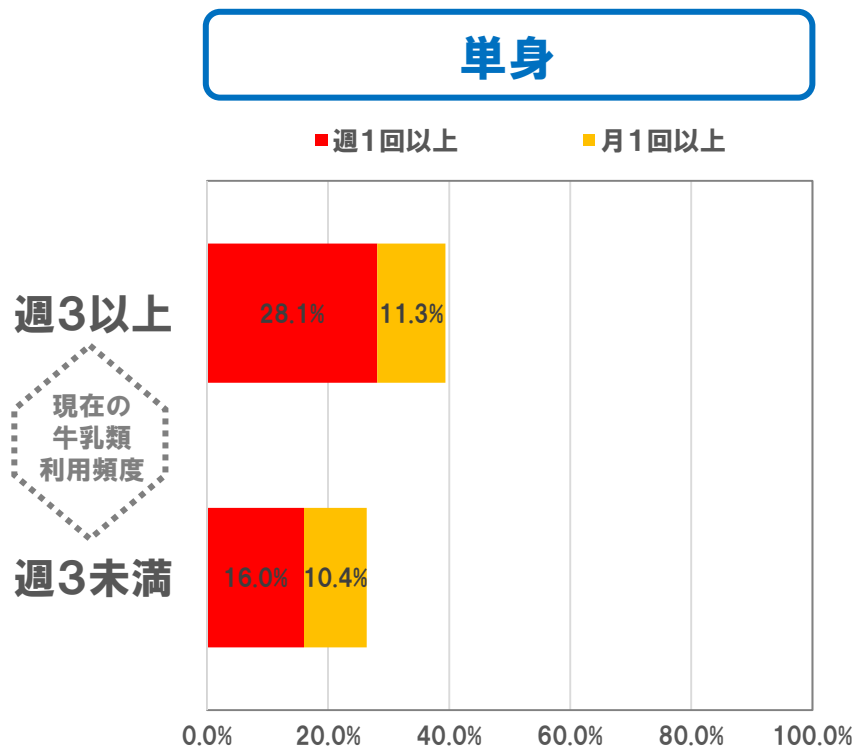
N=600/ 600/ 219

スポーツやウォーキング等の「運動」をしたり、意識的に「日常生活で身体を動かす」ことがどれくらいあるか聞いたところ、『50代以上』の人は、「運動」を「週1回以上」おこなう人の割合が約34%で、『単身』世帯の約22%を上回る。

また、「日常生活で身体を動かす」ことを「週1回以上」おこなう人の割合も、『50代以上』の人が約59%で、『単身』世帯の約42%を大きく上回る。

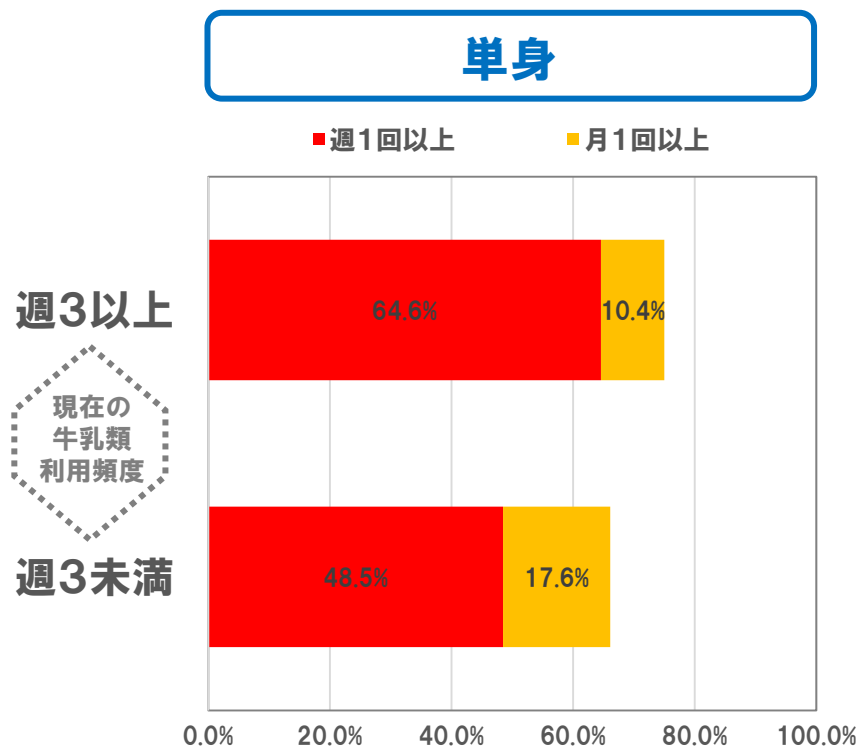
「運動」への取組(単身者と50代以上の牛乳類飲用頻度別／二次調査2015)

いま現在、あなたはスポーツ／ジム(スポーツクラブ)通い／ジョギングやウォーキングなど、わざわざ時間をとって運動することがどれくらいありますか。

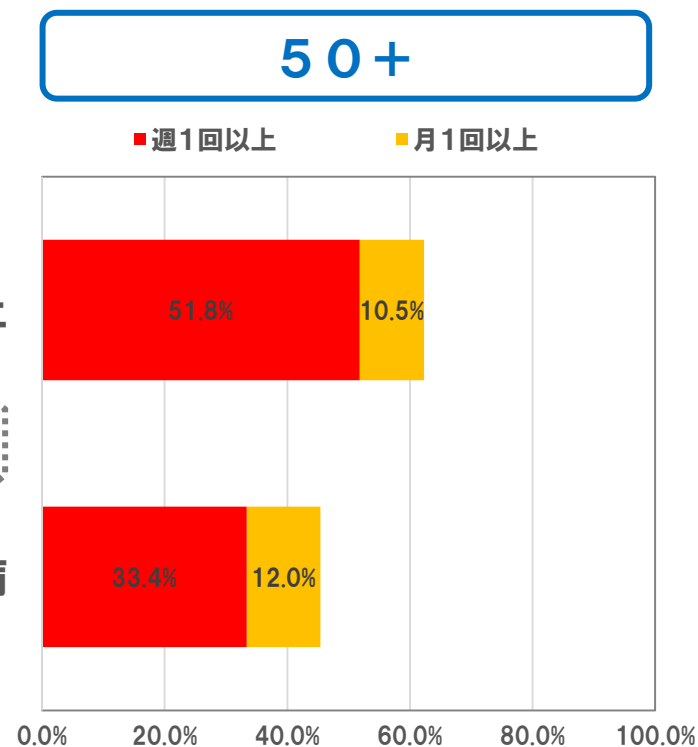


『単身』『50代以上』の人の「運動」の取組状況について、牛乳類の飲用頻度別に見ると、「週1回以上運動する」人の割合は、飲用頻度が「週3回以上」の人の方が「週3回未満」の人より高く、よく「運動」する人ほど牛乳をよく飲む傾向が見られる。

いま現在、あなたは日常生活のなかで意識的に身体を動かすこと(※)がどれくらいありますか。
 (※具体的には「エレベーターを使わずに階段を使う」「電車やバスを使わずに自転車で通勤する」など)



N=274/ 326



N=373/ 227

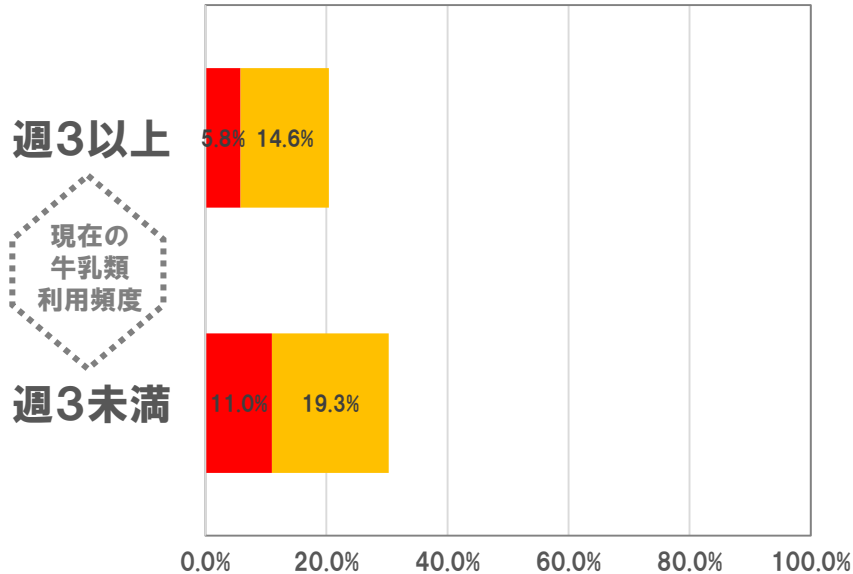
『単身』『50代以上』の人の「日常で身体を動かすこと」の取組状況について、牛乳類の飲用頻度別に見ると、「運動」と同様、いずれも「週1回以上」の人の割合は、飲用頻度が「週3回以上」の人の方が「週3回未満」の人より高く、よく「日常で身体を動かす」人ほど牛乳をよく飲む傾向が見られる。

「本当はもっと牛乳を飲みたいが何かの事情で飲めない」という意識 (単身者と50代以上の牛乳類飲用頻度別／二次調査2015)

あなたには、本当はもっと牛乳を飲みたいのだが、何かの事情で飲めないといったことがありますか。

単身

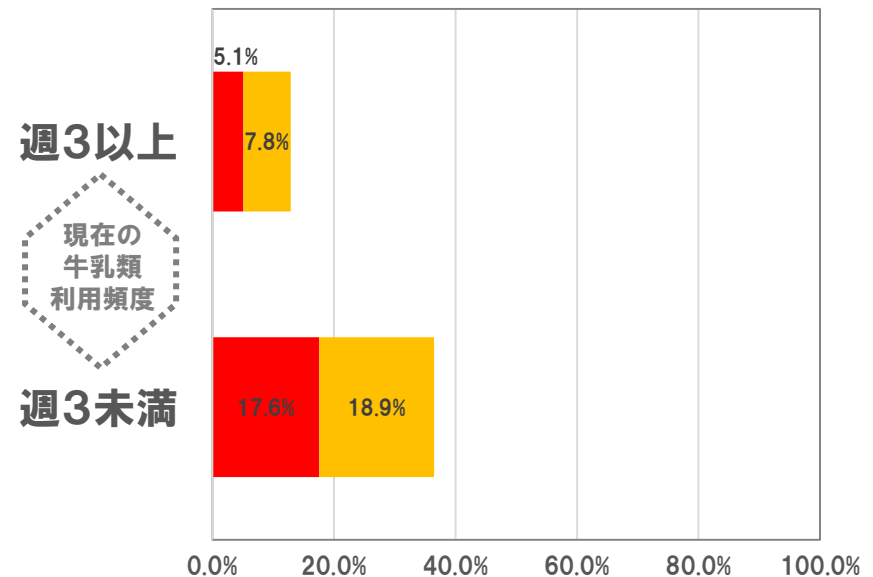
■ 確かにある ■ なんとなくある



N=274/ 326

50+

■ 確かにある ■ なんとなくある



N=373/ 227

「本当はもっと牛乳を飲みたいが何かの事情で飲めないことがあるか」を聞いたところ、『単身』世帯では牛乳類の飲用頻度が「週3回未満」の人の約30%が、『50代以上』の人では約37%が「ある」と答えている。

「本当はもっと牛乳を飲みたいが何かの事情で飲めない」という意識の中身 (単身者の週3回未満飲用者／二次調査2015)

あなたが、本当はもっと牛乳を飲みたいのに、そうすることが出来なくなっている事情についてお知らせください。

20代女	学生	アレルギー	40代女	ホワイトカラー	お腹がゴロゴロする。
20代女	その他	美味しくない	40代男	ブルーカラー	腹をこわす
20代女	ホワイトカラー	牛乳が昔から好きではない	40代男	ホワイトカラー	美味しくない 高い コスパが低い
20代女	学生	牛乳が高い。	40代男	ブルーカラー	牛乳は買って日にちがたつと味が不味くなるから
20代男	ホワイトカラー	予算と食器洗いの都合からです	40代男	ホワイトカラー	匂いが気になる時がある。
20代男	その他	下痢になりやすい 体に合わない	40代男	その他	牛乳を飲むと必ず下痢をするから
20代男	ホワイトカラー	冷蔵庫がない	40代男	ブルーカラー	買って一人でも飲みきれない
20代男	学生	自分で買わないといけない	40代男	ブルーカラー	健康の為に飲みたいが、あまり牛乳は好きじゃない
20代男	ホワイトカラー	消費期限的に厳しい時があるから	40代男	ホワイトカラー	忙しくて購入できない
20代男	学生	高い	40代男	その他	下痢をする
20代男	ホワイトカラー	牛乳を飲むとおなかを壊す	40代男	その他	美味しくない
30代女	ホワイトカラー	賞味期限が短くて買えない	50代女	その他	お腹を壊す
30代女	ホワイトカラー	お腹が痛くなる	50代女	ホワイトカラー	経済的事情
30代男	ブルーカラー	味が受け付けられない(吐き気を催す)。	50代女	ホワイトカラー	牛乳1リットルパックを買っても、長々と飲んでおり、新鮮な味ではなくなっている。
30代男	インフルエンサー	腹が痛くなる	50代女	ホワイトカラー	元々 牛乳を飲むと体調が狂うから
30代男	ホワイトカラー	牛乳を飲むとおなかの調子が悪くなることもある	50代女	インフルエンサー	消化が悪い
30代男	ホワイトカラー	おなかゆるくなるのがたまにあるから	50代女	ホワイトカラー	後味が悪い
30代男	その他	日持ちしない、量が多い	50代男	ブルーカラー	すぐにおなか痛くなって下痢をする。
30代男	その他	日持ちしない、量が多い	50代男	その他	牛乳は体に悪いとネットで知ったから
30代男	ブルーカラー	お腹が弱い、牛乳は多く飲めない。一人暮らしの為腐らせてしまう。	50代男	ホワイトカラー	おなかの負担になる
30代男	ホワイトカラー	賞味期限が浅いから飲み干せない	50代男	その他	すぐ、下痢になるから。
30代男	ブルーカラー	結局1日1Lはヨーグルトにして消費しているが、やはり毎日飲むには牛乳は安くても1L140円ぐらいはするので毎日消費するには高価	50代男	その他	下痢をする
40代女	ブルーカラー	腸の病気で入院した事があり再発防止の薬を医者から貰ってます。薬の副作用がカルシウム過剰摂取なので少なめしか摂取できない	60代女	その他	ヨーグルトを食べているので、牛乳を飲むことが以前よりずっと少なくなりました。
40代女	その他	コレステロールが高いので	60代女	その他	お腹の調子が悪くなるから
40代女	ホワイトカラー	あまり好きじゃない	60代男	その他	乳脂肪分がダイエットの厳しい制限に句組まれるから 脱脂粉乳もスキムミルクも脂肪ゼロ乳製品も摂取するが、美味しくないから食べないほうがマシだと気づいた。
40代女	ホワイトカラー	味が嫌い	60代男	その他	子供の頃から牛乳を飲むと、お腹をこわす(下痢する)ので、全く飲まない。
40代女	その他	冷たいまま飲むとたいいおなかを壊す	60代男	その他	お腹をこわしやすい。
40代女	ホワイトカラー	豆乳の方が大人になったら、飲んだ方がいいと聞いた	70代女	その他	医師の指示に従って牛乳を飲まない。

牛乳類の飲用頻度が週3回未満の単身者が抱える『もっと飲みたいが飲めない事情』は、「おなかを壊す」等の体質的な理由、「おいしくない」等の嗜好の問題、「一人で飲みきれない」等の飲む分量と賞味期限のアンバランス、「価格が高い」等の経済的事情が多く見られる。

「本当はもっと牛乳を飲みたいが何かの事情で飲めない」という意識の中身 (50代以上の週3回未満飲用者／二次調査2015)

あなたが、本当はもっと牛乳を飲みたいのに、そうすることが出来なくなっている事情についてお知らせください。

50代女	専業主婦	アレルギーです	60代女	その他	牛乳を飲むと、下痢をする
50代女	インフルエンサー	コレステロール	60代女	専業主婦	お腹がユルくなる。家庭全体での消費量が少なくなつて飲みきれない。
50代女	その他	下痢をしそうだから…	60代女	その他	トイレに行きたくなる(大便)
50代女	専業主婦	お腹をこわしやすい	60代女	ホワイトカラー	コレステロール値が高いので、豆乳に変えている。
50代女	専業主婦	お腹をこわすことが多くなった	60代男	その他	お腹が痛くなる。脂肪分が…、気になる。
50代女	その他	僻地なので、いつも牛乳が手に入るわけではないし、店にあるものは値が高い。以前は常温保存の牛乳をネットで頼んでいたが、取り扱わなくなったので、豆乳しか注文できず、牛乳をのんでいない。	60代男	その他	牛乳を飲むと腹がゆるくなるため。飲んだら即効腹を壊す。
50代女	専業主婦	胃腸が弱く、おなかを壊す	60代男	ホワイトカラー	腸が弱い
50代女	ホワイトカラー	飲みきれないことが多く、買って帰るのも重いと感じる。	60代男	その他	お腹を下す不安感
50代男	その他	金がない	60代男	ホワイトカラー	価格が高い
50代男	その他	牛乳を飲むことによって健康被害が出るとネットで聞いたから	60代男	その他	必ずと言っていいほど、腹の調子が悪くなる。
50代男	ホワイトカラー	牛乳を飲みすぎると、腹が弱くなるから。	60代男	その他	下痢をすることがあるなどの、体質的にダメな部分がある
50代男	ブルーカラー	あまり飲むと、お腹がいたくなる。	60代男	その他	乳糖不耐症。
50代男	インフルエンサー	牛乳を飲むと下痢をする。	70代女	専業主婦	どうも牛乳を飲むとお腹をこわす(下痢)で、代わりにスキムミルクなどを取っている。
50代男	その他	元来、嫌いであり、飲みにくい。	70代女	その他	お腹が緩くなるから
50代男	ホワイトカラー	おなかを壊す	70代女	その他	おなかの調子が悪い
50代男	ブルーカラー	牛乳を飲みたいときに買い置きがない 冬場はお腹を壊すこともあるので、飲みにくい	70代女	その他	小学校の 給食で いやな思いをした おいしいミルクが でた
50代男	その他	下痢をしないように。	70代男	その他	飲むと必ず、下痢する
50代男	ホワイトカラー	牛乳を飲むと下痢するから	70代男	その他	飲み過ぎによるカロリーオーバーが心配なので普段は牛乳を飲みません。ただし、ヨーグルトは毎日のように摂取します。
60代女	専業主婦	牛乳を飲むとおなかを壊す	70代男	その他	価格が高くなっている
60代女	専業主婦	においが苦手	70代男	その他	ゆるくなる
60代女	専業主婦	お腹が緩くなる	70代男	その他	経済的な制約がある
60代女	その他	以前はよく牛乳を飲んでいましたが、最近はヨーグルトを食べるようになりあまり牛乳を飲まなくちゃと思わなくなった。	70代男	その他	毎日1~2合は飲むようにしたいが、費用を考えてしまう。

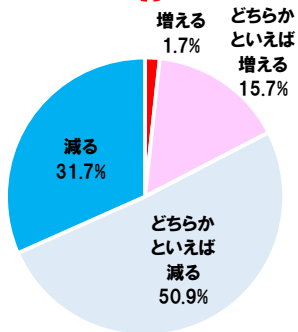
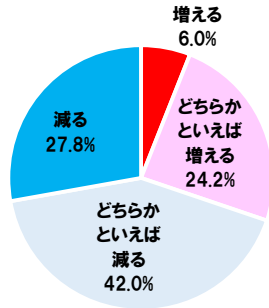
牛乳類の飲用頻度が週3回未満の50代以上の人を抱える『もっと飲みたいが飲めない事情』は、「おなかを壊す」等の体質的な理由がかなり多い。このほか、「価格が高い」等の経済的な事情や、健康上の対策として牛乳以外のものに代替する場合も散見される。

「外食」と「内食」の増減予想(単身者と50代以上／二次調査2015)

今後のあなたは、ご自分の外食(※)する機会が、
どんなふうに変化(増減)していくと思いますか。

(※外食とは自宅の外でとる食事全般を指します。例えば飲食店での食事や、職場で市販のお弁当を買って食べたり、職場で出前をとる場合なども外食とします。)

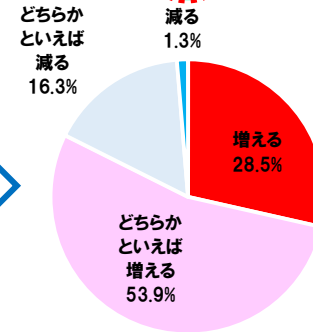
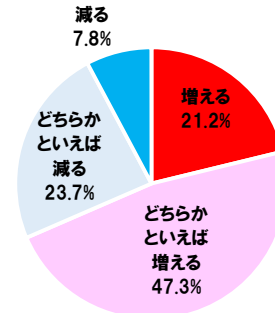
外食



今後のあなたは、ご自分の内食(※)する機会が、
どんなふうに変化(増減)していくと思いますか。

(※内食とは、自宅での朝ごはん昼ごはん晩ごはん、自宅で調理したものを食べることを指します。)

内食



単身

N=600

50+

N=600

「外食」「内食」の今後の増減は、単身者・50代以上ともに「外食は減り、内食は増える」と予想する人が多く、この傾向は50代以上のほうがより強い。

「外食増加＋内食減少」の事情(単身者の週3回未満飲用者／二次調査2015)

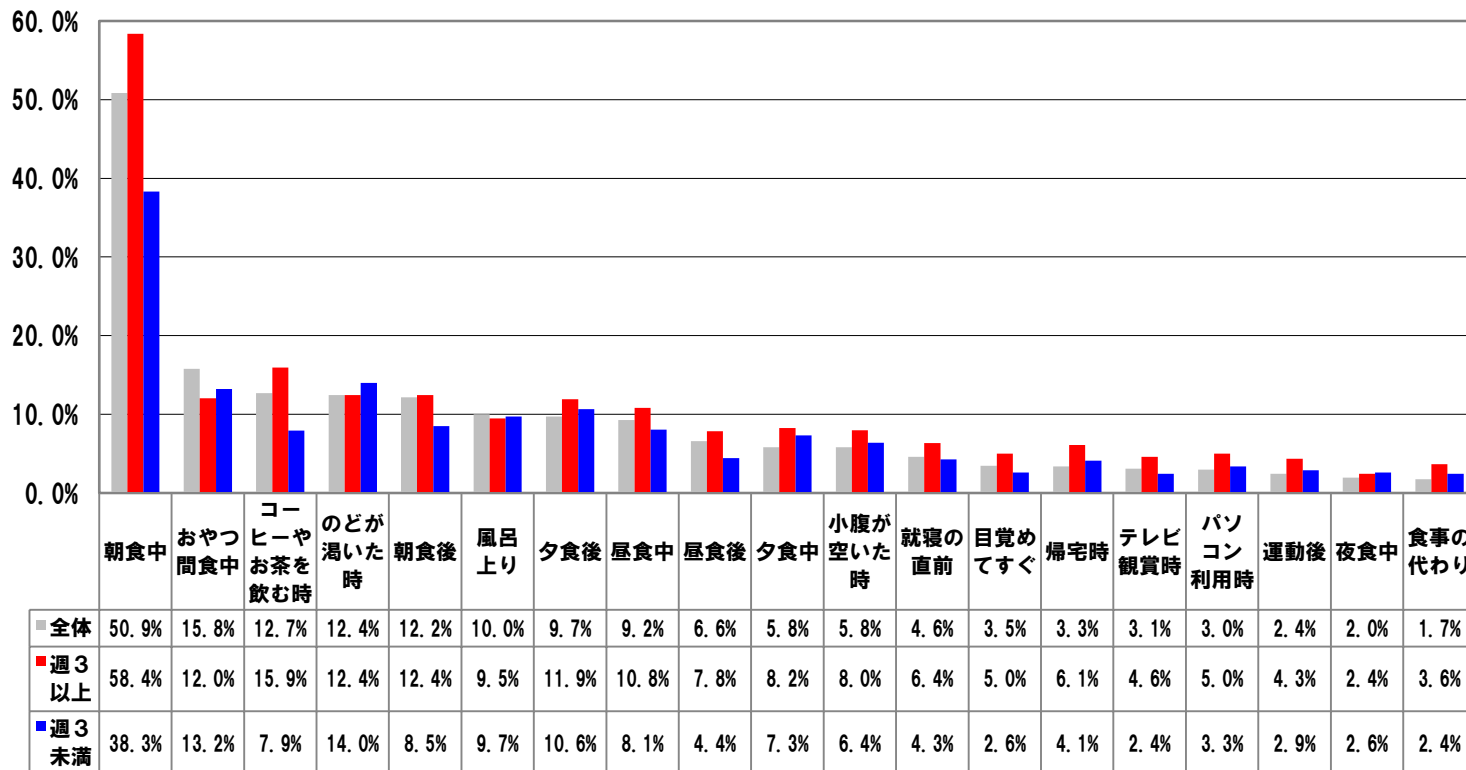
今後の外食・内食について、前問の様にお答えになった気持ちや考えをお知らせください。

10代男	学生	友人と食べることが多い	30代男	ブルーカラー	仕事が忙しく、自炊する時間がない
10代男	学生	学校生活が忙しいから	30代男	ホワイトカラー	外食でもしっかり野菜をとりたい
20代女	ブルーカラー	仕事が忙しくて作ってられないです。	30代男	ホワイトカラー	作るのが面倒
20代女	学生	人付き合いの関係で、出会いが多くなるにつれ誘われることが増えると思うから。	30代男	ブルーカラー	料理ができない
20代女	その他	自炊する時間がとれないので	30代男	ブルーカラー	一人なので食生活に気をかけていないから。
20代女	ホワイトカラー	仕事の付き合いで外食することが増えそう。	40代女	インフルエンサー	面倒がないように
20代女	インフルエンサー	外食は時間のない私にとって大切なので	40代女	ホワイトカラー	一人分作るの面倒くさいから
20代女	学生	付き合いなどで外食が増えると思う。	40代女	ホワイトカラー	便利だから
20代女	その他	作らないから	40代女	インフルエンサー	会社の接待
20代男	ホワイトカラー	仕事上外で食べるが多くなるため	40代男	ホワイトカラー	作るのが面倒
20代男	学生	自炊が面倒だから	40代男	インフルエンサー	自宅で食事を作るのは面倒
20代男	ブルーカラー	一人暮らしなので。	40代男	ホワイトカラー	一人分の食事を内食するのは不経済だから
20代男	ホワイトカラー	彼女と外食する機会が多くなる分、家で食べることは減る	40代男	ホワイトカラー	残業が多いため
30代女	ホワイトカラー	年々時間に追われる生活だから	40代男	その他	自炊するとストレスが溜まる
30代女	その他	帰って食事を作る体力が残ってないから	40代男	その他	自炊は面倒なので外食が増える
30代女	ホワイトカラー	いま、自炊する時間が減っているので外食を増やそうと思っている	40代男	ブルーカラー	自分では料理をしないから。
30代女	ホワイトカラー	作るのに時間をかけたくない。	40代男	その他	自炊しない
30代女	その他	一人分作るのが面倒だから	50代女	ホワイトカラー	ひとりだから
30代男	ホワイトカラー	時間がとれないため	50代女	ホワイトカラー	料理がにがて..
30代男	ブルーカラー	仕事が忙しいから	50代男	ホワイトカラー	外食利用が便利
30代男	ホワイトカラー	外食の方が手間がかからないので	50代男	ホワイトカラー	外食のほうが美味しくて手軽だからです。
30代男	その他	これから色々な人と付き合う可能性があるため	50代男	その他	調理する時間が無いので、外食は増える。
			60代女	その他	いろんな食事を取りたい
			60代男	ホワイトカラー	外食が楽
			60代男	その他	自分で作るのが、面倒になってきている。

牛乳類の飲用頻度が週3回未満の単身者において、外食が増え内食が減る理由としては、仕事等が「忙しい」ので家で食事を作る時間がない、内食だと「自炊が面倒」、「付き合い」で外食の機会が多い、といった意見が多く見られる。

牛乳類の飲用シーン(単身者の牛乳類飲用頻度別／2015)

普段、あなたご自身が牛乳類(※)を飲んだり利用したりする状況をお知らせください。(→単身者)

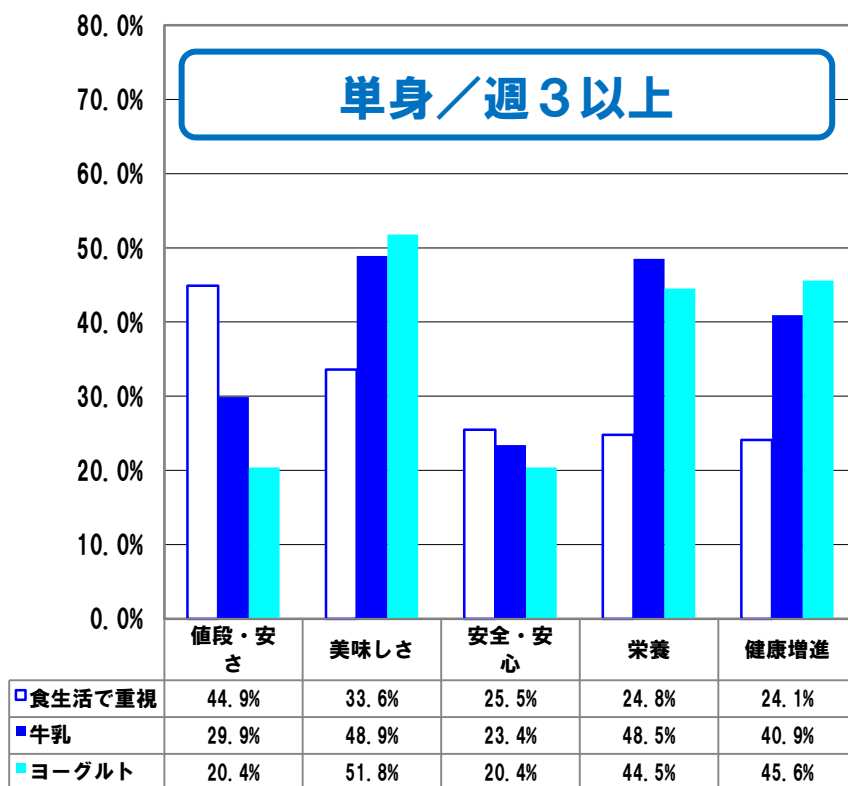


N=9000/ 740/ 658

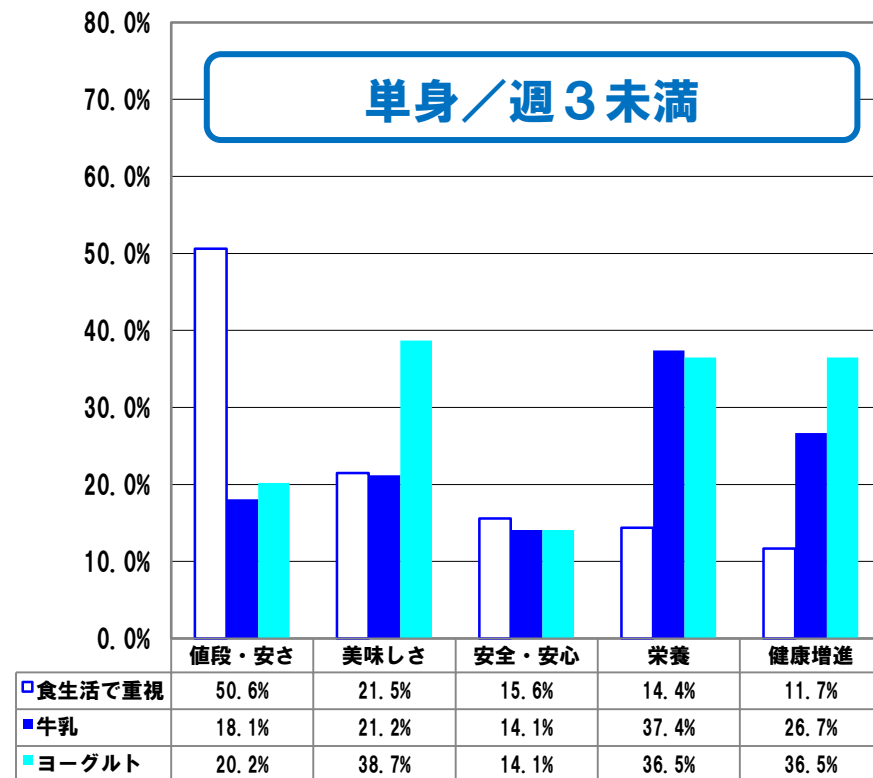
単身者の牛乳類を飲むシーンを飲用頻度別に見ると、「週3回未満」の人は「週3回以上」の人に比べ「朝食中」が約20%低く、「コーヒーやお茶を飲む時」も約8%低い。

いま現在、あなたのご自分の食生活について、実際に、重視していると思うものをお知らせください。

あなたが、「牛乳／ヨーグルト」について、あてはまると思うものをお知らせください。



N=274



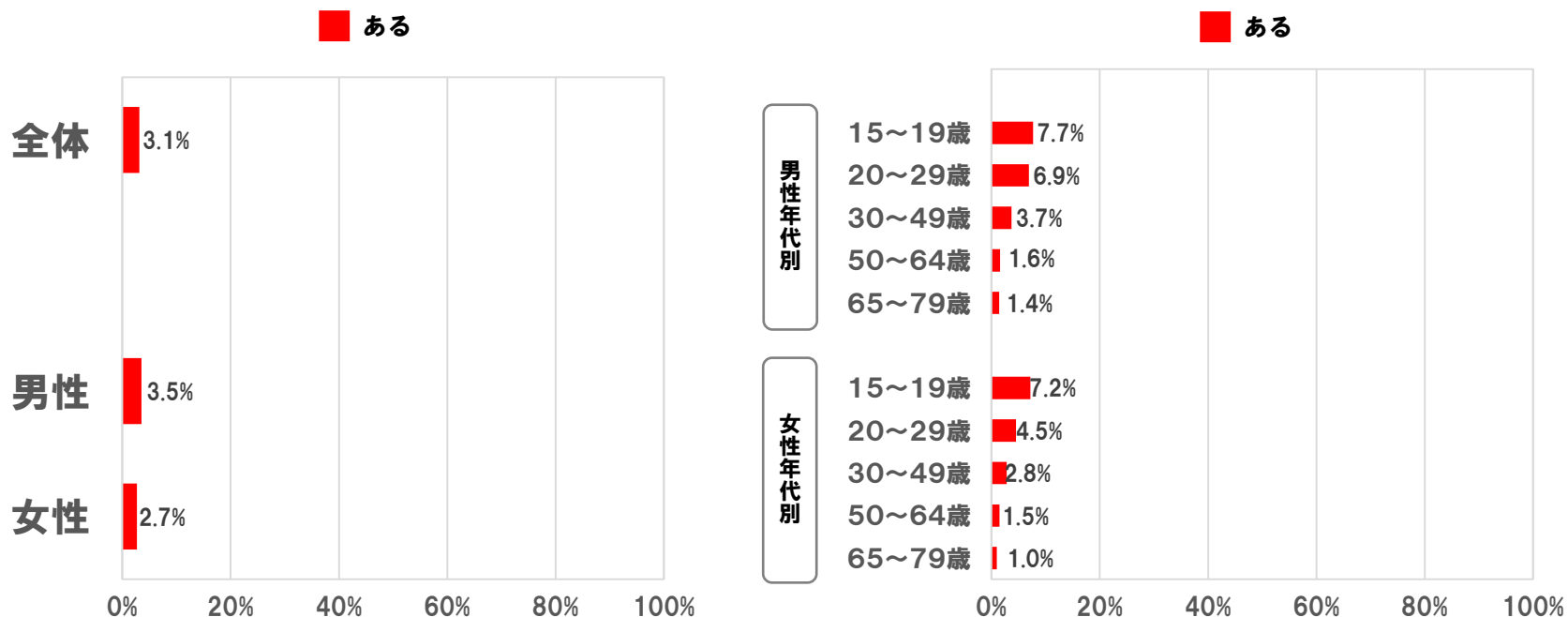
N= 326

単身者に「食生活」で重視していることについて聞くと『値段・安さ』の割合が高いが、牛乳・ヨーグルトについては『美味しさ』『栄養』『健康増進』の割合は高い。

牛乳類飲用頻度別に見ると、「週3回以上」の人では、牛乳・ヨーグルトともに、『美味しさ』『栄養』『健康増進』を重視する割合が高い。一方、「週3回未満」の人では、『美味しさ』重視の点で、牛乳がヨーグルトに比べも約18%低い。

牛乳アレルギーに関する受診歴(性年代別／2015)

あなたご自身は、牛乳のアレルギーについて、医師などに相談をしたり、診療を受けたりしたことはありますか。



N=10488/ 5282/ 5206

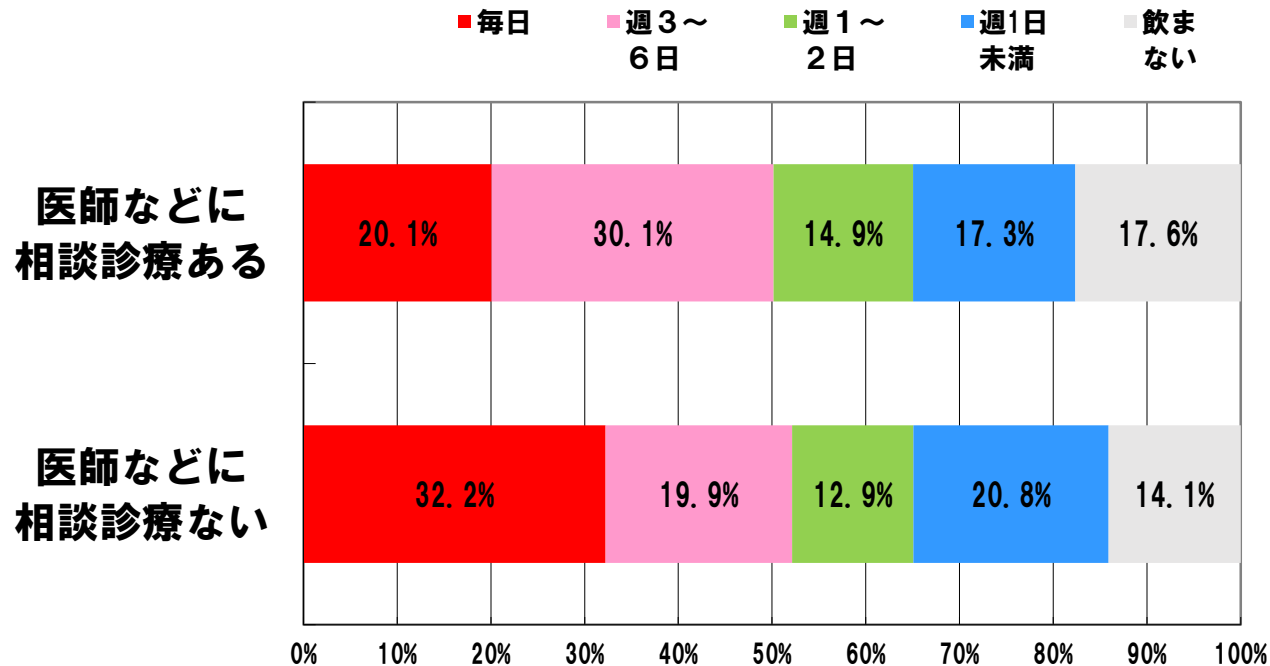
N=350/783/1970/1457/722/ /334/757/1943/1488/684

牛乳アレルギーの受診歴のある人の割合は全体の約3%で、男女ともほぼ同じ。年代別で見ると、若い年代の方が受診率は高い。男女ともに15-19歳で受診歴のある人の割合が最も高いが、それでも7%前後。最も低いのは、男女ともに65-79歳で約1%。

牛乳アレルギーに関する受診歴の有無と牛乳類飲用頻度の関係(2015)

いま現在、あなたご自身は牛乳類(※)をどれくらいの割合で飲んだり、利用していますか。

(※ ここにおける「牛乳類」は、成分無調整牛乳、成分調整牛乳、低脂肪乳、無脂肪乳、加工乳、機能強化乳飲料などの白い牛乳類を指します。コーヒーやフルーツ等が入った乳飲料は含みません。)



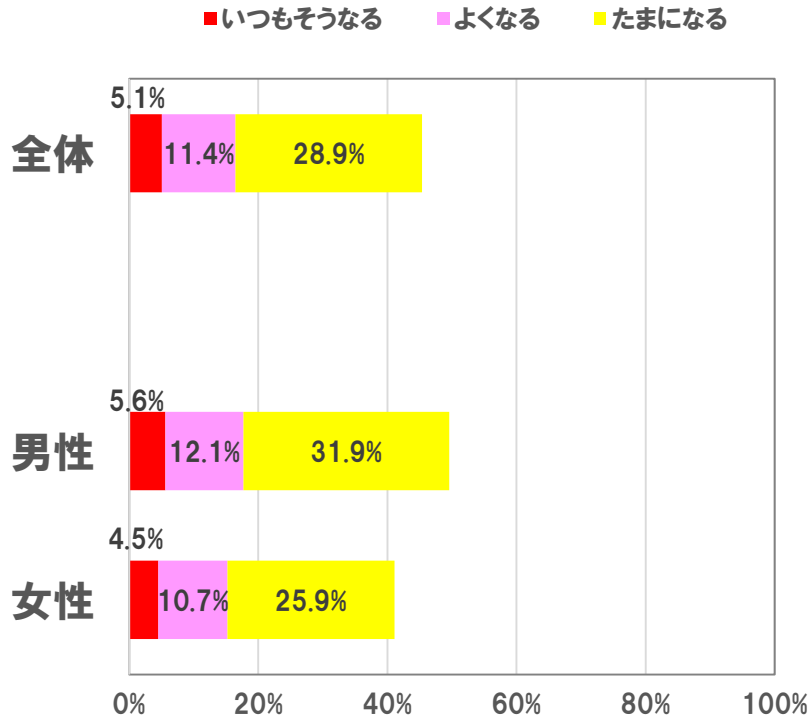
N= 329/ 10159

牛乳アレルギーの相談・受診歴がある人について、牛乳類の飲用頻度を見ると、「週3回以上」飲む人の割合は約50%。相談・受診歴のない人と大きな差はない。

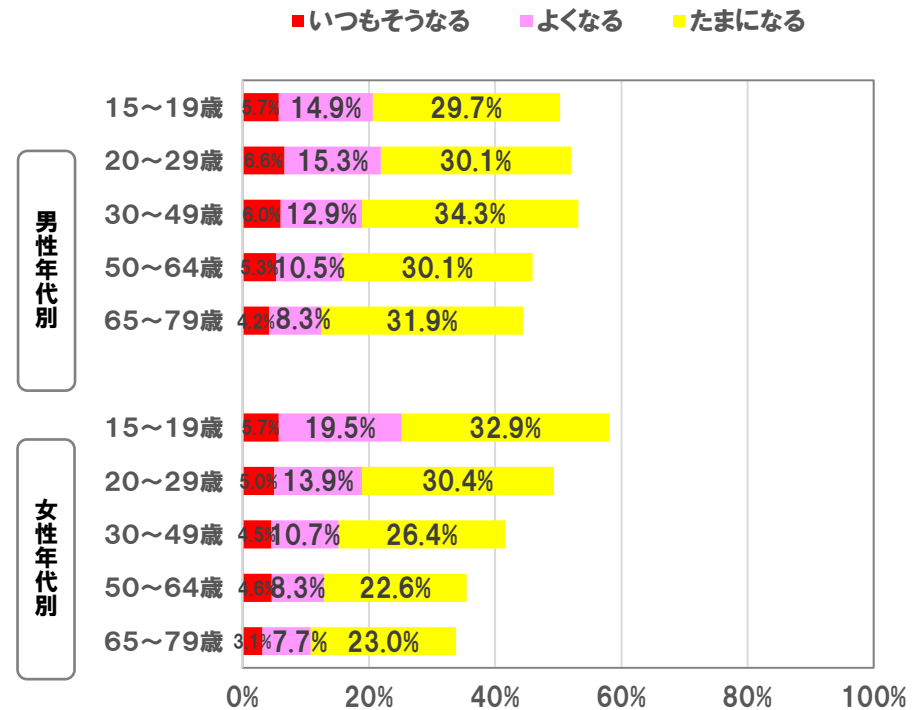
5-2. 乳糖不耐の症状について

乳糖不耐症の有無(性年代別/2015)

あなたご自身は、牛乳を飲んで、お腹などの調子が悪くなることがどれくらいありますか。



N=10488/5282/5206



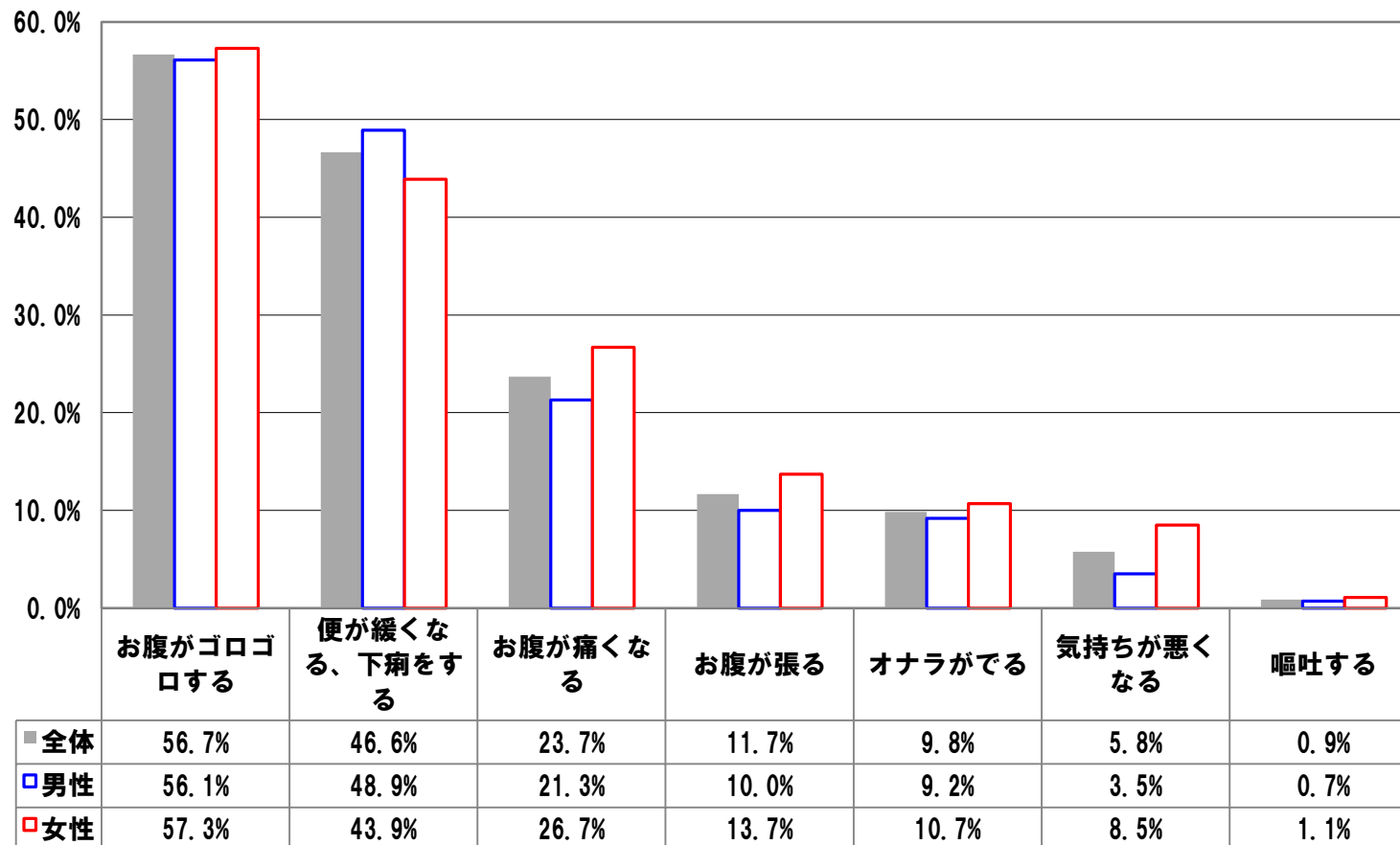
N=350/783/1970/1457/722/334/757/1943/1488/684

「牛乳を飲んでお腹などの調子が悪くなることがどれくらいあるか」を聞くと、「たまになる」人を含めて何らかの症状が出る人の割合は全体の約45%。

男女別には男性が約49%、女性の約41%で、年代別には男性が30-49歳、女性が15-19歳で最も高く、特に女性で若い年代の方が高い傾向が見られる。

乳糖不耐の症状(男女別／2015)

あなたが、牛乳を飲んだときにあらわれることがある症状をお知らせください。



乳糖不耐症のひとN=4757/ 2622/ 2135

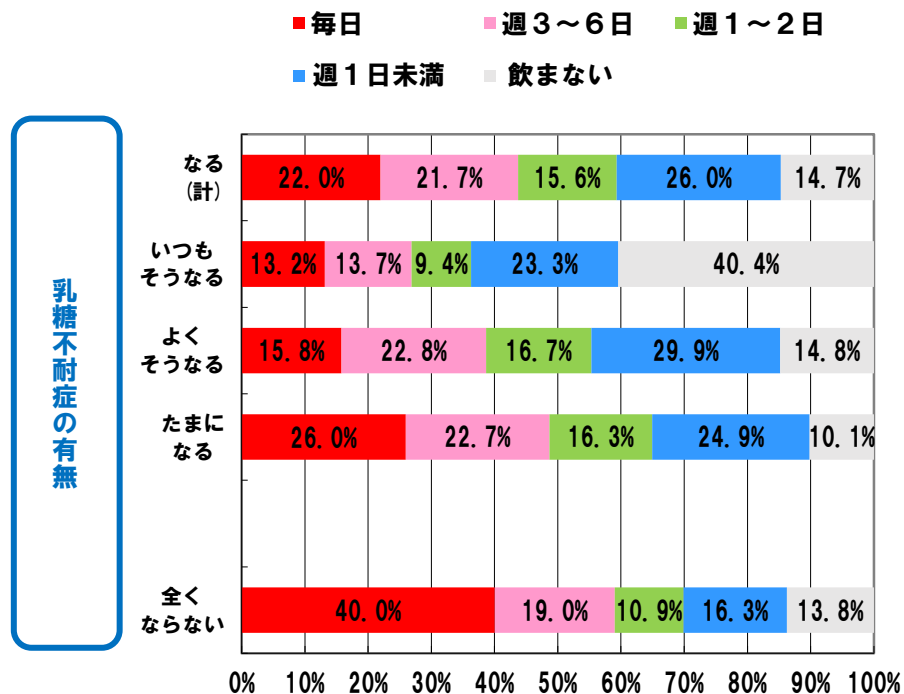
牛乳を飲んで表れる症状としては、「おなかがゴロゴロする」が約57%で最も高く、「便が緩くなる、下痢をする」が約47%で続く。

男女別には、「おなかがゴロゴロする」は男女ほぼ同じ、「便が緩くなる、下痢をする」は男性の方がやや高く、このほかの症状では女性の方が高い。

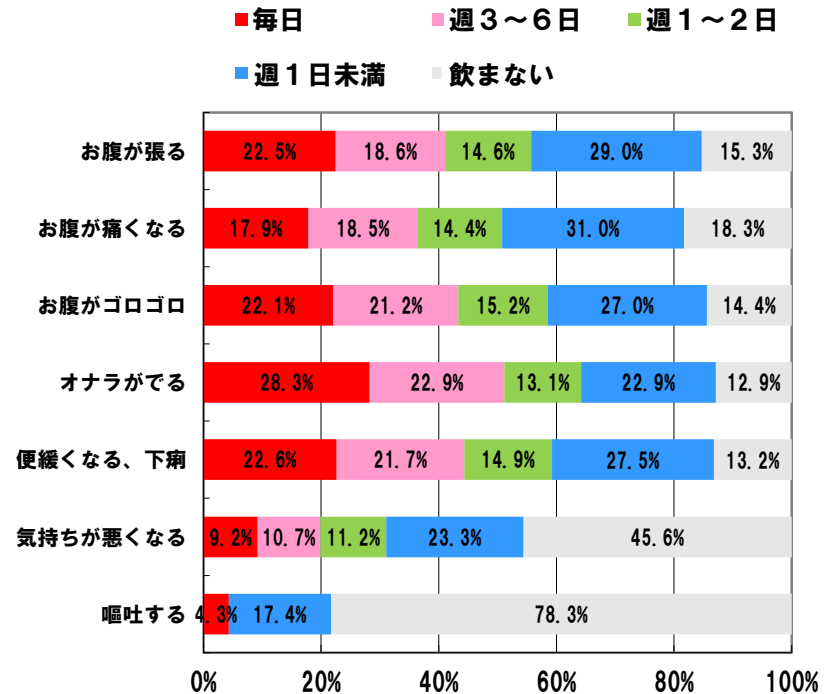
乳糖不耐症の有無や症状と牛乳類飲用頻度の関係(2015)

いま現在、あなたご自身は牛乳類(※)をどれくらいの割合で飲んだり、利用していますか。

(※ ここにおける「牛乳類」は、成分無調整牛乳、成分調整牛乳、低脂肪乳、無脂肪乳、加工乳、機能強化乳飲料などの白い牛乳類を指します。コーヒーやフルーツ等が入った乳飲料は含みません。)



N=4757/ 532/ 1195/ 3030/ / 5731



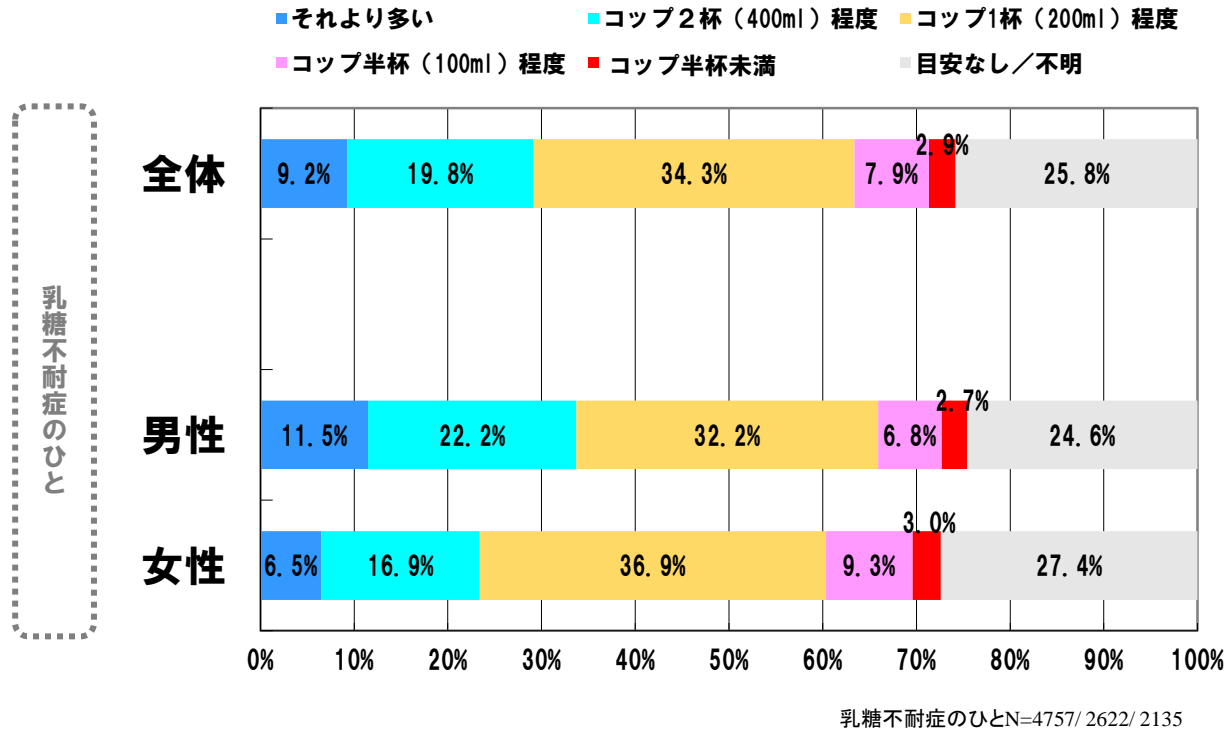
N= 431/ 924/ 2323/ 350/ 1968/ 206/ 23

乳糖不耐の発症頻度と牛乳類飲用頻度の関係を見ると、症状がよく表れる人ほど飲用頻度は低い傾向が見られる。なお、「いつも乳糖不耐の症状が表れる」人の場合でも週3回以上牛乳を飲んでいる人が約27%いる。

また、具体的な症状と牛乳類飲用頻度の関係では、「オナラがでる」「おなかが張る」などの比較的軽い症状の人は、他の症状の人より、飲用頻度がやや高い。

乳糖不耐の症状が現れる量(男女別／2015)

あなたが牛乳を飲んで、お腹などの調子が悪くなるという牛乳の量的な目安をお知らせください。

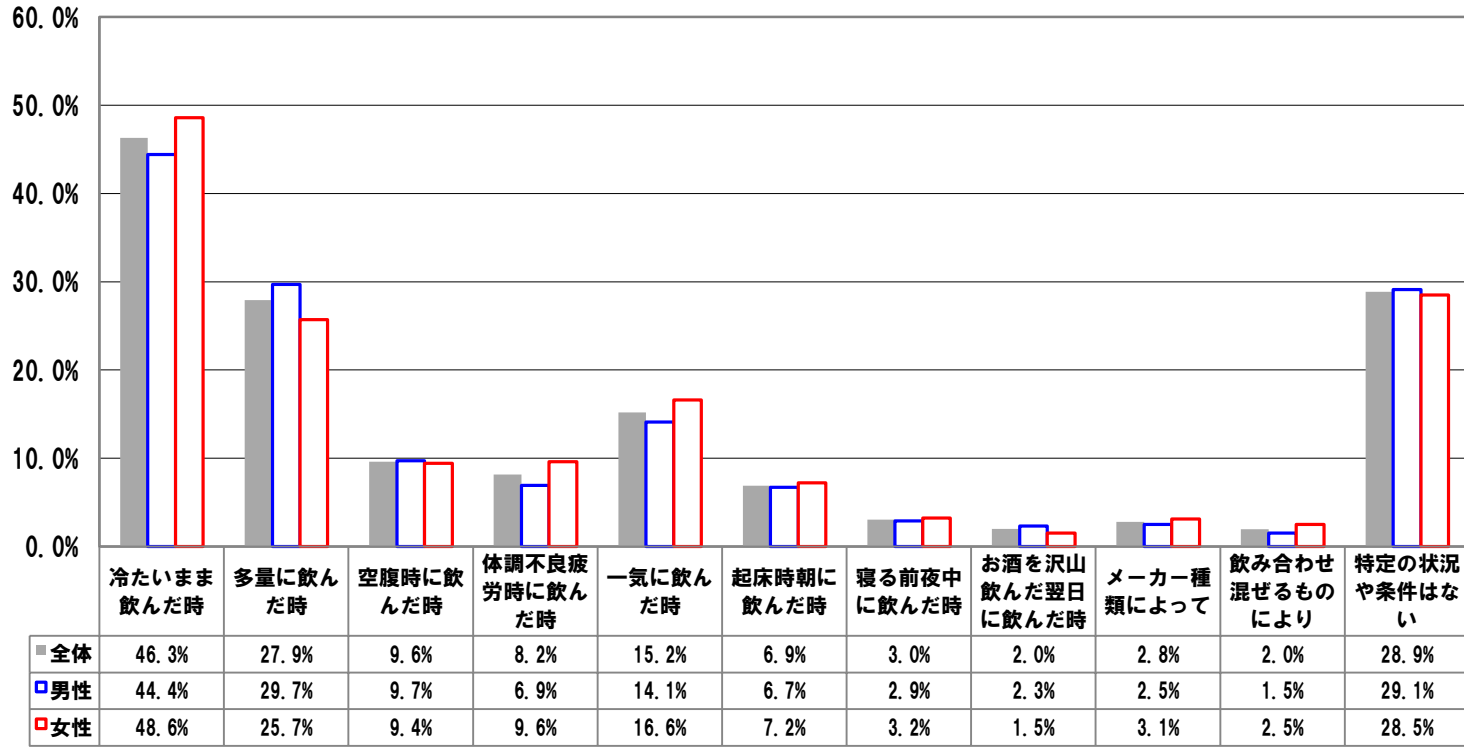


牛乳をどれくらい飲むと乳糖不耐の症状が表れるか聞いたところ、「コップ2杯程度」以上と答えた人の割合は約29%、「コップ1杯程度」以下は約45%。

男女別には、「コップ1杯程度」以下は、女性が約49%、男性の約42%で、「コップ2杯程度」以上は、女性が約23%で男性の約34%よりやや低い。

乳糖不耐の症状が現れやすくなる状況(男女別／2015)

あなたは牛乳を飲むと、お腹などの調子が悪くなることがあるとのことですが、何か、
 こういふときに牛乳を飲むとそうなりやすいといった、特定の状況や条件はありますか。



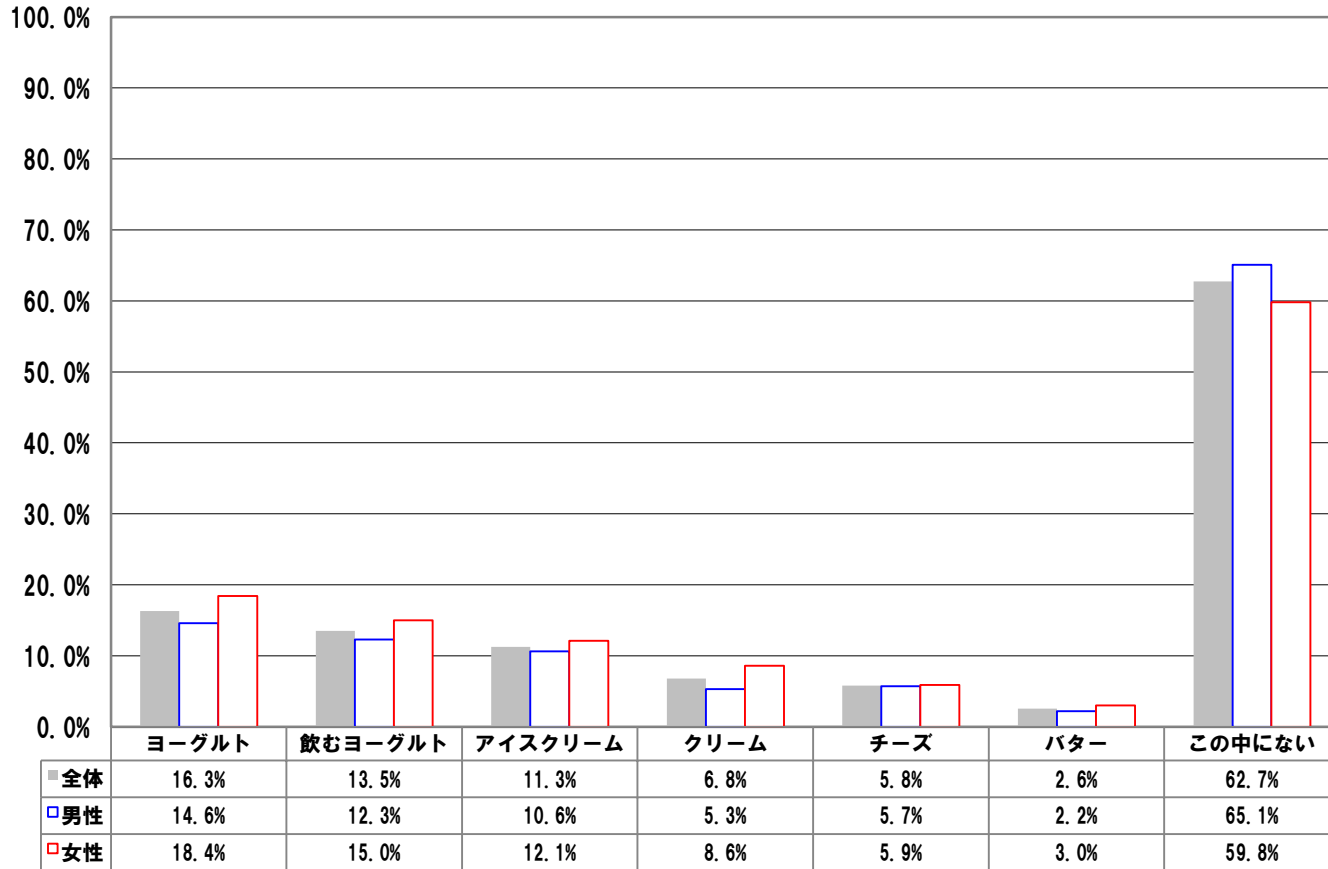
乳糖不耐症のひとN=4757/ 2622/ 2135

乳糖不耐の症状が出やすい状況や条件を聞いたところ、「冷たいまま飲んだ時」と回答した人の割合が全体の約46%で最も高く、次いで「多量に飲んだ時」が約28%、「一気に飲んだ時」が約15%と続く。

男女別には、「冷たいまま」「一気に」は女性の方が高く、「多量に」は男性が一方、「特定の状況・条件はない」という回答も男女ともに約29%で高い。

牛乳以外の乳製品を食べた時の症状有無(男女別/2015)

あなたは牛乳以外の乳製品を食べた時にも、お腹などの調子が悪くなることがありますか。



乳糖不耐症のひとNN=4757/2622/2135

牛乳以外にどんな乳製品を食べたり飲んだりしたときに乳糖不耐に症状が出るかどうかを具体名をあげて聞いたところ、約63%の人に該当の乳製品はない。なお、乳製品のなかでは、「ヨーグルト」の割合が約16%で最も高い。

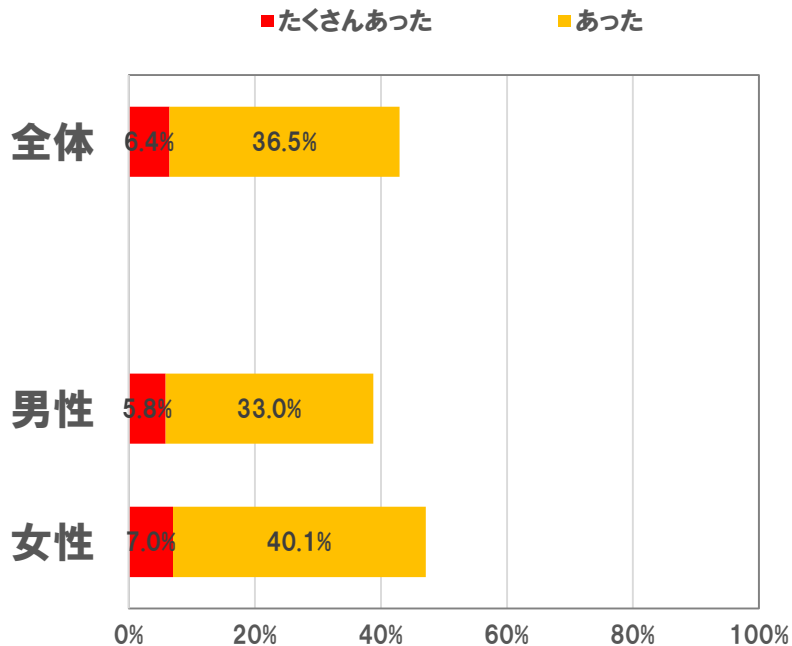
6. 2015年の酪農乳業トピック関連

6-1. 「牛乳値上げ」について

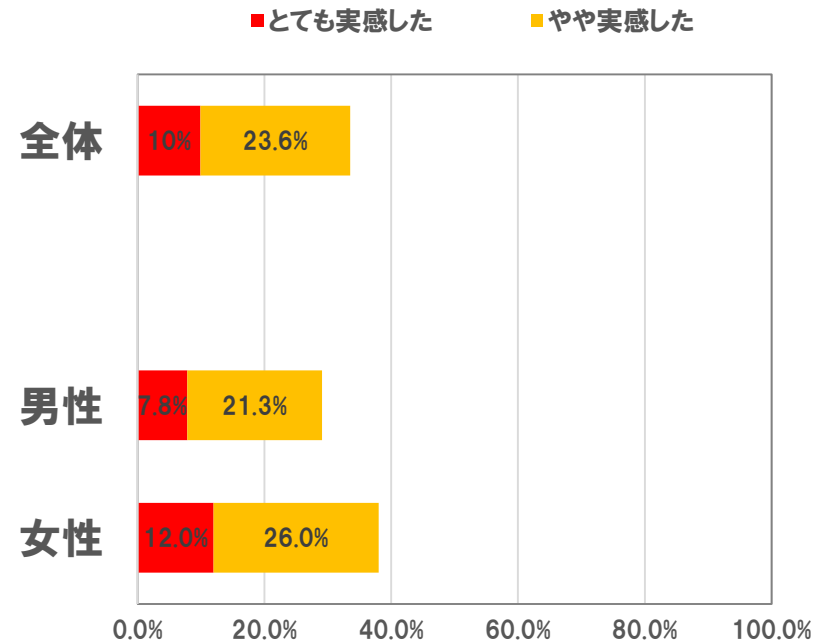
「牛乳値上げ」の話題接触と実感(男女別/2015)

この1年で、あなたは「牛乳の値上げ」に関する話題に触れたことがありましたか。

「牛乳の値上げ」に関する話題に触れたあなたは、ただ話を聞いただけでなく、実際に店頭などで牛乳の値上げを実感しましたか。



N=10488/ 5282/ 5206

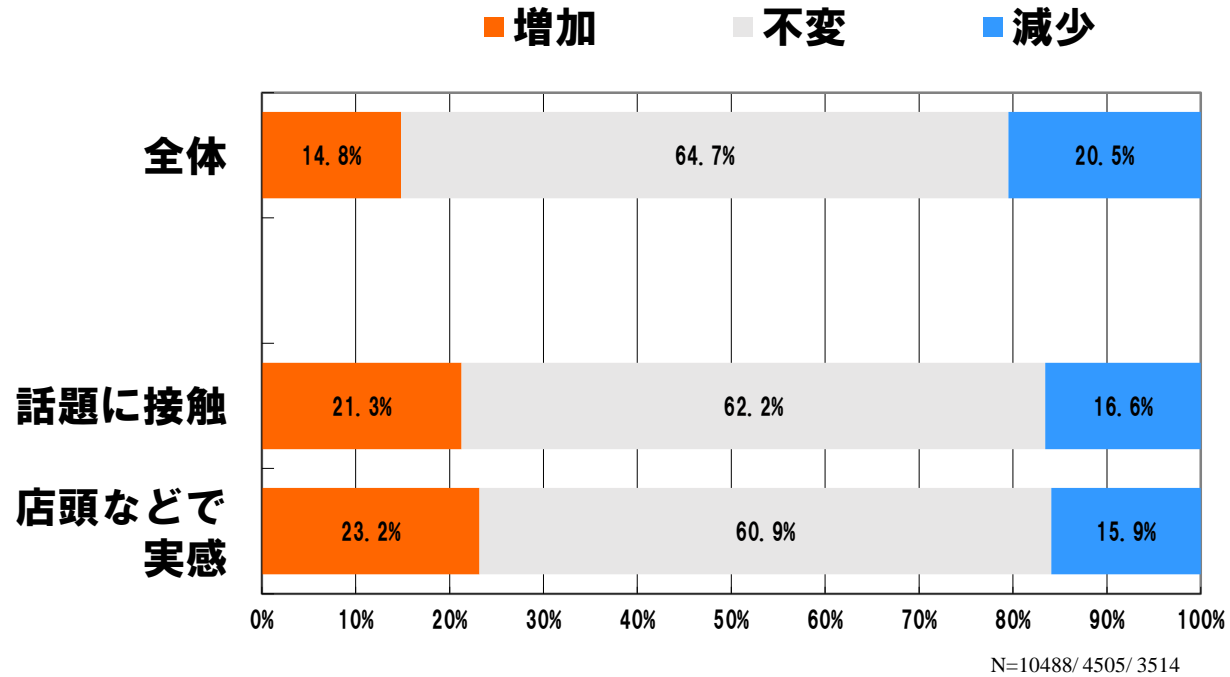


N=10488/ 5282/ 5206

2015年春に牛乳類が値上げされたが、値上げの「話題に触れたことがある」人の割合は全体の43%、店頭などで「値上げを実感した」人の割合は全体の34%。男女別には、どちらも女性のほうが男性よりやや高い。

「牛乳値上げ」の話題接触・実感と飲用増減の関係(2015)

最近のあなた自身が、「牛乳」を飲む量や回数は、今現在、増えたり減ったりしていますか。

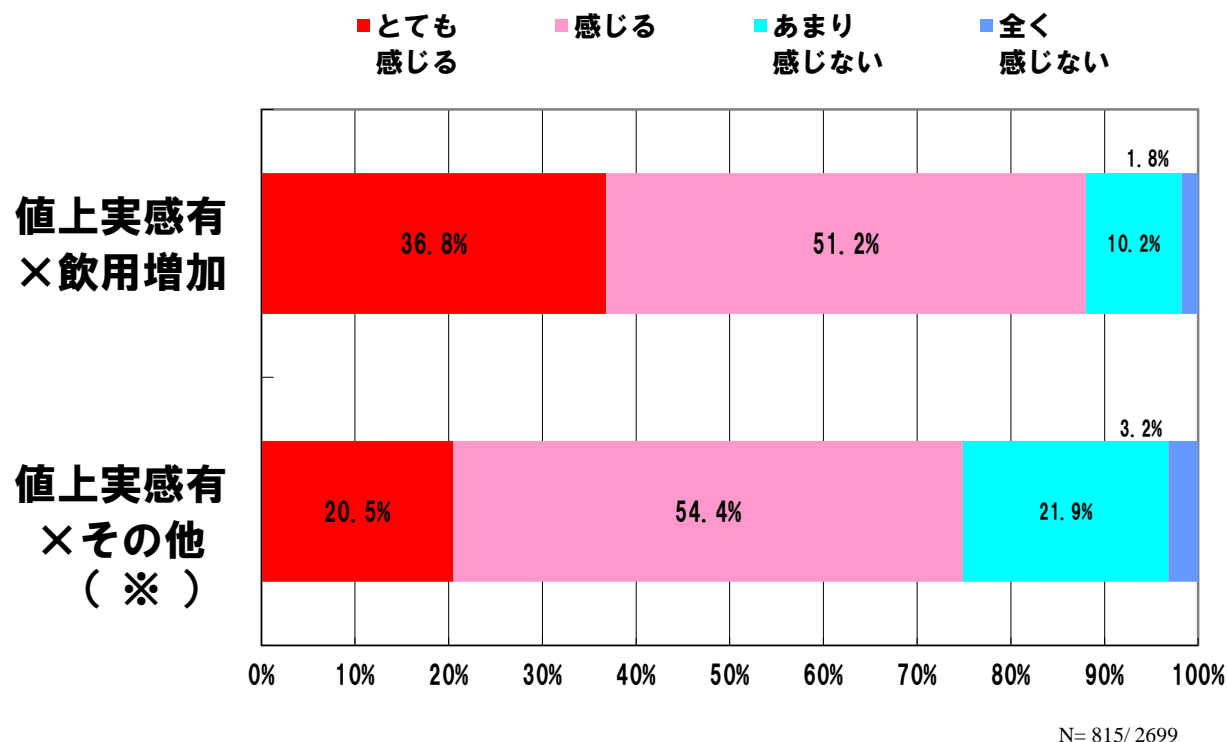


「牛乳値上げ」について

「牛乳値上げ」の話題接触・実感と飲用増減の関係を見ると、話題に触れたり値上げを実感した人の方が、牛乳を飲む量や回数を増やした割合が高く、減らした割合が低い。

「牛乳値上げ実感×飲用増加」の酪農家への共感(2015)

乳牛を飼い、牛乳を生産する「酪農家」に対して、あなたは「誠実さの印象／親しみ／感謝」といった「共感」の気持ちをどれくらい感じますか。

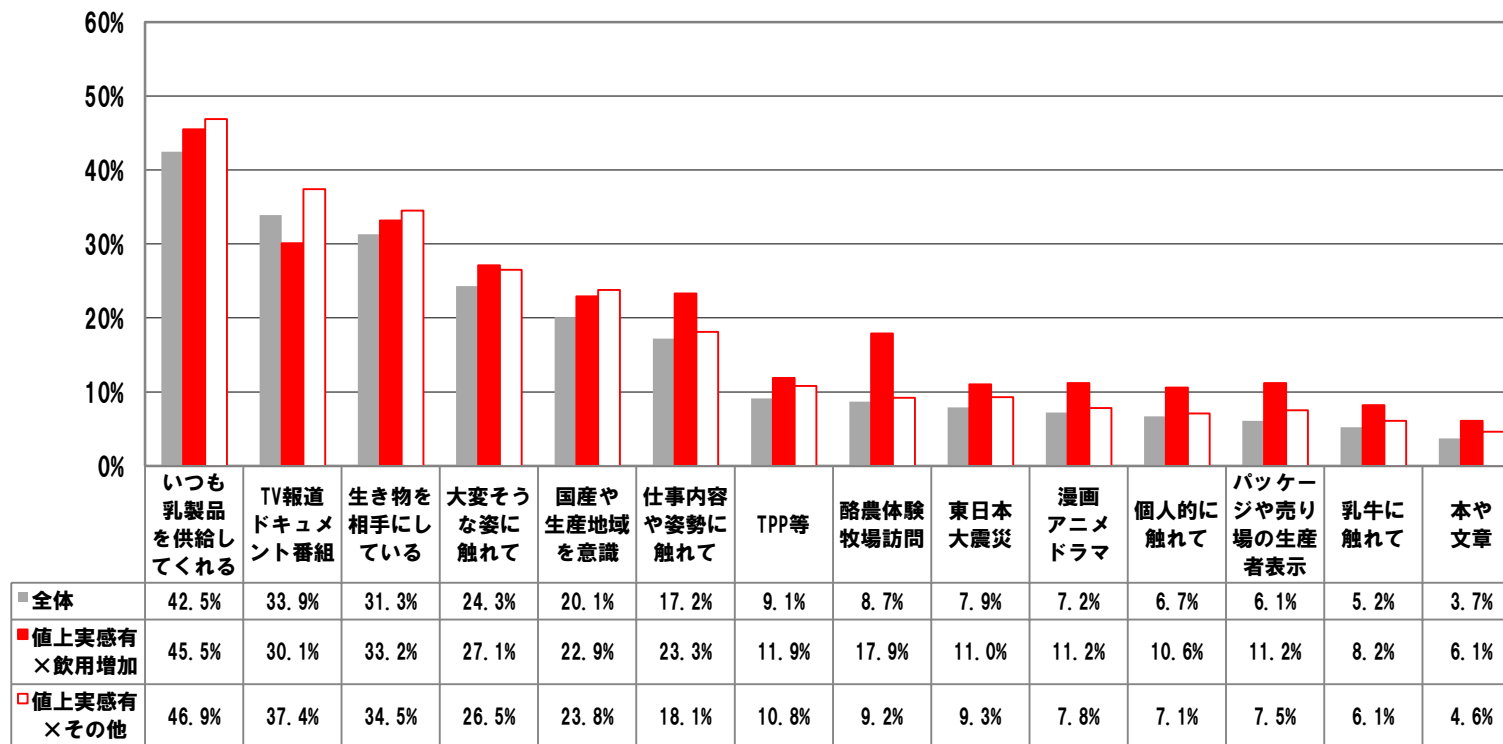


※ここでの「その他」とは、牛乳飲用が増えていない(変わらない、または、減少)状態の人を表す。130ページまで同様。

「牛乳値上げ」を実感した人について、その「飲用変化」と「酪農家への共感意識」との関係を見ると、「牛乳値上げ」を実感したにも関わらず牛乳飲用が「増えた」人の場合、そうでない人と比べ、酪農家へ共感を感じる割合が高い。

「牛乳値上げ実感×飲用増加」の酪農家への共感きっかけ(2015)

あなたが、乳牛を飼い、牛乳を生産する「酪農家」に対して、「誠実さの印象／親しみ／感謝」といった「共感」の気持ちを感じるようになったきっかけや理由をお知らせください。



共感者N=6767/717/2021

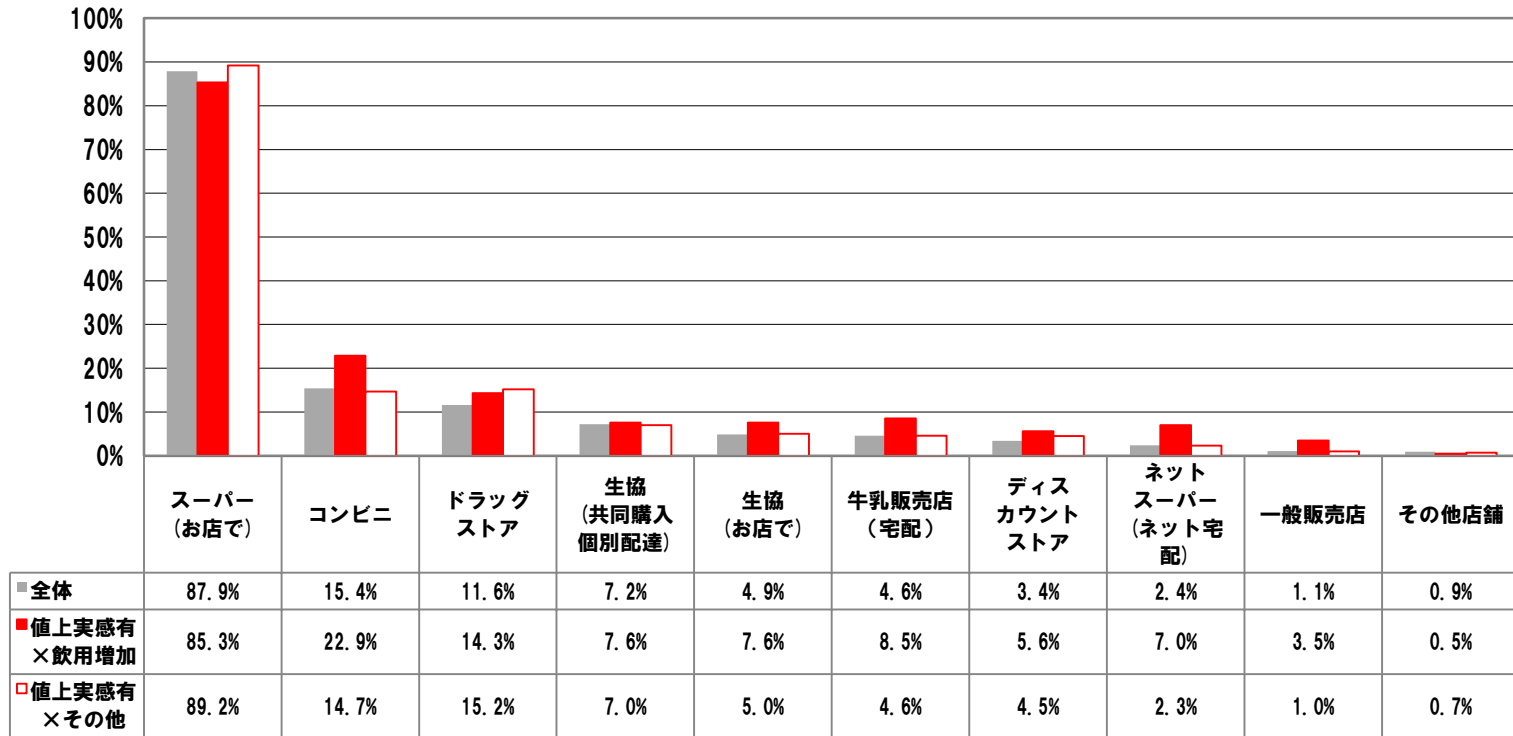
「牛乳値上げ」を実感した人について、その「飲用変化」と「酪農家に共感を持ったのきっかけ・理由」の関係を見ると、牛乳飲用が「増えた」人は「増えていない」人に比べて、「仕事内容や姿勢に触れて」「酪農体験・牧場訪問」の割合が高い。

一方、牛乳飲用が「増えてない」人は「増えた」人より「TV報道・ドキュメント番組」の割合がやや高い。

「牛乳値上げ実感×飲用増加」の牛乳類購入場所(2015)

あなたが牛乳類(※)を購入する際に、この一ヶ月で利用したことがある購入場所をお知らせください。

(※ ここにおける「牛乳類」は、成分無調整牛乳、成分調整牛乳、低脂肪乳、無脂肪乳、加工乳、機能強化乳飲料などの白い牛乳類を指します。コーヒーやフルーツ等が入った乳飲料は含みません。)



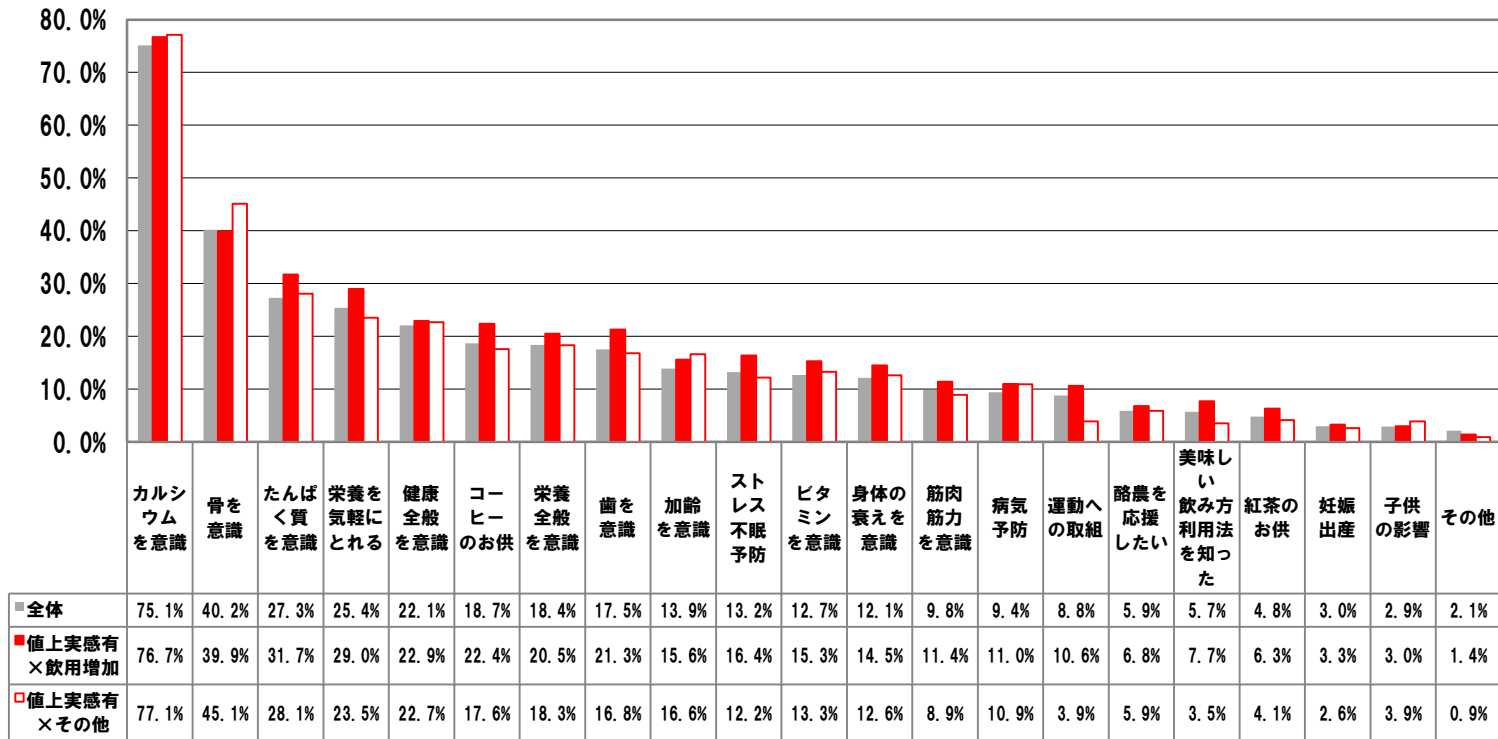
購入者N=8082/789/2415

「牛乳値上げ」を実感した人について、その「飲用変化」と「牛乳類購入場所」の関係を見ると、牛乳飲用が「増えた」人は、「増えていない」人に比べて「コンビニエンスストア」で購入する割合がやや高い。

割合は小さいが、「牛乳販売店(宅配)」や「ネットスーパー(ネット宅配)」でも同様の傾向が見られる。

「牛乳値上げ実感×飲用増加」の牛乳を大切に思う気持ちが強くなった理由(2015)

あなたが「牛乳」のことを、「自分自身にとって、なくてはならない大切な食べ物(飲み物)である」と思う気持ちが、この1年で、強くなったのは、どんな理由や事情からだと思いますか。



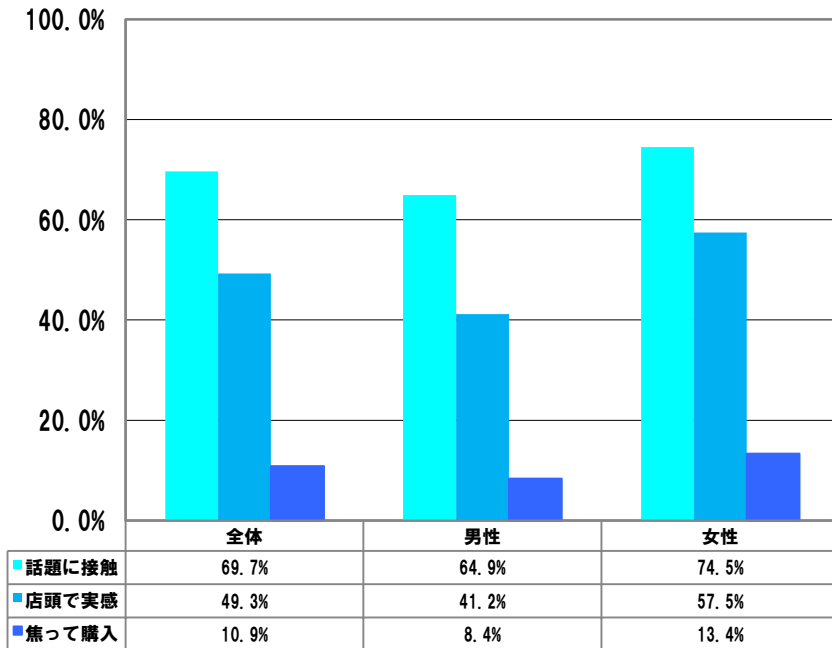
牛乳大切意識が強まった人N=2095/ 634/ 459

「牛乳値上げ」を実感した人について、その「飲用変化」と「牛乳を大切に思う気持ちが強まった人の理由・事情」の関係を見ると、牛乳飲用が「増えた」人は「増えていない」人に比べて「栄養を気軽にとれる」「コーヒーのお供」「歯を意識」「運動への取組」の項目でやや高い。

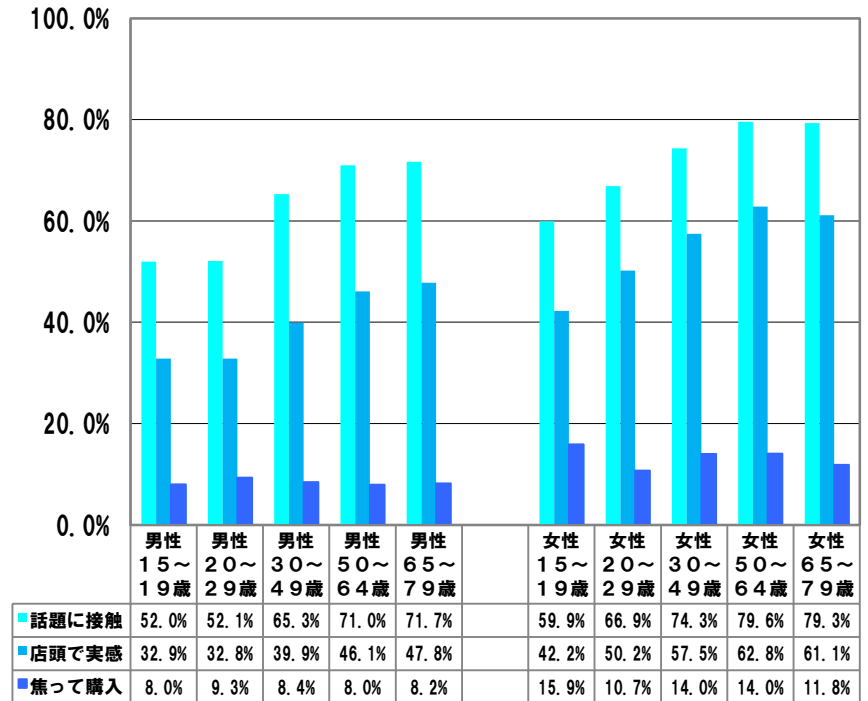
6-2. 「バター不足」について

この1年で、あなたは「バター不足」に関する話題に触れたことがありますか。

あなたは実際に店頭などでバター不足を実感したり、バターを焦って購入したりしましたか。



N=10488/ 5282/ 5206



N=350/783/1970/1457/722/334/757/1943/1488/684

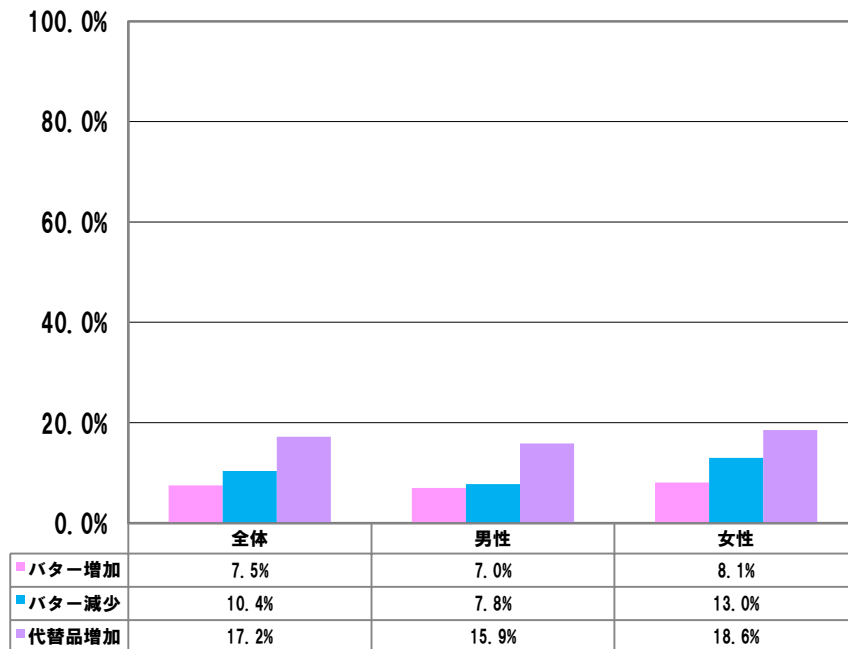
近年、生乳生産量の減少等によるバター不足が報道される中、バター不足の「話題に触れた」人の割合は全体の約70%、「店頭などで実感した」人は約50%、「バターを焦って購入した」人は約10%であった。

男女別には、いずれの項目でも女性の割合の方が男性より高い。年代別には、「話題に触れた」「店頭等で実感した」人の割合は男女とも年代が上がるほど高い傾向があるが、「焦って購入した」人は男女それぞれで大きな差は見られない。

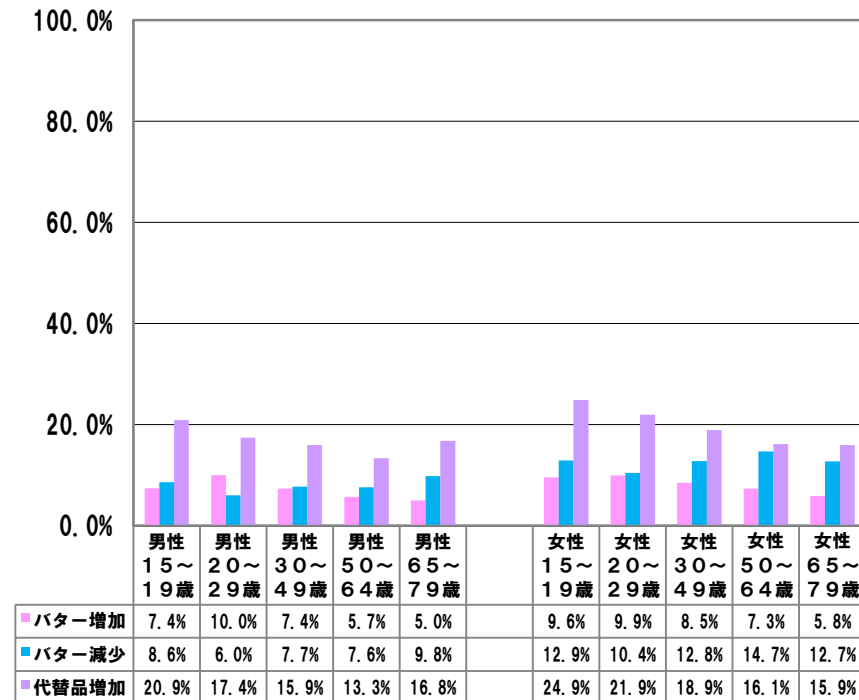
「バター不足」の話題に触れて起きたバター関連の変化(性年代別／2015)

「バター不足」に関する話題に触れて、あなたはバターの購入・利用の割合が変化しましたか。

「バター不足」に関する話題に触れて、あなたはバターの代替品(マーガリンなど)の購入・利用が増えましたか。



N=10488/ 5282/ 5206

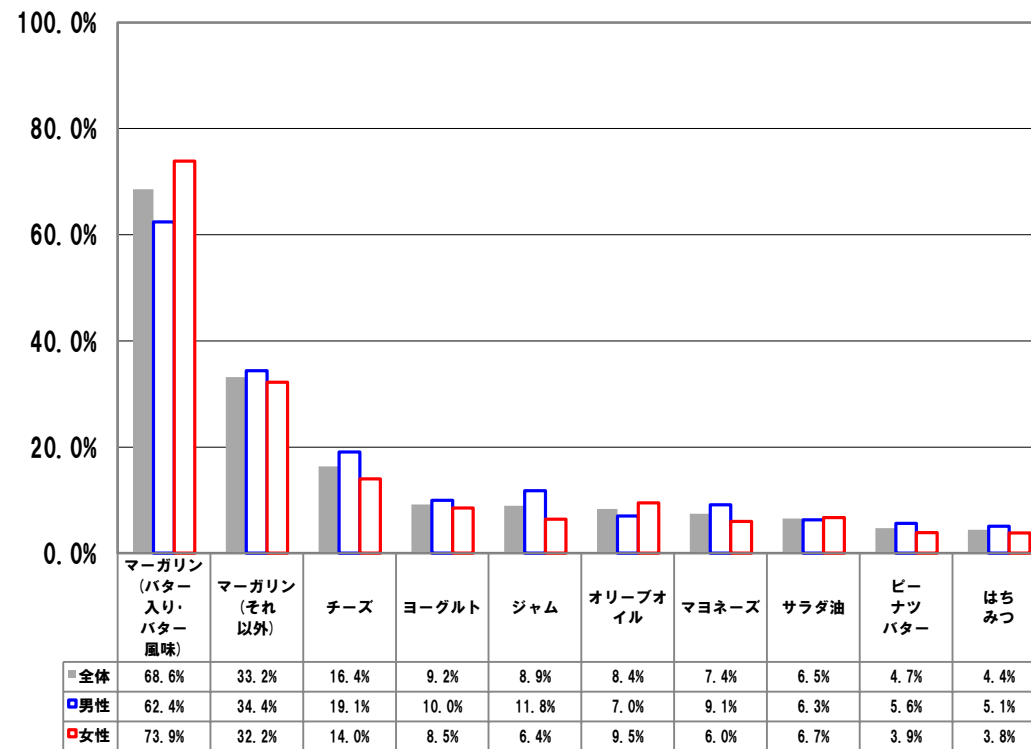


N=350/783/1970/1457/722/334/757/1943/1488/684

「バター不足」に伴うバター需要(購入・利用)の変化や代替品需要について見ると、バター需要が「減った」人は全体の約10%で、「増えた」人の約8%を上回る。代替品が「増えた」人は約17%で、バター需要の減少分を上回っている。

男女別には、バター需要は女性で減少傾向がやや強く、代替品需要も若い年代を中心に女性の方が高い。

あなたが「バター不足」に関する話題に触れて、購入・利用が増えた、バターの代替品をお知らせください。



「バター不足」に触れてバターの代替品購入・利用が増えたひとN=1804/ 838/ 966

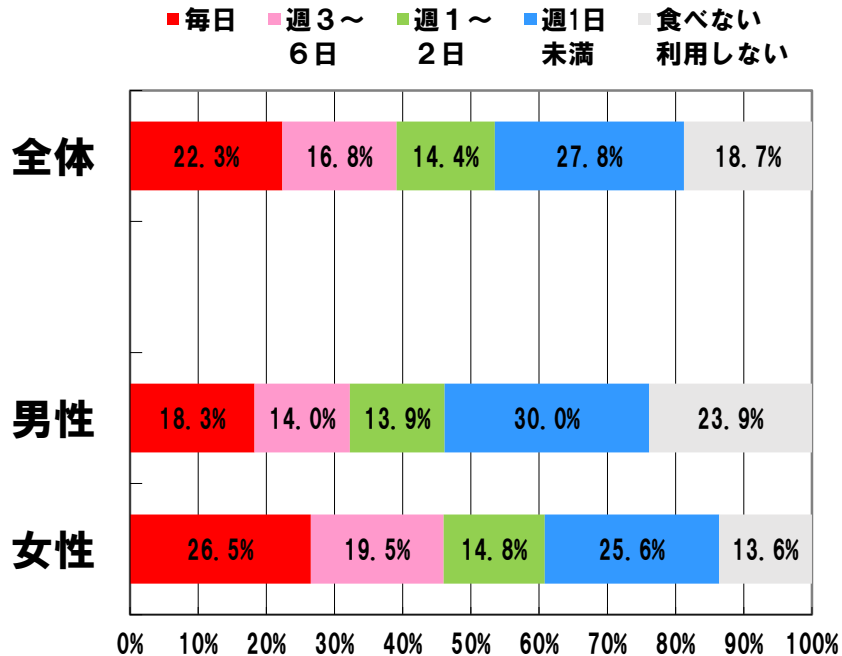
バターの代替品を具体的に見ると、「マーガリン」が圧倒的に多く、特に、「“バター入り・バター風味”のマーガリン」が約69%で高く、次いで「“バター入り・バター風味以外”のマーガリン」が高く約33%。これらに続くのが、チーズの約16%。

男女の違いとしては、女性の方が「“バター入り・バター風味”のマーガリン」の割合が男性より10%以上高く、一方、「チーズ」や「ジャム」の割合は男性が女性よりやや高い。

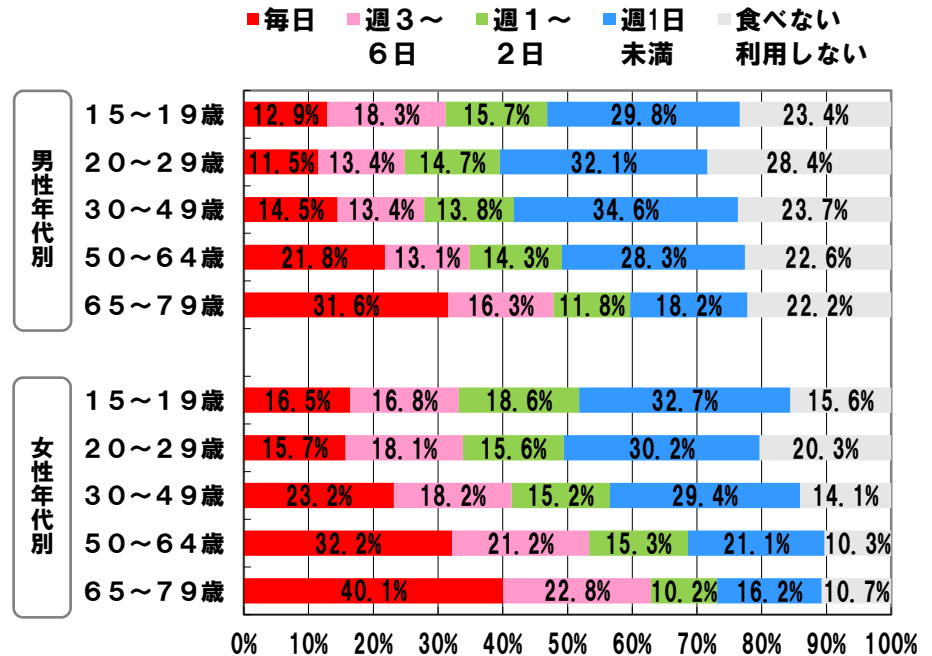
6-3. ヨーグルト(食べるタイプ)の利用状況

ヨーグルトの利用頻度(性年代別／2015)

いま現在、あなたご自身は、(食べる)ヨーグルトをどれくらいの割合で食べたり、利用したりしていますか。



N=10488/ 5282/ 5206



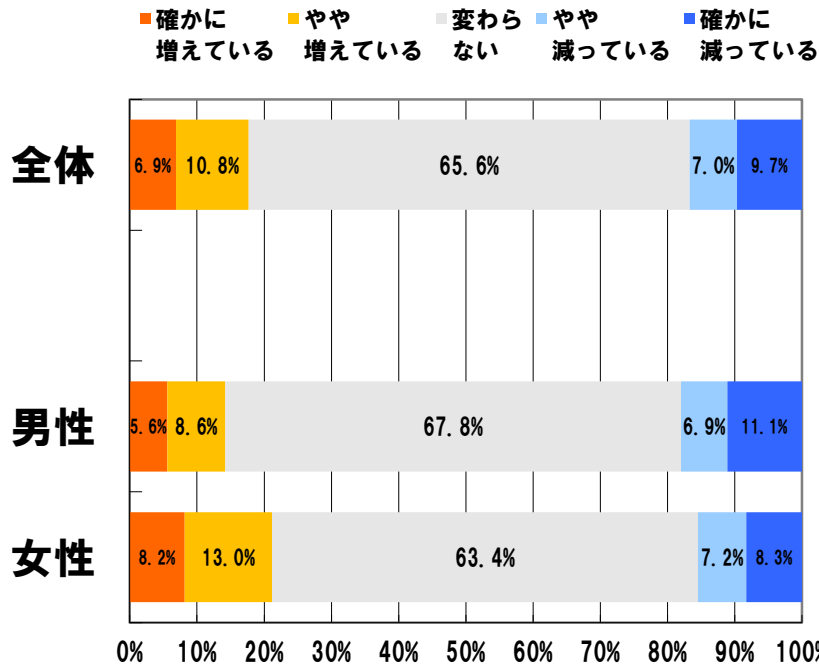
N=350/783/1970/1457/722/ /334/757/1943/1488/684

近年、需要が伸びているヨーグルト(食べるタイプ)の利用頻度は、女性が男性より多く、また、年代が上がるほど多い傾向が顕著である。

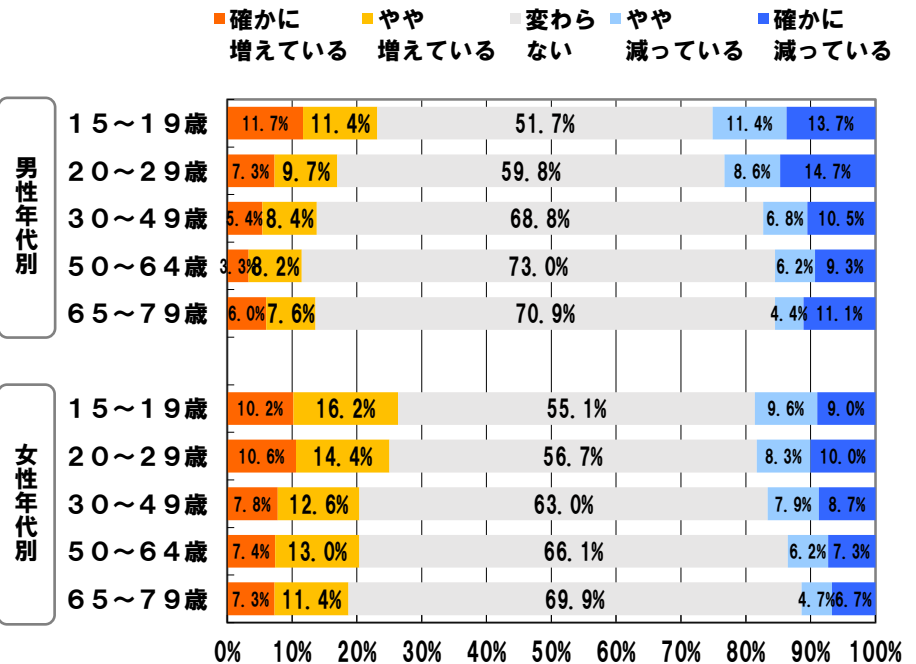
利用頻度が多い「週3回以上」の人の割合は、男女ともに65-79歳が最も高く、20-29歳が最も低い。

ヨーグルトの利用増減(性年代別／2015)

最近のあなた自身が、(食べる)ヨーグルトをとる量や回数は、今現在、増えたり減ったりしていますか。



N=10488/ 5282/ 5206



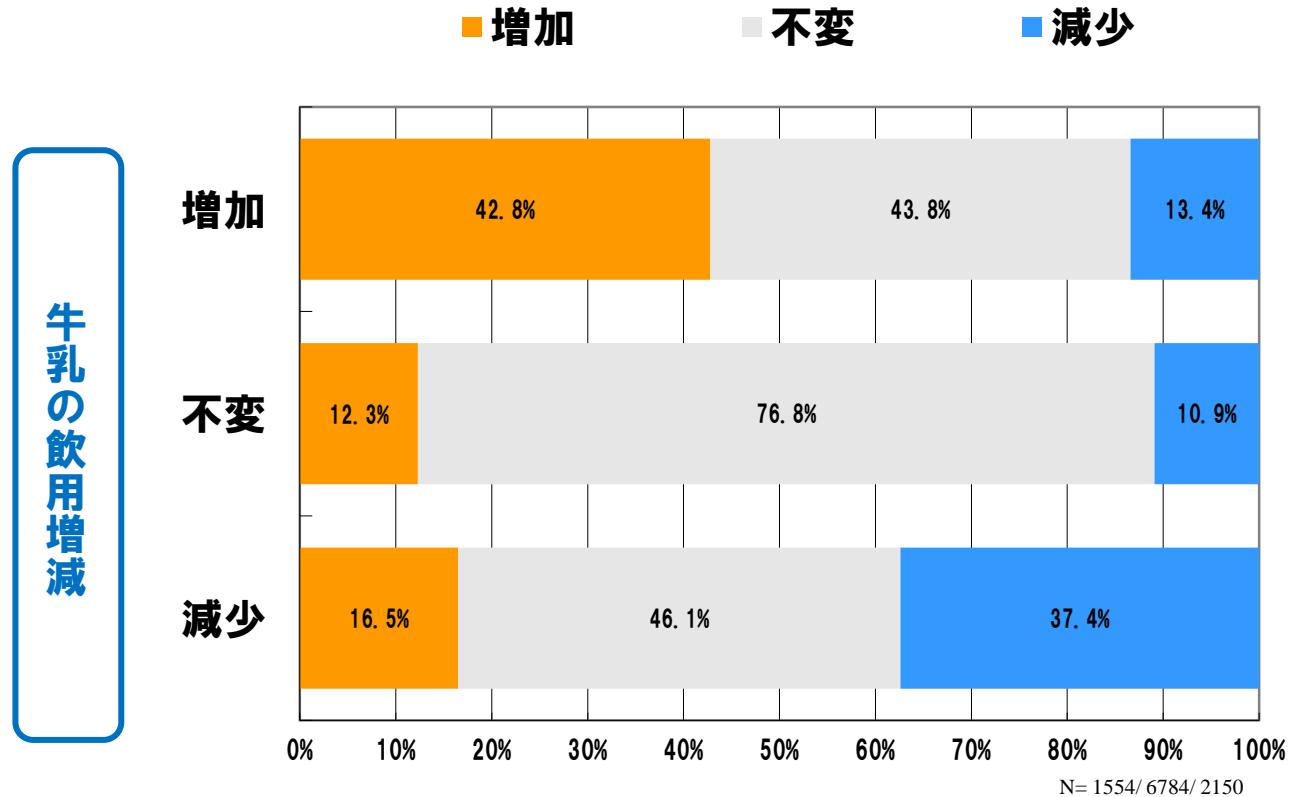
N=350/783/1970/1457/722/ /334/757/1943/1488/684

ヨーグルト(食べるタイプ)の利用頻度の増減は、「増えている」人が全体の約18%、「減っている」人が約17%であるが、男女別に見ると、男性は「減っている」人の割合のほうが高く、逆に、女性は「増えている」人の割合の方が高い。

また、男女ともに若い年代ほど「増えている」および「減っている」人の割合が何れも高く、若い年代においてヨーグルト利用の志向が変化することが示唆されている。

牛乳類の飲用増減と、ヨーグルトの利用増減の関係(2015)

最近のあなた自身が、(食べる)ヨーグルトをとる量や回数は、今現在、増えたり減ったりしていますか。



牛乳類の飲用頻度の変化とヨーグルト(食べるタイプ)の利用頻度の変化の関係を見ると、「牛乳飲用が増えた」人はヨーグルト利用を増やす割合が高く、「牛乳飲用が減った」人はヨーグルト利用も減る割合が高い。

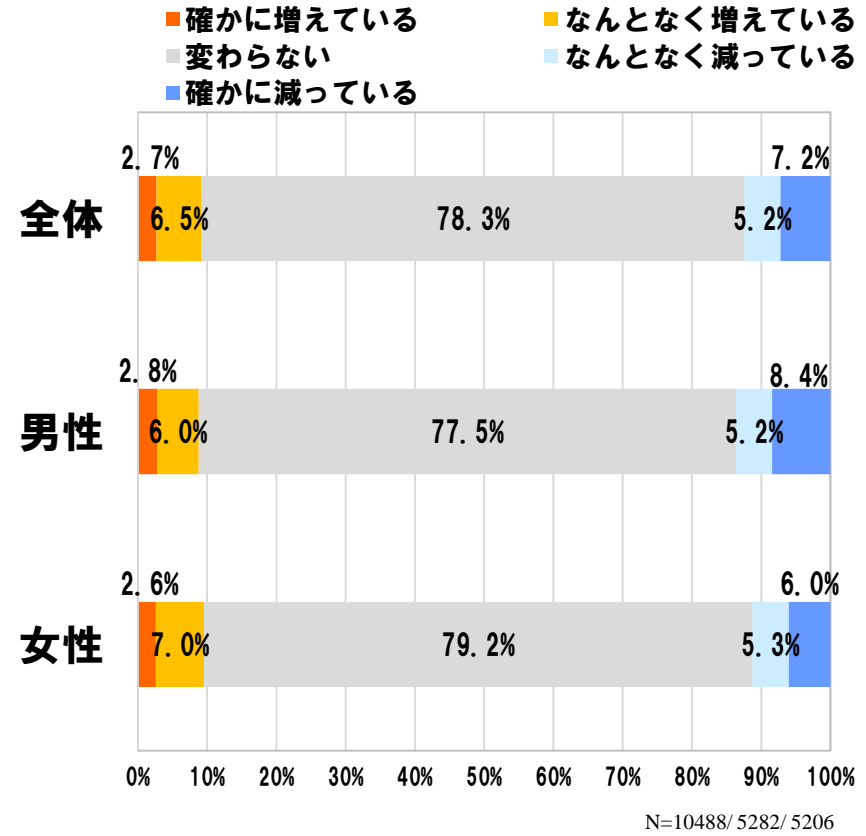
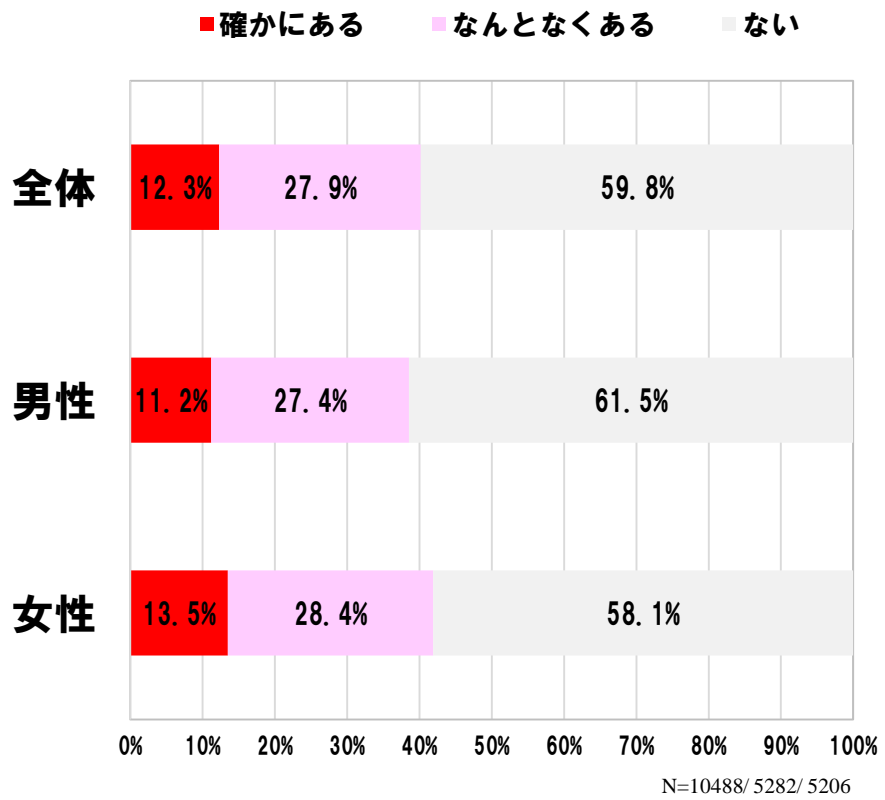
7. 牛乳・乳製品に関する話題接触(2015年データのみ)

7-1. 「よい話題、よくない話題との接触」について

牛乳・乳製品に関する「よい話題」との接触(男女別/2015)

この1年間で、あなたはメディアや人との会話を通じて、牛乳のよい話題に触れたことがありますか。

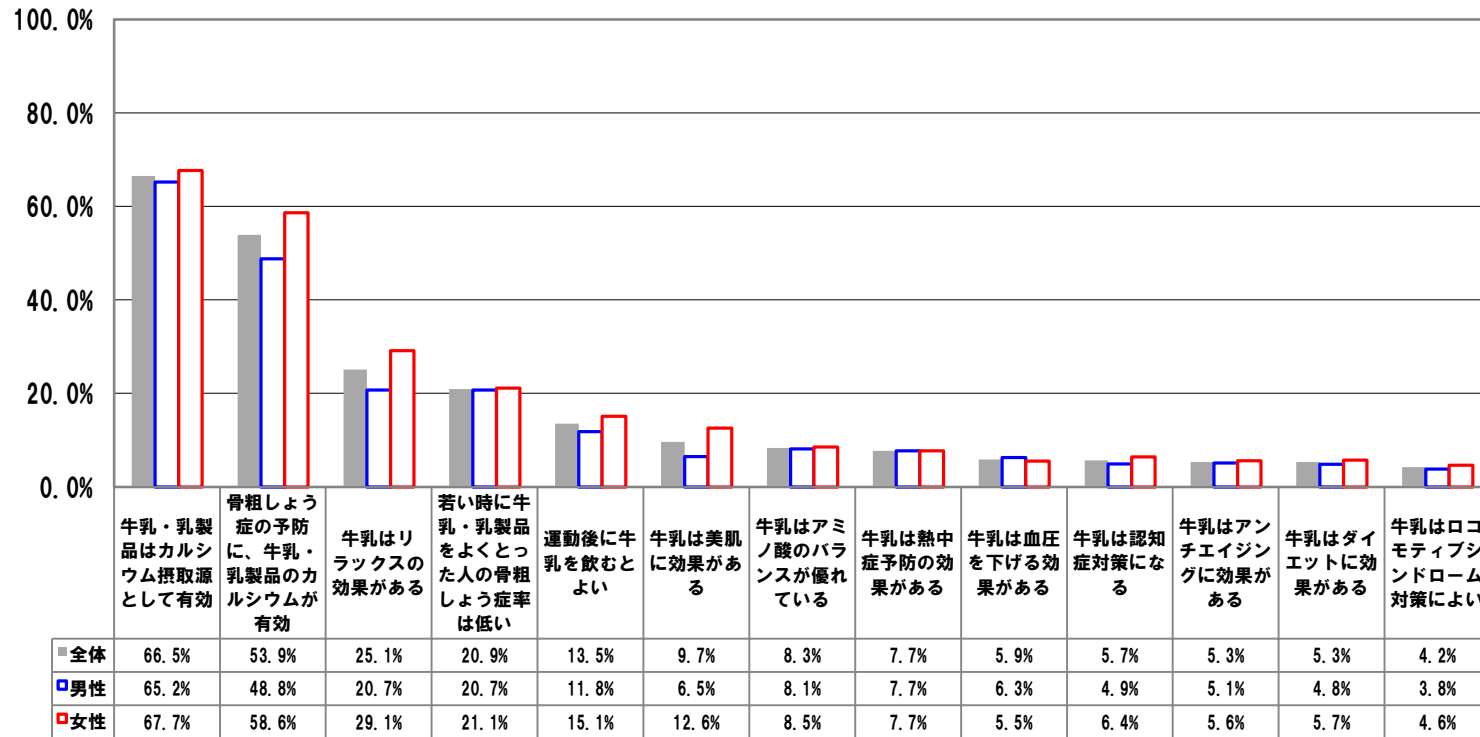
この1年間で、あなたはメディアや人との会話を通じて、牛乳のよい話題に触れることが増えている、もしくは減っている感じがしますか。



この1年間で牛乳の「よい話題」に触れたことがある人の割合は全体の約40%で、男女ともにほぼ同じ。
「よい話題」に触れた機会の増減を聞くと、「減っている」人の割合が約12%で「増えている」人の割合約9%を上回っている。

牛乳・乳製品に関して接触した「よい話題」(男女別/2015)

以下にあげた牛乳・乳製品に関する「よい話題」の中から、(この調査の質問を除いて)あなたがこの1年間で何かの情報に触れたり、人から話を聞くなどして耳にしたことのあるものを、すべてお知らせください。



よい話題接触者N=4217/2035/2182

この1年間で見聞きした牛乳・乳製品に関する「よい話題」について聞いたところ、「カルシウム」や「骨粗しょう症」をあげた割合が高い。

一方、「運動後に牛乳を飲むとよい」や「牛乳は熱中症予防の効果がある」など、新たな牛乳の栄養健康機能に関する話題との接触率はまだ低い。

なお、全体的にみて、女性の方が男性より接触率が高い。

牛乳・乳製品に関して接触した「よくない話題」(男女別/2015)

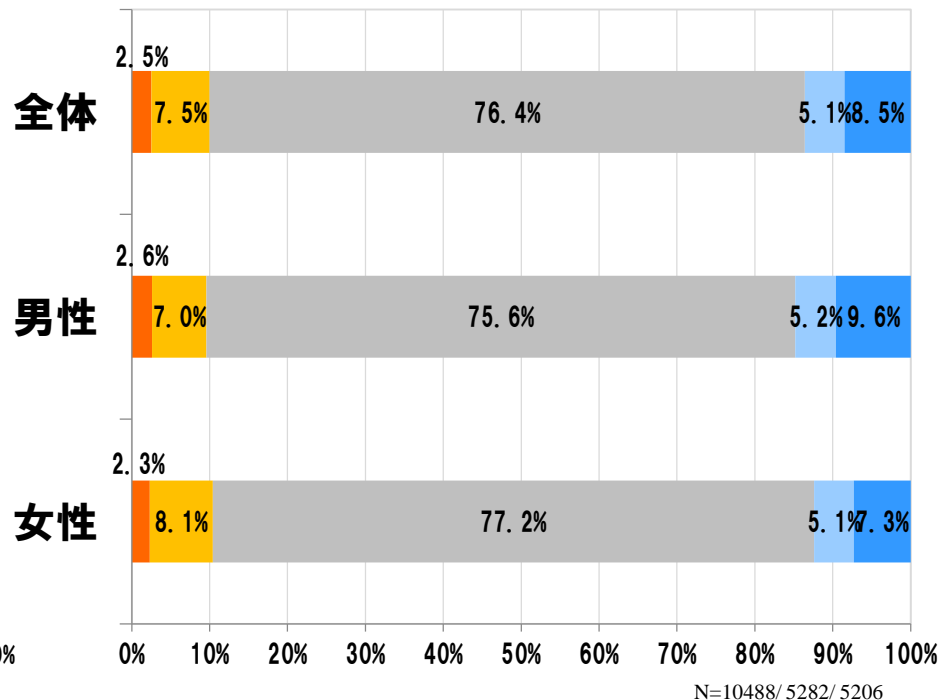
この1年間で、あなたはメディアや人との会話を通じて、牛乳の「よくない話題」に触れたことがありますか。

この1年間で、あなたはメディアや人との会話を通じて、牛乳の「よくない話題」に触れることが増えている、もしくは減っている感じがしますか。

■ 確かにある ■ なんとなくある ■ ない



■ 確かに増えている ■ なんとなく増えている
 ■ 変わらない ■ なんとなく減っている
 ■ 確かに減っている

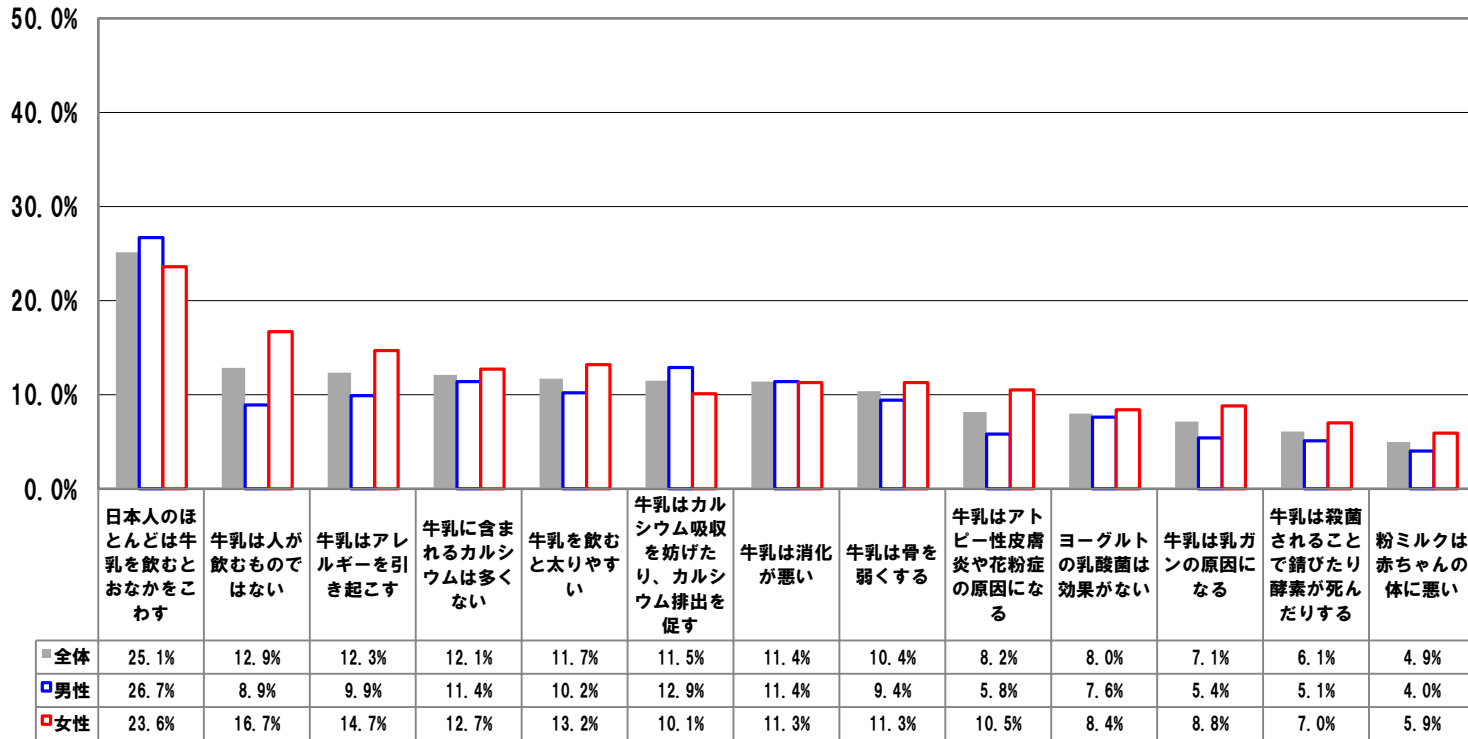


この1年間で牛乳の「よくない話題」に触れたことがある人の割合は全体の約25%で、男女ともにほぼ同じ。

「よくない話題」に触れた機会の増減を聞くと、「減っている」人の割合が約14%で「増えている」人の割合約10%を上回っている。

牛乳・乳製品に関する「よくない話題」との接触(男女別／2015)

以下にあげた牛乳・乳製品に関する「よくない話題」の中から、(この調査の質問を除いて)あなたがこの1年間で何かの情報に触れたり、人から話を聞くなどして耳にしたことのあるものを、すべてお知らせください。

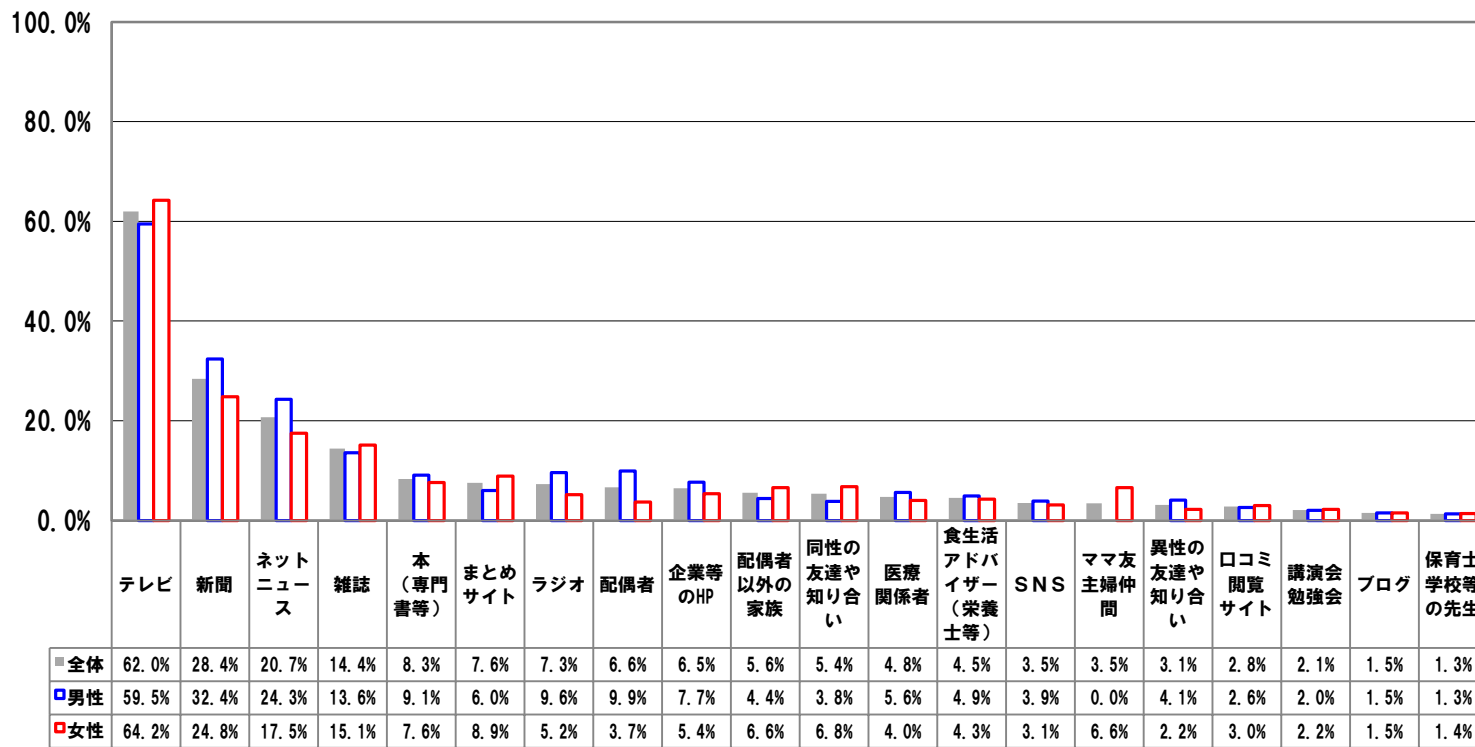


よくない話題接触者N=2669/1319/1350

この1年間で見聞きした牛乳・乳製品に関する「よくない話題」について聞いたところ、「日本人は牛乳を飲むとおなかをこわす」をあげる割合が最も高い。このほか、「牛乳は人が飲むものではない」などのアンチミルク情報が続く。

牛乳・乳製品に関する「よい話題」との接触経路(男女別／2015)

牛乳・乳製品に関する「よい話題」について、あなたがこの1年間で話を聞いた情報源や人物をお知らせください。

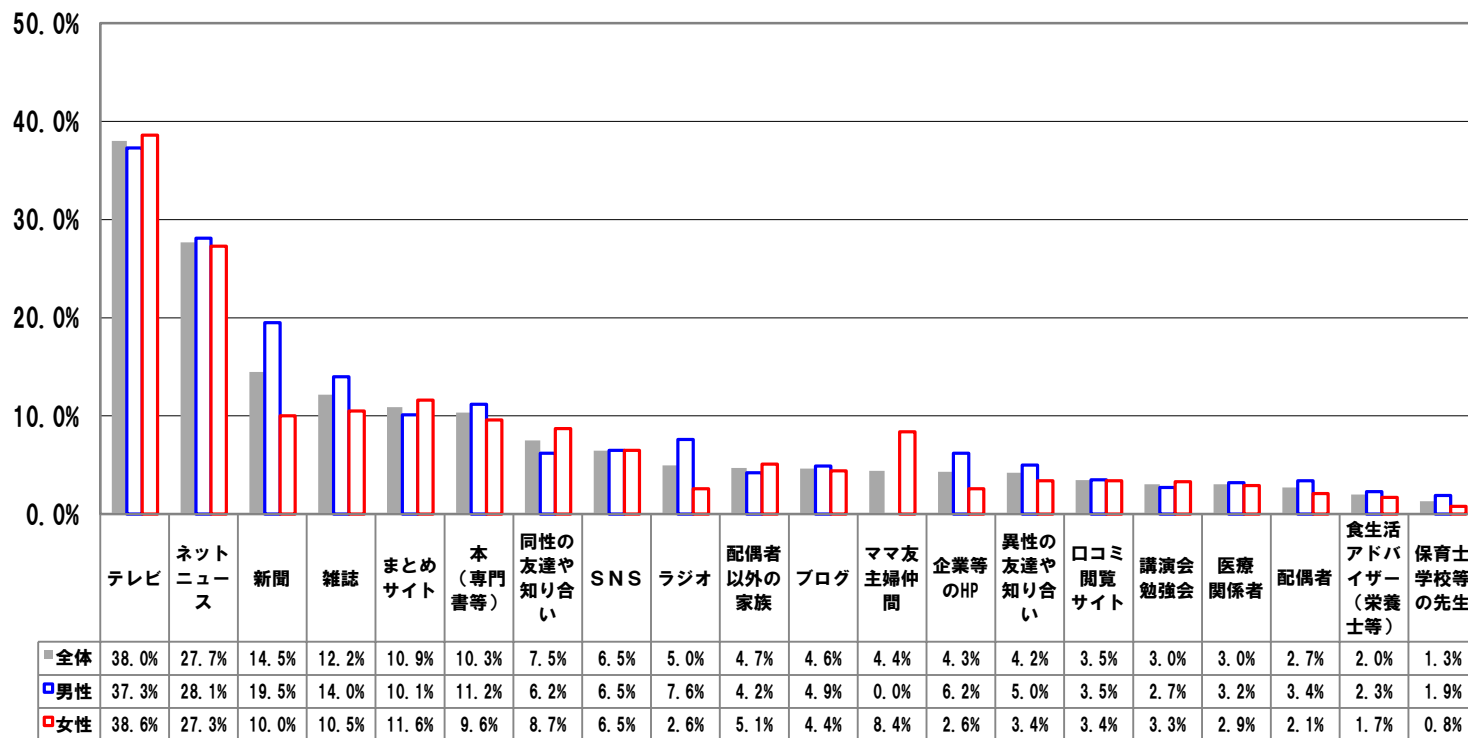


よい話題接触者N=4217/2035/2182

よい話題の情報源としては、「テレビ」をあげる人の割合が約62%で最も高く、「新聞」「ネットニュース」「雑誌」が続く。また、健康や食育の指導的立場にある「医療関係者」「食生活アドバイザー(栄養士等)」はそれぞれ約5%、「学校等の先生」は約1%。

男女別には、男性では「新聞」「ネットニュース」「ラジオ」「配偶者」などをあげる人の割合が女性よりやや高く、女性では「テレビ」「雑誌」などをあげる人の割合が男性よりやや高い。

牛乳・乳製品に関する「よくない話題」について、あなたがこの1年間で話を聞いた情報源や人物をお知らせください。



よくない話題接触者N=2669/1319/1350

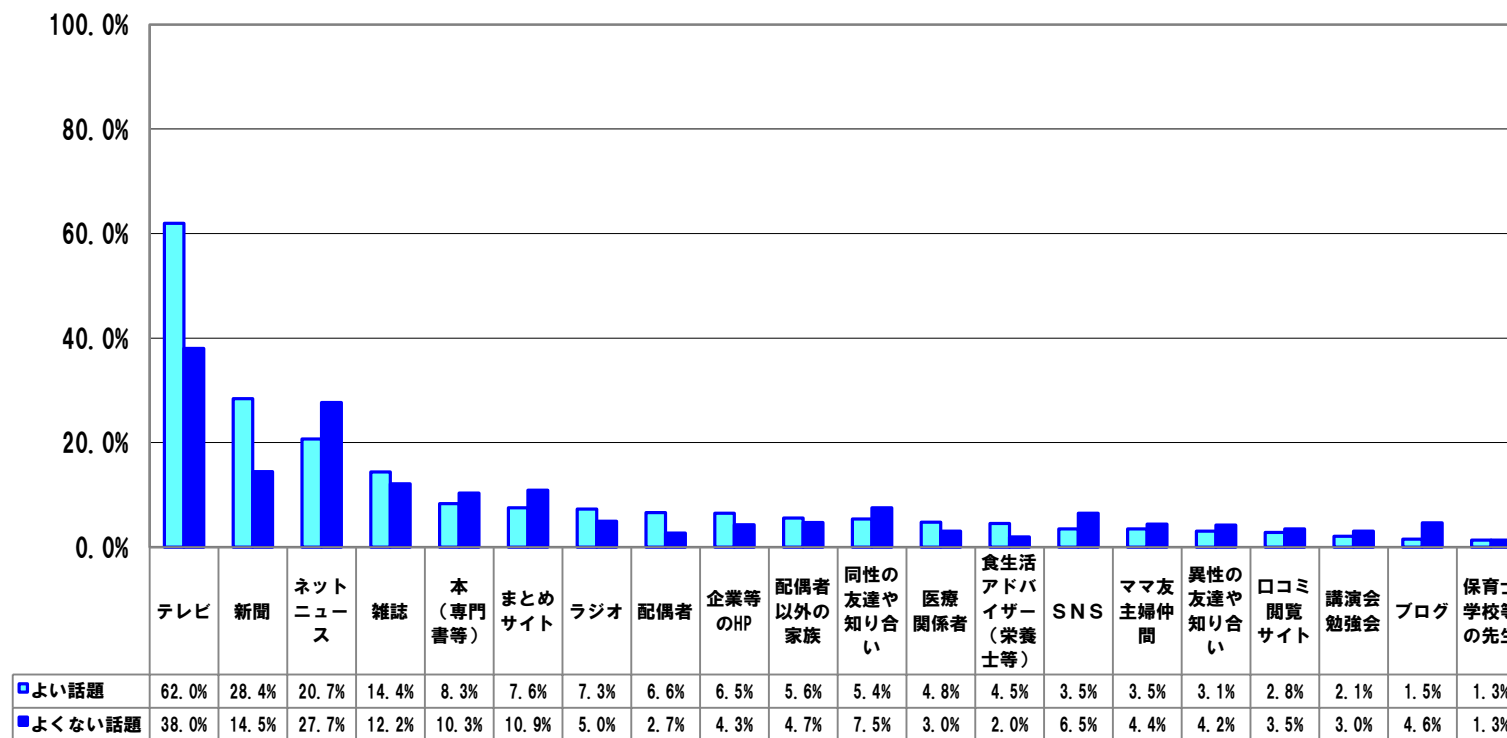
よくない話題の情報源としても「テレビ」をあげる人の割合が約38%で最も高く、「ネットニュース」、「新聞」、「雑誌」と続く。また、健康や食育の指導的立場にある「医療関係者」は約3%、「食生活アドバイザー(栄養士等)」は約2%、「学校等の先生」は約1%。

男女別には、男性で「新聞」「ラジオ」「企業等のホームページ」をあげる人の割合が女性よりやや高い。

牛乳・乳製品に関する「よい話題／よくない話題」との接触経路(2015)

牛乳・乳製品に関する「よい話題」について、あなたがこの1年間で話を聞いた情報源や人物をお知らせください。

牛乳・乳製品に関する「よくない話題」について、あなたがこの1年間で話を聞いた情報源や人物をお知らせください。

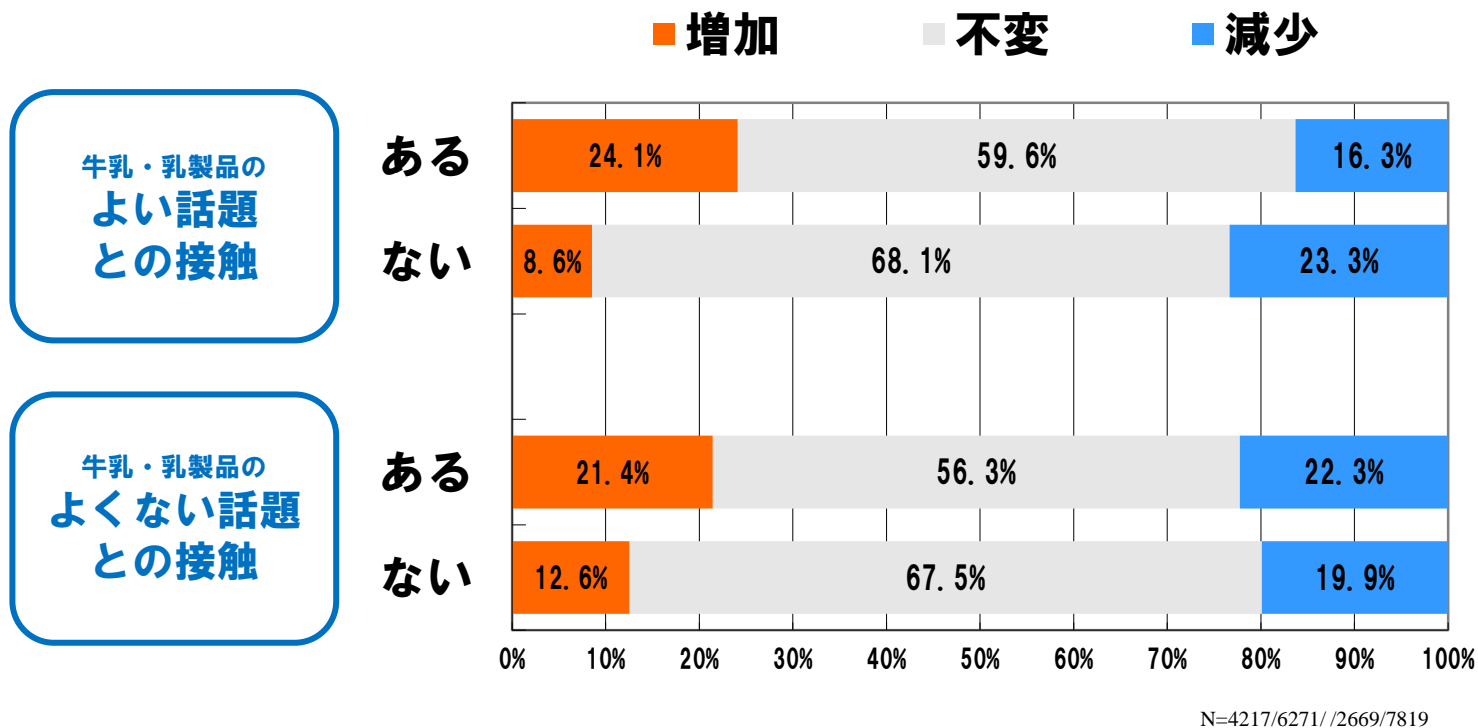


よい/よくない話題接触者N=4217/2669

よい話題とよくない話題の情報源を比べると、従来型の媒体である「テレビ」「新聞」「雑誌」をよい話題の情報源としてあげる人の割合がかなり高い。

一方、「ネットニュース」「まとめサイト」「SNS」「ブログ」などインターネット媒体は、よい話題としてあげる人の割合よりよくない話題の情報源としてあげる人の割合の方が高い。

最近のあなた自身が、「牛乳」を飲む量や回数は、今現在、増えたり減ったりしていますか。

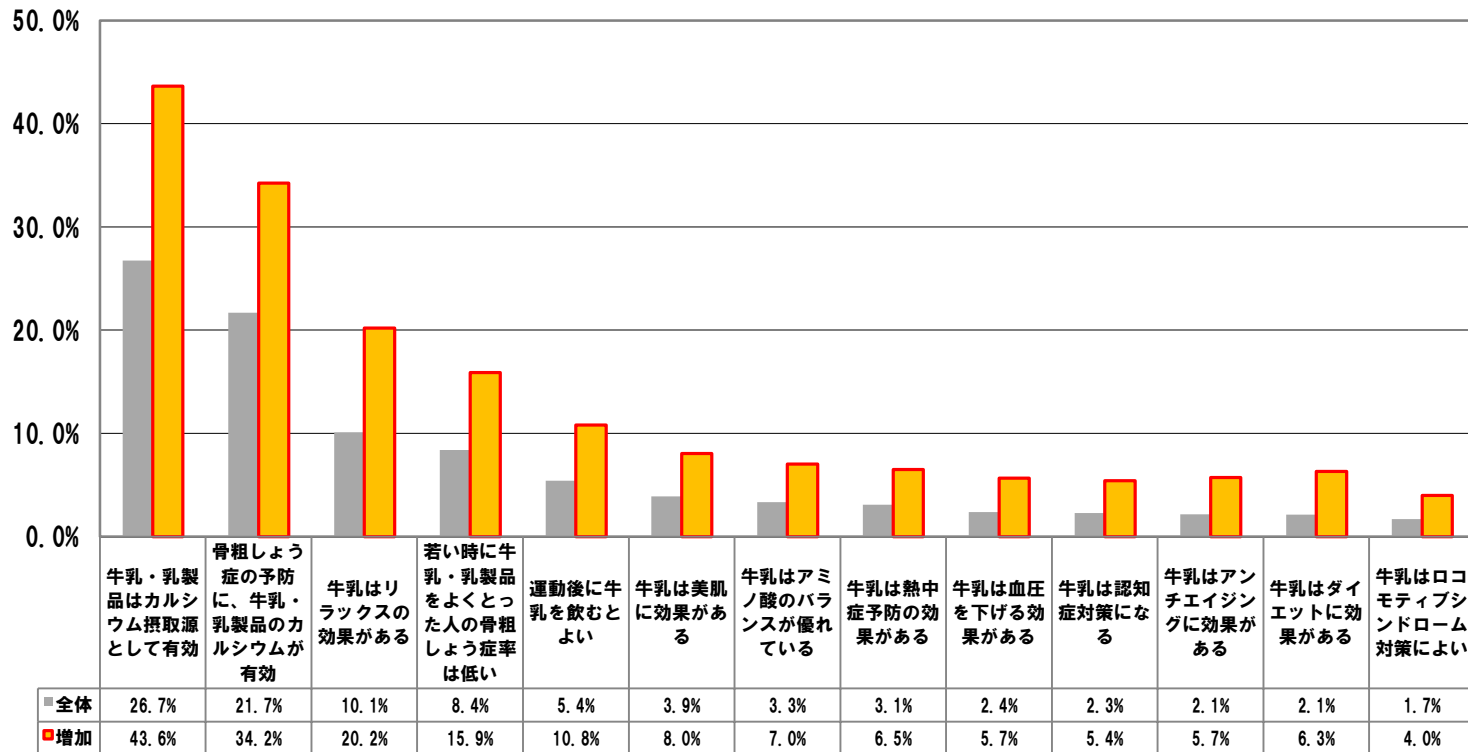


よい話題・よくない話題への接触有無と牛乳飲用増減の関係を見ると、「よい話題」に触れた人は触れなかった人より、牛乳飲用が増加した人の割合が高く、減少した人の割合は低い。一方、「よくない話題」に触れた人は触れなかった人より、牛乳飲用が減少した人の割合が高いが、増加した割合も高い。

全体では、“「よい話題」に触れなかった”人が、牛乳飲用が増加した割合が最も低くて減少した割合が最も高く、「よい話題」の情報発信が非常に重要といえる。

牛乳・乳製品に関する「よい話題」との接触(飲用増加者／2015)

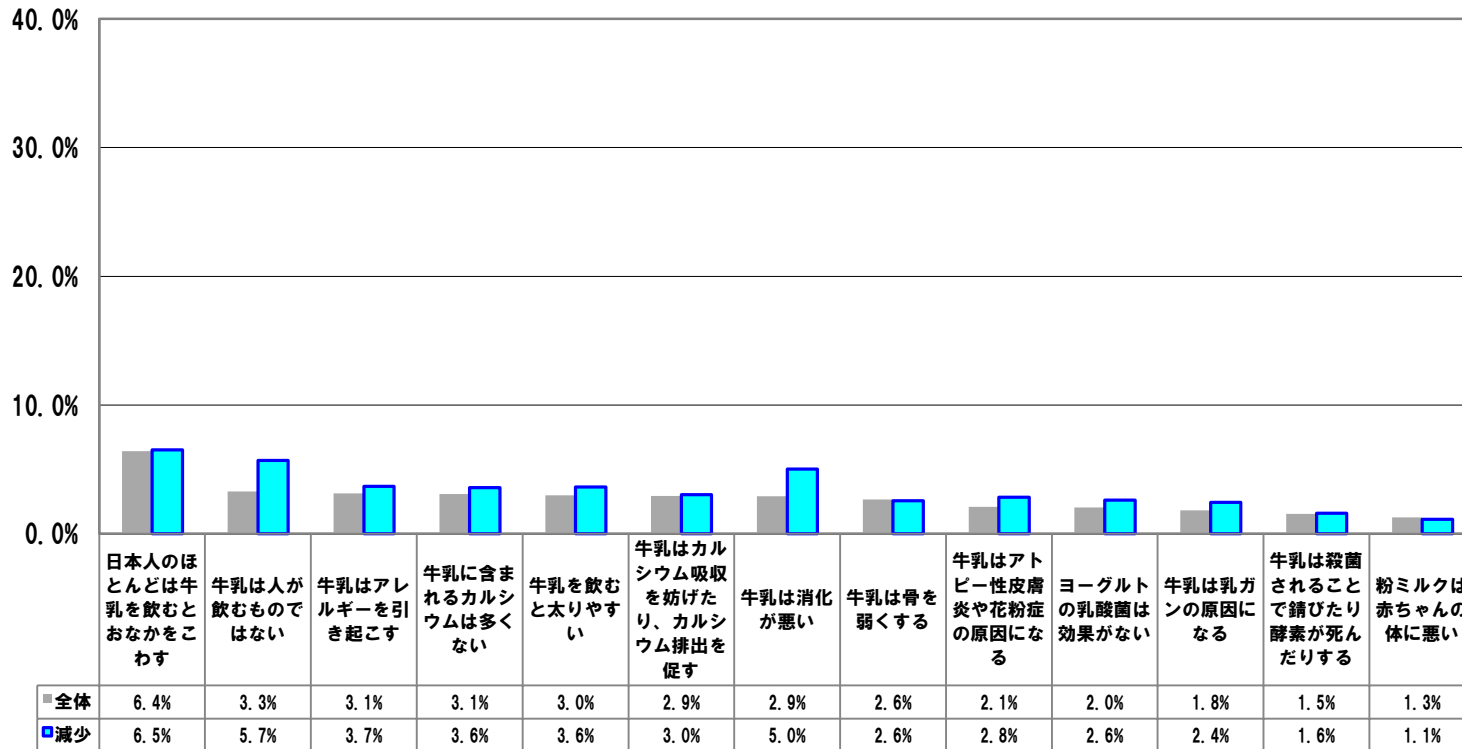
以下にあげた牛乳・乳製品に関する「よい話題」の中から、(この調査の質問を除いて)あなたがこの1年間で何かの情報に触れたり、人から話を聞くなどして耳にしたことのあるものを、すべてお知らせください。



N=10488/ 1554

牛乳飲用が増加した人(1,554人)に対象を絞って、この1年間で見聞きした牛乳・乳製品に関する「よい話題」を見ると、すべての話題において、牛乳飲用が増加した人があげた割合が全体の人(10,488人)の割合を大きく上回る。

以下にあげた牛乳・乳製品に関する「よくない話題」の中から、(この調査の質問を除いて)あなたがこの1年間で何かの情報に触れたり、人から話を聞くなどして耳にしたことのあるものを、すべてお知らせください。



N=10488/2150

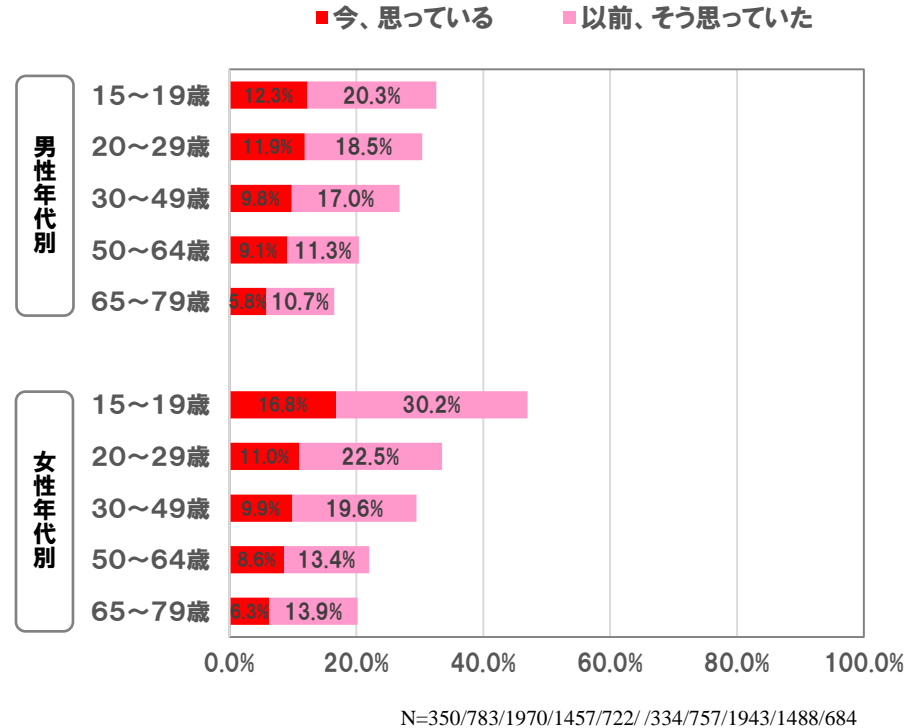
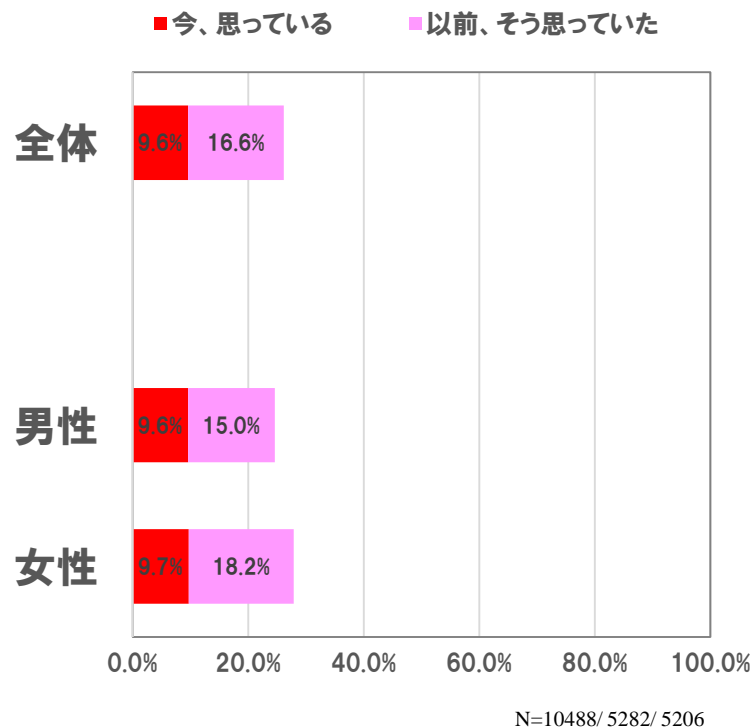
牛乳飲用が減少した人(2,150人)を対象を絞って、この1年間で見聞きした牛乳・乳製品に関する「よくない話題」を見ると、すべての話題において、牛乳飲用が減少した人があげた割合は全体の人(10,488人)の割合を上回る。

上回る程度は全体的にはわずかだが、「牛乳は人が飲むべきものではない」「牛乳は消化が悪い」が全体よりやや高い。

7-2. 牛乳を「飲みたくない／飲むべきでない」という意識について

牛乳を「飲みたくない／飲むべきでない」意識(性年代別／2015)

あなたはこれまでに「牛乳を飲みたくない」もしくは「牛乳を飲むべきでない」と思ったことがありますか。

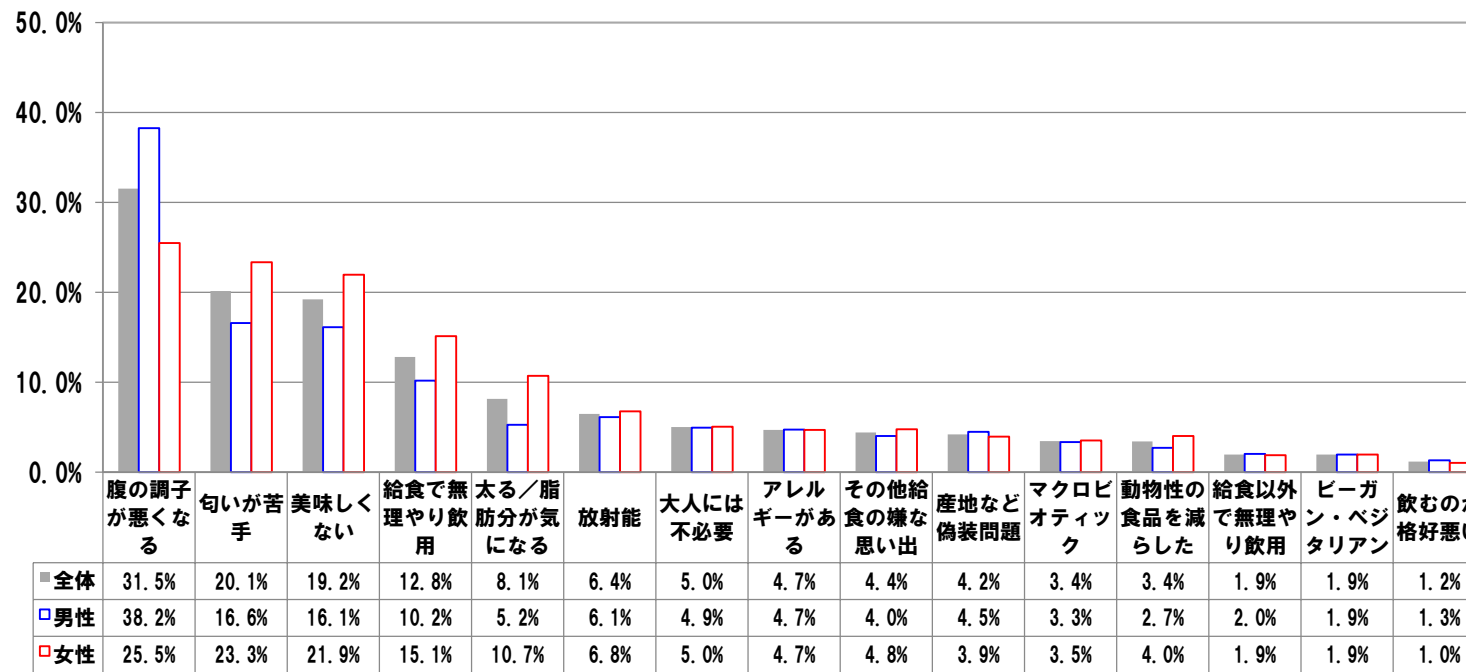


牛乳を『飲みたくない／飲むべきでない』と「今、思っている」人の割合は、全体、男女別ともに10%を下回っている。

男女別には、「以前、そう思っていた」人の割合は女性の方が男性よりやや高く、年代別には、若い年代ほど「今、思っている」「以前、そう思っていた」人の割合が高い傾向が見られる。特に、15-19歳の女性で割合が高い。

牛乳を「飲みたくない／飲むべきでない」意識のきっかけ・理由(男女別／2015)

あなたはこれまでに「牛乳を飲みたくない」もしくは「牛乳を飲むべきでない」と思ったきっかけや理由は何でしたか。



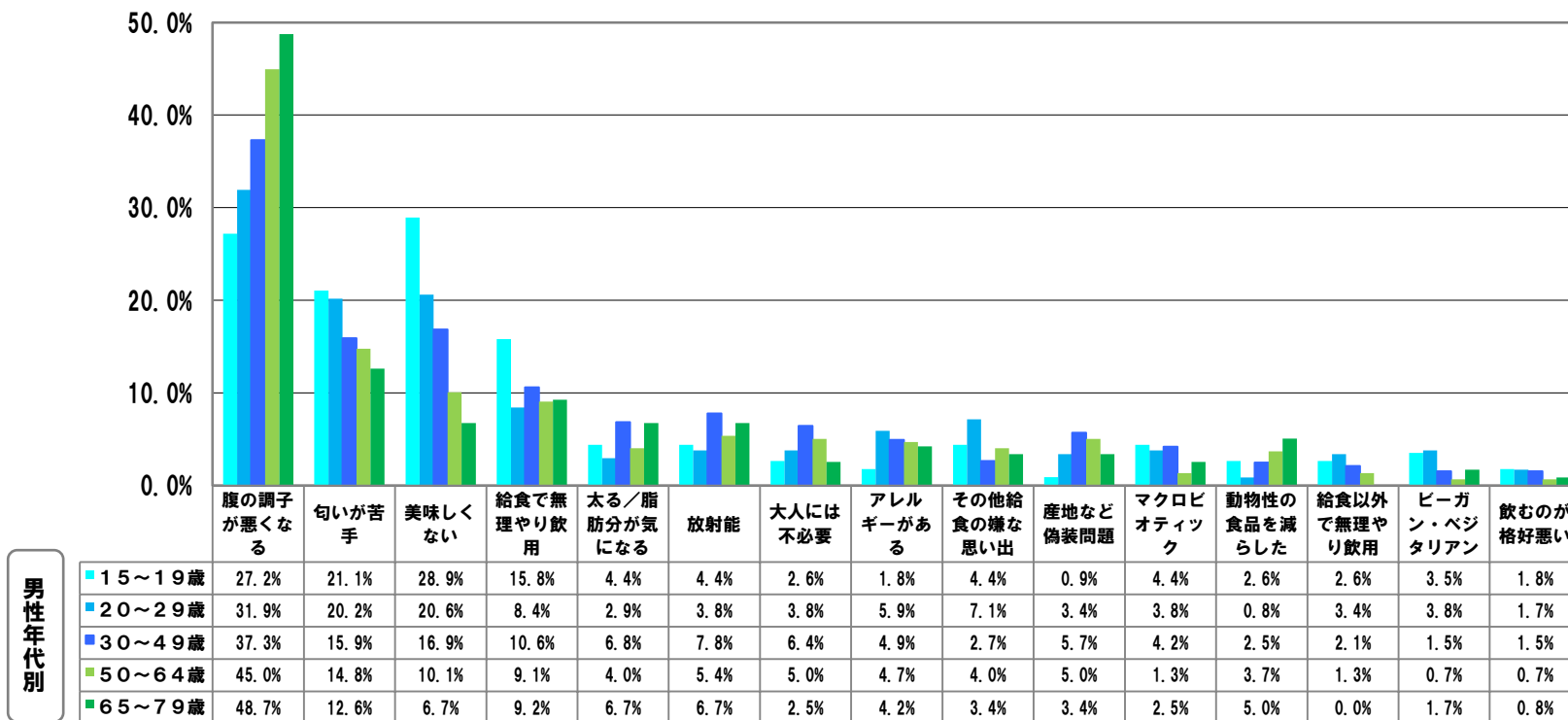
「飲みたくない／飲むべきでない」と今思っている／以前思っていた人N=2746/1297/1449

牛乳を『飲みたくない／飲むべきでない』と思ったきっかけや理由として、男女とも「おなかの調子が悪くなる」をあげる人の割合が最も高く、「匂いが苦手」「美味しくない」が続く。

男女別には、男性は「おなかの調子が悪くなる」をあげる人の割合が他の理由に比べてかなり高い。これに対し、女性は上位3つの理由に加えて「給食で無理やり飲まされた」「太る／脂肪分が気になる」の回答率も高く、該当するきっかけや理由が男性よりも多い傾向が見られる。

牛乳を「飲みたくない／飲むべきでない」意識のきっかけ・理由(男性年代別／2015)

あなたはこれまでに「牛乳を飲みたくない」もしくは「牛乳を飲むべきでない」と思ったきっかけや理由は何でしたか。



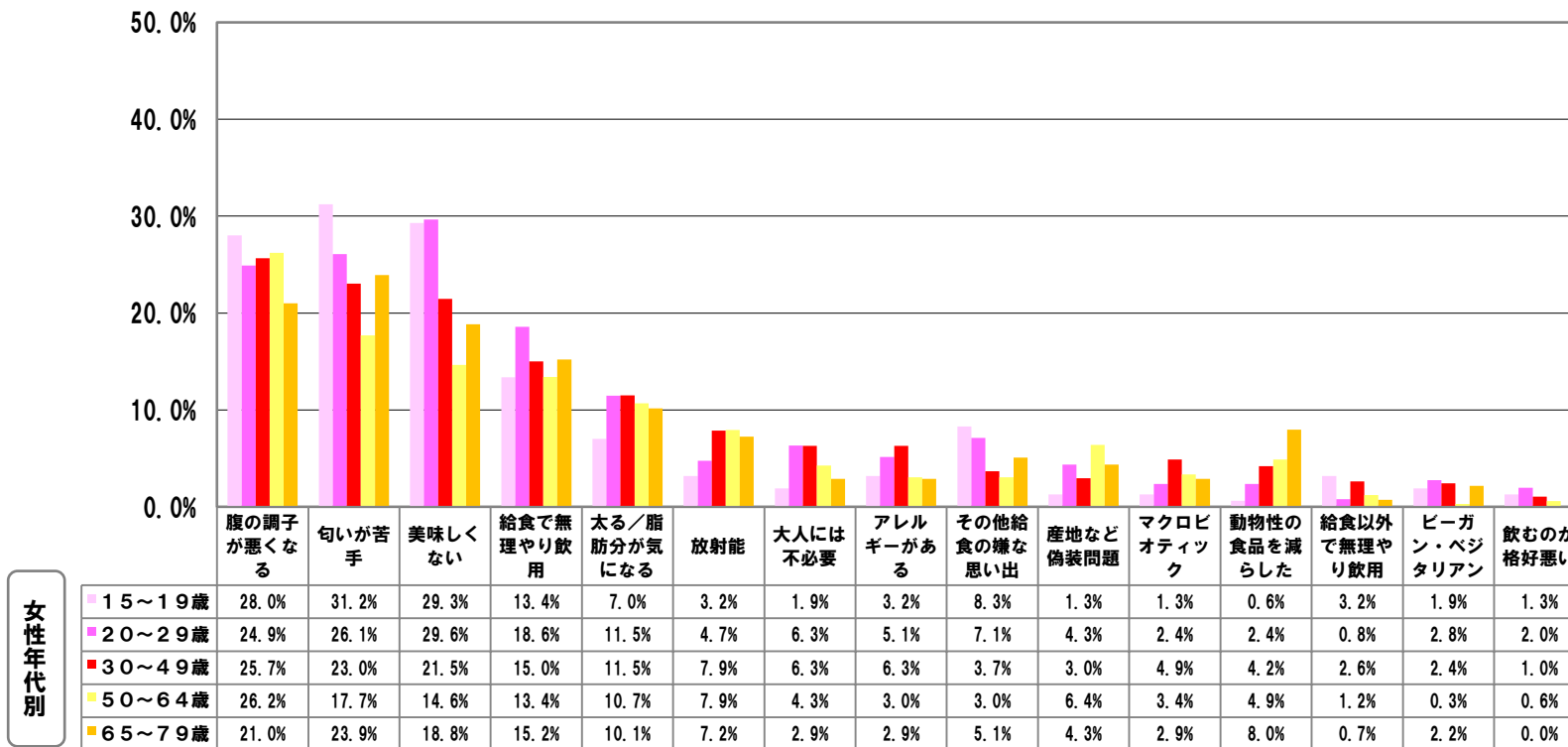
「飲みたくない／飲むべきでない」と今思っている／以前思っていた人N=114/ 238/ 528/ 298/ 119

牛乳を『飲みたくない／飲むべきでない』と思ったきっかけや理由を男性の年代別に見ると、男性では、「お腹の調子が悪くなる」をあげる人の割合は、年代が上がるほど上昇する。

一方、「匂いが苦手」「美味しくない」「給食で無理やり飲まされた」をあげる人の割合は若い年代ほど高い傾向がある。

牛乳を「飲みたくない／飲むべきでない」意識のきっかけ・理由(女性年代別／2015)

あなたはこれまでに「牛乳を飲みたくない」もしくは「牛乳を飲むべきでない」と思ったきっかけや理由は何でしたか。

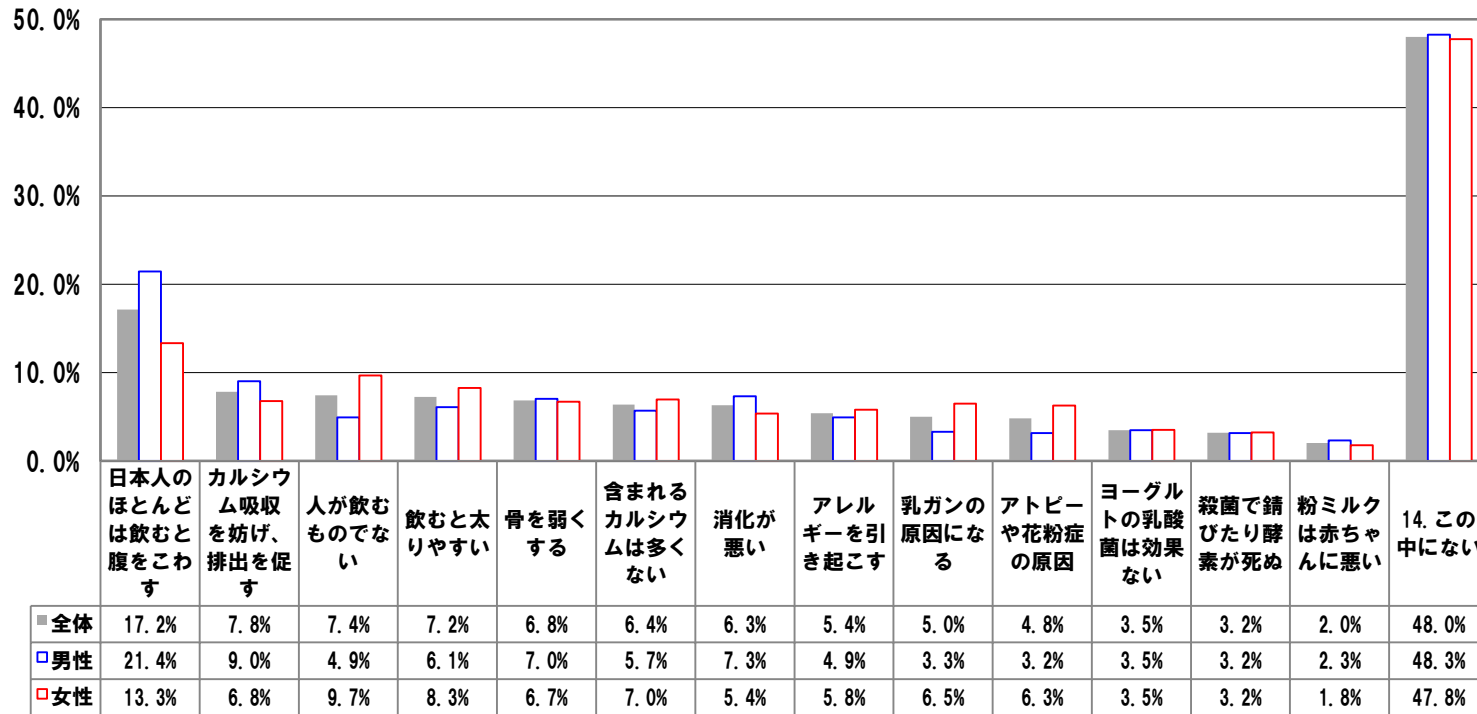


「飲みたくない／飲むべきでない」と今思っている／以前思っていた人N=157/ 253/ 573/ 328/ 138

牛乳を『飲みたくない／飲むべきでない』と思ったきっかけや理由を女性の年代別に見ると、回答上位の理由を中心に、若い年代の人ほど割合が高い傾向が見られる。特に、「匂いが苦手」「美味しくない」においてはその傾向が強い。

牛乳を「飲みたくない／飲むべきでない」意識を喚起した「よくない話題」(男女別／2015)

以下にあげた牛乳・乳製品に関する「よくない話題」の中から、それについて情報に触れたり、人から話を聞くことであなたが「牛乳を飲みたくない」もしくは「牛乳を飲むべきでない」と思うきっかけや理由になったものをお知らせください。



「飲みたくない／飲むべきでない」と今思っている／以前思っていた人N=2746/1297/1449

牛乳を『飲みたくない／飲むべきでない』と思うきっかけ・理由になった「よくない話題」としては、「日本人のほとんどが飲むとおなかをこわす」をあげる人の割合が男女ともに最も高く、男性のほうが女性よりやや高い。

また、「人が飲むものではない」「乳がんの原因になる」等をあげる人の割合は女性の方が男性よりわずかに高い。

一方、全体の約48%が「この中にはない」と回答しており、「よくない話題」(アンチミルク情報)以外の話題が理由になる場合が少なくない。

平成27年度生乳需要基盤確保事業
独立行政法人農畜産業振興機構 後援